Canon

EOS 80D

EOS 80D (W)



カメラ

無線機能（基本編）

使用説明書

使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます（p.4）。

J

Canon

EOS 80D

EOS 80D (W)

カメラ使用説明書

はじめに

EOS 80D (W)は、有効画素数約2420万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 6、高精度・高速45点AF（クロス測距点：最大45点）、最高約7.0コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能、無線機能（Wi-Fi／NFC）を搭載したデジタル一眼レフカメラです。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（20～22ページ）、および『取り扱い上のご注意』（23～25ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

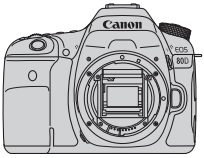
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

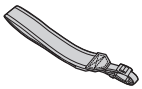
あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
（ボディキャップ付き）



ワイドストラップ



電池
バッテリーパック
LP-E6N
（保護カバー付き）



充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E6

※ インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
※ 使用説明書とCD-ROMについては、次ページを参照してください。
※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。
※ 別売品については、システム図（p.468）をご確認ください。

レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（p.4）。
なお、レンズの使用説明書（PDF）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書とCD-ROMについて



カメラ・無線機能（基本編）使用説明書

冊子は、「カメラ使用説明書（全編）」と「無線機能 使用説明書（基本編）」で構成されています。無線機能の詳細な使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます。



EOS DIGITAL Solution Disk（ソフトウェアCD-ROM）

画像編集などのソフトウェアが収録されています。ソフトウェアの概要やパソコンへのインストール方法については、514～515ページを参照してください。

使用説明書（PDFファイル）のダウンロードと見かた

1 使用説明書（PDFファイル）をダウンロードする

- インターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。
  - **・カメラ・無線機能（基本編）使用説明書、無線機能 使用説明書**
    ➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/index.html
  - **・レンズ使用説明書**
    ➡ http://cweb.canon.jp/manual/ef/index.html
  - **・ソフトウェア使用説明書**
    ➡ http://cweb.canon.jp/manual/eosd/soft.html
- ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイトは、ソフトウェアのインストール画面（p.515）に表示される［**ダウンロードページを表示**］をクリックすることでもアクセスすることができます。

2 使用説明書（PDFファイル）を見る

- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。なお、**新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（p.64）。

- **SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード**
  * UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、書き込み/読み取り速度が下表のスピードクラス以上で、大容量のカードを使用してください。

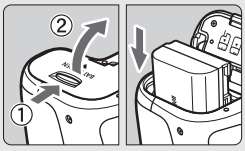
動画記録画質（p.306）		記録形式	
		MOV	MP4
ALL-I（編集用）		UHSスピードクラス3以上	−
IPB（標準）	FHD：59.94P 50.00P	−	SDスピードクラス10以上
	上記以外	−	SDスピードクラス6以上
IPB（軽量）		−	SDスピードクラス4以上

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- カードの書き込み / 読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

すぐ撮影するには

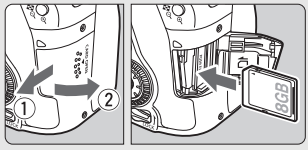
1



電池（バッテリー）を入れる（p.36）

●電池の充電方法については 34 ページを参照してください。

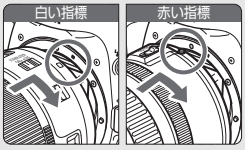
2



カードを入れる（p.37）

●カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

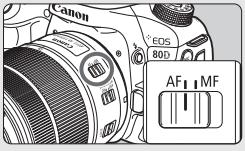
3



レンズを取り付ける（p.47）

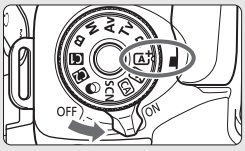
●レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせて取り付けます。

4



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.47）

5

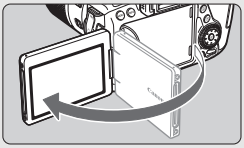


電源スイッチを〈ON〉にし、〈A+〉（シーンインテリジェントオート）にする（p.78）

●モードダイヤルの中央を押しながら回します。

●撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

6



液晶モニターを開いてセットする（p.40）

●液晶モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、43ページを参照してください。

7



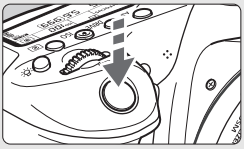
ピントを合わせる（p.50）

●ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。

●シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

●必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8



撮影する（p.50）

●さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



撮影した画像を確認する

●撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

●〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.346）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.255）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.346）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.378）を参照してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

〈 〉 :メイン電子ダイヤルを示しています。

〈 〉 :サブ電子ダイヤルを示しています。

〈 〉〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉 :マルチコントローラーと、マルチコントローラーを押す方向を示しています。

〈SET〉 :設定ボタンを示しています。

4／6／10／16 :操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ約4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU :〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用 :ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（p.31）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

:撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

:補足説明や補足事項を記載しています。

:上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

? :困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈**ON**〉、〈**LOCK**〉スイッチが下側（マルチ電子ロック解除）になっていることを前提に説明しています（p.41、54）。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

	はじめに	2
1	撮影前の準備と操作の基本	33
2	かんたん撮影	77
3	AF／ドライブの設定	115
4	画像に関する設定	141
5	撮影目的にあわせた応用撮影	189
6	ストロボ撮影	227
7	液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	255
8	動画を撮影する	293
9	画像の再生	345
10	撮影した画像を加工する	389
11	撮像素子の清掃	403
12	カメラをカスタマイズする	409
13	資料	449
14	パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて	511

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品 3
使用説明書と CD-ROM について 4
使用できるカードについて 5
すぐ撮影するには 6
本使用説明書の表記について 8
章目次 9
機能目次 17
安全上のご注意 20
取り扱い上のご注意 23
各部の名称 26

1　撮影前の準備と操作の基本　33

電池を充電する 34
電池を入れる／取り出す 36
カードを入れる／取り出す 37
液晶モニターを使う 40
電源を入れる 41
日付／時刻／エリアを設定する 43
表示言語を選ぶ 46
レンズを取り付ける／取り外す 47
撮影の基本操作 49
Q 撮影機能のクイック設定 56
MENU メニュー機能の操作と設定 58
画面にタッチして操作する 61
使い始める前の準備 64
　カードを初期化する 64
　電子音が鳴らないようにする 66
　電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ 66

撮影直後の画像表示時間を設定する 67
液晶モニターの消灯／点灯の設定 67
カメラの機能設定を初期状態に戻す 68
グリッドを表示する 71
水準器を表示する 72
フリッカー検知を表示する 74
機能ガイドとヘルプについて 75

2 かんたん撮影 77

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート） 78
全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート） 81
ストロボが使えない場所で写す 83
クリエイティブオートで撮る 84
SCN: スペシャルシーンモードで撮る 88
料理を写す 89
子供を写す 90
キャンドルライトと人物を写す 91
夜景と人物を写す（三脚を使う） 92
夜景を写す（手持ち撮影） 93
逆光シーンを写す 94
人物を写す 95
風景を写す 96
花や小物を大きく写す 97
動きのあるものを写す 98
フィルター効果を付けて撮影する 101
クイック設定について 106
雰囲気を選んで撮影する 108
明かりや状況にあわせて撮影する 112

3 AF／ドライブの設定 115

AF: AF 動作の選択 116
測距エリアと AF フレームを選択する 120
測距エリア選択モードの内容 124
AF センサーについて 127
使用レンズと AF 測距について 128
AF の苦手な被写体 136
MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス） 137
ドライブモードの選択 138
セルフタイマー撮影 140

4 画像に関する設定 141

記録画質を設定する 142
画像のアスペクト比を変える 146
ISO: 静止画の ISO 感度を設定する 148
ピクチャースタイルを選択する 154
ピクチャースタイルを調整する 157
ピクチャースタイルを登録する 160
ホワイトバランスの設定 162
ホワイトバランスについて 163
AWB オートホワイトバランスの設定 163
マニュアルホワイトバランス 164
K 色温度を直接設定する 166
ホワイトバランスを補正する 167
明るさ・コントラストを自動補正する 169
ノイズ低減機能の設定 170
高輝度側・階調優先の設定 174
レンズの周辺光量と収差を補正する 175
フリッカーの影響を低減する 179
色空間を設定する 181
フォルダの作成と選択 182

画像番号の付け方を設定する 184
著作権情報を設定する 186

5 撮影目的にあわせた応用撮影 189

P: プログラム AE 撮影 190
Tv: シャッター速度を決めて撮る 192
Av: 絞り数値を決めて撮る 194
ピントの合う範囲を確認する 195
M: 露出を自分で決めて撮る 196
測光モードの選択 198
自分の好みに露出を補正する 200
露出を自動的に変えて撮る／ AEB 撮影 201
露出を固定して撮る／ AE ロック撮影 203
B: 長時間露光（バルブ）撮影 204
HDR: HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 207
多重露出撮影 212
ミラーアップ撮影 219
アイピースカバーの使い方 220
リモートスイッチ撮影 221
リモコン撮影 221
TIMER インターバルタイマー撮影 223

6 ストロボ撮影 227

内蔵ストロボを使った撮影 228
外部ストロボを使った撮影 233
ストロボの機能を設定する 235
ワイヤレスストロボ撮影 244

7 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） 255

液晶モニターを見ながら撮影する 256
撮影機能の設定 264
フィルター効果を付けて撮影する 266

メニュー機能の設定 270
AF 動作の選択 274
AF でピントを合わせる（AF 方式） 276
タッチシャッターで撮影する 286
MF：手動でピントを合わせる 288

8 動画を撮影する 293

動画を撮影する 294
撮影機能の設定 304
動画記録画質の設定 306
動画デジタルズームを使う 311
録音の設定 312
HDR 動画を撮影する 314
フィルター効果を付けて動画を撮影する 316
タイムラプス動画を撮影する 319
メニュー機能の設定 326
ビデオスナップを撮影する 333

9 画像の再生 345

画像を再生する 346
INFO.: 撮影情報の内容 348
見たい画像を素早く探す 353
／ 拡大して見る 355
画面にタッチして再生する 356
回転させる 358
レーティングを設定する 359
再生時のクイック設定 361
撮った動画の楽しみ方 363
動画を再生する 365
動画の前後部分をカットする 367
自動再生する（スライドショー） 369

テレビで見る 373
保護する（プロテクト） 376
消去する 378
画像を印刷指定する／ DPOF 380
フォトブックにする画像を指定する 384
再生に関する機能の設定を変更する 386
液晶モニターの明るさを調整する 386
縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定 387

10 撮影した画像を加工する 389

RAW 画像をカメラで現像する 390
JPEG 画像をリサイズする 395
JPEG 画像をトリミングする 397
画像にフィルター効果を付ける 399

11 撮像素子の清掃 403

撮像素子の自動清掃 404
ゴミ消し情報を画像に付加する 405
手作業で撮像素子を清掃する 407

12 カメラをカスタマイズする 409

カスタム機能の設定方法 410
カスタム機能一覧 411
カスタム機能で変更できる内容 413
C.Fn I：露出 413
C.Fn II：AF 416
C.Fn III：操作・その他 425
: AF による合焦位置を微調整する 427
: 操作ボタンカスタマイズ 433
マイメニューを登録する 440
: カスタム撮影モードの登録 445

13 資料 449

INFO. ボタンの機能 450
電池情報を確認する 452
家庭用電源を使用する 456
Eye-Fi カードを使う 457
各撮影モードで設定できる機能一覧 460
システム図 468
メニュー機能一覧 470
故障かな？と思ったら 481
エラー表示 496
主な仕様 497

14 パソコンに画像を取り込む／
ソフトウェアについて 511

パソコンに画像を取り込む 512
ソフトウェアの概要 514
ソフトウェアのインストール 515
索引 516

機能目次

電源

●電池充電 → p.34
●電池残量 → p.42
●電池情報確認 → p.452
●家庭用電源 → p.456
●オートパワーオフ → p.66

カード

●カード初期化 → p.64
●カードなしレリーズ → p.38

レンズ

●取り付け/取り外し → p.47
●ズーム → p.48

基本設定

●言語 → p.46
●日付／時刻／エリア → p.43
●電子音 → p.66
●著作権情報 → p.186
●カメラ設定初期化 → p.68

ファインダー

●視度調整 → p.49
●アイピースカバー → p.220
●水準器 → p.73
●グリッド → p.71
●アスペクト線 → p.146

液晶モニター

●明るさ調整 → p.386
●タッチパネル → p.61
●水準器 → p.72
●機能ガイド → p.75
●ヘルプ → p.76

AF

●AF動作 → p.116
●測距エリア選択モード → p.120
●AFフレーム選択 → p.122
●レンズグループ属性 → p.128
●AFフレーム赤色照明 → p.424
●AFマイクロ
アジャストメント → p.427
●手動ピント合わせ → p.137

測光

●測光モード → p.198

ドライブ

●ドライブモード → p.138
●セルフタイマー → p.140
●連続撮影可能枚数 → p.145

画像記録

●フォルダ作成／選択 → p.182
●画像番号 → p.184

画質

●記録画質 → p.142
●ISO感度 → p.148
●ピクチャースタイル → p.154
●ホワイトバランス → p.162
●オートライティング オプティマイザ → p.169
●高感度時ノイズ低減 → p.170
●長秒時露光ノイズ低減 → p.172
●高輝度側・階調優先 → p.174
●レンズ光学補正 → p.175
●フリッカー低減 → p.179
●色空間 → p.181

撮影

●撮影モード → p.30
●HDRモード → p.207
●多重露出 → p.212
●ミラーアップ → p.219
●バルブタイマー → p.205
●インターバルタイマー → p.223
●被写界深度確認 → p.195
●リモコン → p.221
●クイック設定 → p.56
●マルチ電子ロック → p.54

露出

●露出補正 → p.200
●露出補正（M+ISOオート） → p.197
●AEB → p.201
●AEロック → p.203
●セイフティシフト → p.415

ストロボ

●内蔵ストロボ → p.228
●外部ストロボ → p.233
●ストロボ機能設定 → p.235
●ワイヤレス撮影 → p.244

ライブビュー撮影

●ライブビュー撮影 → p.255
●AF動作 → p.274
●AF方式 → p.276
●アスペクト比 → p.146
●クリエイティブフィルター → p.266
●タッチシャッター → p.286

動画撮影

●動画撮影 → p.293
●AF方式 → p.276
●動画サーボAF → p.326
●動画記録画質 → p.306
●マニュアル露出 → p.298
●動画デジタルズーム → p.311
●録音 → p.312
●HDR動画撮影 → p.314
●動画クリエイティブ フィルター → p.316
●ビデオスナップ → p.333
●タイムラプス動画 → p.319
●動画サーボAF時の AF速度 → p.329
●動画サーボAFの 被写体追従特性 → p.330
●リモコン撮影 → p.332

再生

●撮影直後の表示時間 → p.67
●1枚表示 → p.346
●撮影情報表示 → p.348
●インデックス表示 → p.353
●画像送り（ジャンプ表示） → p.354
●拡大 → p.355
●回転 → p.358
●レーティング → p.359
●動画再生 → p.365
●スライドショー → p.369
●テレビで見る → p.373
●プロテクト（保護） → p.376
●消去 → p.378
●タッチ再生 → p.356
●印刷指定（DPOF） → p.380
●フォトブック指定 → p.384

画像加工

●RAW現像 → p.390
●JPEGリサイズ → p.395
●JPEGトリミング → p.397
●クリエイティブフィルター → p.399

カスタマイズ

●カスタム機能（C.Fn） → p.410
●操作ボタンカスタマイズ → p.433
●マイメニュー → p.440
●カスタム撮影モード → p.445

センサークリーニング／ダスト除去

●センサークリーニング → p.404
●ゴミ消し情報付加 → p.405

ソフトウェア

●概要 → p.514
●インストール → p.515

無線機能

→ 無線機能 使用説明書

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。
故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問合せ専用窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。

⚠ 警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電池の＋－を逆に入れること。
  - 充電（使用）可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 同梱のCD-ROMをCD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しないでください。音楽用CDプレーヤーで使用した場合は、スピーカーなどを破損する恐れがあります。またヘッドフォンなどをご使用になる場合は、大音量により耳に傷害を負う恐れがあります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、電池室ふた、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかり閉じてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。

- 指などで内蔵ストロボやミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を別紙の修理お問合せ専用窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

表示パネルと液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

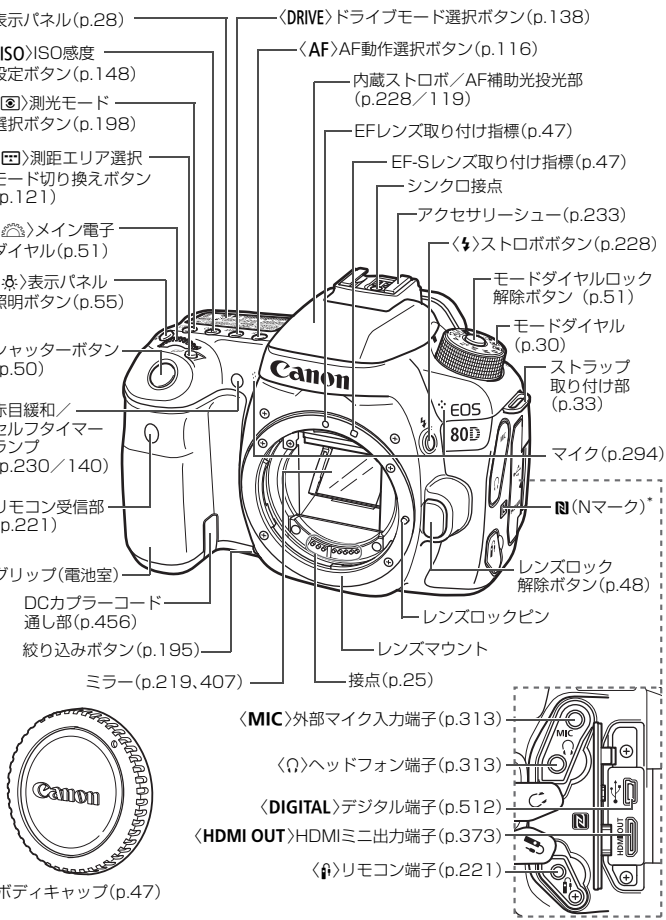
- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

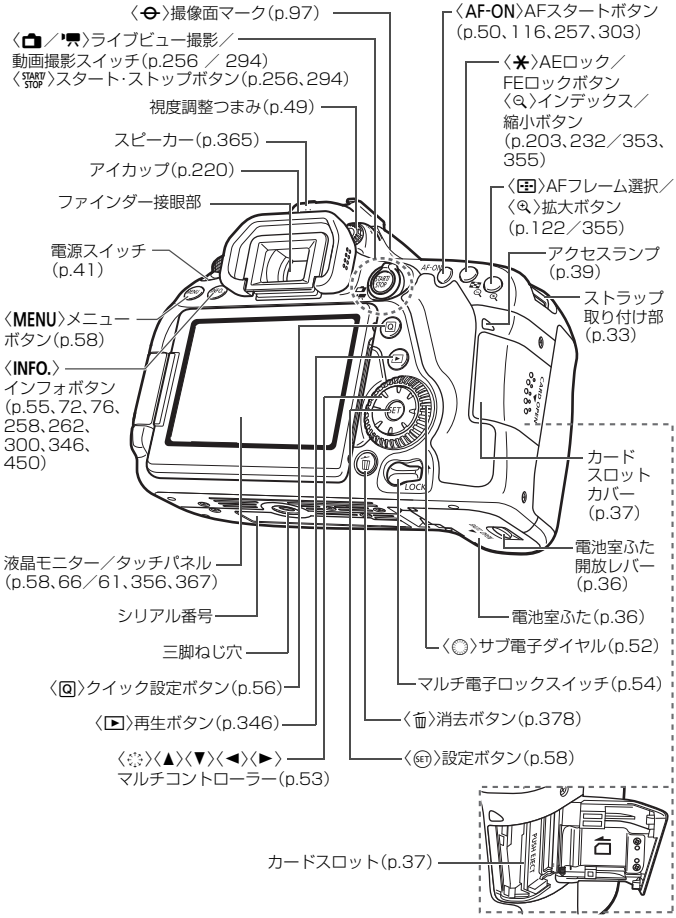
レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



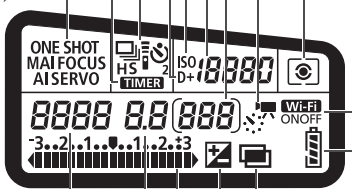
各部の名称



* NFC機能を使用した無線接続時に使います。


〈⊖〉撮像面マーク(p.97)
〈AF-ON〉AFスタートボタン(p.50、116、257、303)
〈📷／🎥〉ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ(p.256 ／ 294)
〈START/STOP〉スタート·ストップボタン(p.256、294)
〈✳〉AEロック／FEロックボタン
〈🔍〉インデックス／縮小ボタン(p.203、232／353、355)
視度調整つまみ(p.49)
スピーカー(p.365)
アイカップ(p.220)
ファインダー接眼部
〈⊞〉AFフレーム選択／〈🔍〉拡大ボタン(p.122／355)
電源スイッチ(p.41)
アクセスランプ(p.39)
ストラップ取り付け部(p.33)
〈MENU〉メニューボタン(p.58)
〈INFO.〉インフォボタン(p.55、72、76、258、262、300、346、450)
カードスロットカバー(p.37)
液晶モニター／タッチパネル(p.58、66／61、356、367)
電池室ふた開放レバー(p.36)
シリアル番号
電池室ふた(p.36)
三脚ねじ穴
〈◯〉サブ電子ダイヤル(p.52)
〈Q〉クイック設定ボタン(p.56)
マルチ電子ロックスイッチ(p.54)
〈▶〉再生ボタン(p.346)
〈🗑〉消去ボタン(p.378)
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉マルチコントローラー(p.53)
〈SET〉設定ボタン(p.58)
カードスロット(p.37)

表示パネル



ドライブモード(p.138)
- 1枚撮影
- 高速連続撮影
- 低速連続撮影
- ソフト1枚撮影
- ソフト連続撮影
- セルフタイマー10秒／リモコン
- セルフタイマー2秒／リモコン

〈TIMER〉
インターバルタイマー撮影(p.223)
バルブタイマー撮影(p.205)

AF動作(p.116、274)
ONE SHOT
ワンショットAF
AI FOCUS
AIフォーカスAF
AI SERVO
AIサーボAF
SERVO
サーボAF
M FOCUS
マニュアルフォーカス
(p.137、288)

〈D+〉高輝度側・階調優先(p.174)

〈ISO〉ISO表示(p.148)

ISO感度(p.148)

撮影可能枚数
セルフタイマー作動表示
バルブ露光時間
エラー番号／エラー警告(**Err**)
画像記録中の残り枚数

タイムラプス動画撮影(p.319)

測光モード(p.198)
- 評価測光
- 部分測光
- スポット測光
- 中央部重点平均測光

Wi-Fi機能

電池残量(p.42)

〈▣〉多重露出撮影(p.212)

〈±〉露出補正(p.200)

露出レベル表示
露出補正量(p.200)
AEBレベル(p.201)

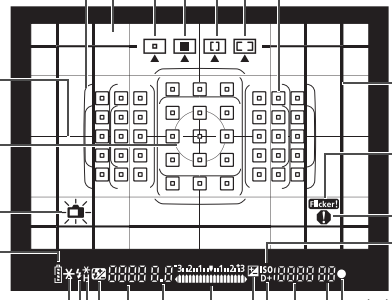
絞り数値

AFフレーム選択表示
(**[ ]AF**, **SEL [ ]**, **SEL AF**)

シャッター速度
FEロック(**FEL**)
データ処理中(**buSY**)
内蔵ストロボ充電中(**buSY**)
マルチ電子ロック警告(**L**)
カード未装填警告(**Card**)
カードフル警告(**FuLL**)
エラー表示(**Err**)
撮像素子の清掃中(**CLn**)

● 設定に応じた部分のみ表示されます。

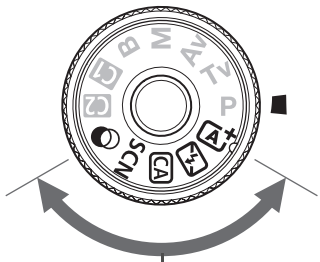
ファインダー内表示



● 設定に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルの中央（モードダイヤルロック解除ボタン）を押しながら回します。



かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

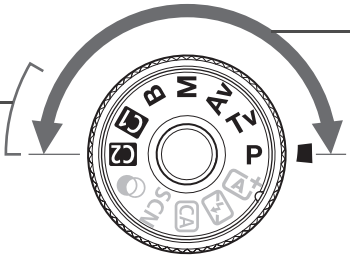
- **シーンインテリジェントオート**（p.78）
- **ストロボ発光禁止**（p.83）
- **クリエイティブオート**（p.84）

SCN：**スペシャルシーン**（p.88）

	料理（p.89）		HDR逆光補正（p.94）
	キッズ（p.90）		ポートレート（p.95）
	キャンドルライト（p.91）		風景（p.96）
	夜景ポートレート（p.92）		クローズアップ（p.97）
	手持ち夜景（p.93）		スポーツ（p.98）

：**クリエイティブフィルター**（p.101）

	ラフモノクロ（p.103）		水彩風（p.104）
	ソフトフォーカス（p.103）	HDR	HDR絵画調標準（p.104）
	魚眼風（p.103）	HDR	HDRグラフィック調（p.104）
	トイカメラ風（p.104）	HDR	HDR油彩調（p.105）
	ジオラマ風（p.104）	HDR	HDRビンテージ調（p.105）



応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

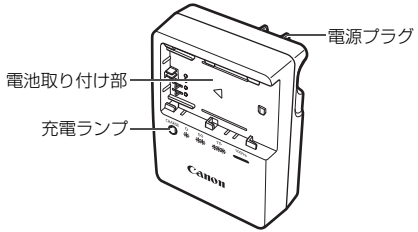
P ：プログラムAE（p.190）
Tv：シャッター優先AE（p.192）
Av：絞り優先AE（p.194）
M ：マニュアル露出（p.196）
B ：バルブ（p.204）

カスタム撮影モード

撮影モード（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）やAF動作、メニュー機能などを、**C1**、**C2**に登録することができます（p.445）。

バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6の充電器です（p.34）。



注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

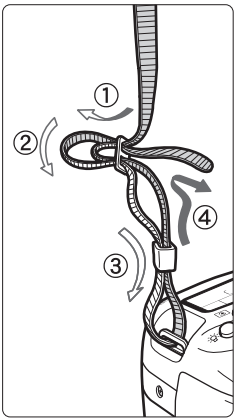
Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

撮影前の準備と操作の基本

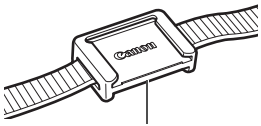
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。



ストラップ（吊りひも）の取り付け方

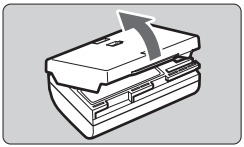
ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

● ストラップにはアイピースカバーが付いています（p.220）。



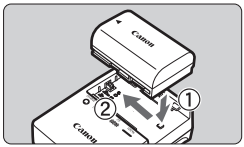
アイピースカバー

電池を充電する



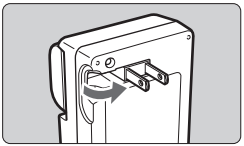
1 保護カバーを外す

● 付属の保護カバーを外します。



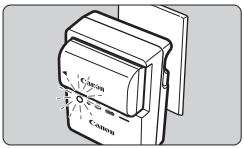
2 電池を取り付ける

● 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
● 取り外しは逆の手順で行います。



3 電源プラグを起こす

● 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

● プラグをコンセントに差し込みます。
➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1秒ごとに点滅
50～74%		1秒ごとに2回点滅
75%以上		1秒ごとに3回点滅
充電完了	緑	点灯

● **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。**なお、充電時間は、周囲の温度や残量によって大きく異なります。
● 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

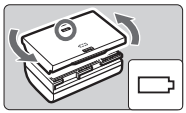
電池と充電器の上手な使い方

● **購入時、電池はフル充電されていません**
充電してからお使いください。

● **充電は、使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

● **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**
充電済みの電池に付属の保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈▭〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。



● **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● **充電器は海外でも使うことができる**
充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

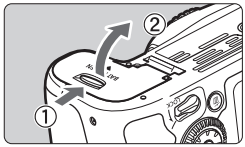
● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
電池の劣化度（p.452）を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。

● 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
● バッテリー残量（p.452）が94%以上のときは、充電は行われません。
● 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は充電できません。

電池を入れる／取り出す

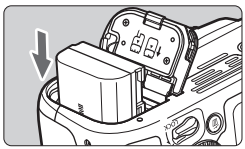
充電したバッテリーパック LP-E6N（またはLP-E6）をカメラに入れます。**このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を抜くと暗くなります。また、電池が入っていないときは、ファインダー像がぼやけた状態になるため、ピント合わせはできません。**

入れ方



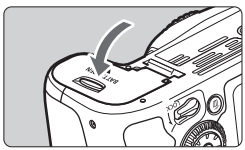
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

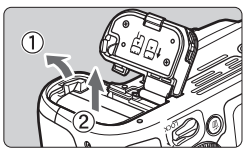


3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は使用できません。

取り出し方



ふたを開けて、電池を取り出す

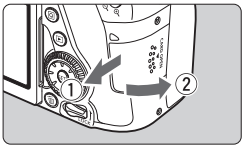
- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（p.34）を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

カード（別売）は、SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使えます。また、UHS-I 対応のSDHC/SDXCメモリーカードも使えます。撮影した画像は、カードに記録されます。

カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

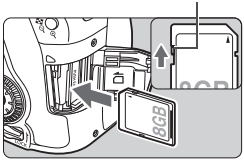
入れ方



1 カバーを開ける

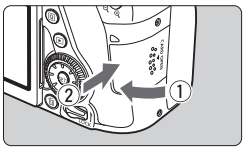
- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

書き込み禁止スイッチ



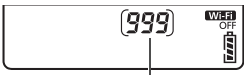
2 カードを入れる

- **図のようにカードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**



3 カバーを閉める

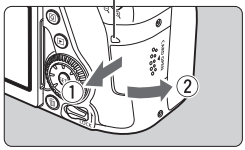
- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。



撮影可能枚数

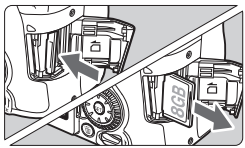
● 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
● [**1：カードなしレリーズ**]を[**しない**]に設定しておくと、カードを入れ忘れたまま撮影してしまうのを防ぐことができます（p.470）。

取り出し方



1 カバーを開ける

● 電源スイッチを〈OFF〉にします。
● **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**
● [**書き込み中...**]と表示されたときは、カバーを閉じてください。



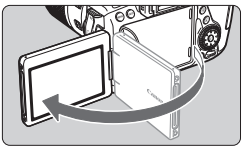
2 カードを取り出す

● カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
● カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

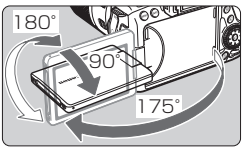
- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。**
  - **・カードを取り出す**
  - **・電池を取り出す**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **・電源コードの抜き差しを行う**（家庭用電源アクセサリー（別売）使用時／p.456）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります（p.184）。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.64)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

液晶モニターを使う

液晶モニターを開いてメニュー機能の設定や、ライブビュー撮影、動画撮影、画像の再生を行います。液晶モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

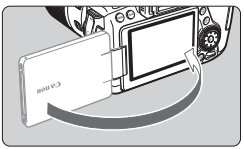


1 液晶モニターを開く



2 液晶モニターを回転させる

- 液晶モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。



3 画面を表向きにする

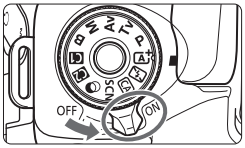
- 通常は、画面を表向きにして使用します。

液晶モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないよう注意してください。

- カメラを使わないときは、液晶モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- ライブビュー撮影と動画撮影で、液晶モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、43ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**



〈**ON**〉: カメラが作動します。
〈**OFF**〉: カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について



- 電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈 〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.50）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

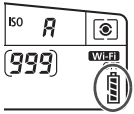
MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約1分間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.50）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、[**2：オートパワーオフ**]で変更することができます（p.66）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、[**書き込み中...**]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池残量表示について

電池の残量は、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときに、6段階で表示されます。電池マークが点滅（ ）したときは、もうすぐ電池切れになります。



表示						
残量（%）	100~70	69~50	49~20	19~10	9~1	0

撮影可能枚数の目安

（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	1390	1250
50%ストロボ撮影	960	860

- フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）使用時の撮影可能枚数
  - ・LP-E6N×2個使用時：カメラ単体時の約2倍
  - ・単3形アルカリ乾電池使用時（常温+23℃）：ストロボ撮影なし：約560枚、50%ストロボ使用：約400枚

- 下記の操作を行うと、電池が早く消耗します。
  - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
- ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、257ページを参照してください。
- [**3：バッテリー情報**]で、電池の状態を詳しく確認することができます（p.452）。
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）で単3形電池を使用したときは、4段階表示になります（[/]は表示されません）。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する

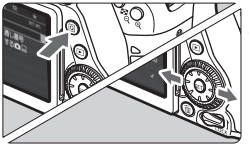
初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されますので、以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておくと、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。



1 メニューを表示する

● 〈**MENU**〉ボタンを押すと表示されます。



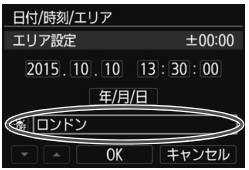
2 [♥2]タブの[日付/時刻/エリア]を選ぶ

● 〈🔍〉ボタンを押して［♥］タブを選びます。

● 〈◄〉〈►〉を押して［♥2］タブを選びます。

● 〈▲〉〈▼〉を押して［**日付/時刻/エリア**］を選び、〈(SET)〉を押します。



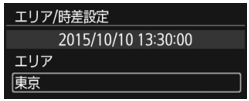


3 エリアを設定する

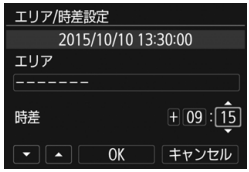
● **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**

● 〈◄〉〈►〉を押して［**エリア設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。

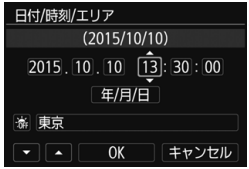
● メニュー機能の設定操作は、58～60ページを参照してください。
● 手順3の［**エリア設定**］に表示される時間は、協定世界時との時差です。



- ［**エリア**］の欄を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉を押して、エリアを選び〈(SET)〉を押します。

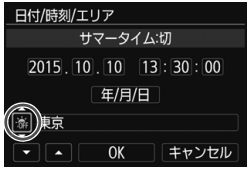


- 設定したいエリアがないときは、時差で設定することもできます。そのときは〈◄〉〈►〉を押して［**時差**］の欄を選び、〈(SET)〉を押して〈⌽〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- 設定が完了したら、〈◄〉〈►〉を押して［OK］を選び〈(SET)〉を押すと、元の画面に戻ります。



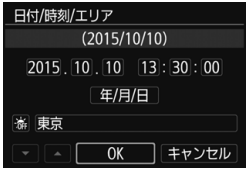
4 日付/時刻を設定する

- 〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⌽〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◄〉〈►〉を押して［☀］を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⌽〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［☀］を選び、〈(SET)〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順4で設定した時刻が、1 時間進みます。［☀］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



6 設定を終了する

- 〈◄〉〈►〉を押して［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

以下の条件の場合、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
・カメラから電池を取り出して保管したとき
・カメラの電池残量がなくなったとき
・カメラを氷点下に長時間放置したとき

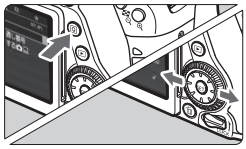
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で［OK］を選んだときに始まります。
- エリア/時差設定を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

MENU 表示言語を選ぶ



1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



2 [2] タブの [言語] を選ぶ

● 〈Q〉ボタンを押して［2］タブを選びます。

● 〈◄〉〈►〉を押して［2］タブを選びます。

● 〈▲〉〈▼〉を押して、[言語]を選び、〈SET〉を押します。





3 言語を設定する

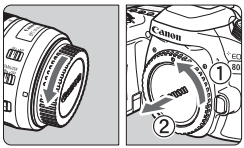
● 〈▲〉〈▼〉を押して言語を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。**なお、EF-Mレンズは使用できません。**

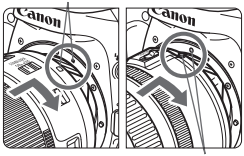
取り付け方



1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

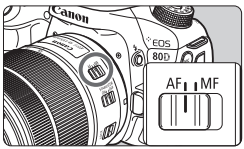
白い指標



赤い指標

2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

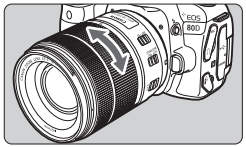
- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせの略です。
- 〈**MF**〉（Manual Focus：手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

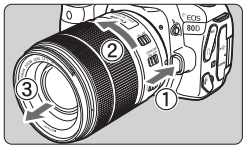
ズーム操作について



レンズのズームリングを手で回す

- ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方



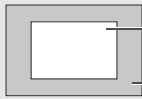
レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- **レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。**
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

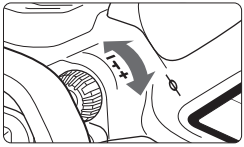
撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



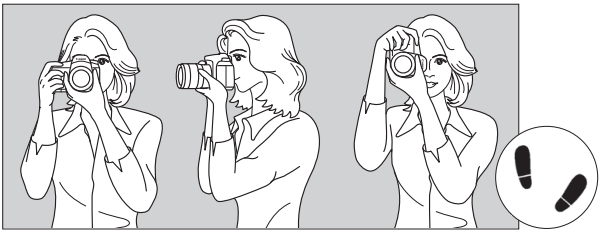
視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（p.220）。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、視度補正レンズE（別売）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



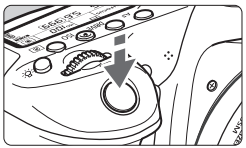
横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、82、255ページを参照してください。

シャッターボタン

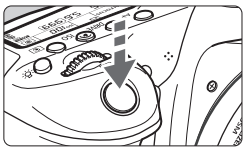
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内と表示パネルに表示されます（⏱4）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

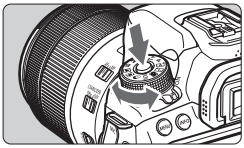
手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- 応用撮影ゾーンでは、〈AF-ON〉ボタンで半押しと同じ操作ができます。
- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

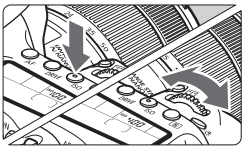
モードダイヤル



ダイヤル中央のロック解除ボタンを押しながら回す

撮影モードの設定に使用します。

メイン電子ダイヤル

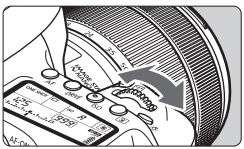


(1) ボタンを押したあと〈 〉を回す

〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉〈⊙〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈 〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AF動作、ドライブモード、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択・設定などに使用します。



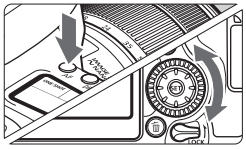
(2) 〈 〉のみを回す

ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッター速度や絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈**LOCK**〉スイッチが上側（マルチ電子ロック／p.54）でも行うことができます。

◯ サブ電子ダイヤル

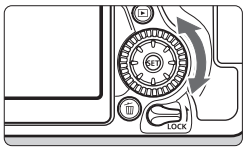


(1) ボタンを押したあと〈◯〉を回す

〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉〈⊡〉ボタンなどを押すと、その機能選択状態がタイマー（⏱6）で保持されます。その間に〈◯〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AF動作、ドライブモード、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択・設定などに使用します。



(2) 〈◯〉のみを回す

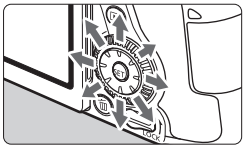
ファインダー内表示や表示パネルを見ながら〈◯〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

（1）の操作は、〈**LOCK**〉スイッチが上側（マルチ電子ロック／p.54）でも行うことができます。

❁ マルチコントローラー

〈❁〉は8方向キーの構造になっています。

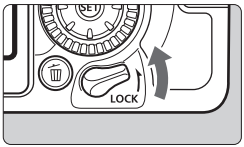


- AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影／動画撮影時におけるAFフレーム/拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動は、8方向に動かすことができます。
- メニューやクイック設定の操作で移動できるのは〈▲〉〈▼〉〈◄〉〈►〉の方向のみです。

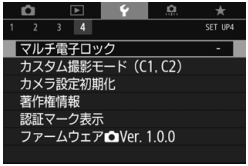
AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、再生時における拡大表示位置の移動は、〈**LOCK**〉スイッチが上側（マルチ電子ロック／p.54）でも行うことができます。

LOCK マルチ電子ロック

［**4：マルチ電子ロック**］を設定し、〈**LOCK**〉スイッチを上側にすると、メイン電子ダイヤルやサブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。

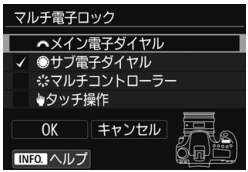


〈**LOCK**〉スイッチ下側：ロック解除
〈**LOCK**〉スイッチ上側：ロック



1 ［マルチ電子ロック］を選ぶ

- ［4］タブの［**マルチ電子ロック**］を選び、〈(SET)〉を押します。



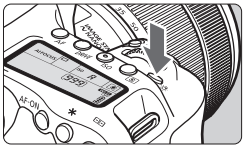
2 操作を禁止する操作部材に［✓］を付ける

- 操作部材を選び〈(SET)〉を押すと、［✓］が表示されます。
- ［**OK**］を選びます。

➡ マルチ電子ロックスイッチをロック状態にしたときに、操作を禁止する操作部材が設定されます。

- 〈**LOCK**〉スイッチが上側の状態で、禁止した操作部材を操作すると（［**タッチ操作**］設定時は除く）、ファインダーと表示パネルに〈**L**〉、撮影機能の設定状態（p.55）の画面に［**LOCK**］が表示されます。ライブビュー撮影時は液晶モニターに［**LOCK**］が表示されます。
- 初期状態でロックしたときは〈◯〉がロックされます。
- かんたん撮影ゾーンで設定できるのは［**タッチ操作**］のみです。

表示パネル照明



〈☼〉ボタンを押すと、表示パネルを照明することができます。〈☼〉ボタンを押すたびに点灯（⏱6）／消灯します。

バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

撮影機能の設定状態を表示する

〈**INFO.**〉ボタンを何回か押すと、撮影機能の設定状態が表示されます。

画面が表示された状態でモードダイヤルを回すと、各撮影モードの設定状態を確認することができます（p.451）。

〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます（p.56）。

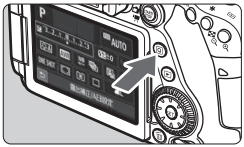
もう一度〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示が消えます。





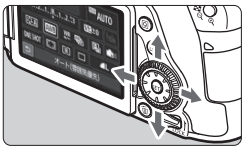
Q 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。



1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

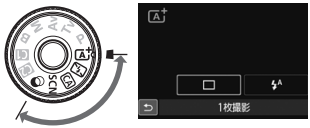
➡ クイック設定の状態になります。



2 機能を設定する

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して機能を選びます。
  - ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド(p.75)が画面に表示されます。
- 〈⌓〉または〈◎〉を回して設定を変更します。

かんたん撮影ゾーン



応用撮影ゾーン

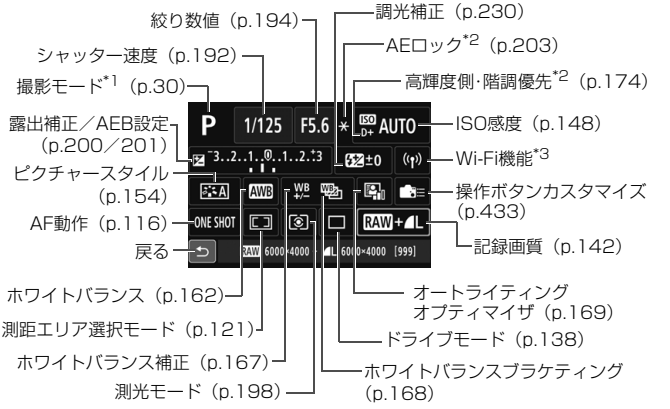


3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
  - ➡ 撮影した画像が表示されます。

- かんたん撮影ゾーンで設定できる機能と設定方法については、107ページを参照してください。
- 手順1、2は、液晶モニターをタッチして操作することもできます（p.61）。

クイック設定の画面例



*1：モードダイヤルが〈**SCN**〉〈🌀〉のときのみ設定できます。
*2：クイック設定できません。
*3：無線機能 使用説明書を参照してください。

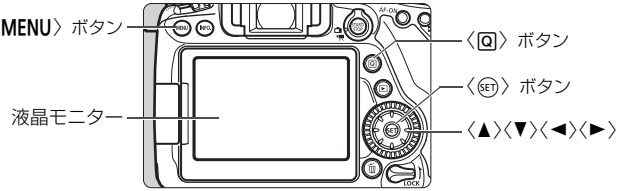
クイック設定について



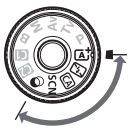
- 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
- 〈◯〉または〈◯〉を回すか、〈◀〉〈▶〉を押して設定を変更します。さらに〈**INFO.**〉〈▦〉〈🗑〉ボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。
- 〈📷≡〉（p.433）や〈▣〉（p.120）を選んだときは、〈**MENU**〉ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。



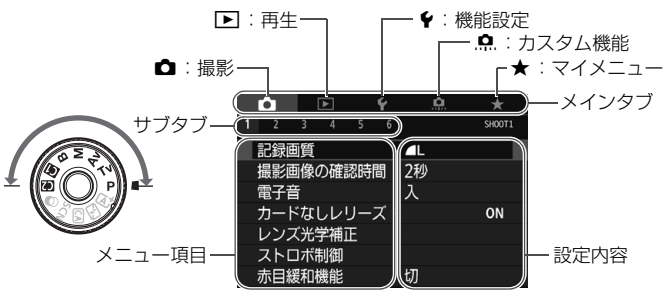
かんたん撮影ゾーンのメニュー画面



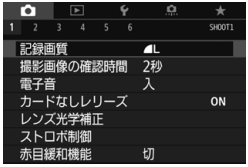


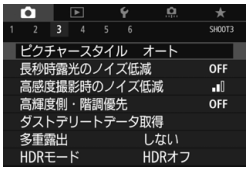
*** かんたん撮影ゾーンでは、表示されないタブやメニュー項目があります。**

応用撮影ゾーンのメニュー画面

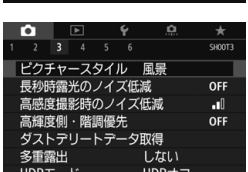


メニュー機能の設定操作









1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈◄〉〈►〉を押してサブタブを選びます。
- 例えば、本文中の［3］タブは、（撮影）タブの［3］を選んでいる画面のことです。

3 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈(SET)〉を押します。

4 内容を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で内容を選びます（〈▲〉〈▼〉で選ぶ内容と、〈◄〉〈►〉で選ぶ内容があります）。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5 内容を設定する

- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

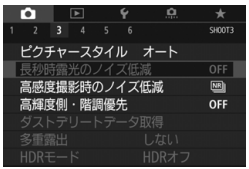
6 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態表示に戻ります。

- 手順2は〈 〉を回して行うこともできます。手順4は内容により、〈 〉を回して行うこともできます。
- 手順2～5は、液晶モニターにタッチして操作することもできます（p.61）。
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈**MENU**〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈**MENU**〉ボタンを押します。
- メニュー機能の内容は、470ページを参照してください。

メニュー項目の灰色表示について

例：マルチショット
　　ノイズ低減機能設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈SET〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。

優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

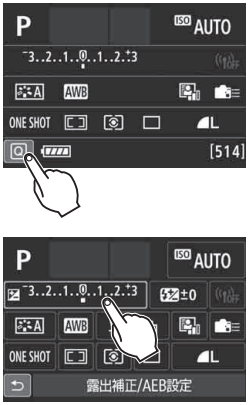
［**4：カメラ設定初期化**］でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます（p.68）。

画面にタッチして操作する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて操作することができます。

タッチ

画面例（クイック設定）



- 液晶モニターに指を触れて、指を離します。
- 液晶モニターに表示されるメニューやアイコンなどを選択するときに使います。
- タッチ操作ができるときは、アイコンの外側に枠が付いた状態で表示されます（メニュー画面を除く）。
  例えば、［Q］をタッチすると、クイック設定の状態になります。［↩］をタッチすると、元の画面に戻ります。

タッチでできる操作

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー機能の設定
- クイック設定
- 〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉〈⊛〉〈⊞〉〈⊡〉ボタンを押したあとの機能設定
- ライブビュー撮影時のタッチシャッター
- ライブビュー撮影時の機能設定
- 動画撮影時の機能設定
- 再生操作

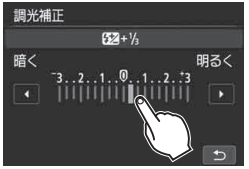
ドラッグ

画面例（メニュー画面）



● 液晶モニターに指を触れたまま動かします。

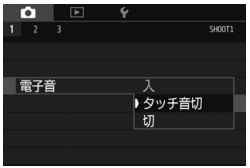
画面例（目盛り表示）



ドラッグでできる操作

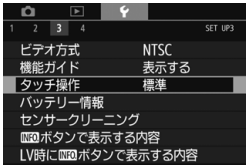
- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー画面のタブや項目の選択
- 目盛り表示の設定
- クイック設定
- AFフレームの選択
- ライブビュー撮影時の機能設定
- 動画撮影時の機能設定
- 再生操作

MENU タッチ操作時に電子音が鳴らないようにする



［📷1：**電子音**］を［**タッチ音切**］に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります。

MENU タッチ機能を設定する



1 [タッチ操作] を選ぶ

- [3] タブの [**タッチ操作**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 タッチ機能を設定する

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。
- 通常は［**標準**］を選びます。
- ［**敏感**］は［**標準**］に比べて、画面に触れたときの反応がよくなります。操作して使いやすい方を選んでください。
- タッチ操作を禁止するときは、［**しない**］を選びます。

タッチパネル操作時のご注意

- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- 液晶モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- 液晶モニターに、市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- ［**敏感**］設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

使い始める前の準備

MENU カードを初期化する

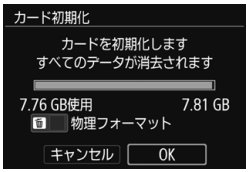
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。



1 ［カード初期化］を選ぶ

● ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈(SET)〉を押します。





2 初期化する

● ［**OK**］を選び〈(SET)〉を押します。
➡ カードが初期化されます。
➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。

● 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に［✓］が付いた状態で［**OK**］を選びます。

こんなときにカードを初期化します

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき（p.496）

物理フォーマットについて

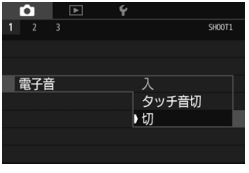
- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- **新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。**

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときや、セルフタイマー撮影時、画面にタッチして操作したときに、電子音が鳴らないようにすることができます。



1 [電子音] を選ぶ

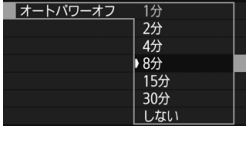
● [📷1] タブの [**電子音**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 [切] を選ぶ

● [**切**] を選び〈(SET)〉を押します。
➡ 電子音が鳴らないようになります。
● [**タッチ音切**] を選んだときは、タッチ操作時のみ、電子音が鳴らないようになります。

MENU 電源が切れる時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置すると、節電のため設定されている時間で電源が自動的に切れます。初期状態では1分に設定されていますが、この時間を変更することができます。自動的に切れないようにするときは、[**しない**] に設定します。なお、電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。



1 [オートパワーオフ] を選ぶ

● [🔧2] タブの [**オートパワーオフ**] を選び、〈(SET)〉を押します。

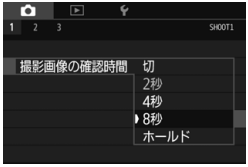
2 時間を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

[**しない**] に設定しても、節電のため30分で液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは［**ホールド**］、撮影画像を表示しないようにするときは［**切**］に設定します。



1 ［撮影画像の確認時間］を選ぶ

● ［**1**］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈(SET)〉を押します。

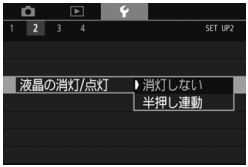
2 時間を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

［**ホールド**］に設定すると、オートパワーオフの設定時間まで画像が表示されます。

MENU 液晶モニターの消灯／点灯の設定

シャッターボタンの半押しに連動して、撮影機能の設定状態（p.55）を表示／非表示にすることができます。



1 ［液晶の消灯/点灯］を選ぶ

● ［**2**］タブの［**液晶の消灯/点灯**］を選び、〈(SET)〉を押します。

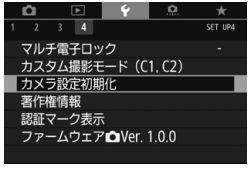
2 内容を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

● ［**消灯しない**］：半押ししても表示は消えません。消したいときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
● ［**半押し連動**］：半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。

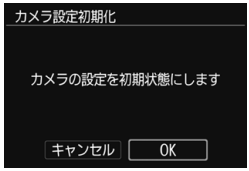
MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。



1 [カメラ設定初期化] を選ぶ

● [4] タブの [**カメラ設定初期化**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [OK] を選ぶ

● [OK] を選び〈(SET)〉を押します。

➡ [**カメラ設定初期化**] を行うと、カメラの設定が次のようになります。

撮影機能

〈SCN〉モード	（手持ち夜景）
〈〉モード	（ジオラマ風）
AF動作	ワンショットAF
測距エリア選択モード	45点自動選択AF
測光モード	（評価測光）
ISO感度に関する設定	
ISO感度設定	自動設定（オート）
静止画撮影の範囲	下限値：100
	上限値：16000
オートの範囲	下限値：100
	上限値：6400
オートの低速限界	自動設定
ドライブモード	□（1枚撮影）
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	解除
多重露出	しない

HDRモード	HDRオフ
インターバルタイマー	しない
バルブタイマー	しない
フリッカーレス撮影	しない
ミラーアップ撮影	しない
ファインダー内表示	
水準器	表示しない
グリッド	表示しない
フリッカー検知	表示する
カスタム機能	そのまま
ストロボ制御	
ストロボの発光	する
E-TTL II調光方式	評価調光
Avモード時のストロボ同調速度	自動

画像記録

記録画質	◢L
アスペクト比	3：2
ピクチャースタイル	オート
オートライティング オプティマイザ	標準
レンズ光学補正	
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色収差補正	する／登録レンズ保持
歪曲収差補正	しない／登録レンズ保持
ホワイトバランス	AWB オート（雰囲気優先）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
色空間	sRGB
長秒時露光のノイズ低減	しない
高感度撮影時のノイズ低減	標準
高輝度側・階調優先	しない
画像番号	通し番号
自動クリーニング	する
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定

オートパワーオフ	1分
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ハイライト警告表示	しない
AFフレーム表示	しない
再生時のグリッド	表示しない
ヒストグラム	輝度
HDMI機器制御	切
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	
液晶の消灯/点灯	消灯しない
タッチ操作	標準
日付/時刻/エリア	そのまま
言語	そのまま
ビデオ方式	そのまま
機能ガイド	表示する
INFO ボタンで表示する内容	全項目選択
マルチ電子ロック	（サブ電子ダイヤル）のみ
カスタム撮影モード	そのまま
著作権情報	そのまま
Eye-Fi通信	しない
設定：MY MENU	そのまま
メニュー表示	通常表示
無線通信の設定	
Wi-Fi/NFC	使わない

● カスタム機能の一括解除については、410ページを参照してください。
● 無線機能の設定については、無線機能 使用説明書を参照してください。

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影	する
AF方式	+追尾優先AF
AF動作	ONE SHOT
タッチシャッター	しない
グリッド	表示しない
露出Simulation	する
LVソフト撮影	モード1
測光タイマー	8秒
クリエイティブフィルター	しない

動画撮影

〈◎〉モード	（ファンタジー）
ISO感度に関する設定	
動画撮影の範囲	下限値：100 上限値：12800
動画サーボAF	する
AF方式	+追尾優先AF
動画記録画質	
MOV/MP4	MP4
動画記録サイズ	NTSC： FHD 29.97P（標準） PAL： FHD 25.00P（標準）
デジタルズーム	しない
録音	オート
ウィンドカット	オート
アッテネーター	切
動画サーボAF時のAF速度	
作動条件	常時
AF速度	0（標準）
動画サーボAFの被写体追従特性	0
測光タイマー	8秒
グリッド	表示しない
ボタンの機能	AF/-
ビデオスナップ	撮影しない
タイムラプス動画	しない
リモコン撮影	しない
クリエイティブフィルター	しない

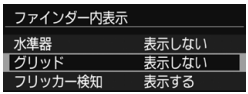
グリッドを表示する

カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドを、ファインダー内に表示することができます。

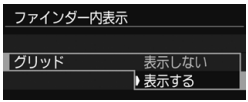


1 ［ファインダー内表示］を選ぶ

● ［2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。

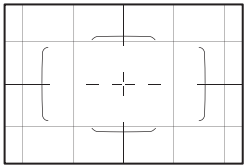


2 ［グリッド］を選ぶ



3 ［表示する］を選ぶ

➡ メニューを終了すると、ファインダー内にグリッドが表示されます。

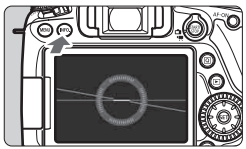


ライブビュー撮影時、および動画撮影開始前に、液晶モニターにグリッドを表示することができます（p.270、331）。

水準器を表示する

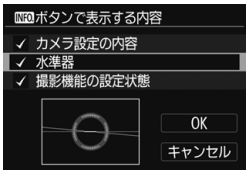
カメラの傾き補正に有効な水準器を、液晶モニターとファインダー内に表示することができます。なお、傾きの確認は、ともに水平方向のみです（前後方向の傾きは表示されません）。

液晶モニターに水準器を表示する

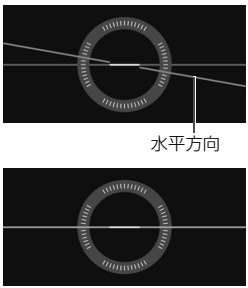


1 〈INFO.〉ボタンを押す

- 〈**INFO.**〉ボタンを押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。



- 水準器が表示されないときは、[**3**: **INFO. ボタンで表示する内容**]で、水準器が表示されるように設定します（p.450）。



2 カメラの傾きを確認する

- 水平方向の傾きが1°きざみで表示されます。なお、1目盛りは5°です。
- 赤い線が緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

- 傾きが補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、水準器の誤差が大きくなります。

ライブビュー撮影時、動画撮影開始前に（+追尾優先AF時を除く）、同じ操作で水準器を表示することができます（p.259、301）。

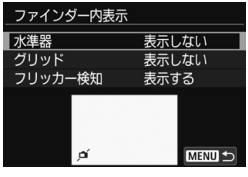
MENU ファインダー内に水準器を表示する

ファインダー内にカメラのマークによる簡易的な水準器を表示することができます。この機能は撮影時に表示されるため、傾きを確認しながら手持ち撮影を行うことができます。

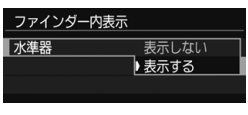


1 [ファインダー内表示] を選ぶ

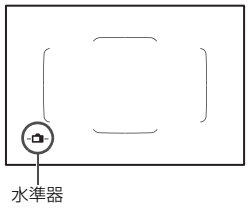
● [2] タブの [**ファインダー内表示**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [水準器] を選ぶ



3 [表示する] を選ぶ



4 シャッターボタンを半押しする

➡ 図の位置に水準器が表示されます。

水平

傾き1°

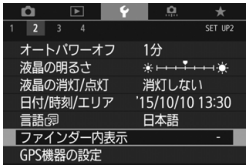
傾き2°以上

● 縦位置撮影時も機能します。

傾きが補正された状態でも±1°程度の誤差が生じることがあります。

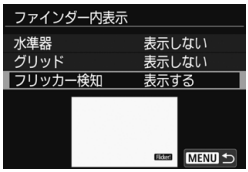
フリッカー検知を表示する 応用

この機能を設定しておくと、カメラが、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）を検知したときに、ファインダー内に〈Flicker!〉が表示されます。初期状態では、フリッカー検知［**表示する**］に設定されています。

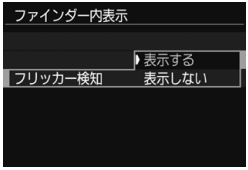


1 ［ファインダー内表示］を選ぶ

● ［2］タブの［**ファインダー内表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［フリッカー検知］を選ぶ



3 ［表示する］を選ぶ

［**4：フリッカーレス撮影**］を［**する**］に設定すると、フリッカーによる露出への影響が低減された状態で撮影することができます（p.179）。

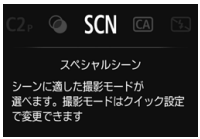
機能ガイドとヘルプについて

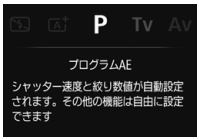
操作時に機能の説明を画面に表示することができます。

機能ガイド

撮影モードを変更したときや、撮影機能、ライブビュー撮影、動画撮影、再生時のクイック設定時に、撮影モードや機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）が画面に表示されます。クイック設定のときは、機能・項目を選ぶと説明が表示されます。表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

● **撮影モード**（例）





● **クイック設定**（例）



撮影機能



ライブビュー撮影



再生

MENU 機能ガイドを表示しないようにする



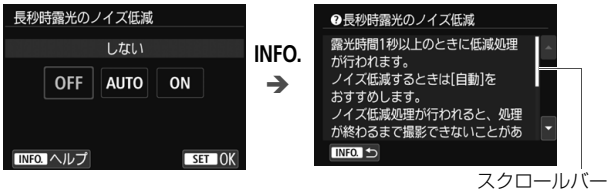
［機能ガイド］を選ぶ

- ［3］タブの［**機能ガイド**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**表示しない**］を選び〈(SET)〉を押します。

❷ ヘルプ

メニュー画面の下に［INFO.ヘルプ］が表示されているときは、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、機能の説明（ヘルプ）を表示することができます。説明が1ページを超えるときは、画面の右側にスクロールバーが表示されます。そのときは、〈◌〉または〈▲〉〈▼〉を操作すると続きを確認できます。

● **［📷3：長秒時露光のノイズ低減］の例**



● **［C.Fn I -1：露出設定ステップ］の例**



● **［C.Fn II -1：被写体追従特性］の例**



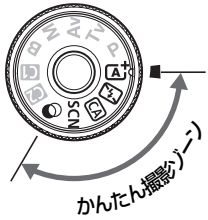
2

かんたん撮影

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます（p.107、460）。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。





〈SCN〉〈◎〉モードで撮影する前に

液晶モニターが消灯しているときは、〈Q〉ボタン、または〈**INFO.**〉ボタン（p.88、101、450）を押して、設定されている撮影モードを確認してから撮影してください。

* 〈**SCN**〉：スペシャルシーン
* 〈◎〉：クリエイティブフィルター

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（p.81）。



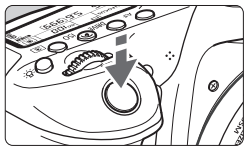
1 モードダイヤルを〈A+〉にする

- モードダイヤルの中央を押しながら回します。



2 被写体（写したいもの）にエリアAFフレームを合わせる

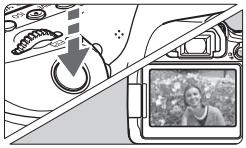
- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
- エリアAFフレームの中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。





4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 撮影を終了するときは、内蔵ストロボを手で押し下げて収納します。

〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影ゾーンで、〈SCN〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.154）。

? こんなときは

● 合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない

明暗差（コントラスト）のある部分にエリアAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.50）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● ピントが合ったのにAFフレームが赤く照明されない

AFフレームは、暗い場所でピントが合ったときに赤く照明されます。

● 複数のAFフレームが同時に表示される

表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。

● **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントが合った写真を撮ることができます。

なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（p.81）はできません。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態のときは、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。ストロボを発光させたくないときは、クイック設定で［**内蔵ストロボの発光**］を［⊗］に設定するか（p.106）、〈⊗〉（ストロボ発光禁止）モードで撮影してください（p.83）。

● **内蔵ストロボが発光して、かなり明るい写真になった**

被写体から離れて撮影してください。ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離の目安は4m以内です。なお、内蔵ストロボが連続して発光するときに音がしますが、故障ではありません。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。被写体から離れて撮影してください。また、レンズの先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈🅰+〉モードでは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈🚫〉〈🏃〉を除く）。

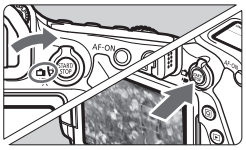
動いているものを撮影する



〈🅰+〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体がエリアAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、255ページを参照してください。



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする

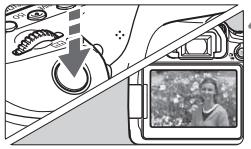
2 液晶モニターに映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

液晶モニターの向きを変えて撮影することができます（p.40）。

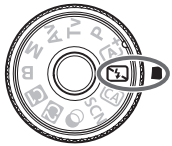

通常のアングル

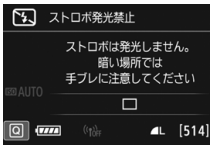

ローアングル


ハイアングル

ストロボが使えない場所で写す

カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈〉（ストロボ発光禁止）を使用します。







撮影のポイント

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **人物も写真に入れるときは**

暗い場所では、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

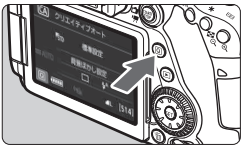
CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉モードでは、①雰囲気を選んで撮影、②背景ぼかし設定、③ドライブモード、④内蔵ストロボの発光を設定して撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈A+〉モードと同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。



1 モードダイヤルを〈CA〉にする



2 〈Q〉ボタンを押す（10）

➡ クイック設定の状態になります。

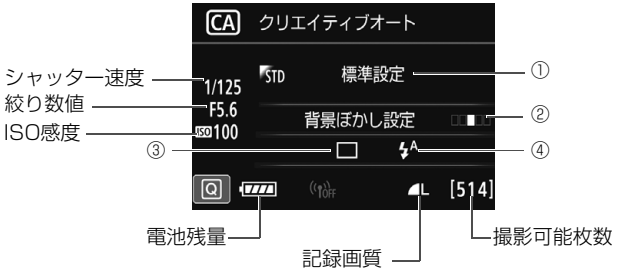


3 機能を設定する

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.75）が画面に表示されます。
- 機能の設定方法と内容については、85～87ページを参照してください。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。



①②はライブビュー撮影状態で設定すると、撮影前に効果を画面で確認することができます。

①雰囲気を選んで撮影

どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影することができます。〈 〉または〈 〉で選びます。〈SET〉を押すと一覧から選ぶこともできます。詳しくは、108ページを参照してください。

②背景ぼかし設定



- [**OFF**] は、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。
- [**OFF**] 以外に設定すると、明るさに関係なく背景のボケ具合が調整できます。
- 〈〉または〈〉でカーソルを右に動かすほど、被写体の背景がくっきりした写真になります。
- 〈〉または〈〉でカーソルを左に動かすほど、被写体の背景がぼけた写真になります。なお、レンズの明るさ（F値）によっては、選べない位置（・）があります。
- ライブビュー撮影状態にすると、ピントが合った前後のボケ具合が確認できます。〈〉または〈〉での操作中、液晶モニターに［**ぼかしシミュレーション中**］と表示されます。
- 背景をぼかしたいときは、95 ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。
- 使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。
- ストロボ撮影時は設定できません。なお、〈〉設定時に、背景ぼかし設定を行うと、自動的に〈〉に変更されます。

ライブビュー撮影時［**ぼかしシミュレーション中**］に〈Exp.SIM〉（p.258）が点滅しているときは、実際に撮影される画像よりもノイズが多かったり、暗く見えることがあります。

③ **ドライブモード**：〈☁〉または〈◯〉で選びます。〈SET〉を押すと一覧から選ぶこともできます。

〈□〉**1枚撮影**：
1枚だけ撮影します。

〈□ᴴ〉**高速連続撮影**：
シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。1秒間に最高約7.0コマの連続撮影を行うことができます。

〈□〉**低速連続撮影**：
シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。1秒間に最高約3.0コマの連続撮影を行うことができます。

〈□ˢ〉**ソフト1枚撮影**：
ファインダー撮影時に作動音を抑えた1枚撮影を行うことができます。

〈□ˢ〉**ソフト連続撮影**：
ファインダー撮影時に作動音を抑えながら、1秒間に最高約3.0コマの連続撮影を行うことができます。

〈⏲〉**セルフタイマー：10秒/リモコン**：

〈⏲₂〉**セルフタイマー：2秒/リモコン**：
シャッターボタンを押すと、10秒後／2秒後に撮影されます。リモコン撮影も可能です。

④ **内蔵ストロボの発光**：〈☁〉または〈◯〉で選びます。〈SET〉を押すと一覧から選ぶこともできます。

〈ϟᴬ〉**内蔵ストロボ自動発光**　：必要に応じて自動的に発光します。
〈ϟ〉**内蔵ストロボ発光**　：常時ストロボが発光します。
〈⊘〉**内蔵ストロボ発光禁止**　：ストロボは発光しません。

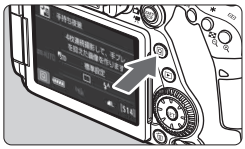
● セルフタイマー撮影については、140ページの（ノート）を参考に撮影してください。
● 〈⊘〉については、83ページの『ストロボが使えない場所で写す』を参考に撮影してください。

SCN: スペシャルシーンモードで撮る

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。



1 モードダイヤルを〈SCN〉にする



2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。



3 撮影モードを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して撮影モードのアイコンを選びます。
- 〈☁〉または〈◎〉を回して、撮影モードを選びます。



- 撮影モードのアイコンを選び、〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

SCNモードで設定できる撮影モード

撮影モード		参照頁
	料理	p.89
	キッズ	p.90
	キャンドルライト	p.91
	夜景ポートレート	p.92
	手持ち夜景	p.93

撮影モード		参照頁
	HDR 逆光補正	p.94
	ポートレート	p.95
	風景	p.96
	クローズアップ	p.97
	スポーツ	p.98

料理を写す

料理を撮影するときに、〈🍴〉（料理）を使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。







撮影のポイント

● **色あいを変える**

［**色あい**］を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは［**暖色**］側に、赤みが強すぎるときは［**寒色**］側に設定を変更して撮影してください。

● **なるべくストロボを使わないで撮影する**

料理にストロボ光が直接あたると、お皿や料理に反射光が写り込んだり、不自然な影ができてしまったりします。そのため、初期設定では、〈⚡〉（内蔵ストロボ発光禁止）に設定されています。暗い場所では手ブレに注意して撮影してください。

- 料理をおいしそうな色あいに撮影するためのモードなので、人物は適切な色あいにならないことがあります。
- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ撮影時は、［**色あい**］の設定が標準設定に切り換わります。

子供を写す

動き回る子供にピントを合わせ続けて撮影したいときは、〈キッズ〉を使用します。肌色が健康的な写真になります。







撮影のポイント

● **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**

シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム内でピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

● **連続して撮影する**

初期設定では、〈H〉（高速連続撮影*）が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影して、表情や動きの変化を写すことができます。

* ファインダー撮影時：最高約7.0コマ／秒、ライブビュー撮影時：最高約5.0コマ／秒

● ストロボ充電中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、撮影できません。表示が消えてから撮影をしてください。また、ライブビュー撮影時は、液晶モニターに「BUSY」が表示されるため、被写体を確認することができません。

● 注意事項は99ページを参照してください。

キャンドルライトと人物を写す

キャンドルライトに照らされた人物を撮りたいときは、〈🎭〉（キャンドルライト）を使用します。キャンドルライトの雰囲気を生かした色あいの写真になります。







撮影のポイント

● **中央のAFフレームでピントを合わせる**

ファインダー中央のAFフレームを人物に合わせて撮影します。

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **色あいを変える**

［**色あい**］を変えることができます。キャンドルライトの赤みを強めにしたいときは［**暖色**］側に、赤みが強すぎるときは［**寒色**］側に設定を変更して撮影してください。

● ライブビュー撮影はできません。
● 内蔵ストロボは発光しません。なお、暗い場所ではAF補助光が光ることがあります（p.119）。
● 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

夜景と人物を写す（三脚を使う）

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈🌃〉（夜景ポートレート）を使用します。三脚の使用をおすすめします。





撮影のポイント

● **広角レンズと三脚を使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

● **画像の明るさを確認する**

暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。

なお、撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

● **ほかの撮影モードでも撮影しておく**

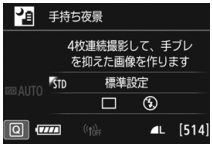
ブレた写真になりやすいので、〈A+〉と〈P〉でも撮影しておくことをおすすめします。

● ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
● セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。
● 注意事項は99ページを参照してください。

夜景を写す（手持ち撮影）

夜景を撮影するときは三脚を使用した方がきれいに撮影できますが、〈🌃〉（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。







撮影のポイント

● **カメラをしっかり構える**

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

● **人物も一緒に撮るときはストロボ発光**

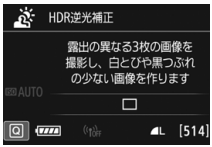
人物も一緒に撮るときは〈Q〉ボタンを押して〈ϟ〉（内蔵ストロボ発光）に設定します。人物もきれいに写るように、初めの1枚がストロボ撮影になります。4枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

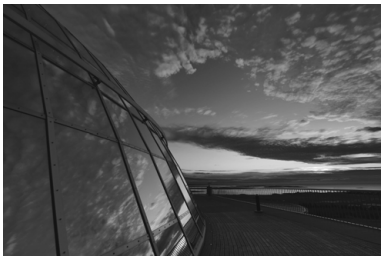
● 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
● 注意事項は99ページを参照してください。

逆光シーンを写す

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、〈☀〉（HDR逆光補正）を使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。







撮影のポイント

● **カメラをしっかり構える**

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

● 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
● ストロボ撮影はできません。なお、暗い場所ではAF補助光が光ることがあります（p.119）。
● 注意事項は99ページを参照してください。

HDRは、High Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈🧑〉（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。





撮影のポイント

● **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● **望遠レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● **顔にピントを合わせる**

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目にピントを合わせると効果的です。

初期設定では、〈🖳〉（低速連続撮影）が設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（最高約3.0コマ／秒）して表情やポーズの変化を写すことができます。

風景を写す

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏔〉（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。





撮影のポイント

● **ズームレンズは広角側にする**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● **夜景を撮影するときは**

〈🏔〉は内蔵ストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ちで夜景を撮影すると手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

● 逆光や暗い場所でも内蔵ストロボは発光しません。
● 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。

花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。





撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものにできるだけ近づく**

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈**MACRO 0.39m/1.3ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

内蔵ストロボが発光して、画像の下側が不自然に暗くなった場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

動きのあるものを写す

人の走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏃〉（スポーツ）を使用します。







撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるように、できるだけ望遠レンズを使用します。

● **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**

シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム内でピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

初期設定では、〈🎞H〉（高速連続撮影*）が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影して動きの変化を写すことができます。

* ファインダー撮影時：最高約7.0コマ／秒、ライブビュー撮影時：最高約5.0コマ／秒

● 逆光や暗い場所でも内蔵ストロボは発光しません。
● 手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。
● 外部ストロボ使用時は、ストロボが発光します。
● ライブビュー撮影時に設定できる記録画質は、RAW 画像と JPEG 画像です。M RAW、S RAW が設定されているときは RAW で記録されます。

〈キッズ〉キッズの注意事項

- ライブビュー撮影時に設定できる記録画質は、RAW 画像と JPEG 画像です。M RAW、S RAW が設定されているときは RAW で記録されます。
- ライブビュー撮影時、連続撮影中にストロボが発光したときは、連続撮影速度が低下します。その後、ストロボが発光しなくても、連続撮影速度は低下したまま撮影されます。

〈夜景ポートレート〉と〈手持ち夜景〉の注意事項

- ライブビュー撮影時、夜景など、点状の光源ではピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動でピントを合わせてください。
- ライブビュー映像で表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

〈手持ち夜景〉と〈HDR逆光補正〉の注意事項

- RAW、RAW+JPEGは選択できません。RAW画質が設定されているときは、**L**の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されているときは、設定されているJPEG画質で記録されます。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

〈夜景ポートレート〉の注意事項

- ライブビュー撮影時、人物の顔が暗いときはピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動でピントを合わせてください。

〈 〉手持ち夜景の注意事項

- ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。
- ストロボ撮影時に、明かりが少ない夜景を撮影するときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。
- ストロボ撮影時に、人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。また、不自然な影ができたり、色あいが適切にならないことがあります。
- 外部ストロボ使用時の照射角について
  - ・照射角の自動設定に対応したストロボのときは、レンズのズーム位置に関係なく、ストロボのズーム位置がワイド（広角）端に固定されます。
  - ・照射角を手動で設定するストロボのときは、発光部をワイド（広角）側にして撮影してください。

〈 〉HDR逆光補正の注意事項

- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。

フィルター効果を付けて撮影する

〈🎨〉（クリエイティブフィルター）モードでは、フィルター効果（10種類：ラフモノクロ*／ソフトフォーカス*／魚眼風*／トイカメラ風*／ジオラマ風*／水彩風*／HDR絵画調標準／HDRグラフィック調／HDR油彩調／HDRビンテージ調）を付けた画像を撮影することができます。ライブビュー撮影状態にすると、撮影前にフィルター効果を画面で確認することができます。保存される画像は、フィルター効果ありの画像のみです。

＊印の効果は、フィルター効果なしで通常の撮影を行い、撮影後に画像に効果を付けて別画像として保存することもできます（p.399）。



1 モードダイヤルを〈🎨〉にする

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする



3 ライブビュー映像を表示する

● 〈START/STOP〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。



4 クイック設定で［クリエイティブフィルター］を選ぶ

● 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
● 〈▲〉〈▼〉を押して画面左上の［🎨］を選び、〈(SET)〉ボタンを押します。



5 撮影モードを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して撮影モードを選び〈(SET)〉を押し、[OK]を選びます。
- ➡ フィルター効果が反映された映像が表示されます。
- ジオラマ風のときは、〈▲〉〈▼〉を押して、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させます。

モードで設定できる撮影モード

撮影モード		参照頁
	ラフモノクロ	p.103
	ソフトフォーカス	p.103
	魚眼風	p.103
	トイカメラ風	p.104
	ジオラマ風	p.104

撮影モード		参照頁
	水彩風	p.104
HDR	HDR絵画調標準	p.104
HDR	HDRグラフィック調	p.104
HDR	HDR油彩調	p.105
HDR	HDRビンテージ調	p.105



6 効果を調整する

- 〈Q〉ボタンを押して、[**クリエイティブフィルター**]の下のアイコンを選びます（、HDR、HDR、HDR、HDRを除く）。
- 〈◄〉〈►〉を押して効果を調整し、〈(SET)〉を押します。

7 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈START/STOP〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押して、[**クリエイティブフィルター**]を設定します。

- RAW、RAW+JPEGは選択できません。RAW画質が設定されているときは、**L**の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されているときは、設定されているJPEG画質で記録されます。
- 〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉設定時は、連続撮影は設定できません。
- 魚眼風で撮影した画像には、ダストデリートデータ(p.405)は付加されません。
- 〈〉は、初期設定では〈〉(ストロボ発光禁止)に設定されています。暗い場所では手ブレに注意して撮影してください。

ライブビュー撮影時について

- ラフモノクロのときは、液晶モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- ソフトフォーカス、ジオラマ風のときは、液晶モニターに表示される映像と撮影画像でぼかし具合が異なることがあります。
- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。
- 応用撮影ゾーンのときは、クイック設定で一部のクリエイティブフィルターを設定することができます(p.266)。

各クリエイティブフィルターの特徴について

● **ラフモノクロ**

ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

● **ソフトフォーカス**

やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

● **魚眼風**

魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。

なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。AFフレームは、中央1点固定になります。

● **トイカメラ風**

トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

● **ジオラマ風**

ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。

ライブビュー撮影時は、はっきり見せたい部分を変えることができます。手順5で〈🔍〉ボタンを押す（または画面右下の［⊞］をタッチする）と、白枠の縦／横を切り換えることができます。白枠の中央にピントが合います。

ファインダー撮影時は、ファインダー内の中央に表示されたAFフレームを写したいものに合わせ撮影します。

● **水彩風**

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

● **HDR絵画調標準**

白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

● **HDRグラフィック調**

［**HDR絵画調標準**］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

〈HDR〉〈HDR〉〈HDR〉〈HDR〉は、明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。**1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、1枚の画像を作成します。**105ページの注意事項を参照してください。

● HDR油彩調

最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● HDRビンテージ調

鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

〈HDR〉HDR絵画調標準 〈HDR〉HDRグラフィック調 〈HDR〉HDR油彩調 〈HDR〉HDRビンテージ調の注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- ライブビュー映像で表示されるフィルター効果の仕上がりイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルには「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ストロボ撮影はできません。なお、暗い場所ではAF補助光が光ることがあります（p.119）。

Q クイック設定について

かんたん撮影ゾーンで、撮影機能の設定状態が表示されているときに、〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定状態になり、次ページの表に示した機能を設定することができます。

1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする

例：ポートレートモード



2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。



3 機能を設定する

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.75）が画面に表示されます。
- 〈〉または〈〉で設定を変更します。
- 機能を選び〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

かんたん撮影ゾーンで設定できる機能

●：初期設定*1　○：選択可能　□：選択不可

項目						SCN				
ドライブモード (p.138)	□：1枚撮影	●	●	●	●	○	●	●	●
	□H：高速連続撮影	○	○	○	○	●	○	○	○
	□：低速連続撮影	○	○	○	○	○	○	○	○
	□S：ソフト1枚撮影*2	○	○	○	○	○	○	○	○
	□S：ソフト連続撮影*2	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー (p.140)	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボの発光	ϟA：自動発光	●		●		●		●	
	ϟ：常時発光	○		○	○	○			○
	⊘：発光禁止	○	●	○	●	○	●		●
雰囲気を選んで撮影（p.108）				○	○	○	○	○	○
明かりや状況にあわせて撮影（p.112）						○			
背景ぼかし設定（p.86）				○					
色あい（p.89、91）					○		○		

項目			SCN							
									*3	*4
ドライブモード (p.138)	□：1枚撮影	●	○	●	●	○	●	●	●
	□H：高速連続撮影	○	○	○	○	●			○
	□：低速連続撮影	○	●	○	○	○			○
	□S：ソフト1枚撮影*2	○	○	○	○	○	○	○	○
	□S：ソフト連続撮影*2	○	○	○	○	○			○
	セルフタイマー (p.140)	○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボの発光	ϟA：自動発光		●		●		○	●	
	ϟ：常時発光		○		○		○	○	
	⊘：発光禁止	●	○	●	○	●	●	○	●
雰囲気を選んで撮影（p.108）			○	○	○	○			
明かりや状況にあわせて撮影（p.112）			○	○	○	○			
効果の調整（p.101）								○	

*1：撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（セルフタイマーの設定を除く）。
*2：ファインダー撮影時のみ設定できます。
*3：
*4：HDR HDR HDR HDR

雰囲気を選んで撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈A+〉〈⚡〉〈SCN：🎨〉〈◎〉を除く撮影モードでは、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。

雰囲気	CA	SCN		雰囲気の効果
		🍴/🎨	🎨/🎨/🎨/🎨/🎨/🎨/🎨	
STD 標準設定	○	○	○	設定なし
V くっきり鮮やかに	○		○	弱め／標準／強め
S ふんわりやわらかく	○		○	弱め／標準／強め
W 暖かくやさしく	○		○	弱め／標準／強め
I しっとり深みのある	○		○	弱め／標準／強め
C ほの暗くひっそりと	○		○	弱め／標準／強め
B 明るく	○	○	○	少し／もう少し／さらに
D 暗く	○	○	○	少し／もう少し／さらに
M モノクロ	○	○	○	青／白黒／セピア

1 モードダイヤルを〈CA〉または〈SCN〉のいずれかにする

- 〈SCN〉のときは、〈🎨〉以外に設定します。

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする





3 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します（〈🎨〉を除く）。

4 クイック設定で雰囲気を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲〉〈▼〉を押して、［STD **標準設定**］を選び、画面に［**雰囲気を選んで撮影**］が表示された状態にします。
- 〈◄〉〈►〉を押して雰囲気を選びます。
- ➡ 選んだ雰囲気の仕上がりイメージが表示されます。



5 雰囲気の効果を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、画面の下側に［**雰囲気の効果**］が表示された状態にします。
- 〈◄〉〈►〉を押して、効果の度合い・内容を選びます。

6 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈START/STOP〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、［**標準設定**］に戻ります。

- ライブビュー映像で表示される雰囲気の仕上がりイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- ストロボ撮影のときは、雰囲気の効果が小さくなることがあります。
- 明るい屋外で見るライブビュー映像は、実際に撮影される明るさや雰囲気と異なることがあります。［**液晶の明るさ**］で液晶モニターの明るさを目盛4の位置にして、周りの光の影響を受けないようにして映像を見てください。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押して、［**雰囲気を選んで撮影**］と［**雰囲気の効果**］を設定します。

各雰囲気の画像特性について

STD 標準設定

各撮影モードの標準的な画像特性です。なお、〈👤〉は人物撮影、〈🏔〉は風景撮影に適した画像特性になります。各雰囲気は、それぞれの撮影モードの標準設定をベースに画像特性が変わります。

V くっきり鮮やかに

被写体をくっきりさせる印象的な特性で、くっきり鮮やかな雰囲気の写真になります。[STD **標準設定**]よりも印象的な写真にしたいときに効果的です。

S ふんわりやわらかく

被写体の強調感を抑えた特性で、ふんわりやわらかな雰囲気の写真になります。人物やペット、花などを撮影するときに効果的です。

W 暖かくやさしく

被写体の強調感を抑えた暖色系の特性で、暖かみのある、やさしい雰囲気の写真になります。人物やペットなどを暖かみのある雰囲気で撮影するときに効果的です。

I しっとり深みのある

全体的な明るさを少し抑えながら被写体を強調した特性で、しっとり深みのある雰囲気の写真になります。人や生き物を存在感ある雰囲気で撮影するときに効果的です。

C ほの暗くひっそりと

全体的な明るさを少し抑えた寒色系の特性で、ほの暗くひっそりとした雰囲気の写真になります。影の中にある被写体を、静かで印象的な雰囲気で撮影したいときに効果的です。

B 明るく

明るめの写真になります。

D 暗く

暗めの写真になります。

M モノクロ

モノクロ写真になります。モノクロの色は、青、白黒、セピアの3色から選択することができます。なお、[**モノクロ**]選択時は、ファインダー内に〈❶〉が表示されます。

明かりや状況にあわせて撮影する

かんたん撮影ゾーンの〈**SCN**：〉では、明かりや状況にあわせた設定で撮影することができます。通常は［**標準設定**］で十分ですが、明かりや状況にあわせた設定にすることで、見た目の印象（記憶した色）に近い写真にできることがあります。

ライブビュー撮影時に、［**雰囲気を選んで撮影**］（p.108）と組み合わせるときは、［**明かりや状況にあわせて撮影**］を先に設定しておくと、液晶モニターで仕上がりのイメージが確認しやすくなります。

明かりや状況	SCN				
標準設定	○	○	○	○	○
日なた	○	○	○	○	○
日かげ	○	○	○	○	○
くもり	○	○	○	○	○
電球	○	○		○	○
蛍光灯	○	○		○	○
夕焼け	○	○	○	○	○

1 **モードダイヤルを〈SCN〉にする**

● 〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉のいずれかに設定します。

2 **ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にする**



3 **ライブビュー映像を表示する**

● 〈START/STOP〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。



4 クイック設定で明かりや状況を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲〉〈▼〉を押して、［STD **標準設定**］を選び、画面に［**明かりや状況にあわせて撮影**］が表示された状態にします。
- 〈◄〉〈►〉を押して、明かりや状況を選びます。

➡ 選んだ明かりや状況の仕上がりイメージが表示されます。

5 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈START/STOP〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、［STD **標準設定**］に戻ります。

- ストロボ撮影のときは、［STD **標準設定**］に切り換わります（ただし、撮影情報は設定した明かりや状況が表示されます）。
- ［**雰囲気を選んで撮影**］と組み合わせるときは、設定した雰囲気の効果が活かせる適切な「明かりや状況」を設定してください。特に［**夕焼け**］は、暖かみのある色あいになるため、設定した雰囲気の効果が活かせないことがあります。

設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押して、［**明かりや状況にあわせて撮影**］を設定します。

各設定の効果について

STD 標準設定

標準的な設定です。

日なた

日なたにある被写体を撮影するときに設定します。青空や緑をより自然に写したいときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

日かげ

日かげにある被写体を撮影するときに設定します。肌が青白く写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

くもり

くもり空の下で撮影するときに設定します。肌や風景の色が実際よりもくすんで写るときや、淡い花の色などを再現したいときに効果的です。

電球

白熱電球下で撮影するときに設定します。白熱電球の赤色を抑えたいときに効果的です。

蛍光灯

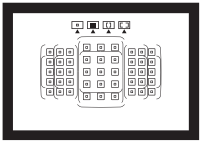
蛍光灯下で撮影するときに設定します。蛍光灯の種類に関係なく対応しています。

夕焼け

夕焼けの印象的な色を残して撮影したいときに設定します。

3

AF／ドライブの設定



ファインダー内に配置されたAFフレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

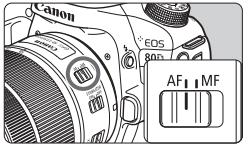
また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）限定の機能であることを示しています。
- かんたん撮影ゾーンでは、AF動作、AFフレーム（測距エリア選択モード）が自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

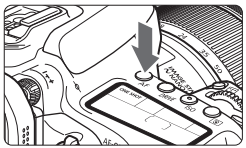
AF: AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。

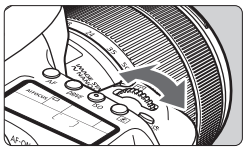


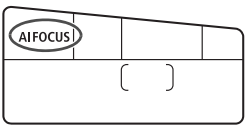
1 **レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする**

2 **モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする**



3 **〈AF〉ボタンを押す**（⏱6）





4 **AF動作を選ぶ**

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉または〈◎〉を回します。

  ONE SHOT：ワンショットAF
  AI FOCUS：AIフォーカスAF
  AI SERVO：AIサーボAF

応用撮影ゾーンのときは、〈AF-ON〉ボタンでAFを行うこともできます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF



止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- ピントが合わないときは、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』（p.136）を参照して再度ピント合わせを行ってください。
- ［**📷1：電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。
- ワンショットAFでピントを合わせたあと、ピントを固定したまま構図を変えて撮影する方法を「フォーカスロック撮影」といいます。エリアAFフレームに入らない、画面の端に被写体があるときなどに有効です。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、ピントを合わせたあと、シャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを回すと、手動でピント合わせができます。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 測距エリア選択モード（p.120）が、45点自動選択AFのときは、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

AIサーボAFのときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。また、ファインダー内の合焦マーク〈●〉も点灯しません。

AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へと作動特性が自動的に切り換わります。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AIフォーカスAFのサーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴り続けます。ただし、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

AFフレームの赤色照明について

初期状態では、暗い場所でピントが合ったときにAFフレームが赤く照明されます。なお、応用撮影ゾーンでは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます（p.424）。

内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- 〈⚡〉〈SCN：〉モードのときや、〈A+〉〈CA〉〈SCN：〉〈：〉モードで［**内蔵ストロボの発光**］を〈⚡〉に設定したときは、内蔵ストロボによるAF補助光は投光されません。
- AF動作がAIサーボAFのときは、AF補助光は投光されません。
- 内蔵ストロボが連続して発光するときに音がしますが、故障ではありません。

- 内蔵ストロボによるAF補助光でピントが合う範囲の目安は4m以内です。
- 応用撮影ゾーンのときは、〈⚡〉ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。なお、［**C.Fn II-6：AF補助光の投光**］の設定によっては、投光されません（p.419）。

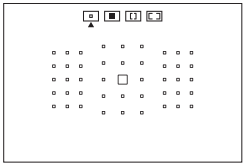
測距エリアとAFフレームを選択する 応用

このカメラは自動ピント合わせを行うためのAFフレーム（測距点）を45点備えています。撮影シーンや被写体に応じて、測距エリア選択モードとAFフレームを選ぶことができます。

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは128ページの『使用レンズとAF測距について』を参照してください。

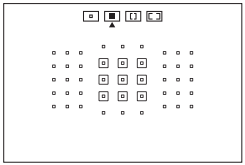
測距エリア選択モード

測距エリア選択モードを4種類の中から選ぶことができます。選択方法は、次ページを参照してください。



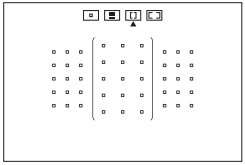
[▫]：1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。



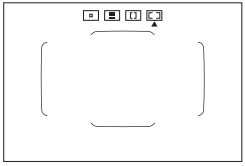
[▦]：ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



[▯]：ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

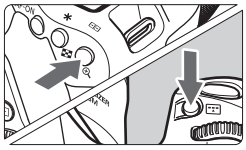
AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



[⛶]：45点自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。

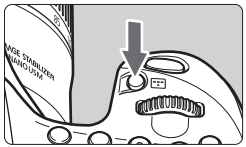
測距エリア選択モードを選ぶ



1 〈 〉または〈 〉ボタンを押す

（6）

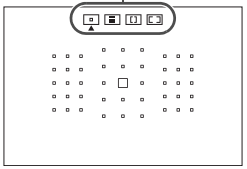
- ファインダーをのぞきながら、〈 〉または〈 〉ボタンを押します。



2 〈 〉ボタンを押す

- 〈 〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。
- ファインダー内の上側で、測距エリア選択モードを確認することができます。

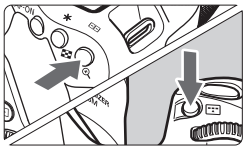
測距エリア選択モード



- ［C.Fn II-8：**測距エリア選択モードの限定**］で、使用する測距エリア選択モードだけに限定することができます（p.420）。
- ［C.Fn II-9：**測距エリア選択モードの切換**］を［1：**→メイン電子ダイヤル**］に設定すると、〈 〉または〈 〉ボタンを押したあと〈 〉で測距エリア選択モードを選ぶことができます（p.420）。

AFフレームを任意選択する

AFフレーム、またはゾーンを任意選択することができます。

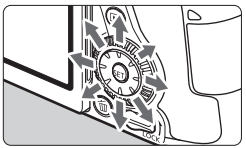


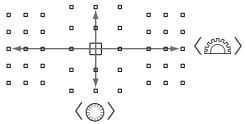
1 〈⊞〉または〈⊞〉ボタンを押す

（⏱6）

➡ ファインダー内に AF フレームが表示されます。

● ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、選択されているゾーンが表示されます。





2 AFフレームを選択する

● 〈⊕〉を操作すると、押した方向のAFフレームが選択されます。〈SET〉を押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。

● 〈⊕〉で横方向、〈◎〉で縦方向の AFフレームを選択することもできます。

● ゾーンAFのときは、〈⊕〉または〈◎〉を回すと、ゾーンが循環して切り換わります。

● 〈Q〉ボタンを押しながら〈⊕〉を回すと、縦方向のAFフレームを選択することができます。

● ［C.Fn II-11：〔◯〕時のAIサーボAF開始測距点］を［1：〔◯〕時に選択した開始測距点］に設定したときは（p.422）、この方法でAIサーボAFの開始位置を任意選択することができます。

● 〈⊞〉または〈⊞〉ボタンを押したときに、表示パネルに表示される内容は、次のとおりです。

・ゾーンAF、ラージゾーンAF、45点自動選択AF：**[⁚⁚] AF**

・1点AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL AF**（中央以外）

AFフレームの点灯／点滅について

〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。詳しくは127～131ページを参照してください。

測距エリア選択モードの内容

□ 1点AF（任意選択）



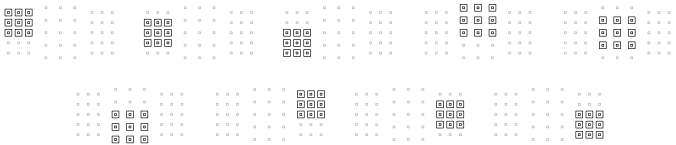
ピント合わせを行うAFフレームを1点〈□〉選択します。

⁘ ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。



〔 〕ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。ゾーンAFよりも範囲が広く、選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。



〔 〕45点自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。**かんたん撮影ゾーンでは、このモードに自動設定されます**（〈**SCN**：〉、〈：〉を除く）。

ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。



ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。複数のAFフレームが表示されるときは、そのすべてにピントが合っています。基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。



AIサーボAFのときは、［**C.Fn II-11：〔 〕時のAIサーボAF開始測距点**］（p.422）で、AIサーボAFを開始する位置を設定することができます。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

- 45点自動選択AF、またはラージゾーンAF、ゾーンAFで、AIサーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム〈□〉が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角レンズを使用しているときは、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央寄りのAFフレームを選択してください。
- AFフレーム照明時に、ファインダー内の一部または全体が赤く見えることがありますが、これはAFフレーム表示装置の特性によるものです。
- 低温下では、AFフレーム表示装置の特性上、AFフレームの表示が見えにくくなることがあります。また、追従応答性が遅くなることがあります。

［**C.Fn II -10：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］で、測距エリア選択モード＋AFフレーム、またはAFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（p.421）。

色検知によるAF

初期設定では、色検知によるAFが行われます。
測距エリア選択モードが、ゾーンAFまたはラージゾーンAF、45点自動選択AFのときに、以下のようなピント合わせが行われます。

- **ワンショットAF時**
  測距エリアの中にいる、静止している人物にピントが合いやすくなります。
- **AIサーボAF時**
  測距エリアの中にいる、人物にピントが合いやすくなります。人物の肌色が検知できないときは、最も近距離にある被写体にピントが合います。一度ピントが合うと、初めにピント合わせをした部分の色にピントが合い続けるよう、測距点が自動選択されます。

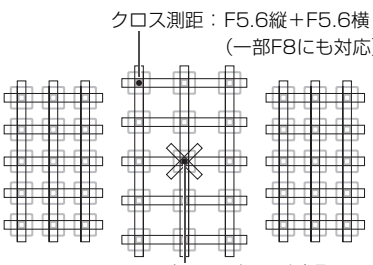
* [**C.Fnll-12 自動選択：色検知**] で色を検知してAFする／しないが設定できます。[**1：しない**] に設定したときは、AF情報だけでピント合わせが行われます（p.422）。

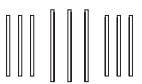
AFセンサーについて

このカメラのAFセンサーは、測距点を45点備えています。各測距点に対する測距センサーのパターンは、図に示すとおりです。開放絞り数値がF2.8までの明るいレンズを使用すると、ファインダー中央の測距点で高精度なAF測距を行うことができます。

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは128ページの『使用レンズとAF測距について』を参照してください。

概念図



※	開放絞り数値がF2.8までのレンズに対応した、より高精度なピント合わせを行うことができる測距センサーです。斜め配列でクロスしているため、ピントが合いにくい被写体が少なくなっています。中央測距点に配置されています。
	開放絞り数値がF5.6（一部F8）までのレンズに対応した測距センサーです。横配列になっているため、縦線を検出することができます。45点すべての測距点をカバーしています。
	開放絞り数値がF5.6（一部F8）までのレンズに対応した測距センサーです。縦配列になっているため、横線を検出することができます。45点すべての測距点をカバーしています。

使用レンズとAF測距について

- このカメラは45点のAFフレーム（測距点）を備えていますが、**使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や測距パターンが異なり、A〜Hの8グループに分類されます。**
- **E〜Hグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります。**
- **<u>レンズのグループ属性を132〜135ページに記載しています</u>。使用するレンズのグループ属性を確認してください。**
- アスペクト比（p.146）の設定により、測距点数が変動します。

- 〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したときに、「□」で示した位置のAFフレームが点滅します（「■/■」は点灯）。AFフレームの点灯／点滅については、123ページを参照してください。
- 「レンズのグループ属性」の最新情報は、キヤノンのホームページなどで確認してください。
- 国や地域によって販売されているレンズは異なります。

Aグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：デュアルクロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、他の測距点よりも高精度なピント合わせを行うことができます。

■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

Bグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。

Cグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Dグループ

45点でAF測距を行うことができます。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。

Eグループ

35点でAF測距を行うことができます（45点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、45点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

Fグループ

35点でAF測距を行うことができます（45点測距はできません）。すべての測距エリア選択モードを選ぶことができます。なお、自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、45点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：縦線（上/下の横方向の測距点）、または横線（左/右の縦方向の測距点）を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

Gグループ

27点でAF測距を行うことができます（45点測距はできません）。測距エリア選択モードのラージゾーンAF（ゾーン任意選択）は選べません。自動選択AF時のAF領域を表す外側の枠（エリアAFフレーム）は、45点自動選択AF時と異なります。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：横線を検出できる測距点です。
□：使用できません（非表示）。

Hグループ

中央測距点でのみAF測距を行うことができます。



■：クロス測距点です。被写体捕捉能力に優れ、高精度なピント合わせを行うことができます。
□：使用できません（非表示）。

- 開放絞り数値がF5.6よりも暗い（F5.6超～F8までの）ときは、コントラストの低い被写体や低輝度な被写体を撮影するときに、AFでピントが合わないことがあります。
- 開放絞り数値がF8よりも暗い（F8超の）ときは、ファインダー撮影時にAFを行うことはできません。

レンズのグループ属性

EF-S24mm F2.8 STM	A
EF-S60mm F2.8 Macro USM	B
EF-S10-18mm F4.5-5.6 IS STM	D
EF-S10-22mm F3.5-4.5 USM	B
EF-S15-85mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF-S17-55mm F2.8 IS USM	A
EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM	B
EF-S18-55mm F3.5-5.6	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 USM	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 II	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USM	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 III	B
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS	C
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II	B
EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM	B
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS	B
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS STM	B
EF-S18-200mm F3.5-5.6 IS	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS II	B
EF-S55-250mm F4-5.6 IS STM	B
EF14mm F2.8L USM	A
EF14mm F2.8L II USM	A
EF15mm F2.8 Fisheye	A
EF20mm F2.8 USM	A
EF24mm F1.4L USM	A
EF24mm F1.4L II USM	A
EF24mm F2.8	A
EF24mm F2.8 IS USM	A
EF28mm F1.8 USM	A
EF28mm F2.8	A
EF28mm F2.8 IS USM	A
EF35mm F1.4L USM	A
EF35mm F1.4L II USM	A
EF35mm F2	A
EF35mm F2 IS USM	A
EF40mm F2.8 STM	A
EF50mm F1.0L USM	A
EF50mm F1.2L USM	A
EF50mm F1.4 USM	A
EF50mm F1.8	A
EF50mm F1.8 II	A
EF50mm F1.8 STM	A
EF50mm F2.5 Compact Macro	B
EF50mm F2.5 Compact Macro + LIFE SIZE Converter	B
EF85mm F1.2L USM	A
EF85mm F1.2L II USM	A
EF85mm F1.8 USM	A
EF100mm F2 USM	A
EF100mm F2.8 Macro	B
EF100mm F2.8 Macro USM	E
EF100mm F2.8L Macro IS USM	B
EF135mm F2L USM	A
EF135mm F2L USM + Extender EF1.4x I/II/III	A
EF135mm F2L USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF135mm F2.8 (Softfocus)	A
EF180mm F3.5L Macro USM	B
EF180mm F3.5L Macro USM + Extender EF1.4x I/II/III	F
EF200mm F1.8L USM	A
EF200mm F1.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	A※
EF200mm F1.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※
EF200mm F2L IS USM	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	A
EF200mm F2L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF200mm F2.8L USM	A
EF200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF200mm F2.8L II USM	A

EF200mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF200mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF300mm F2.8L USM	A
EF300mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF300mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※
EF300mm F2.8L IS USM	A
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF300mm F2.8L IS II USM	A
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF300mm F4L USM	B
EF300mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F4L USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF300mm F4L IS USM	B
EF300mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF300mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF400mm F2.8L USM	A
EF400mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L II USM	A
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L II USM + Extender EF2x I/II/III	B※
EF400mm F2.8L IS USM	A
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS II USM	A
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF400mm F4 DO IS USM	B
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F4 DO IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF400mm F4 DO IS II USM	B
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF400mm F4 DO IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF400mm F5.6L USM	B
EF400mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF500mm F4L IS USM	B
EF500mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF500mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF500mm F4L IS II USM	B
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF500mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF500mm F4.5L USM	B
EF500mm F4.5L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)※
EF600mm F4L USM	B
EF600mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※
EF600mm F4L USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)※
EF600mm F4L IS USM	B
EF600mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF600mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF600mm F4L IS II USM	B
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF600mm F4L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF800mm F5.6L IS USM	E

EF800mm F5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF1200mm F5.6L USM	E
EF1200mm F5.6L USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)※
EF8-15mm F4L Fisheye USM	B
EF11-24mm F4L USM	C
EF16-35mm F2.8L USM	A
EF16-35mm F2.8L II USM	A
EF16-35mm F2.8L III USM	A
EF16-35mm F4L IS USM	B
EF17-35mm F2.8L USM	A
EF17-40mm F4L USM	B
EF20-35mm F2.8L	A
EF20-35mm F3.5-4.5 USM	C
EF22-55mm F4-5.6 USM	F
EF24-70mm F2.8L USM	A
EF24-70mm F2.8L II USM	A
EF24-70mm F4L IS USM	B
EF24-85mm F3.5-4.5 USM	D
EF24-105mm F3.5-5.6 IS STM	B
EF24-105mm F4L IS USM	B
EF24-105mm F4L IS II USM	B
EF28-70mm F2.8L USM	A
EF28-70mm F3.5-4.5	E
EF28-70mm F3.5-4.5 II	E
EF28-80mm F2.8-4L USM	B
EF28-80mm F3.5-5.6	E
EF28-80mm F3.5-5.6 USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 II	E
EF28-80mm F3.5-5.6 II USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 III USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM	E
EF28-80mm F3.5-5.6 V USM	E
EF28-90mm F4-5.6	B
EF28-90mm F4-5.6 USM	B
EF28-90mm F4-5.6 II	B
EF28-90mm F4-5.6 II USM	B
EF28-90mm F4-5.6 III	B
EF28-105mm F3.5-4.5 USM	B
EF28-105mm F3.5-4.5 II USM	B
EF28-105mm F4-5.6	F
EF28-105mm F4-5.6 USM	F
EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM	B
EF28-200mm F3.5-5.6	B
EF28-200mm F3.5-5.6 USM	B
EF28-300mm F3.5-5.6L IS USM	B
EF35-70mm F3.5-4.5	E
EF35-70mm F3.5-4.5A	E
EF35-80mm F4-5.6	F
EF35-80mm F4-5.6 PZ	E
EF35-80mm F4-5.6 USM	F
EF35-80mm F4-5.6 II	E
EF35-80mm F4-5.6 III	F
EF35-105mm F3.5-4.5	B
EF35-105mm F4.5-5.6	H
EF35-105mm F4.5-5.6 USM	H
EF35-135mm F3.5-4.5	B
EF35-135mm F4-5.6 USM	C
EF35-350mm F3.5-5.6L USM	D
EF38-76mm F4.5-5.6	E
EF50-200mm F3.5-4.5	B
EF50-200mm F3.5-4.5L	B
EF55-200mm F4.5-5.6 USM	D
EF55-200mm F4.5-5.6 II USM	D
EF70-200mm F2.8L USM	A
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B※※
EF70-200mm F2.8L USM + Extender EF2x I/II/III	B※※
EF70-200mm F2.8L IS USM	A
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS II USM	A
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F2.8L IS II USM + Extender EF2x I/II/III	B
EF70-200mm F4L USM	B
EF70-200mm F4L USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F4L USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)

EF70-200mm F4L IS USM	B
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF70-200mm F4L IS USM + Extender EF2x I/II/III	H (F8)
EF70-210mm F3.5-4.5 USM	B
EF70-210mm F4	B
EF70-300mm F4-5.6 IS USM	B
EF70-300mm F4-5.6 IS II USM	B
EF70-300mm F4-5.6L IS USM	B
EF70-300mm F4.5-5.6 DO IS USM	B
EF75-300mm F4-5.6	B
EF75-300mm F4-5.6 USM	C
EF75-300mm F4-5.6 II	B
EF75-300mm F4-5.6 II USM	B
EF75-300mm F4-5.6 III	B
EF75-300mm F4-5.6 III USM	B
EF75-300mm F4-5.6 IS USM	B
EF80-200mm F2.8L	A
EF80-200mm F4.5-5.6	D
EF80-200mm F4.5-5.6 USM	E
EF80-200mm F4.5-5.6 II	E
EF90-300mm F4.5-5.6	D
EF90-300mm F4.5-5.6 USM	D
EF100-200mm F4.5A	B
EF100-300mm F4.5-5.6 USM	C
EF100-300mm F5.6	B
EF100-300mm F5.6L	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS USM + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM	B
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x I/II	H (F8)
EF100-400mm F4.5-5.6L IS II USM + Extender EF1.4x III	G (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF1.4x I/II/III	B
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x: 内蔵Ext.1.4x使用 + Extender EF1.4x I/II/III	H (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x I/II	H (F8)
EF200-400mm F4L IS USM Extender 1.4x + Extender EF2x III	G (F8)
TS-E17mm F4L	B
TS-E24mm F3.5L	B
TS-E24mm F3.5L II	B
TS-E45mm F2.8	A
TS-E90mm F2.8	A

- EF180mm F3.5L Macro USMにExtender EF2x（I/II/III型）を装着したときは、AFを行うことはできません。
- 表内に「※」が付いたレンズとエクステンダー EF1.4x III／EF2x IIIの組み合わせのときや、「※※」が付いたレンズとエクステンダーの組み合わせのときは、AFでピントが正確に合わないことがあります。そのときは、使用するレンズやエクステンダーの使用説明書を参照してください。

TS-Eレンズ使用時は手動ピント合わせになります。グループ分類はティルト/シフトなしの条件です。

AFの苦手な被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体がAFフレームの近くにある場合
  （例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などがAFフレームの近くにある場合
  （例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

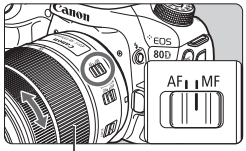
これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.81）。

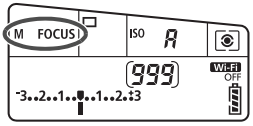
（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う（p.137）。

- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。
- ライブビュー撮影、動画撮影時に、AFでピントが合いにくい撮影条件については、284ページを参照してください。

MF: 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）



フォーカスリング



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

➡ 表示パネルに〈**M FOCUS**〉が表示されます。

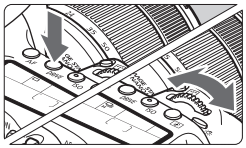
2 ピントを合わせる

● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

● シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ファインダー内にピントが合ったAFフレームと合焦マーク〈●〉が点灯します。
● 45点自動選択AF時は、中央のAFフレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

ドライブモードの選択

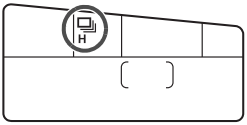
ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。



1 **〈DRIVE〉ボタンを押す**（⏱6）

2 **ドライブモードを選ぶ**

● 表示パネルを見ながら〈☆〉または〈◯〉を回します。



□ ：**1枚撮影**

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

□ᴴ：**高速連続撮影**（最高約7.0コマ／秒*）

シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続撮影します。

* ライブビュー撮影時、［**サーボAF**］設定時は最高約5.0コマ／秒になります。

□ ：**低速連続撮影**（最高約3.0コマ／秒）

シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続撮影します。

□ˢ：**ソフト1枚撮影**

ファインダー撮影時に作動音を抑えた1枚撮影を行うことができます。

□ˢ：**ソフト連続撮影**（最高約3.0コマ／秒）

ファインダー撮影時に作動音を抑えながら、連続撮影します。

⏱ ：**セルフタイマー：10秒/リモコン撮影**

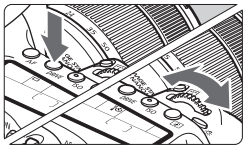
⏱₂：**セルフタイマー：2秒/リモコン撮影**

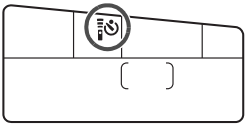
セルフタイマー撮影については140ページ、リモコン撮影については221ページを参照してください。

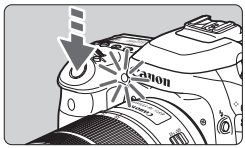
- **H**：最高約7.0コマ/秒は、シャッター速度：1/500秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）、フリッカー低減処理：行わない、フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、常温（+23℃）の条件*で連続撮影したときの最高速度です。連続撮影速度は、シャッター速度や絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、温度、電源の種類、電池残量などにより低下することがあります。
  * EF300mm F4L IS USM、EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF75-300mm F4-5.6 IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS USMは、ワンショットAF、手ブレ補正機能OFFで使用時
- 〈**S**〉〈**S**〉設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりもわずかに長くなります。
- ライブビュー撮影時は、〈**S**〉〈**S**〉は設定できません。
- 電池残量が少ないときや、暗い場所で撮影を行ったときは、連続撮影速度が低下することがあります。
- AIサーボAF時は、被写体条件や使用レンズによって連続撮影速度が若干低下することがあります。
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）に単3形電池を使用したときは、高速連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- [**4：フリッカーレス撮影**]を[**する**]に設定して（p.179）、フリッカー光源下で撮影を行うと、連続撮影速度がやや遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（p.145）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。







1 〈DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）

2 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈⚙〉または〈◎〉を回して選びます。

⏱：約10秒後に撮影
⏱2：約2秒後に撮影

3 撮影する

- ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.220）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

- 〈⏱2〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）に使用します。
- セルフタイマー撮影した画像はその場で再生し、ピントや露出を確認することをおすすめします（p.346）。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.81）。
- セルフタイマー撮影を開始してから途中で中止するときは、液晶モニターをタッチするか、〈DRIVE〉ボタンを押します。

4

画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、ノイズ低減機能、レンズ光学補正、フリッカー低減撮影など、画像に関係する機能設定について説明しています。

- かんたん撮影ゾーンでは、この章の中の、記録画質の設定、フォルダの作成と選択、画像番号の付け方の設定のみ、行うことができます。
- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）限定の機能であることを示しています。

MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEGの記録画質は、◢L、◢L、◢M、◢M、◢S1、◢S1、S2、S3の8種類です。RAWの記録画質は、RAW、M RAW、S RAWの3種類です（p.144）。



1 ［記録画質］を選ぶ

● ［1］タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。



2 記録画質を設定する

● RAWの記録画質は〈〉を回して、JPEGの記録画質は〈◄〉〈►〉を押して選びます。

● 画面の数字「***M（百万画素）****×****」は記録画素数、［***］は撮影可能枚数（999まで表示）を示しています。

● 〈SET〉を押すと設定されます。

記録画質の設定例

◢Lのみ



RAWのみ



RAW＋◢L



S RAW＋◢M



記録画質の設定画面に表示される画像サイズ［**** x ****］と撮影可能枚数［***］は、［4：アスペクト比］の設定（p.146）に関係なく、常に［3：2］設定時の値が表示されます。

RAWとJPEGの設定を両方［–］にしたときは、◢Lに設定されます。

記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質		記録画素数	印刷サイズ	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
JPEG	◢L	24M	A2	7.6	940	77（110）
	◢L			3.9	1800	120（120）
	◢M	11M	A3	4.1	1730	140（140）
	◢M			2.0	3430	140（140）
	◢S1	5.9M	A4	2.6	2700	140（140）
	◢S1			1.3	5260	150（150）
	S2*1	2.5M	L判	1.3	5260	150（150）
	S3*2	0.3M	—	0.3	20180	150（150）
RAW	RAW	24M	A2	28.9	240	20（25）
	M RAW	14M	A3	22.8	300	21（26）
	S RAW	6.0M	A4	15.9	440	27（28）
RAW + JPEG	RAW ◢L	24M 24M	A2 A2	28.9+7.6	190	20（22）
	M RAW ◢L	14M 24M	A3 A2	22.8+7.6	220	20（22）
	S RAW ◢L	6.0M 24M	A4 A2	15.9+7.6	300	22（22）

*1：**S2**は、市販のデジタルフォトフレームでの再生にも適しています。

*2：**S3**は、電子メールで画像を送るときや、ホームページでの使用などに適しています。

- **S2**、**S3**は、どちらも◢（ファイン）の画質です。
- ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、〈□H〉高速連続撮影時の数値です。なお、（ ）内の数値は、当社試験基準 UHS-I対応、16GBカード使用時の枚数です。

UHS-I対応のカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、表の( )内に示した枚数の連続撮影ができます。

- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で、設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は、同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR2）で記録されます。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、M RAW（ミドルロウ）、S RAW（スモールロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAWについて

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、M RAW、S RAWから選ぶことができます。

RAWで撮影した画像は、［▶1：RAW現像］（p.390）で現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます（M RAW、S RAWはカメラで現像処理できません）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.514）で現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像、TIFF画像などを生成することができます。

RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、EOS DIGITAL Solution DiskからDPPをアップデート（上書きインストール）してください（p.515）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



ファインダー内、または撮影機能の設定状態の画面の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安が確認できます。

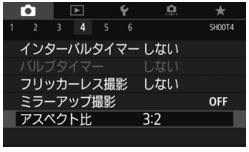
「99」と表示されているときは、連続して99枚以上撮影できることを示しています。

連続撮影可能枚数は、カードが入っていないときにも表示されますので、カードが入っていることを確認してから撮影してください。

連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、表示されている数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると、数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、143ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

MENU 画像のアスペクト比を変える 応用

画像のアスペクト（縦横）比を変えることができます。初期状態では、[3:2] に設定されています。[4:3] [16:9] [1:1] に設定すると、ファインダー内に撮影範囲を示す線が表示されます。ライブビュー撮影時は、液晶モニターに撮影範囲外が黒くマスクされた映像が表示されます。



1 アスペクト比を選ぶ

● [📷4] タブの [アスペクト比] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 アスペクト比を設定する

● アスペクト比を選び、〈(SET)〉を押します。

● **JPEG画像**

設定したアスペクト比で保存されます。

● **RAW画像**

常に [3:2] のアスペクト比で保存されます。RAW画像には、設定したアスペクト比情報が付加され、EOS 用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。なお、[4:3] [16:9] [1:1] では、再生時にアスペクト比を示した線が表示されますが、この線は撮影画像には記録されません。

多重露出撮影時は［📷4：アスペクト比］の設定は機能しません。

各記録画質のアスペクト比と記録画素数は、下表のようになります。

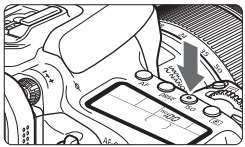
記録画質	アスペクト比と記録画素数（約）			
	3：2	4：3	16：9	1：1
L	6000×4000（2400万）	5328×4000*（2130万）	6000×3368*（2020万）	4000×4000（1600万）
M	3984×2656（1060万）	3552×2664（950万）	3984×2240*（890万）	2656×2656（710万）
S1	2976×1984（590万）	2656×1992（530万）	2976×1680*（500万）	1984×1984（390万）
S2	1920×1280（250万）	1696×1280*（220万）	1920×1080（210万）	1280×1280（160万）
S3	720×480（35万）	640×480（31万）	720×408*（29万）	480×480（23万）

- 「*」印の付いた記録画質は、正確なアスペクト比になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲とわずかに異なることがあります。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- アスペクト比1：1で撮影した画像を、他のカメラでダイレクトプリントすると、正常に印刷されないことがあります。

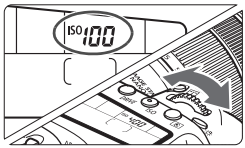
ISO: 静止画のISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます（p.150）。

なお、動画撮影時のISO感度については、296、299ページを参照してください。



1 〈ISO〉ボタンを押す（⏱6）





2 ISO感度を設定する

- 表示パネルまたはファインダー内を見ながら〈☁〉または〈◎〉を回します。
- ISO100～16000の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- 「**A**」は「ISO オート」を表しています。ISO感度が自動設定されます（p.150）。
- 左図の画面が表示されているときは、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、「**AUTO**」に設定することができます。

ISO感度を選ぶときの目安

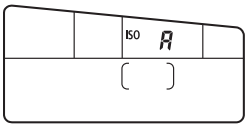
ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～16000、H	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

- 「**H**」（ISO25600 相当）は拡張 ISO 感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- ［**3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定すると、ISO100/125/160、「**H**」（ISO25600相当）は選択できなくなります（p.174）。
- 高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや増すことがあります。さらに、長秒時露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。
- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

［**2：ISO 感度に関する設定**］の［**静止画撮影の範囲**］で、ISO 感度の設定範囲をISO25600相当（H）まで拡張することができます（p.151）。

ISOオートについて



ISO感度の設定が「**A**」（AUTO）のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が表示されます。ISO感度は、撮影モードに応じて下記のように自動設定されます。

撮影モード		ISO感度設定	
		ストロボなし	ストロボあり
A+ CA		ISO100～6400	ISO400*1*2（A+, CA, 〈SCN：〉〈：〉を除く）
SCN		ISO100～6400	
SCN		ISO100～12800	
SCN		ISO100～1600	
P, **Tv**, **Av**, **M**		ISO100～16000*1	
バルブ撮影時		ISO400*1	

*1：［**オートの範囲**］の［**下限値**］［**上限値**］による（p.152）

*2：① 日中シンクロで露出オーバーになる場合は、最低ISO100となる

② 〈**SCN**：〉および〈**P**〉モードで、外部ストロボをバウンスしたときはISO400～1600の範囲で自動設定される

MENU ISO感度の手動設定範囲を設定する

手動で設定できるISO 感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はISO100～16000、上限値はISO200～H（ISO25600相当）の範囲で設定することができます。



1 [ISO感度に関する設定] を選ぶ

- [2] タブの [ISO 感度に関する設定] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [静止画撮影の範囲] を選ぶ



3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。



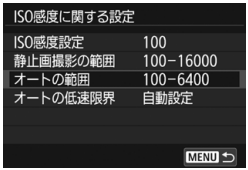
4 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

5 [OK] を選ぶ

MENU ISOオート時の自動設定範囲を設定する

ISOオート時に自動設定される感度を、ISO100～16000の範囲で設定することができます。下限値はISO100 ～ 12800 の範囲、上限値はISO200～16000の範囲で、1段ステップで設定することができます。



1 **［オートの範囲］を選ぶ**



2 **下限値を設定する**

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。



3 **上限値を設定する**

- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

4 **［OK］を選ぶ**

［**下限値**］［**上限値**］は、ISO感度でセイフティシフト（p.415）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

MENU ISOオート時のシャッター速度の低速限界を設定する

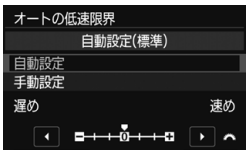
ISOオート設定時に、シャッター速度が自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。

この機能は〈**P**〉〈**Av**〉モードで、広角レンズを使用して動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。



1 ［オートの低速限界］を選ぶ

自動設定



手動設定



2 低速限界を設定する

- ［**自動設定**］または［**手動設定**］を選びます。
- ［**自動設定**］を選んだときは、〈〉を回して標準設定からの度合い（遅め／速め）を設定し、〈(SET)〉を押します。
- ［**手動設定**］を選んだときは、〈〉を回してシャッター速度を選び、〈(SET)〉を押します。

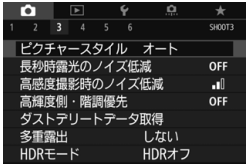
- ［**オートの範囲**］で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、［**オートの低速限界**］で設定した速度よりも遅いシャッター速度が設定されます。
- ストロボ撮影時、動画撮影時は機能しません。

［**自動設定：0**］設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、［**遅め**］から［**速め**］の1ステップは、シャッター速度1段分です。

ピクチャースタイルを選択する 応用 ■

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、[A]（オート）に自動設定されます（〈◎〉モード時は、[S]（スタンダード））。



1 [ピクチャースタイル] を選ぶ

● [3] タブの [**ピクチャースタイル**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 スタイルを選ぶ

● スタイルを選び〈(SET)〉を押します。

➡ スタイルが設定されます。

各スタイルの画像特性について

A オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

[**オート**] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

S スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

P ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

157ページの [**色あい**] を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ディテール重視

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

JPEG画質で撮影した画像を、カラー写真に戻すことはできません。[**モノクロ**] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないように注意してください。

[**モノクロ**] 設定時に、ファインダー内に〈⚠〉を表示することができます（p.425）。

ユーザー設定1～3

[**ポートレート**] や [**風景**]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.160）。登録されていないときは、[**オート**] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の記号は、[**シャープネス**]の[**強さ**][**細かさ**][**しきい値**]や、[**コントラスト**]などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。





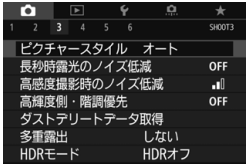
記号の意味

	シャープネス	
		強さ
		細かさ
		しきい値
	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果（モノクロ）	
	調色（モノクロ）	

動画撮影時、[**シャープネス**]の[**細かさ**][**しきい値**]は、「*, *」と表示されます。また、[**細かさ**][**しきい値**]は動画には反映されません。

ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（[**シャープネス**]の［**強さ**］［**細かさ**］［**しきい値**］、［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。［**モノクロ**］の調整については、159ページを参照してください。



1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

● ［3］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 スタイルを選ぶ

● スタイルを選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

● ［**シャープネス**］の［**強さ**］などの項目を選び、〈(SET)〉を押します。

● 設定内容と効果については、158 ページを参照してください。



4 内容を設定する

● 効果の度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。



● 〈**MENU**〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。

➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果について

	シャープネス		
	強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
	細かさ*1	1：細かい	5：粗い
	しきい値*2	1：小さい	5：大きい
	コントラスト	-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ	-4：薄い	+4：濃い
	色あい	-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

*1：強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

*2：「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

● 動画撮影時は［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］の設定はできません（項目が表示されません）。

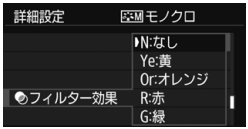
● 手順３で［**初期設定**］を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。

● 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

モノクロの調整

前ページで説明した［**シャープネス**］の［**強さ**］［**細かさ**］［**しきい値**］と［**コントラスト**］の他に、［**フィルター効果**］［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果



フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye: 黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or: オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

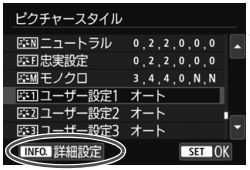
［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

ピクチャースタイルを登録する 応用

［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

また、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.514）からカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。



1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

● ［**3**］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈㊙〉を押します。

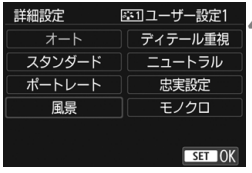
2 ［ユーザー設定］を選ぶ

● ［**ユーザー設定***］を選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。



3 〈㊙〉を押す

● ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈㊙〉を押します。



4 基本にするスタイルを選ぶ

● 基本にするスタイルを選び〈㊙〉を押します。

● EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。



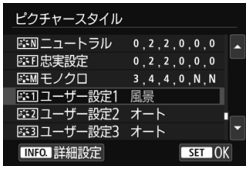
5 項目を選ぶ

● [**シャープネス**] の [**強さ**] などの項目を選び、〈(SET)〉を押します。



6 内容を設定する

● 効果の度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。
詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』(p.157) を参照してください。



● 〈**MENU**〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
➡ [**ユーザー設定***] の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
➡ [**ユーザー設定***] に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

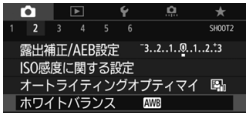
● [**ユーザー設定***] にスタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
● [**カメラ設定初期化**] (p.68) を行うと、[**ユーザー設定***] に設定した内容はすべて初期状態に戻ります。なお、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルは、設定した内容のみ初期化されます。

● 登録したスタイルで撮影するときは、登録した [**ユーザー設定***] を選択してから撮影します。
● ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

MENU ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、［AWB W］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンでは、［AWB］（雰囲気優先）に自動設定されます（〈🍴〉モード時は、［AWB W］（ホワイト優先））。



1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

● ［📷2］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ホワイトバランスを選ぶ

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

（約）

表示	モード	色温度（K：ケルビン）
AWB	オート（雰囲気優先／p.163）	3000～7000
AWB W	オート（ホワイト優先／p.163）	
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
▦	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ使用	自動設定*
	マニュアル（p.164）	2000～10000
K	色温度（p.166）	2500～10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

AWB オートホワイトバランスの設定

［AWB］（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。［AWB W］（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

なお、従来機種のEOSデジタルカメラのオートホワイトバランスに合わせたいときは、［AWB］（雰囲気優先）を選びます。

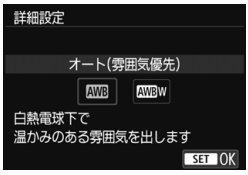
1 ［ホワイトバランス］を選ぶ

● ［📷2］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［AWB］を選ぶ

● ［AWB］を選び〈**INFO.**〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

● ［**オート（雰囲気優先）**］または［**オート（ホワイト優先）**］を選び、〈(SET)〉を押します。

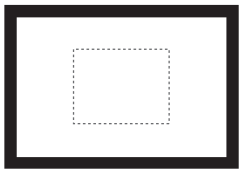
AWB ：オート（雰囲気優先）
AWB W：オート（ホワイト優先）

［AWB W］（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は［AWB］（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

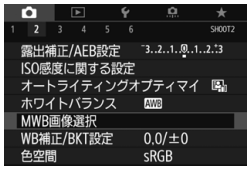
マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。



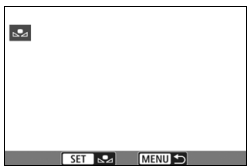
1 白い被写体を撮影する

- ファインダーをのぞき、図の点線の枠内全体に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。



2 ［MWB画像選択］を選ぶ

- ［2］タブの［MWB画像選択］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ MWB画像選択画面が表示されます。



3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈◎〉を回して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示されるメッセージ画面で［OK］を選ぶとデータが取り込まれます。



4 **［ホワイトバランス］を選ぶ**

● ［📷2］タブの［**ホワイトバランス**］を選び、〈(SET)〉を押します。

5 **マニュアルWBを選ぶ**

● ［🤳］を選び〈(SET)〉を押します。

● 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
● ピクチャースタイルを［**モノクロ**］に設定して撮影した画像、クリエイティブフィルターで撮影した画像、撮影後にクリエイティブフィルター処理した画像、多重露出画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、手順3で選択できません。

● 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。
● EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録するカスタムホワイトバランスは、［🤳］に登録されます。なお、手順3の操作を行うと、登録したカスタムホワイトバランスのデータは消去されます。

K 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。



1 [ホワイトバランス] を選ぶ

● [2] タブの [**ホワイトバランス**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 色温度を設定する

● [K] を選びます。
● 〈☆〉を回して色温度を設定し、〈(SET)〉を押します。
● 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

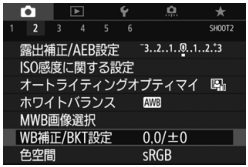
● 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄り）を行ってください。
● 市販のカラーメーターで測定した色温度数値を [K] に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

MENU ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

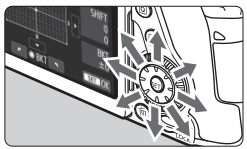
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

ホワイトバランス補正



1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

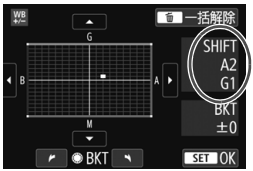
- [2] タブの [**WB補正/BKT設定**] を選び、〈SET〉を押します。



2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと [**WB補正/BKT設定**] の設定が一括解除されます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

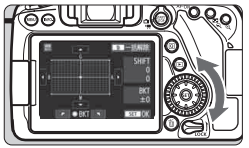
設定例：A2, G1



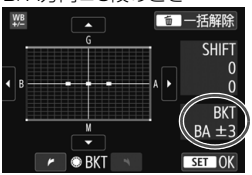
- WB補正時に、ファインダー内に〈⚠〉を表示することができます (p.425)。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能をホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。



B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◌〉を回すと、画面上の「■」が「■■■」（3点）に変わります。
  右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと［**WB補正/BKT設定**］の設定が一括解除されます。
- 〈(SET)〉を押すと設定が終了し、メニューに戻ります。

記録される順番について

①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または ①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。

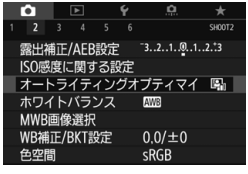
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケティング時の記録枚数を変更することができます（p.414）。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときやコントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では、[**標準**] に設定されています。JPEG画像は撮影時に補正されます。

かんたん撮影ゾーンでは、[**標準**] に自動設定されます。



1 [オートライティングオプティマイザ] を選ぶ

● [**2**] タブの [**オートライティングオプティマイザ**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 補正内容を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

3 撮影する

● 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

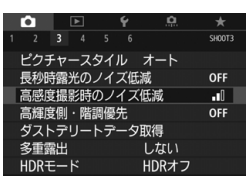
● 撮影条件により、ノイズが増えることがあります。
● [**しない**] 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、[**しない**] に設定してください。
● HDRモード (p.207)、高輝度側・階調優先 (p.174)、多重露出撮影 (p.212) 設定時は、オートライティングオプティマイザが自動的に [**しない**] になります。

手順2で〈**INFO.**〉ボタンを押して [**M, Bulb時はOFF**] の [✓] を外すと、〈**M**〉〈**B**〉モードでも [**オートライティングオプティマイザ**] が設定できるようになります。

MENU ノイズ低減機能の設定 応用

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。



1 [高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ

● [3] タブの [**高感度撮影時のノイズ低減**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 レベルを設定する

● 低減レベルを選び〈(SET)〉を押します。

● **NR：マルチショットノイズ低減機能**

[**強め**] よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

なお、記録画質がRAW、RAW+JPEGに設定されているときは、[**マルチショットノイズ低減機能**] は設定できません。

3 撮影する

● ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

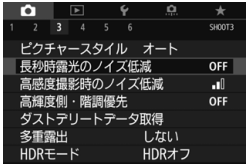
マルチショットノイズ低減機能設定時に、ファインダー内に〈!〉を表示することができます（p.425）。

マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- AEB撮影、WBブラケティング撮影はできません。
- [**3：長秒時露光のノイズ低減**]［**3：多重露出**］［**3：HDRモード**］、およびAEB撮影、WBブラケティング撮影が設定されているときは、［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- バルブ撮影時、動画撮影時は［**マルチショットノイズ低減機能**］は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。なお、AF補助光は、［**C.Fn II -6：AF補助光の投光**］の設定に応じて投光されます。
- 電源を切ったり、撮影モードをかんたん撮影ゾーンや〈**B**〉に変更したり、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に［**標準**］に切り換わります。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、ノイズを低減することができます。



1 ［長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ

● ［3］タブの［**長秒時露光のノイズ低減**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 低減内容を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

● **自動**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この設定で十分な効果が得られます。

● **する**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。［**自動**］で検出できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

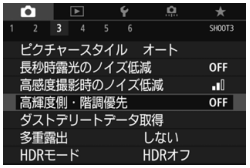
3 撮影する

● ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

- ［**自動**］［**する**］設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ISO1600以上の感度で撮影すると、［**しない**］［**自動**］設定時よりも［**する**］設定時の方が画像のザラつきが多くなることがあります。
- ［**する**］設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**BUSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

MENU 高輝度側・階調優先の設定 応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。



1 [高輝度側・階調優先] を選ぶ

● [3] タブの [**高輝度側・階調優先**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [する] を選ぶ

● 高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。

3 撮影する

● 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。

● [**する**] 設定時はノイズが若干増えることがあります。
● [**する**] 設定時は、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。

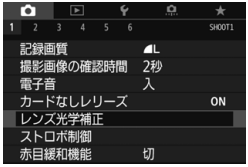
高輝度側・階調優先設定時は、ファインダー内と表示パネルに〈**D+**〉が表示されます。

MENU レンズの周辺光量と収差を補正する 応用

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」、レンズの特性によって起こる画像のゆがみを「歪曲収差」といいますが、これらの現象を補正することができます。初期状態では、周辺光量補正、色収差補正は［**する**］、歪曲収差補正は［**しない**］に設定されています。

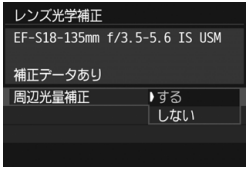
なお、［**補正データなし**］と表示されているときは、177ページの『レンズの補正データについて』を参照してください。

周辺光量補正



1 ［レンズ光学補正］を選ぶ

- ［**1**］タブの［**レンズ光学補正**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**周辺光量補正**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

3 撮影する

- 周辺光量が補正された画像が記録されます。

撮影条件により、画像の周辺部にノイズが発生することがあります。

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.514）で最大補正を行ったときよりもやや控えめに補正されます。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- かんたん撮影ゾーンでは、周辺光量補正、色収差補正は自動で補正されます。なお、歪曲収差補正は行われません。

色収差補正



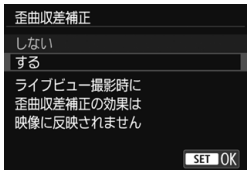
1 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**色収差補正**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 撮影する

- 色収差が補正された画像が記録されます。

歪曲収差補正



1 補正内容を設定する

- 装着レンズの［**補正データあり**］が表示されていることを確認します。
- ［**歪曲収差補正**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 撮影する

- 歪曲収差が補正された画像が記録されます。

- ゆがみの補正が行われるため、ファインダー撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の効果は、撮影した画像には反映されますが、撮影時に、ファインダー内表示やライブビュー映像では確認できません。
- [**歪曲収差補正**]を[**する**]に設定したときは、連続撮影可能枚数（p.145）が少なくなります。
- 動画撮影、HDR撮影、多重露出撮影時、マルチショットノイズ低減機能設定時は、歪曲収差補正は行われません。
- ライブビュー撮影時は、歪曲収差補正の設定により画角がわずかに変化します。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、AFフレーム表示用の情報（p.352）、ダストデリートデータ（p.405）は付加されません。

レンズの補正データについて

カメラにはあらかじめ、周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正を行うためのデータがレンズ約30本分登録されています。補正[**する**]を選んでおくと、補正データが登録されているレンズを装着したときに、自動的に周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正が行われます。

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用すると、登録されているレンズの種類が確認できます。また、未登録レンズの補正データをカメラに登録することもできます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

なお、補正データが内蔵されているレンズは、カメラに補正データを登録する必要はありません。

各補正共通注意事項

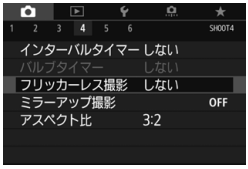
- 撮影したJPEG画像の周辺光量、色収差、歪曲収差を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、［**補正データあり**］と表示されていても、補正［**しない**］に設定することをおすすめします。
- ライブビュー撮影時に拡大表示を行ったとき、周辺光量補正の効果は映像に反映されません。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります。

各補正共通事項

- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後、画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正［**しない**］と同じ撮影結果になります。

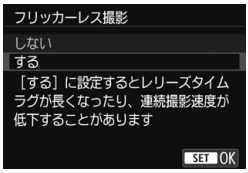
MENU フリッカーの影響を低減する 応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッター速度で撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。ファインダー撮影時に、この機能を利用すると、カメラが光源の点滅周期を検知し、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 ［フリッカーレス撮影］を選ぶ

● ［4］タブの［**フリッカーレス撮影**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［する］を選ぶ

3 撮影する

● フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

● ［**する**］設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
● ライブビュー撮影時、動画撮影時は機能しません。
● 〈**P**〉〈**Av**〉モードで連続撮影中にシャッター速度が変化したときや、同一シーンでシャッター速度を変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なる（ばらつく）ことがあります。色あいの変化が気になるときは、〈**Tv**〉〈**M**〉モードでシャッター速度を一定にして撮影してください。
● ［**フリッカーレス撮影**］を［**する**］に設定したときと、［**しない**］に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
● 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。

- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、ファインダー内の〈Flicker!〉が点灯しても、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 構図変更を行ったときは、〈Flicker!〉の表示が点いたり消えたりすることがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- ファインダー内に〈Flicker!〉が表示されないときは、[**2：ファインダー内表示**]の[**フリッカー検知**]を[**表示する**]にします（p.74）。フリッカーの影響が低減された状態で撮影が行われるときは、〈Flicker!〉が点灯します。なお、フリッカーが発生しない光源下や、フリッカーを検知できないときは、〈Flicker!〉は表示されません。
- [**フリッカー検知**]が[**表示する**]に設定されている状態で、[**フリッカーレス撮影**]を[**しない**]に設定し、フリッカー光源下で測光を行ったときは、ファインダー内の〈Flicker!〉が点滅して警告が行われます。[**する**]に設定して撮影することをおすすめします。
- かんたん撮影ゾーンでは、〈Flicker!〉は表示されませんが、フリッカーの影響が低減された状態で撮影されます。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

MENU 色空間を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを、色空間といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときは、sRGBをおすすめします。

かんたん撮影ゾーンでは、sRGBに自動設定されます。

1 **［色空間］を選ぶ**

● ［📷2］タブの［**色空間**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 **色空間を設定する**

● ［**sRGB**］または［**Adobe RGB**］を選び、〈(SET)〉を押します。

Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

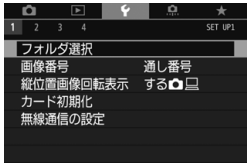
● 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
● ICC プロファイルは付加されません。ICC プロファイルについては、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

MENU フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

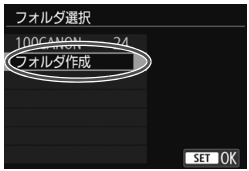
なお、この操作を行わなくても、画像を保存するフォルダは自動で作成され、そのフォルダに画像が保存されます。

フォルダの作成

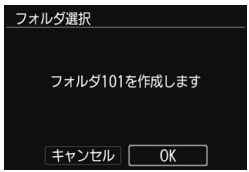


1 [フォルダ選択] を選ぶ

● [1] タブの [**フォルダ選択**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [フォルダ作成] を選ぶ



3 [OK] を選ぶ

➡ 番号が 1 つ繰り上がった、新しいフォルダが作成されます。

フォルダの選択



- フォルダ選択画面でフォルダを選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像を保存するフォルダが選択されます。
- 撮影を行うと、選択したフォルダに画像が記録されます。

フォルダについて

フォルダ名は、「**100CANON**」のように先頭3桁の数字（フォルダ番号）と、5文字の英数字で構成されています。1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.185）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときも、カメラがフォルダを認識できません。

MENU 画像番号の付け方を設定する

画像番号は、撮影した順に0001～9999の番号が付けられて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付け方を変えることができます。

（例）**IMG_0001.JPG**
画像番号



1 **［画像番号］を選ぶ**

● ［**1**］タブの［**画像番号**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 **画像番号の付け方を選ぶ**

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

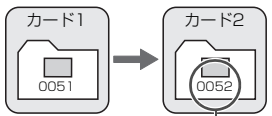
通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

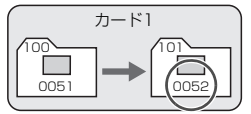
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合



フォルダを作成した場合

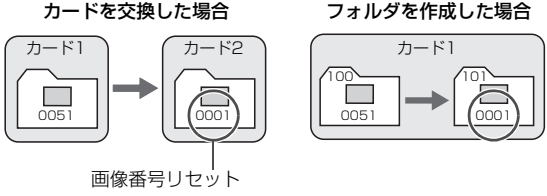


オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行って撮影すると、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

ファイル名の先頭は、JPEG画像、RAW画像はともに「IMG_」、動画は「MVI_」になります。拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR2」、動画は「.MOV」「.MP4」になります。

MENU 著作権情報を設定する 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。



1 ［著作権情報］を選ぶ

● ［4］タブの［**著作権情報**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 設定する項目を選ぶ

● ［**作成者名入力**］または［**著作権者名入力**］を選び、〈(SET)〉を押します。



文字パレット

3 文字を入力する

● 〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。
● 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して□を移動し、希望する文字を選び〈(SET)〉を押すと入力されます。
● ［**Aa=1@**］を選び〈(SET)〉を押すと、入力モードが切り換わります。
● 最大63文字入力することができます。
● 〈🗑〉ボタンを押すと、1 文字消去されます。
● 入力をキャンセルするときは、〈**INFO.**〉ボタンを押して［OK］を選びます。

4 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。
- ➡ 設定した内容が保存され、手順2の画面に戻ります。

著作権情報の確認



手順2で［**著作権情報の表示**］を選ぶと、入力した［**作成者**］［**著作権者**］の情報を確認することができます。

入力した作成者名または著作権者名が長いときは、［**著作権情報の表示**］を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

著作権情報の消去

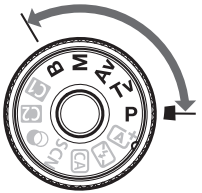
手順2で［**著作権情報の消去**］を選ぶと、［**作成者**］［**著作権者**］の情報が消去されます。

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.514）から、著作権情報を設定・確認することもできます。

MEMO

5

撮影目的にあわせた応用撮影



応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内と表示パネルに露出値が約4秒間（**4**）表示されます。
- 各撮影モードで設定できる機能は、460ページを参照してください。



あらかじめ〈**LOCK**〉スイッチを下側にしてください。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



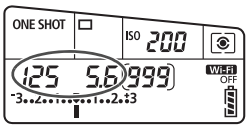
2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。



3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。



4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



● シャッター速度の「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。



● シャッター速度の「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈P〉と〈A+〉モードの違いについて

〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AF動作や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈**P**〉モードのときは自動的に設定されるのはシャッター速度と絞り数値だけで、AF動作や測光モードなどの機能を自由に設定することができます（p.460）。

プログラムシフトについて

- プログラムAEのときは、自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度、または絞り数値が表示されるまで〈☆〉を回します。
- プログラムシフトは、測光タイマー（⏱4）が終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv：シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッター速度を遅くすると、流動感を表現することができます。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



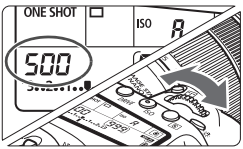
流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）



動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）



1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッター速度を設定する

● 表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ 絞り数値が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。



● 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。



● 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

シャッター速度の表示について

「**8000**」から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

Av：絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



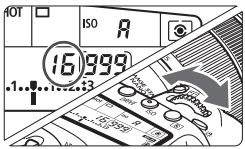
背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

● 表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ シャッター速度が自動的に決まります。



4 表示を確認して撮影する

● シャッター速度が点滅していなければ標準露出です。



● シャッター速度の「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。



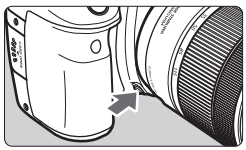
● シャッター速度の「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
シャッター速度の点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示について

数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

レンズの絞りは、撮影する瞬間だけ絞りの大きさ（開口量）が変わり、撮影していないときは、絞りが開いた状態になっています。そのため、ファインダーやライブビュー映像で見えるピントの合う範囲は、常に狭く（浅く）なっています。



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

● 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
● ライブビュー映像を見ながら絞り数値を変えて、絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果がよくわかります（p.256）。
● 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M: 露出を自分で決めて撮る

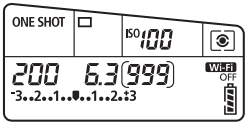
自分でシャッター速度や絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。



1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ISO感度を設定する （p.148）



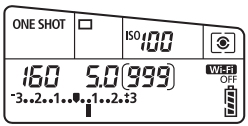
3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈 〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈**LOCK**〉スイッチを下側にしてから〈 〉または〈 〉を回します。



4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内と表示パネルに露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいズレているか、確認することができます。



5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉の表示になります。

ISOオート設定時の露出補正について

マニュアル露出撮影時にISO感度を「**A**」（AUTO）に設定したときは、以下の方法で露出補正（p.200）を行うことができます。

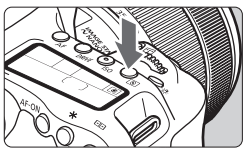
- ［**2：露出補正／AEB設定**］
- ［**C.Fn III-4：操作ボタンカスタマイズ**］の［**SET：露出補正（押しながら）**］（p.437）
- クイック設定（p.56）

- ISOオート設定時は、設定したシャッター速度と絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

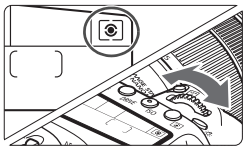
- ［**2：オートライティングオプティマイザ**］で［**M, Bulb時はOFF**］の［✓］を外すと、〈**M**〉モードでもオートライティングオプティマイザ機能が設定できるようになります（p.169）。
- ISOオート設定時に〈✳〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードで露出補正（p.200）を行っていたときは、〈**M**〉モード＋ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。
- ISOオート設定時に［**C.Fn I-1：露出設定ステップ**］を［**1：1/2段**］に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度（1/3段分）とシャッター速度で露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッター速度は変化しません。

測光モードの選択 応用

被写体の明るさを測る機能の特性を４種類の中から選ぶことができます。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます（〈**SCN**：〉〈：〉モード時は、中央部重点平均測光）。



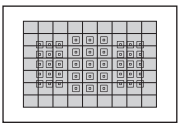
1 〈⊙〉ボタンを押す（⏱6）



2 測光モードを選ぶ

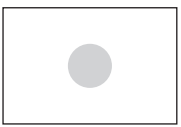
● 表示パネルを見ながら〈〉または〈〉を回します。

⊙：評価測光
⊡：部分測光
•：スポット測光
[ ]：中央部重点平均測光



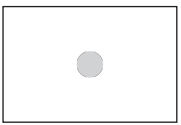
⊙ 評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。



⊡ 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。ファインダー中央部の約6.0%の範囲を測光します。



• スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。ファインダー中央部の約3.8%の範囲を測光します。



[ ] 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

[評価測光]は、シャッターボタン半押しでピントが合うと露出値が固定されます。[部分測光]／[スポット測光]／[中央部重点平均測光]は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。

± 自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを露出補正といいます。

〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モードのときに露出補正を行うことができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±5段*ですが、ファインダー内と表示パネルの露出補正表示は±3段までです。±3段を超える設定は、クイック設定（p.56）、または次ページの［**2：露出補正／AEB設定**］で行ってください。

なお、〈**M**〉モード+ISOオート設定時の露出補正については、197ページを参照してください。

＊ライブビュー撮影時は±3段までです。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



1 露出を確認する

● シャッターボタンを半押しして（4）、露出レベル表示を確認します。

2 補正量を設定する

● ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈◎〉を回します。

● 設定できないときは、〈**LOCK**〉スイッチを下側にしてから〈◎〉を回します。

➡ 露出補正を行うと、ファインダー内と表示パネルに〈±〉が表示されます。

3 撮影する

● 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈0〉の位置に戻します。

［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.169）が、［**しない**］以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

● 設定した補正量は、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても記憶されています。
● 補正量を設定してから〈**LOCK**〉スイッチを上側にすると、補正量が不用意に変わることを防止することができます。
● 露出補正量が±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉表示になります。

露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

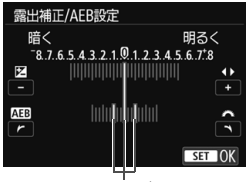
1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッター速度、または絞り数値を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これをAEB撮影といいます。

＊AEBは、Auto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。



1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

● ［2］タブの［**露出補正／AEB設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。



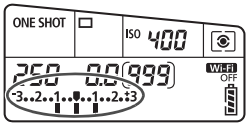
AEBレベル

2 AEBレベルを設定する

● 〈〉を回してAEBレベルを設定します。〈◀〉〈▶〉を押すと露出補正量が設定できます。

● 〈(SET)〉を押すと設定されます。

➡ メニューを終了すると、表示パネルにAEBレベルが表示されます。



3 撮影する

● 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

● AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

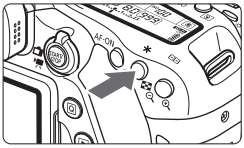
- AEB撮影中は、ファインダー内の〈✳〉とAEBレベルが点滅します。
- ドライブモードが〈□/□S〉のときは、3回撮影してください。〈□H/□/□S〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈⏲/⏲2〉のときは、約10秒後または約2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEBレベルが±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◀〉または〈▶〉表示になります。
- ストロボ使用時、バルブ撮影時、[**マルチショットノイズ低減機能**]設定時、[**HDRモード**]設定時、クリエイティブフィルター設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

✳ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

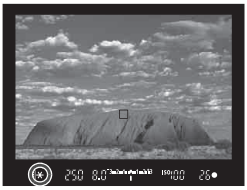
1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。



2 〈✳〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✳〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。



3 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影をするときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード（p.198）	AFフレーム選択（p.120～122）	
	自動選択	任意選択
[◉]*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[⊙][•][⬚]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

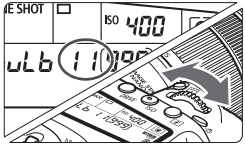
バルブ撮影時は、AEロックできません。

B: 長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や打ち上げ花火、天体撮影など、長時間の露光が必要なときに設定します。

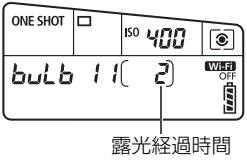


1 **モードダイヤルを〈B〉にする**



2 **絞り数値を設定する**

- 表示パネルを見ながら〈☆〉または〈◎〉を回します。



3 **撮影する**

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

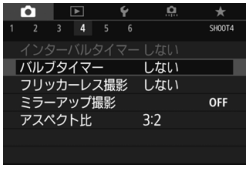
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400になります（p.150）。
- セルフタイマーとミラーアップ撮影を併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。なお、同じ条件でバルブタイマーを使用したときは、シャッターボタンを全押しし続ける必要はありません。

- ［**3：長秒時露光のノイズ低減**］で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（p.172）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマーの使用をおすすめします。ミラーアップ撮影（p.219）を併用することもできます。
- リモートスイッチ RS-60E3（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（p.221）。
- リモートコントローラーRC-6（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（p.221）。リモートコントローラーの送信ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

TIMER バルブタイマー機能 応用

バルブ撮影時の露光時間をあらかじめ設定することができます。この機能を使うと、バルブ撮影中にシャッターボタンを指で押している必要がなくなるため、カメラブレを低減することができます。

なお、バルブタイマーは、〈**B**〉（バルブ撮影）以外の撮影モードでは設定できません（機能しません）。



1 ［バルブタイマー］を選ぶ

- ［**4**］タブの［**バルブタイマー**］を選び、〈(SET)〉を押します。



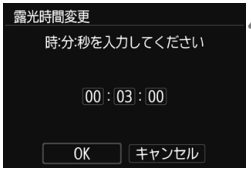
2 ［する］を選ぶ

- ［**する**］を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。



3 露光時間を設定する

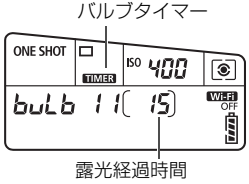
- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈✥〉の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈✥〉の状態に戻ります）。



4 [OK] を選ぶ

➡ メニュー画面に設定した時間が表示されます。

➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈TIMER〉が表示されます。



5 撮影する

➡ シャッターボタンを全押しすると、設定した時間のバルブ撮影が行われます。

- 設定を解除するときは、手順２で［**しない**］を選びます。

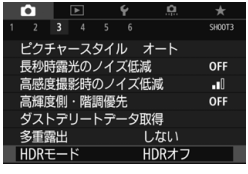
- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しして指を離すと、バルブタイマー撮影が終了します。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、動画撮影への切り換えを行ったとき、撮影モードを〈**B**〉以外に変更したときは、バルブタイマーが解除されます（設定が［**しない**］になります）。

HDR: HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 応用

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。

HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を連続撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像はJPEG画質で記録されます。

＊ HDRはHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



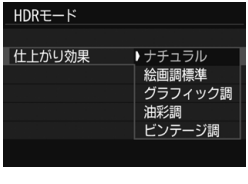
1 ［HDRモード］を選ぶ

- ［3］タブの［**HDRモード**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ HDRモードの画面が表示されます。



2 ［Dレンジ調整］を設定する

- ダイナミックレンジの調整幅を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**自動**］を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、［**HDRオフ**］を選びます。



3 ［仕上がり効果］を設定する

- 仕上がり効果を選び〈(SET)〉を押します。

仕上がり効果について

● **ナチュラル**

明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。

● **絵画調標準**

［**ナチュラル**］よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

● **グラフィック調**

［**絵画調標準**］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

● **油彩調**

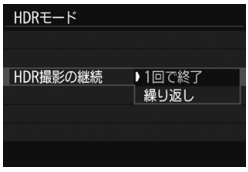
最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● **ビンテージ調**

鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

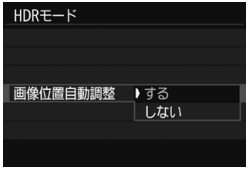
	絵画調標準	グラフィック調	油彩調	ビンテージ調
彩度	標準	高い	より高い	低い
輪郭強調	標準	弱い	強い	より強い
明るさ	標準	標準	標準	暗い
階調	フラット	フラット	フラット	よりフラット

各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイル（p.154）を基本にした画像特性で撮影されます。



4 ［HDR撮影の継続］を設定する

- ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈㊾〉を押します。
- ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- ［**繰り返し**］を選んだときは、手順3で［**HDRオフ**］を選ぶまでHDR撮影が続きます。



5 ［画像位置自動調整］を設定する

- 手持ち撮影を行うときは［**する**］、三脚などを使用するときは［**しない**］を選び、〈㊾〉を押します。

6 撮影する

- ファインダー撮影、ライブビュー撮影で、HDR撮影を行うことができます。
- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

- RAW、RAW+JPEGは選択できません。また、RAW、RAW+JPEGが設定されているときは、HDRモードの設定はできません。
- AEB、WBブラケティング、マルチショットノイズ低減機能、多重露出が設定されているときや、バルブ撮影、動画撮影時は、HDRモードの設定はできません。
- 拡張ISO感度（H）でHDR撮影を行うことはできません。ISO100～16000の範囲でHDR撮影を行うことができます。
- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- HDR撮影時は、［**歪曲収差補正**］［**2：オートライティングオプティマイザ**］［**3：高輝度側・階調優先**］の設定が自動的に［**しない**］になります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- HDR撮影はシャッター速度を自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため、〈**Tv**〉〈**M**〉モードでも、設定したシャッター速度を基準にシャッター速度が変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- HDRモード設定時に、ファインダー内に〈⚠〉を表示することができます（p.425）。

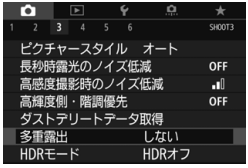
ライブビュー撮影時について

- 拡大表示はできません。
- ライブビュー映像で表示される仕上がり効果のイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。

- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（p.352）、およびダストデリートデータ（p.405）は画像に付加されません。
- ［**画像位置自動調整**］を［**する**］に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい（または暗い）露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- ［**画像位置自動調整**］を［**しない**］に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- HDR撮影設定後に撮影モードを変更したり、動画撮影への切り換えを行うと、HDR撮影の設定が解除される（［**Dレンジ調整**］の設定が［**HDRオフ**］になる）ことがあります。

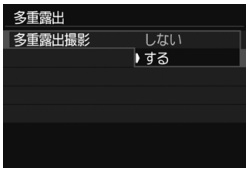
多重露出撮影 応用

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を撮影することができます。なお、ライブビュー撮影（p.255）のときは、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。



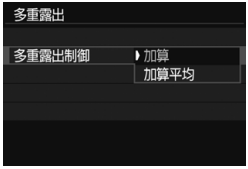
1 ［多重露出］を選ぶ

● ［📷3］タブの［**多重露出**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［多重露出撮影］を設定する

● ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。
● 多重露出撮影をやめるときは、［**しない**］を選びます。



3 ［多重露出制御］を設定する

● 露出の重ね合わせ方を選び、〈(SET)〉を押します。

● **加算**

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。［**重ねる枚数**］に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：－1段」「3枚：－1.5段」「4枚：－2段」

［**加算**］設定時に撮影途中に表示される画像のノイズ、色ムラ、縞などは、最終的に記録される多重露出画像と異なることがあります。

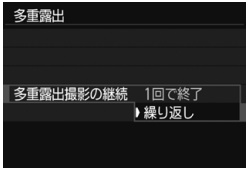
● **加算平均**

［**重ねる枚数**］に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。



4 ［重ねる枚数］を設定する

● 枚数を選び〈(SET)〉を押します。
● 2～9枚の範囲で設定することができます。



5 ［多重露出撮影の継続］を設定する

● ［**1回で終了**］または［**繰り返し**］を選び、〈(SET)〉を押します。
● ［**1回で終了**］を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
● ［**繰り返し**］を選んだときは、手順2で［**しない**］を選ぶまで多重露出撮影が続きます。



6 1枚目を撮影する

➡ 撮影した画像が表示されます。
➡ 〈■〉が点滅します。
● 多重露出撮影の残り枚数は、ファインダー内または画面に表示される［ ］内の数値で確認することができます。
● 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（p.217）。

7 2枚目以降を撮影する

➡ 撮影した画像が重なって表示されます。

- ライブビュー撮影のときは、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ライブビュー映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。連続撮影時は、シャッターボタンを押し続けると、設定した枚数を連続撮影して停止します。

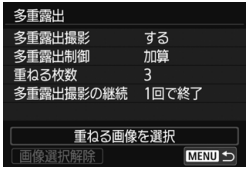
- 連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。
- 保存される画像は、多重露出画像のみです。手順6、7で撮影した多重露出用の画像は保存されません。
- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- 多重露出撮影時は、アスペクト比を設定した撮影はできません。3：2のアスペクト比で撮影されます。
- WBブラケティング、マルチショットノイズ低減機能、HDRモード、クリエイティブフィルターが設定されているときは、多重露出撮影の設定はできません。
- 多重露出撮影時は、［**1：レンズ光学補正**］［**2：オートライティングオプティマイザ**］［**3：高輝度側・階調優先**］の設定が自動的に［**しない**］になります。
- ［**3：ピクチャースタイル**］が［**オート**］に設定されているときは、［**スタンダード**］で撮影されます。
- 多重露出撮影は、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。また、ISO感度が高くなるほどノイズが増えるため、低ISO感度で撮影することをおすすめします。
- ［**加算**］設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- ［**加算**］の設定でライブビュー撮影を行ったときは、多重露出撮影終了時にライブビュー機能が自動的に終了します。
- 手順7でライブビュー撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉、動画撮影への切り換えを行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影中に撮影モードをかんたん撮影ゾーン、または〈**C1**/**C2**〉にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます（p.217）。

カードに記録されている画像に重ね合わせる

カードに記録されている RAW 画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択した RAW 画像の画像データはそのまま残ります。

指定できるのは RAW 画像のみです。M RAW / S RAW 画像、およびJPEG画像は選択できません。



1 ［重ねる画像を選択］を選ぶ

➡ カード内の画像が表示されます。

2 1枚目の画像を選ぶ

- 〈◌〉を回して1枚目に設定する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［OK］を選びます。

➡ 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は［**重ねる枚数**］で設定した枚数よりも1枚少なくなります。例えば、［**重ねる枚数**］が3枚のときは、2枚撮影します。

- ［**3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定して撮影した画像、［**4：アスペクト比**］が［**3：2**］以外の画像（p.146）は、1枚目に指定できません。
- ［**1：レンズ光学補正**］［**2：オートライティングオプティマイザ**］は、1枚目に指定した RAW 画像の設定に関わらず、［**しない**］で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定した RAW 画像と同じ設定で撮影されます。
- 1 枚目に指定した RAW 画像のピクチャースタイルがオートのときは、スタンダードで撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。

- 多重露出撮影を行った RAW 画像を選ぶこともできます。
- ［**画像選択解除**］を選ぶと、指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去について



設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます。

この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	途中まで撮影した画像を多重露出画像として保存して終了します。
保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。
前の画面に戻る	〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。

多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

こんなときは

● **記録画質に制限はありますか？**

JPEGは全記録画質を選択できます。**M** RAW/**S** RAW のときは、多重露出画像は RAW で記録されます。

記録画質設定	多重露出画像
JPEG	JPEG
RAW	RAW
M RAW/S RAW	RAW
RAW＋JPEG	RAW＋JPEG
M RAW/S RAW＋JPEG	RAW＋JPEG

● **カードに記録されている画像に重ね合わせたい**

［**重ねる画像を選択**］で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（p.216）。なお、カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

● **ライブビュー撮影でも多重露出ができますか？**

ライブビュー撮影でも多重露出を行うことができます（p.255）。

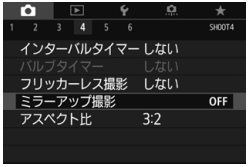
● **多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？**

［**2：オートパワーオフ**］が［**しない**］以外に設定されているときは、オートパワーオフで電源が自動的に切れるまでの時間が約30分になります。オートパワーオフが働くと多重露出撮影が終了し、多重露出の設定も解除されます。

なお、多重露出撮影を始める前は、カメラで設定した時間どおりにオートパワーオフが働き、多重露出の設定が解除されます。

ミラーアップ撮影 応用

撮影時にミラーが上下に動作することで発生する機械的な振動を「ミラーショック」といいます。ミラーアップ機能を使うと、撮影時にあらかじめミラーが上がった状態になり、ミラーショックによるブレを低減することができます。近接（マクロ）撮影や超望遠レンズを使用した撮影、低速シャッターによる撮影などに効果的です。





1 ［ミラーアップ撮影］を［する］に設定する

- ［4］タブの［**ミラーアップ撮影**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**する**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

➡ ミラーが上がります。

3 もう一度シャッターボタンを全押しする

➡ 撮影が行われ、ミラーが下がります。

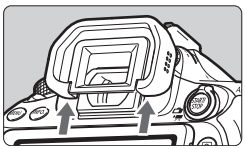
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（タイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。タイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定、メニュー操作などはできません。

- ドライブモードが連続撮影に設定されていても、1枚撮影になります。
- セルフタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- ミラーアップ撮影を行うときは、三脚とリモートスイッチ RS-60E3（別売／p.221）の使用をおすすめします。
- リモートコントローラー（別売／p.221）を併用することもできます。リモートコントローラーのスイッチを「2秒後」に設定することをおすすめします。

アイピースカバーの使い方

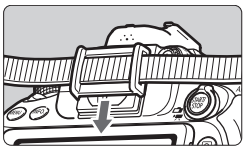
セルフタイマー撮影やバルブ撮影、リモートスイッチを使った撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真（露出不足）になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（p.33）を使います。

なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。



1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押して取り外します。



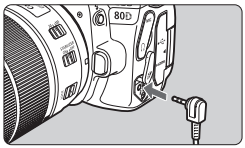
2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。
- 撮影が終わったら、アイピースカバーを取り外し、アイカップを取り付けます。

リモートスイッチ撮影

リモートスイッチ RS-60E3（別売）をカメラに取り付けて撮影することができます（p.468）。

操作方法については、リモートスイッチの使用説明書を参照してください。



1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

リモコン撮影



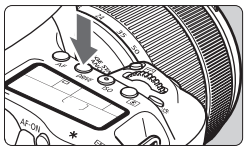
リモートコントローラー RC-6（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影することができます。「すぐに撮影」と「2秒後撮影」ができます。

リモートコントローラー RC-1とRC-5（別売）を使用することもできます。

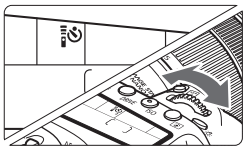
1 ピントを合わせる

2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- 〈AF〉で撮影することもできます。

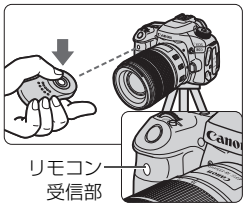


3 〈DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）



4 セルフタイマーを選ぶ

- 表示パネルを見ながら〈 〉を回して、〈 〉または〈 2〉を選びます。



5 リモコンの送信ボタンを押す

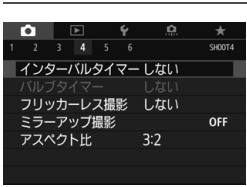
- リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押します。
- ➡ セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

- 蛍光灯やLED照明などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤作動して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。
- テレビ用のリモコンなどをカメラに向けて操作すると、カメラが誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。
- このカメラの周りで、他のカメラのストロボが発光すると、本機が誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。リモコン受信部に他のカメラのストロボ光が入らないようにしてください。

リモートレリーズ機能を備えたEXスピードライトでも、リモコン撮影を行うことができます。

TIMER インターバルタイマー撮影

インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。



1 [インターバルタイマー] を選ぶ

- [4] タブの [**インターバルタイマー**] を選び、〈(SET)〉を押します（かんたん撮影ゾーンでは [2] タブ）。



2 [する] を選ぶ

- [**する**] を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。



3 撮影間隔、撮影回数を設定する

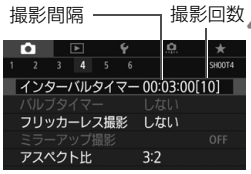
- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⇕〉の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

- **撮影間隔**

  [00 : 00 : 01] ～ [99 : 59 : 59] の範囲で設定することができます。

- **撮影回数**

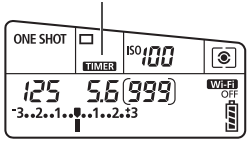
  [01] ～ [99] の範囲で設定することができます。[00] に設定したときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマーを終了するまで撮影が継続します。



4 [OK] を選ぶ

➡ メニュー画面に設定した内容が表示されます。

➡ メニューを終了すると、表示パネルに〈TIMER〉が表示されます。



5 撮影する

➡ 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。

- インターバルタイマー撮影中は、〈TIMER〉が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとでも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- インターバルタイマー中もオートパワーオフが機能します。次の撮影約1分前になると自動的に電源が入ります。
- AEBやWBブラケティング、多重露出、HDRモードと組み合わせて撮影することもできます。
- インターバルタイマー撮影を途中で終了するときは、[**しない**] に設定するか、電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉に設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。〈**MF**〉に設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー機能を使用したライブビュー撮影、動画撮影、バルブ撮影はできません。
- 撮影時間が長くなるときは、電源にDCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッター速度が撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッター速度が撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときや、ライブビュー撮影／動画撮影画面を表示したとき、撮影モードを〈**B**〉や〈**C1**/**C2**〉にしたとき、EOS用ソフトウェアEOS Utility（p.514）を使用したときは、インターバルタイマーが解除され、設定が［**しない**］になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影（p.221）やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。
- ファインダーから目を離してインターバルタイマー撮影を行うときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（p.220）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

MEMO

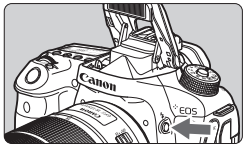
6

ストロボ撮影

この章では、内蔵ストロボ、または外部ストロボ（EX スピードライト／別売）を使った撮影、メニュー画面からストロボの設定を行う方法、内蔵ストロボを使ったワイヤレスストロボ撮影について説明しています。

- 動画撮影時はストロボは使用できません（発光しません）。
- ストロボ撮影時はAEB撮影はできません。

ϟ 内蔵ストロボを使った撮影



応用撮影ゾーンでは、〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げるだけでストロボ撮影ができます。

ファインダー内に［ϟ］が表示されていることを確認してから撮影してください。撮影が終わったら、内蔵ストロボを「カチッ」と音がするまで手で押し下げて収納します。

かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードによって、クイック設定で内蔵ストロボを設定することができます（p.107）。

ストロボ撮影時のシャッター速度と絞り数値は、表のようになります。

撮影モード	シャッター速度	絞り数値
P	自動設定（1/250秒～1/60秒）	自動設定
Tv	手動設定（1/250秒～30秒）	自動設定
Av	自動設定（1/250秒～30秒）	手動設定
M	手動設定（1/250秒～30秒）	手動設定
B	シャッターボタンを押している間、またはバルブタイマー作動中、露光が行われます	手動設定

〈Av〉モードでのストロボ撮影について

手動設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます（自動調光）。シャッター速度は、その場の明るさに応じて、1/250秒～30秒の範囲で自動設定されます。

暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります（自動スローシンクロ撮影）。手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。

なお、シャッター速度が遅くならないようにしたいときは、［**📷1：ストロボ制御**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］を［**1/250-1/60秒自動**］または［**1/250秒固定**］に設定します（p.236）。

内蔵ストロボ撮影できる距離の目安 （約・m）

ISO感度 (p.148)	EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM	
	広角側	望遠側
	F3.5	F5.6
100	1～3.4	1～2.1
400	1～6.9	1～4.3
1600	1.7～13.7	1.1～8.6
6400	3.4～27.4	2.1～17.1

* 高ISO感度設定時に撮影距離が遠いとき、被写体条件などによっては、適正な露出が得られないことがあります。

- 内蔵ストロボ撮影を行うときは、レンズのフードを外して、撮影してください。
- レンズにフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、内蔵ストロボの光がさえぎられて、撮影した画像の下側が暗くなることがあります。
- 内蔵ストロボを手で押さえるなど、内蔵ストロボが上がりきっていない状態でストロボ撮影を行わないでください。

超望遠レンズや大口径レンズ使用時に画面の下側が暗くなるときは、外部ストロボ（別売／p.233）の使用をおすすめします。

MENU 赤目緩和機能について

ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。



1 **［赤目緩和機能］を選ぶ**

● ［📷1］タブの［**赤目緩和機能**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 **［入］を選ぶ**

● ストロボが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると赤目緩和ランプが点灯します。

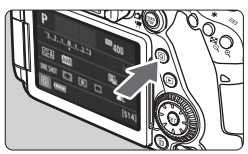
● 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」と効果的です。
● シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。



● 赤目緩和効果の度合いは、個人差があります。

ϟ± ストロボ調光補正 応用

ストロボ撮影のときに、被写体が思いどおりの明るさにならない（ストロボの発光量を調整したい）ときに使用します。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。



1 **〈Q〉ボタンを押す**（⏱10）

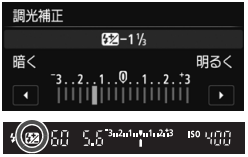
➡ クイック設定の状態になります。



2 ［ϟ］を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して［ϟ＊］を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ 調光補正の設定画面が表示されます。



3 補正量を設定する

● 撮影結果が暗いときは、〈◯〉または〈◯〉を右に回します（プラス補正）。撮影結果が明るいときは、〈◯〉または〈◯〉を左に回します（マイナス補正）。

➡ シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に〈ϟ〉が表示されます。

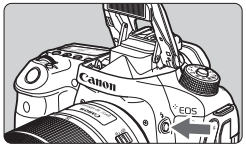
● 撮影が終わったら手順１～３の操作で、補正量をゼロに戻します。

● ［**2：オートライティングオプティマイザ**］（p.169）が、［**しない**］以外に設定されているときは、露出を暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。
● 外部ストロボ側（別売／ p.233）で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

● 設定した補正量は、電源スイッチを〈**OFF**〉にしても記憶されています。
● ［**1：ストロボ制御**］の［**内蔵ストロボ機能設定**］で調光補正を行うこともできます（p.235）。
● 外部ストロボ使用時も同じ操作で、カメラから外部ストロボの調光補正ができます。

✳ FEロック撮影 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。



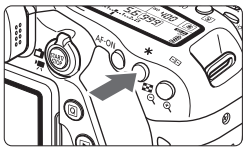


1 〈ϟ〉ボタンを押す

➡ 内蔵ストロボが上がります。

● シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる





3 〈✳〉ボタンを押す（⏱16）

● ファインダーの中央に被写体を置いて、〈✳〉ボタンを押します。

➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。

➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ*〉が点灯します。

● 〈✳〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。



4 撮影する

● 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

➡ ストロボが発光し、撮影されます。

● 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作をしてください。

● ライブビュー撮影時は、FEロックできません。

ϟ 外部ストロボを使った撮影

EOS用EXシリーズスピードライト

EXスピードライト（別売）を使用すると、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能や、ストロボのカスタム機能を設定する方法については、235～243ページを参照してください。



クリップオンタイプストロボ



マクロストロボ

● **ストロボ調光補正**

クイック設定（p.56）、または［**1：ストロボ制御**］の［**外部ストロボ機能設定**］（p.240）で設定します。クイック設定方法は内蔵ストロボ使用時と同じです。230ページを参照してください。

● **FEロック**

操作方法は内蔵ストロボ使用時と同じです。232ページの手順2～4を参照してください。

AFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS 用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを〈**M**〉（マニュアル露出）、または〈**Av**〉（絞り優先AE）に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボ

同調シャッター速度

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

ライブビュー撮影時の注意

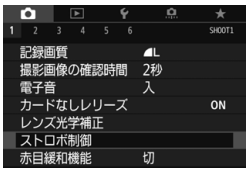
汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、［**6：LVソフト撮影**］を［**しない**］設定にしてください（p.272）。［**モード1**］［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

MENU ストロボの機能を設定する 応用

内蔵ストロボ、またはストロボ機能設定に対応したEXスピードライト（外部ストロボ）使用時は、カメラのメニュー画面から、ストロボの機能を設定したり、外部ストロボのカスタム機能を設定することができます。**外部ストロボ使用時は、設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。**

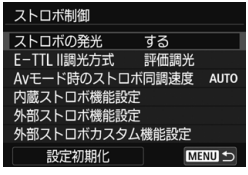
外部ストロボの機能については、各スピードライトの使用説明書を参照してください。



1 ［ストロボ制御］を選ぶ

● ［📷1］タブの［**ストロボ制御**］を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ ストロボ制御画面が表示されます。



2 項目を選ぶ

● 設定する項目を選び、〈(SET)〉を押します。

ストロボの発光



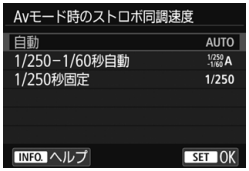
ストロボ撮影を行うときは、［**する**］に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、［**しない**］に設定します。

E-TTL II 調光方式



通常は、標準的なストロボ露出が得られる［**評価調光**］に設定します。［**平均調光**］に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

Avモード時のストロボ同調速度



絞り優先AE〈**Av**〉モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

● **AUTO：自動**

明るさに応じてシャッター速度が1/250～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

● **1/250 -1/60 A：1/250-1/60秒自動**

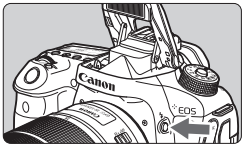
暗い場所でシャッター速度が自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

● **1/250：1/250秒固定**

シャッター速度が1/250秒に固定されるため、［**1/250-1/60秒自動**］よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では［**1/250-1/60秒自動**］よりも被写体の背景が暗くなります。

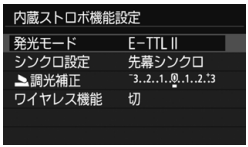
［**1/250-1/60秒自動**］［**1/250秒固定**］設定時は、外部ストロボ使用時に〈**Av**〉モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定画面を直接表示する



内蔵ストロボ、またはストロボ機能設定に対応したEXスピードライト（外部ストロボ）使用時に、メニュー画面が表示されていない状態で〈ϟ〉ボタンを押すと、［**内蔵ストロボ機能設定**］［**外部ストロボ機能設定**］の画面を直接表示することができます。

● **内蔵ストロボ使用時**



〈ϟ〉ボタンを（2回）押す

- 一度押すと内蔵ストロボが上がります。
- もう一度押すと［**内蔵ストロボ機能設定**］の画面が表示されます。
- ［**ストロボの発光**］が［**しない**］に設定されているときは［**📷1：ストロボ制御**］の画面が表示されます（p.235）。

● **外部ストロボ使用時**



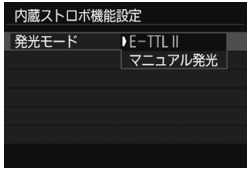
〈ϟ〉ボタンを押す

- 外部ストロボの電源が入った状態で〈ϟ〉ボタンを押すと、［**外部ストロボ機能設定**］の画面が表示されます。

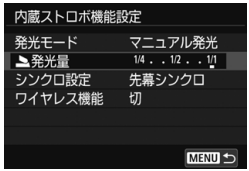
〈ϟ〉ボタンを押してストロボ機能設定画面を表示したときは、［**ストロボの発光**］［**E-TTL II 調光方式**］［**Avモード時のストロボ同調速度**］［**外部ストロボカスタム機能設定**］は設定できません。［**📷1：ストロボ制御**］から設定してください。

内蔵ストロボ機能設定

● 発光モード



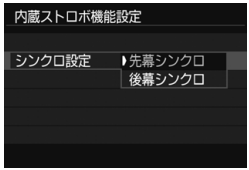
通常は［**E-TTL II**］を選びます。内蔵ストロボによる自動露出撮影を行うことができます。



ストロボの発光量を自分で決めて撮影するときは、［**マニュアル発光**］を選びます。

［**発光量**］を選び、1/1～1/128の範囲（1/3段ステップ）で発光量を設定してから撮影します。

● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロと［**E-TTL II**］の組み合わせでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。

後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/25秒以下の遅い速度に設定してください。1/30秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

● 調光補正



230ページの『ストロボ調光補正』の手順3と同じ設定を行うことができます。

● ワイヤレス機能



カメラの内蔵ストロボで外部ストロボを制御する、(光通信) ワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

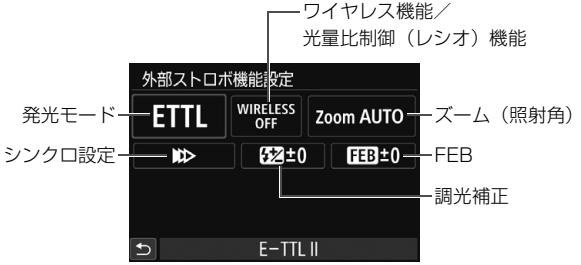
詳しくは、244ページの『ワイヤレスストロボ撮影』を参照してください。

外部ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目は、外部ストロボの機種や設定されている発光モード、外部ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。

使用するストロボが対応している機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例



● **発光モード**

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



［**E-TTL II**］は、ストロボの自動撮影ができる、EXスピードライトの標準的なモードです。

［**マニュアル発光**］は、ストロボの［**発光量**］を自分で決めて撮影するモードです。

その他の発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能





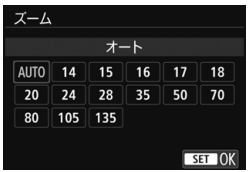
電波通信、または光通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定に対応したマクロストロボ（例：MR-14EX II）使用時に、発光部A、Bの発光量の比率を設定したり、スレーブストロボを増灯したワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

詳しくは光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

● ズーム（照射角）



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する［**AUTO**］に設定します。

● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する［**先幕シンクロ**］に設定します。

［**後幕シンクロ**］に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッター速度と組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロと［**E-TTL II**］の組み合わせでは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回、ストロボが発光します。

［**ハイスピード**］に設定すると、すべてのシャッター速度でストロボ撮影を行うことができます。日中の屋外などで、被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。

● 調光補正



230ページの『ストロボ調光補正』の手順3と同じ設定を行うことができます。

詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

● FEB



ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

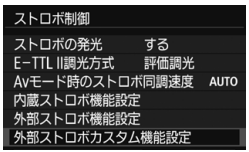
詳しくは、FEB（Flash Exposure Bracketing）に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

後幕シンクロで撮影するときは、シャッター速度を1/25秒以下の遅い速度に設定してください。1/30秒以上の速い速度のときは、［**後幕シンクロ**］に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

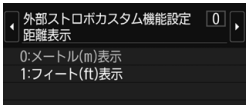
- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、［**ストロボの発光**］［**E-TTL II 調光方式**］、および［**外部ストロボ機能設定**］の［**調光補正**］のみ設定できます（一部のEXスピードライトでは、［**シンクロ設定**］も設定可能）。
- 外部ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません（クイック設定、外部ストロボ機能設定）。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

外部ストロボカスタム機能設定

外部ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。



1 **［外部ストロボカスタム機能設定］を選ぶ**

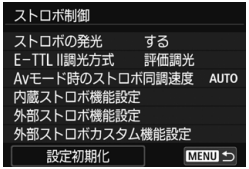


2 **機能を設定する**

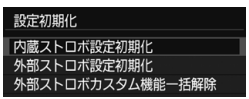
- 番号を選び〈(SET)〉を押します。
- 項目を選び〈(SET)〉を押します。

EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の［**調光方式**］を［TTL］（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。

設定初期化／一括解除



1 **［設定初期化］を選ぶ**



2 **初期化する内容を選ぶ**

- ［**内蔵ストロボ設定初期化**］［**外部ストロボ設定初期化**］［**外部ストロボカスタム機能一括解除**］のいずれかを選び、〈(SET)〉を押します。
- ［**OK**］を選ぶとストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

［**ストロボ制御**］の画面から、ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。

ワイヤレスストロボ撮影 応用

このカメラの内蔵ストロボは、光通信によるワイヤレススレーブ機能を備えたEXスピードライト（外部ストロボ）を、ワイヤレス制御で発光させることができる「マスター」機能を備えています。

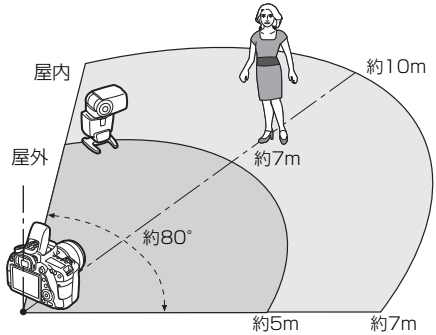
スピードライト使用説明書の、（光通信）ワイヤレスストロボ撮影に関する説明と注意も必ずお読みください。

スレーブの設定と配置

お手持ちのスピードライト（以下、スレーブ）使用説明書を参照し、スレーブに対して下記の設定を行います。なお、下記設定以外のスレーブ制御は、すべてカメラ側で行います。異なる種類のスレーブが混在していても制御することができます。

①外部ストロボをスレーブに設定する
②カメラと同じ通信チャンネルに設定する[*1]
③光量比制御を行うときは、スレーブの発光グループを設定する
④下図の範囲内にカメラとスレーブを配置する
⑤スレーブのワイヤレス受信部をカメラに向ける[*2]

ワイヤレスストロボ撮影の例



*1：通信チャンネルの設定機能がないスレーブは、カメラがどのチャンネル設定でも作動します。
*2：狭い室内では、ワイヤレス受信部がカメラに向いていなくても、カメラのワイヤレス信号が壁面などに反射して、ワイヤレス撮影ができる場合があります。発光部とワイヤレス受信部が固定されているEXスピードライトのときは、発光することを確認しながら撮影してください。

● **スレーブのオートパワーオフ解除について**

スレーブのオートパワーオフ状態を解除するときは、カメラの〈✱〉ボタンを押してください。なお、マニュアル発光のときは、スレーブのテスト発光ボタンを押して解除してください。

このカメラのマスター機能で、電波通信ワイヤレスストロボ撮影を行うことはできません。

ワイヤレスストロボ撮影方法について

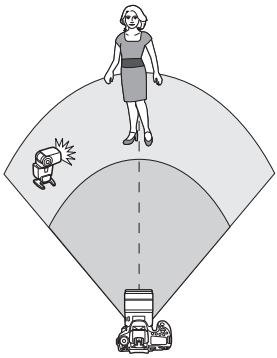
下表のワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。被写体や撮影条件、外部ストロボの台数などから撮影方法を選択してください。

	外部ストロボ		内蔵ストロボ	参照頁	設定	
	灯数	A:B光量比			ワイヤレス機能	発光グループ
全自動撮影（E-TTL II 自動調光）	1灯	—	—	p.247	ON	全部
	1灯	—	使用	p.249	ON：ON	—
	複数	—	—	p.250	ON	全部
	複数	設定	—	p.251	ON	(A：B)
	複数	—	使用	p.252	ON＋ON	全部と
	複数	設定	使用		ON＋ON	(A：B)
	・ストロボ調光補正			p.253		
	・FEロック					

	外部ストロボ		内蔵ストロボ	参照頁	設定	
	灯数	A:B光量比			ワイヤレス機能	発光グループ
マニュアル発光	1灯/複数	—	—	p.254	ON	全部
	複数	設定	—		ON	(A：B)
	1灯/複数	—	使用		ON＋ON	全部と
	複数	設定	使用		ON＋ON	(A：B)

内蔵ストロボを使用しない設定でも、スレーブを光通信で制御するための発光が行われます。そのため、撮影条件によっては、スレーブを制御するための発光が写真に写り込むことがあります。

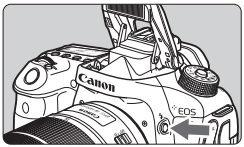
外部ストロボ1灯を使用した全自動撮影



外部ストロボを1灯使った、最も基本的な全自動ワイヤレスストロボ撮影です。

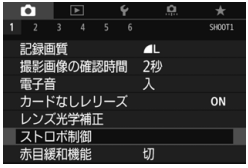
手順1～4と6の操作は、すべてのワイヤレスストロボ撮影に共通していますので、以降の説明では省略しています。

メニュー画面の〈📷〉〈📷〉は外部ストロボを、〈⚡〉〈⚡〉は内蔵ストロボを表しています。



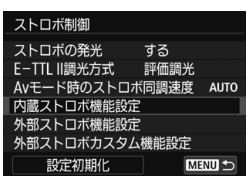
1 〈ϟ〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げる

● ワイヤレスストロボ撮影のときは、必ず内蔵ストロボを上げてください。



2 [ストロボ制御] を選ぶ

● [📷1] タブの [**ストロボ制御**] を選びます。



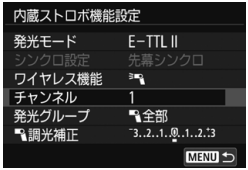
3 [内蔵ストロボ機能設定] を選ぶ



4 ［発光モード：E-TTL II］に設定する

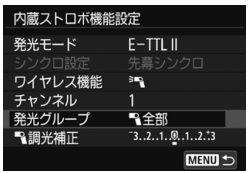


5 ［ワイヤレス機能］を［ ］に設定する



6 ［チャンネル］を設定する

- スレーブと同じ通信チャンネル（1～4chのいずれか）を設定します。



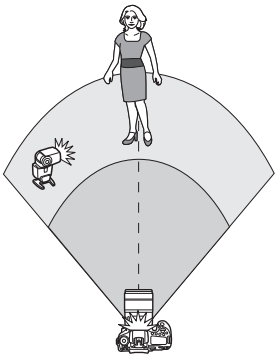
7 ［発光グループ］を［ 全部］に設定する

8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。
- ワイヤレスストロボ撮影を終了するときは、［**ワイヤレス機能**］を［**切**］に設定します。

- ［**E-TTL II 調光方式**］の設定は［**評価調光**］をおすすめします。
- スレーブのテスト発光機能はありません。

外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使用した全自動撮影



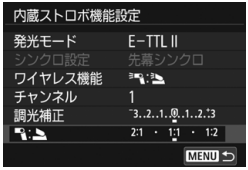
外部ストロボ1灯と内蔵ストロボを使った全自動ワイヤレスストロボ撮影です。

外部ストロボと内蔵ストロボの光量比（発光量の割合）を変えて、被写体にできる影のでかたを調整することができます。



1 ［ワイヤレス機能］を［：］に設定する

● 248ページの手順5で［**ワイヤレス機能**］を［：］に設定します。



2 光量比を設定して撮影する

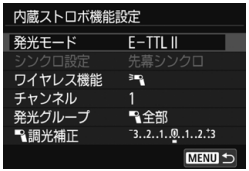
● ［：］を選び、8：1～1：1の範囲で光量比を設定します。1：1より右側は、設定できません。

● 内蔵ストロボの発光量が足りないときは、ISO感度を上げてください（p.148）。
● 光量比の8：1～1：1は、露出段数換算で3：1～1：1（1/2段ステップ）に相当します。

複数の外部ストロボを使用した全自動撮影

複数のスレーブを「1つのストロボとみなして発光させたり」、「グループ分けして光量比を変えて撮影」することができます。

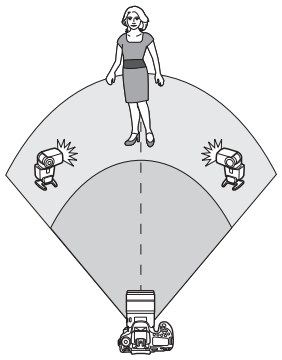
基本設定は下記のとおりで、［**発光グループ**］の設定を変えることにより、さまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。



下記の基本設定を行う

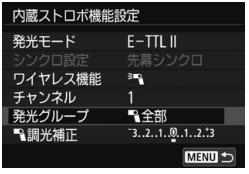
発光モード ：E-TTL II
ワイヤレス機能 ：
チャンネル ：（スレーブと同じ）

●［全部］複数のスレーブを1つのストロボとして発光させる



大きな発光量が必要なときに設定します。すべてのストロボが同じ光量で発光し、標準露出になるよう制御が行われます。

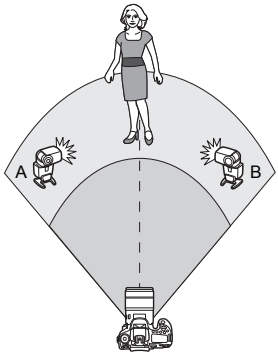
発光グループがA, B, Cのどれに設定されていても、同グループのストロボとして発光します。



1 ［発光グループ］を［全部］に設定する

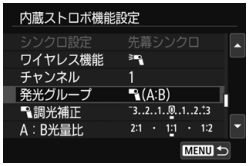
2 撮影する

●［ (A:B)］複数のスレーブをグループ分けして発光させる

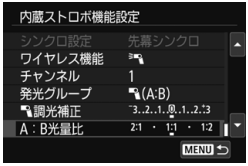


スレーブをAとBの 2グループに分け、光量比を変えてライティングを調整することができます。

ストロボの使用説明書を参照し、片方のスレーブを発光グループA、もう片方のスレーブを発光グループBに設定して図のように配置します。



1 ［発光グループ］を［ (A：B)］に設定する



2 A：Bの光量比を設定して撮影する

●［A：B光量比］を選び、光量比を設定します。

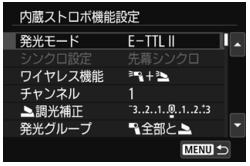
［**発光グループ**］を［ (A：B)］に設定すると、Cグループに設定したストロボは発光しません。

光量比の8：1～1：1～1：8は、露出段数換算で3：1～1：1～1：3（1/2段ステップ）に相当します。

複数の外部ストロボと内蔵ストロボを使用した全自動撮影

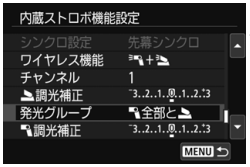
250～251ページのワイヤレスストロボ撮影に、内蔵ストロボを加えることができます。

基本設定は下記のとおりで、［**発光グループ**］の設定を変えることにより、内蔵ストロボを加えたさまざまなワイヤレス多灯ストロボ撮影を行うことができます。



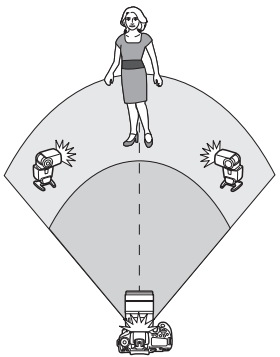
1 下記の基本設定を行う

発光モード ：E-TTL II
ワイヤレス機能 ：
チャンネル ：（スレーブと同じ）

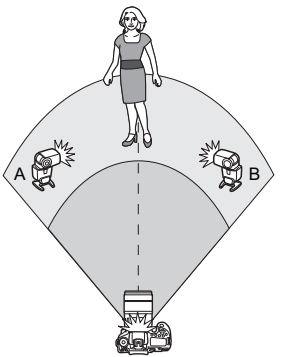


2 ［発光グループ］を設定する

- ［全部と］または［(A：B)］を選びます。
- ［(A：B)］のときは、A：Bの光量比を設定してから撮影します。



［全部と］

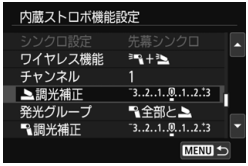


［(A：B)］

応用ワイヤレスストロボ撮影

● ストロボ調光補正

［**発光モード**］が［**E-TTL II**］のときに設定することができます。なお、設定できる調光補正の項目（下記参照）は、［**ワイヤレス機能**］と［**発光グループ**］の設定内容によって変わります。



調光補正

● 内蔵ストロボ、すべての外部ストロボに対して、調光補正量が一律に設定されます。

調光補正

● 内蔵ストロボに対して、調光補正を行うことができます。

調光補正

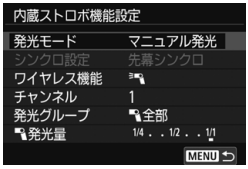
● すべての外部ストロボに対して、調光補正量が一律に設定されます。

● FEロック

［**発光モード**］が［**E-TTL II**］のときに、〈✱〉ボタンを押すとFEロック（p.232）を行うことができます。

発光量を手動設定したワイヤレスストロボ撮影

［**発光モード**］が［**マニュアル発光**］のときに設定することができます。なお、設定できる発光量の項目（［**発光量**］、［**Aグループ発光量**］など）は、［**ワイヤレス機能**］の設定内容（下記参照）によって変わります。



ワイヤレス機能：

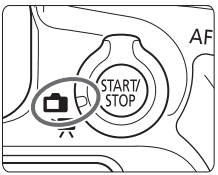
- **発光グループ：全部**
  すべての外部ストロボに対して、マニュアル発光量が一律に設定されます。
- **発光グループ：（A：B）**
  スレーブをAとBの2グループに分けて、グループごとに発光量を設定することができます。

ワイヤレス機能：＋

- **発光グループ：全部と**
  外部ストロボと内蔵ストロボに対して、個別に発光量を設定することができます。
- **発光グループ：（A：B）**
  スレーブをAとBの2グループに分けて、グループごとに発光量を設定することができます。また、内蔵ストロボの発光量も設定することができます。

7

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）



カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

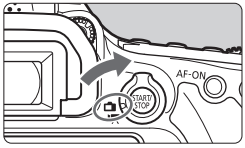
ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にすると、ライブビュー撮影ができるようになります。

● カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

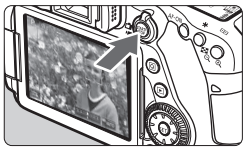
リモートライブビュー撮影について

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.514）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

液晶モニターを見ながら撮影する



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈 〉にする



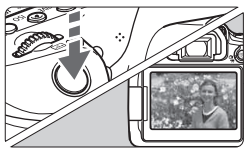
2 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式（p.276）でピント合わせが行われます。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます（p.286）。

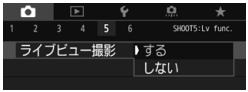


4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈START/STOP〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

- 映像の視野率は、約100%（記録画質JPEG ◢L時）です。
- 応用撮影ゾーンでは、絞り込みボタンを押すと、被写界深度を確認することができます。
- リモートコントローラー（別売／ p.221）を使ってライブビュー撮影を行うこともできます。

ライブビュー撮影ができないときは



［**5：ライブビュー撮影**］を［**する**］に設定します（かんたん撮影ゾーンでは［**3**］タブ）。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	340	310
50%ストロボ撮影	300	270

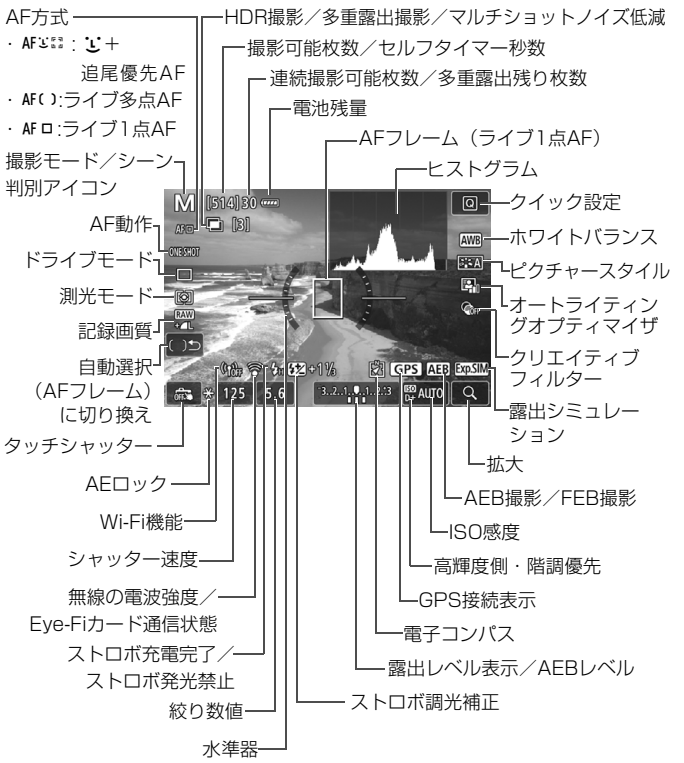
- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nでライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約2時間30分です。

- 〈**SCN**：〉モードで、ライブビュー撮影を行うことはできません。
- 〈**SCN**：〉モード設定時、〈：〉モード設定時は、撮影範囲が狭くなります。
- ストロボ充電中は、液晶モニターに「**BUSY**」が表示され、被写体を確認することができません。また、連続撮影速度が低下します。
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **ライブビュー撮影全般の注意事項は、290～291ページにまとめて記載しています。**

- ピント合わせは、〈**AF-ON**〉ボタンで行うこともできます。
- ストロボ撮影時は、シャッターが2回切れたような音がしますが、撮影枚数は1枚です。また、シャッターボタンを全押ししてから撮影されるまでの時間が、ファインダー撮影時より少し長くなります。
- カメラを操作しない状態が続くと、［**2：オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.66）。［**しない**］に設定されているときは、約30分でライブビュー機能が自動的に終了します（電源は切れません）。
- HDMIケーブル HTC-100を使用すると、ライブビュー映像をテレビに表示することができます（p.373）。ただし、音声は出力されません。なお、テレビに映像が表示されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。

情報表示について

●〈**INFO.**〉ボタンを押すたびに、情報表示内容が切り換わります。



〈**INFO.**〉ボタンを押したときに表示する内容を編集することができます（p.262）。

- ヒストグラムは、［**5：露出Simulation：する**］（p.271）のときに〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示することができます。ただし、シャッターボタン全押し中は、ヒストグラムは表示されません。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.72）。ただし、AF方式が［**+追尾優先AF**］のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさでライブビュー映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 〈**SCN**：〉モード設定時、かんたん撮影ゾーンのストロボ撮影時、または応用撮影ゾーンで［**露出Simulation：する**］設定時に、マルチショットノイズ低減機能、HDRモードを設定したり、バルブ撮影やストロボ撮影を行うときは、露出シミュレーションは行われません（p.271）。〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき、液晶モニターに表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- 〈：〉モード設定時も露出シミュレーションは行われません。〈Exp.SIM〉が灰色で表示されます。ヒストグラムは表示されません。

⚠ 警告

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

シーン判別のアイコン一覧

撮影モードが〈A+〉のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影を行うことができます。判別したシーンは画面の左上に表示されます。なお、シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

被写体 / 背景	人物*1		人物以外の被写体			背景色
		動いているとき	自然や屋外シーン	動いているとき	近いとき*2	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3				*3	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時	 *4*5	*3	 *4*5	*3		

*1：AF方式を［ﾋﾄ+追尾優先AF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

*4：下記の条件が揃ったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」、「夜景撮影時」、「三脚などでカメラを固定しているとき」

*5：下記のレンズ使用時に表示されます。
・EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II　・EF-S55-250mm F4-5.6 IS II
・EF300mm F2.8L IS II USM　・EF400mm F2.8L IS II USM
・EF500mm F4L IS II USM　・EF600mm F4L IS II USM
・2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ
*4+*5 :*4と*5の条件がすべて揃ったときは、シャッター速度が遅くなります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果をライブビュー映像で確認できる機能です。

撮影時にライブビュー映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。なお、撮影結果と若干異なる場合があります。

ライブビュー撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス（強さ）、コントラスト、色の濃さ、色あいが反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 雰囲気を選んで撮影
- 明かりや状況にあわせて撮影
- 背景ぼかし設定（〈CA〉モード時）
  * 効果は、設定の操作中（［**ぼかしシミュレーション中**］が表示されている間）のみ確認できます。
- 色あい（〈🍴〉モード時）
- 測光モード
- 露出（［**📷5：露出Simulation：する**］設定時）
- 被写界深度（絞り込みボタンON時）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先
- アスペクト比（撮影範囲確認）

INFO.ボタンで表示する内容

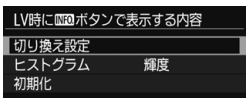
ライブビュー撮影状態、または動画撮影状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押したときに表示される内容を編集することができます。



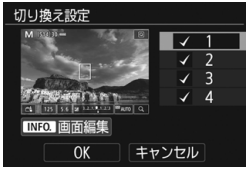
1 [LV時に INFO. ボタンで表示する内容] を選ぶ

- [3] タブの [**LV時に INFO. ボタンで表示する内容**] を選び、〈(SET)〉を押します。

● **切り換え設定**



1 [切り換え設定] を選ぶ



2 番号を選ぶ

- 番号は、〈**INFO.**〉ボタンを押す回数を示します。
- 表示する内容を変更したい番号を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 番号の [✓] を外すこともできます。なお、すべての番号の [✓] を外すことはできません。

初期状態は、下表のとおりです。

		1	2	3	4
	基本撮影情報	○	○	○	–
	詳細撮影情報	–	○	○	–
	タッチボタン	○	○	○	–
	ヒストグラム	–	–	○	–
	水準器	–	–	○	–



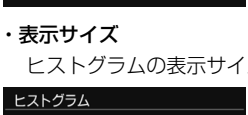
3 編集する

- 表示したい内容を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。
- 表示したくない内容は〈(SET)〉を押して［✓］を外します。
- 設定が終わったら［**OK**］を選びます。
- 必要に応じて手順2、3を繰り返します。

● **ヒストグラム**

・輝度/RGB

［**輝度**］または［**RGB**］に切り換えることができます（p.352）。



［**ヒストグラム**］の［**輝度/RGB**］で設定します。

・表示サイズ

ヒストグラムの表示サイズを変更することができます。



［**ヒストグラム**］の［**表示サイズ**］で設定します。

● **初期化**



初期状態（p.262）に戻すときは、［**初期化**］を選び、［**OK**］を選びます。

撮影機能の設定

AF／DRIVE／ISO／設定

ライブビュー映像が表示された状態で〈AF〉／〈DRIVE〉／〈ISO〉／〈設定〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈メイン〉または〈サブ〉を回して撮影機能の設定を行うことができます。

ライブビュー撮影時は、ドライブモードの〈□S〉〈連S〉は設定できません。また、ファインダー撮影時に設定した連続撮影の内容は、ライブビュー撮影には引き継がれません。

[部分]（部分測光）、[スポット]（スポット測光）設定時は、画面の中央に測光範囲を示す円が表示されます。

Q クイック設定

応用撮影ゾーンでは、**AF方式**／AF動作／**ドライブモード**／測光モード／**記録画質**／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／クリエイティブフィルターの設定を行うことができます。

かんたん撮影ゾーンでは、太字の項目の他に107ページの表に示した設定を行うことができます（背景ぼかし設定を除く）。



1 **〈Q〉ボタンを押す**（☆10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

2 **機能を選んで設定する**

- 〈▲〉〈▼〉を押して機能を選びます。
  - ➡ 機能の内容と、機能ガイド（p.75）が画面に表示されます。
- 〈◀〉〈▶〉を押して設定します。
- 〈**SCN**〉〈◎〉モードのときは、画面左上の撮影モードの項目を選び〈(SET)〉を押して撮影モードを選びます。
- オートホワイトバランスの設定を行うときは、［AWB］を選んだ状態で〈(SET)〉を押します。
- 記録画質のRAW画質設定、WB補正/WBブラケティングの設定、ピクチャースタイルやクリエイティブフィルターの詳細設定を行うときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- 〈(SET)〉を押すとライブビュー撮影に戻ります。
- ［⮌］を選んで、ライブビュー撮影に戻ることもできます。

［**サーボAF**］（p.275）のときに設定できる記録画質は、RAWとJPEG画像です。**M** RAW、**S** RAWが設定されているときはRAWで記録されます。

フィルター効果を付けて撮影する 応用

ライブビュー映像を見ながら、フィルター効果（7種類：ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風）を付けた画像を撮影することができます。

保存される画像は、フィルター効果ありの画像のみです。フィルター効果なしで撮影を行い、撮影後に画像に効果を付けて別画像として保存することもできます（p.399）。

1 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定状態になります。



3 [🎨OFF]を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉を押して画面の右側に表示された[🎨OFF]（クリエイティブフィルター）を選びます。



4 フィルター効果を選ぶ

● 〈◄〉〈►〉を押してフィルター効果（p.268）を選びます。

➡ フィルター効果が反映された映像が表示されます。

● ジオラマ風のときは、〈▲〉〈▼〉を押して、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させます。



5 フィルター効果を調整する

- 〈**INFO.**〉ボタンを押します（🖶を除く）。
- 〈◀〉〈▶〉を押して効果を調整し、〈(SET)〉を押します。

6 撮影する

➡ フィルター効果が付いた画像が撮影されます。

クリエイティブフィルターを設定したときは、ドライブモードを〈□ᴴ〉〈□〉に設定していても1枚撮影になります。

- 記録画質がRAW、RAW+JPEGに設定されているときや、AEB、ホワイトバランスブラケティング、マルチショットノイズ低減機能が設定されているときは、クリエイティブフィルター撮影はできません。
- クリエイティブフィルター撮影時は、ヒストグラムは表示されません。

各クリエイティブフィルターの特徴について

● **ラフモノクロ**

ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

● **ソフトフォーカス**

やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

● **魚眼風**

魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。

なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。なお、AF方式はライブ1点AF（中央固定）での撮影になります。

● **油彩風**

油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

● **水彩風**

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

● **トイカメラ風**

トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

● **ジオラマ風**

ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分を変えることができます。手順4で〈🔍〉ボタンを押す（または画面の［⊡］をタッチする）と、はっきり見せたい部分（白枠）の横／縦を切り換えることができます。なお、AF方式はライブ1点AFで、白枠の中央にピントが合います。

● ラフモノクロのときは、液晶モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
● ソフトフォーカス、ジオラマ風のときは、液晶モニターに表示される映像と撮影した画像のぼかし具合が異なることがあります。なお、絞り込みボタンを押すと、撮影する画像のぼかし具合を確認することができます。

MENU メニュー機能の設定

5



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈📷〉のときは、［5］［6］タブにライブビュー撮影特有の項目が表示されます（かんたん撮影ゾーンでは、［3］タブ）。

このメニュー画面で設定できる機能は、ライブビュー撮影時のみ有効です。ファインダー撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

● **ライブビュー撮影**
ライブビュー撮影［**する**］［**しない**］を選択することができます。

● **AF方式**
［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］［**ライブ1点AF**］が選択できます。AF方式については、276～285ページを参照してください。

● **タッチシャッター**
画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影までを自動で行うことができます。詳しくは、286ページを参照してください。

● **グリッド**
［**9分割**］または［**24分割**］でグリッド（格子線）を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角**］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● **露出Simulation** 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。

・する（Exp.SIM）

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

・絞り込み中（DISP ／ Exp.SIM）

通常は、ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます（DISP）。絞り込みボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます（Exp.SIM）。

・しない（DISP）

ライブビュー映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

6 応用



● LVソフト撮影 応用

・モード1

ファインダー撮影時よりも作動音を抑えた撮影を行うことができます。連続撮影を行うこともできます。なお、〈H〉設定時は、最高約7.0コマ/秒の連続撮影を行うことができます。

・モード2

シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻したときにカメラが作動するため、撮影する瞬間の音を最小限に抑えることができます。なお、連続撮影に設定していても1枚撮影になります。

・しない

TS-Eレンズ（に記載したレンズを除く）を使用して**シフトやティルト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

- ［**モード1**］と［**しない**］の違いは、ドライブモードが1枚撮影のとき、および連続撮影時の1枚目における内部機構の動作のみです。［**モード1**］の設定で連続撮影を行ったときは、連続撮影2枚目以降の作動音が［**しない**］と同じになります。
- ストロボ撮影時は、［**LVソフト撮影**］の設定に関わらず［**しない**］と同じ動作で撮影が行われます（作動音を抑えた撮影はできません）。
- 汎用ストロボを使用するときは、［**しない**］に設定してください。［**モード1**］［**モード2**］に設定されていると、ストロボが発光しません。
- リモートコントローラー（p.221）を使用して［**モード2**］の設定で撮影したときは、［**モード1**］と同じ動作になります。

TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II は、［**モード1**］［**モード2**］で使用することができます。

● **測光タイマー** 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

次のメニュー項目を選ぶと、ライブビュー撮影が終了します。再開するときは、再度〈START/STOP〉ボタンを押してください。

・［3：ダストデリートデータ取得］［3：センサークリーニング］［4：カメラ設定初期化］［4：ファームウェア］

AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。

1 〈AF〉ボタンを押す



2 AF動作を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押してAF動作を選び、〈(SET)〉を押します。

ONE SHOT：ワンショットAF
SERVO：サーボAF

ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい撮影条件』（p.284）を参照してください。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影できます。

［**1：電子音**］を［**切**］に設定すると、ピントが合ったときに、合焦音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- ドライブモードの設定が、高速連続撮影時は最高約 5.0 コマ／秒になります。連続撮影速度優先で撮影されます。
- ドライブモードの設定が、低速連続撮影時は最高約 3.0 コマ／秒になります。被写体追従優先で撮影されます。
- ストロボ撮影時は、連続撮影速度が低下します。
- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。このとき電子音は鳴りません。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 取り付けるレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズームすると、ピントがズレることがあります。ズームで構図を決めてから撮影してください。

- ［**サーボAF**］のときに設定できる記録画質は、RAW とJPEG画像です。**M** RAW、**S** RAW が設定されているときは RAW で記録されます。
- ［**サーボAF**］設定時に、マルチショットノイズ低減機能が設定されているときは、［**高感度撮影時のノイズ低減**］は、自動的に［**標準**］に切り換わります。

AFでピントを合わせる（AF方式）

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AF方式には、［**(顔)+追尾優先AF**］（p.277）、［**ライブ多点AF**］（p.279）、［**ライブ1点AF**］（p.281）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.288）。



1 〈AF〉ボタンを押す

2 AF方式を選ぶ

● 〈◯〉を回してAF方式を選び、〈(SET)〉を押します。

● ［**5:AF方式**］から設定することもできます（かんたん撮影ゾーンでは、［**3**］タブ）。
● 277～282ページは、ワンショットAF時を前提に説明しています。サーボAFに設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。このとき電子音は鳴りません（p.274）。
● 〈**SCN**：〉モードのときは、自動的にサーボAFに設定され、ピントが合うとAFフレームが青色に変わり、電子音も鳴ります。

（顔）＋追尾優先AF：AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈 〉も動いて顔を追尾します。

1 ライブビュー映像を表示する

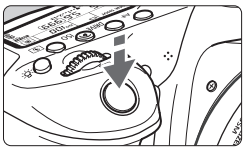
- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



エリア枠

2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、エリア枠と、顔の部分にピント合わせを行う〈 〉が表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈 〉でピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。
- 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外のときは〈 〉が表示されます。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ 顔が検知できないときや、画面にタッチしなかったときは、ライブ多点AFの自動選択（p.279）に切り換わります。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.256）。

● **人の顔以外にピントを合わせるとき**

〈(SET)〉または〈🗑〉ボタンを押すと、画面中央にAFフレーム〈[ ]〉が表示され、〈✣〉でAFフレームを移動することができます。被写体にAFフレーム〈[ ]〉を合わせたあと、構図を変更したり、被写体が動いたりすると、AFフレーム〈[ ]〉も動いて被写体を追尾します。

● ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（p.288）、AFを行ってください。
● 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
● 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」、「顔が明るすぎる／暗すぎる」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
● ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

● エリア枠を目安に、エリア枠内で、ピント合わせをしてください。
● AFフレームは被写体により大きさが変化します。

ライブ多点AF：AF( )

最大35点のAFフレームを使用した広いエリアでピントを合わせることができます（自動選択）。また、そのエリアを9つのゾーンに分けてピントを合わせることもできます（ゾーン選択）。



エリア枠

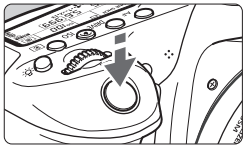
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



2 AFフレームを選ぶ 応用

- 〈(SET)〉または〈🗑〉ボタンを押すたびに、自動選択とゾーン選択が切り換わります。なお、かんたん撮影ゾーンでは、自動選択に自動設定されます。
- 〈✣〉でゾーンを選択します。もう一度〈(SET)〉または〈🗑〉ボタンを押すと、中央のゾーンに戻ります。
- 画面にタッチして、ゾーンを選択することもできます。ゾーン選択時に、画面の［( )↩］をタッチすると、自動選択に切り換わります。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、エリア枠がオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.256）。

- 自動選択で意図したところにピントが合わないときは、ゾーン選択または［**ライブ1点AF**］に変更してピントを合わせなおしてください。
- ［**4：アスペクト比**］の設定によって、AFフレーム数は異なります。［**3：2**］のときは35点、［**4：3**］［**1：1**］のときは25点、［**16：9**］のときは21点になります。また、［**16：9**］のときはゾーンが3つになります。
- 動画撮影時は、AFフレームが21点、ゾーンが3つになります。

ライブ1点AF：AF□

1点のAFフレームでピント合わせを行います。狙った被写体にピントを合わせたいときに効果的です。


AFフレーム

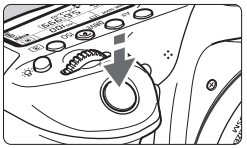
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。
- 動画撮影時に［**動画サーボ AF**］が［**する**］に設定されているときは、AFフレームが大きく表示されます。



2 AFフレームを移動する

- 〈✣〉を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈SET〉または〈🗑〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 画面にタッチして、AFフレームを動かすこともできます。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.256）。

AFに関するおことわり

AFの動作について

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピント合わせが行われます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- ライブビュー映像表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でAFを行ってください。

拡大表示について

- [**+追尾優先AF**] 設定時は、拡大表示できません。
- [**ライブ多点AF**] 設定時は、〈⊕〉ボタンを押すと（または画面の〈Q〉をタッチすると）、ゾーンの中央部分（自動選択時は画面の中央部分）が拡大表示されます。シャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。
- [**ライブ1点AF**] 設定時は、〈⊕〉ボタンを押すと（または画面の〈Q〉をタッチすると）、AFフレームの部分が拡大表示されます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままピント合わせが行われます。カメラを三脚に取り付けて厳密にピント合わせしたいときに効果的です。なお、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。また、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なります。
- [**ライブ多点AF**] [**ライブ1点AF**] 設定時に、通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- サーボ AF 時は、拡大表示した状態で、シャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

ピントが合いにくい撮影条件

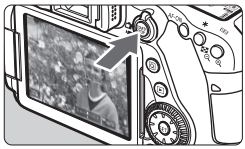
- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

- 前ページに記載した撮影条件でピントが合わないときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行ってください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレームまたはゾーン）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- AF補助光は投光されません。ただし、LEDライト付きEXスピードライト（別売）使用時は、必要に応じてAF補助用のライトが点灯します。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。すべての撮影モードで行うことができます。



1 ライブビュー映像を表示する

- 〈START/STOP〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



2 タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の［］にタッチします。タッチするたびに、［］と［］が切り換わります。
- ［］（タッチシャッター：する）
  タッチでピント合わせから撮影まで行います。
- ［］（タッチシャッター：しない）
  タッチした位置でピント合わせをすることができます。そのあと、シャッターボタンを押して撮影します。



3 画面にタッチして撮影する

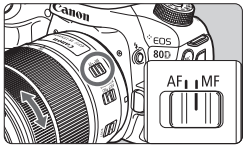
- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- ➡ 設定されているAF方式（p.276～282）でタッチした位置でピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

- ドライブモードを〈H〉〈L〉に設定していても、1枚撮影になります。
- 画面にタッチしたときは、［**タッチシャッター**］［**AF 動作**］の設定に関わらず、ワンショットAFでピント合わせが行われます。
- 拡大表示中は、タッチシャッターは機能しません。
- クリエイティブフィルターの魚眼風設定時は、タッチした位置に関わらず、画面中央のAFフレームでピント合わせが行われます。
- クリエイティブフィルターのジオラマ風設定時は、タッチシャッターは機能しません。
- かんたん撮影ゾーンで、［**ライブ多点AF**］［**タッチシャッター：しない**］が設定されているときは、画面にタッチしてもピント合わせはできません。
- ［**C.Fn III-4：操作ボタンカスタマイズ**］の［**シャッターボタン半押し**］が、［**測光開始**］または［**AEロック（押している間）**］に設定されているときは、ピント合わせが行われずに撮影されます。

- タッチシャッターの機能は、［**5：タッチシャッター**］で設定することもできます（かんたん撮影ゾーンでは、［**3**］タブ）。
- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチで露光を終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

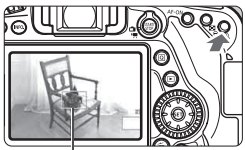
MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

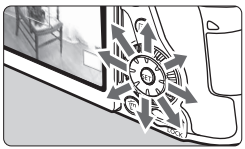
- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



拡大表示枠

2 拡大表示枠を表示する

- 〈⊕〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示枠が表示されます。
- 画面の［🔍］をタッチして拡大表示することもできます。



3 拡大表示枠を移動する

- ピントを合わせたい位置に、〈✣〉で拡大表示枠を移動します。画面にタッチして移動することもできます。
- 〈(SET)〉または〈🗑〉ボタンを押すと、拡大表示枠が画面中央に戻ります。



AEロック
拡大表示位置
拡大率（約）

4 映像を拡大する

- 〈⊕〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

通常表示 → 1倍 → 5倍 → 10倍

- 拡大した状態で〈✣〉を操作するか、画面の上下左右に表示された「三角」のマークをタッチすると、拡大位置を変えることができます。

5 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈🔍〉ボタンを押して通常表示にします。

6 撮影する

- 露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.256）。

拡大表示中は露出が固定されます（シャッター速度と絞り数値が赤く表示されます）。

ライブビュー撮影全般の注意事項

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- ライブビュー撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめにライブビュー撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。ライブビュー撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇にともなう、白い〈🌡〉と赤い〈🌡〉表示について

- ライブビュー撮影を長時間行ったり、高温下でライブビュー撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🌡〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈🌡〉は、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、ライブビュー撮影を一時休止する、または一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下でライブビュー撮影を長時間行うと、〈🌡〉または〈🌡〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈🌡〉が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッター速度と絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

ライブビュー撮影全般の注意事項

ライブビュー映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所ではライブビュー映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（ライブビュー映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、ライブビュー撮影を一旦終了し、撮影する光源下でライブビュー撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で［**2：液晶の明るさ**］を明るい設定にすると、ライブビュー映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

- ライブビュー撮影では、設定が無効になるカスタム機能があります（p.411）。

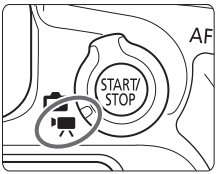
レンズとストロボについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- 2011年下期以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、ライブビュー撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 内蔵ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。

MEMO

8

動画を撮影する



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、動画を撮影することができます。

- 動画が記録できるカードについては、5ページを参照してください。
- カメラを手に持って動画撮影を行うと、手ブレにより、鮮明な映像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

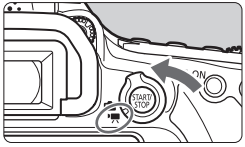
FULL HD 1080

動画を撮影する

自動露出撮影

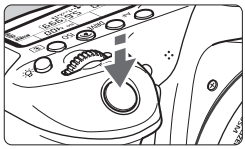
明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1 モードダイヤルを〈◎〉〈M〉以外にする



2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

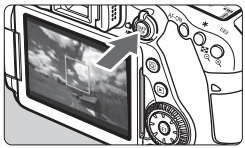


3 ピントを合わせる

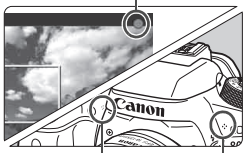
- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.276～285、288）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

4 動画を撮影する

- 〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
- ➡ 動画撮影中は画面右上に［●］が表示されます。
- ➡ 音声は内蔵マイクで記録されます。
- もう一度〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。



動画撮影中



マイク

- かんたん撮影ゾーンのときは、〈A+〉で撮影したときと同じ撮影結果になります。また、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（p.297）。
- 撮影モードが〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**B**〉のときは、〈**P**〉と同じ設定で撮影されます。
- かんたん撮影ゾーンと応用撮影ゾーンでは、設定できるメニューが異なります（p.477）。
- 応用撮影ゾーンのときは、〈✳〉ボタン（p.203）を押すと、露出を固定（AEロック）することができます。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊡〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊡〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 応用撮影ゾーンのときは、〈**LOCK**〉スイッチを下側にして〈◌〉を回すと、露出補正を行うことができます。
- 自動露出で撮影した動画の画像情報（Exif情報）には、ISO感度とシャッター速度、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、自動露出（**M** モード以外）で動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

かんたん撮影ゾーン時のISO感度について

● ISO100～12800の範囲で自動設定されます。

P/Tv/Av/Bモード時のISO感度について

● ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
● [**2：ISO感度に関する設定**]の[**動画撮影の範囲**]で[**上限値**]を[**H(25600)**]に設定すると、自動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。なお、[**下限値**]にISO200以上、[**上限値**]にISO3200以下が設定されていても、ISO100 ～ 6400 の間で、自動設定されます(p.332)。
● [**3：高輝度側・階調優先**]を[**する**]に設定したときは（p.174）、ISO感度がISO200～12800になります。
● 動画撮影時は、[**2：ISO感度に関する設定**]の[**オートの範囲**][**オートの低速限界**]は設定できません（p.152～153）。

● 動画撮影時のISO16000は、ノイズが多いことがあるため拡張ISO感度になります（「**H**」表示）。
● 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にISO感度の設定を再確認してください。

シーン判別のアイコン一覧

かんたん撮影ゾーン（〈◎〉モードを除く）で動画を撮影するときは、カメラが判別したシーンアイコンが表示され、そのシーンに応じた撮影が行われます。なお、シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

被写体 / 背景	人物*1	人物以外の被写体		背景色
		自然や屋外シーン	近いとき*2	
明るい				灰色
逆光				
青空を含む				水色
逆光				
夕景	*3		*3	オレンジ色
スポットライト				紺色
暗い				

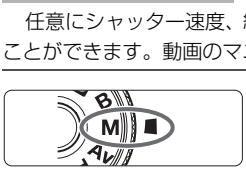
*1：AF方式を［+追尾優先AF］に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。

*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

マニュアル露出撮影

任意にシャッター速度、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は上級者向けの機能です。



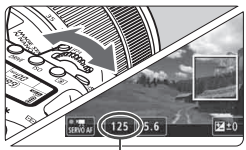
1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

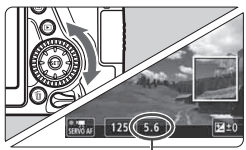


3 ISO感度を設定する

- 〈ISO〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに ISO 感度の設定画面が表示されます。
- 〈◌〉を回してISO感度を設定します。
- ISO感度については、次ページを参照してください。



シャッター速度



絞り数値

4 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッター速度は、〈◌〉を回して設定します。設定できる速度は、フレームレートにより異なります。
  - ・25.00P、23.98P　：1/4000～1/25秒
  - ・29.97P　：1/4000～1/30秒
  - ・50.00P　：1/4000～1/50秒
  - ・59.94P　：1/4000～1/60秒
- 絞り数値は〈◌〉を回して設定します。
- 設定できないときは、〈**LOCK**〉スイッチを下側にしてから〈◌〉または〈◌〉を回します。

5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです(p.294)。

マニュアル露出撮影時のISO感度について

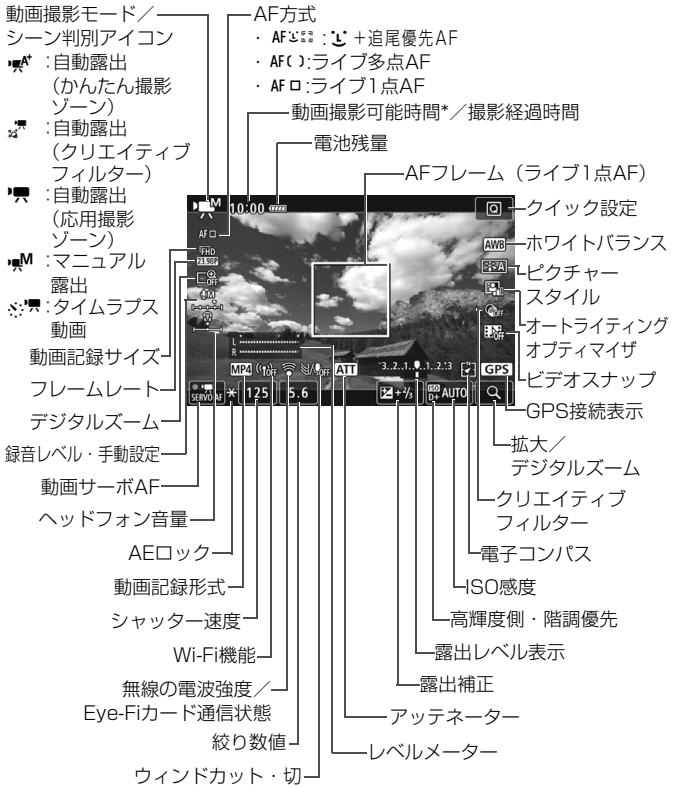
- ［Auto］（A）のときは、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。なお［**2：ISO感度に関する設定**］の［**動画撮影の範囲**］の［**上限値**］を［**H(25600)**］に設定すると、自動設定範囲の上限がH（25600相当）まで拡張されます。なお、［**下限値**］にISO200以上、［**上限値**］にISO3200以下が設定されていても、ISO100～6400の間で、自動設定されます（p.332）。
- 手動設定のときは、ISO100～12800の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。［**2：ISO感度に関する設定**］の［**動画撮影の範囲**］の［**上限値**］を［**H(25600)**］に設定すると、手動設定範囲の上限がH（25600相当）まで拡張されます（p.332）。
- ［**3：高輝度側・階調優先**］を［**する**］に設定したときは（p.174）、ISO感度がISO200～12800になります。
- 動画撮影時は、［**2：ISO感度に関する設定**］の［**オートの範囲**］［**オートの低速限界**］は設定できません（p.152～153）。

- 動画撮影時のISO16000は、ノイズが多いことがあるため拡張ISO感度になります（「**H**」表示）。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にISO感度の設定を再確認してください。
- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/30 ～ 1/125 秒程度のシャッター速度をおすすめします。シャッター速度を速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッター速度を変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- ［**C.FnIII-4：操作ボタンカスタマイズ**］で［**SET：露出補正（押しながら）**］に設定すると（p.437）、ISOオート設定時に露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示（p.300）で確認することができます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

情報表示について

●〈**INFO.**〉ボタンを押すたびに、情報表示内容が切り換わります。



* 1回の撮影可能時間です。

- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、水準器を表示することができます（p.72）。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押したときに表示する内容を編集することができます（p.262）。
- AF方式が［**+追尾優先AF**］のときと、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続（p.373）したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

ファイナルイメージシミュレーションについて

ファイナルイメージシミュレーションは、ピクチャースタイルやホワイトバランスなどの効果を映像で確認できる機能です。

動画撮影時に映像を表示すると、下記に示した機能の設定効果が、自動的に反映されて表示されます。

動画撮影時のファイナルイメージシミュレーション機能

- ピクチャースタイル
  * シャープネス（強さ）、コントラスト、色の濃さ、色あいが反映されます。
- ホワイトバランス
- ホワイトバランス補正
- 露出
- 被写界深度（タイムラプス動画撮影時を除く）
- オートライティングオプティマイザ
- 周辺光量補正
- 色収差補正
- 高輝度側・階調優先
- HDR動画
- クリエイティブフィルター

静止画撮影について

動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 動画撮影中にシャッターボタンを半押ししてAFを行うと、以下の現象が起きることがあります。
  - ・一時的にピントが大きくぼける
  - ・動画の明るさが変化して記録される
  - ・動画が一瞬停止して記録される
  - ・レンズの作動音が記録される
- 〈AWB〉〈AWB W〉の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。
- 動画撮影中に〈🔍〉ボタンを押しても、拡大表示はできません。
- 内蔵マイク（p.294）を指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- **動画撮影全般の注意事項は、343〜344ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて290〜291ページの『ライブビュー撮影全般の注意事項』もお読みください。**

⚠ **警告**

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

動画撮影時共通事項

- [4] [5] タブで、動画撮影に関する設定を行うことができます（p.326）（かんたん撮影ゾーンでは［2］［3］タブ）。
- 1回撮影するごとに、1ファイルが記録されます。ファイルサイズが4GBを超えるときは、約4GBごとに新たなファイルが作成されます（p.309）。
- 映像の視野率は、約100%（動画記録サイズ［1920×1080］時）です。
- 〈AF-ON〉ボタンでピントを合わせることもできます。
- 音声は、カメラに内蔵されたマイクでステレオ録音されます。
- 外部マイク入力端子（p.26）に、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。
- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nで動画撮影できる時間は、常温（＋23℃）：合計約1時間50分、低温（0℃）：合計約1時間40分です（［4:動画サーボAF:しない］設定時）。
- 2011年下期以降に発売されたフォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

撮影機能の設定

AF／ISO設定

液晶モニターに映像が表示された状態で〈AF〉ボタンを押すと、液晶モニターに設定画面が表示され、〈〉を回してAF方式の設定を行うことができます。

- マニュアル露出撮影時（p.298）に〈ISO〉ボタンを押すと、ISO 感度を設定することができます。
- 〈DRIVE〉ドライブモード、〈〉測光モードは設定できません。

Q クイック設定

応用撮影ゾーンでは、**AF方式**／**動画記録サイズ**／**デジタルズーム**／録音レベル（マニュアル設定時のみ）／**音量**（ヘッドフォン）／ホワイトバランス／ピクチャースタイル／オートライティングオプティマイザ／クリエイティブフィルター／**ビデオスナップ**の設定を行うことができます。

かんたん撮影ゾーンのときは、太字の項目のみ設定できます。



1 **〈Q〉ボタンを押す**（⏱10）

➡ 設定できる項目が表示されます。

● ［**HDR動画撮影**］は、かんたん撮影ゾーンのときのみ設定できます（p.314）。

2 **機能を選んで設定する**

● 〈▲〉〈▼〉を押して機能を選びます。

➡ 機能の内容と、機能ガイド（p.75）が画面に表示されます。

● 〈◄〉〈►〉を押して設定します。

● オートホワイトバランスの設定を行うときは、［AWB］を選んだ状態で〈(SET)〉を押します。

● WB補正、ピクチャースタイル、クリエイティブフィルターの詳細設定を行うときは、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

● 〈(SET)〉を押すと動画撮影に戻ります。

● ［⮌］を選んで、動画撮影に戻ることもできます。

MENU 動画記録画質の設定



［📷4：**動画記録画質**］で、動画記録形式、動画記録サイズ（画像サイズ、フレームレート、圧縮方式）などを設定することができます（かんたん撮影ゾーンでは［📷**2**］タブ）。

MOV/MP4

動画の記録形式を選ぶことができます。



MOV MOV

MOV形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MOV」）。パソコンなどでの編集などに適しています。

MP4 MP4

MP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。MOV形式よりも再生互換性が高いファイル形式です。

動画記録サイズ

動画の画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を選ぶことができます。



● **画像サイズ**

FHD 1920×1080

フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の縦横比は16：9です。

HD 1280×720

ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の縦横比は16：9です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

29.97P 29.97fps／59.94P 59.94fps

テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

25.00P 25.00fps／50.00P 50.00fps

テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

23.98P 23.98fps

主に映画関連で使用します。

動画記録サイズの画面に表示されるフレームレートは、[**3:ビデオ方式**]の[NTSC][PAL]の設定に応じて変わります（p.475）。23.98P（23.98fps）は、[NTSC]設定時のみ選択できます。

● **圧縮方式**

記録形式が、MOV形式のときは ALL-I に固定されます。MP4形式のときは、IPB または IPB を選択できます。

・MOV形式設定時

ALL-I **ALL-I**（編集用／I-only）

1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB（標準）／IPB（軽量）よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。

・MP4形式設定時

IPB **IPB**（標準）

複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。

IPB **IPB**（軽量）

IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。

［**3：ビデオ方式**］の設定を変更したときは、再度動画記録サイズの設定を行ってください。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

● MOV形式設定時 （約）

動画記録画質			カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ
			4GB	16GB	64GB	
FHD	29.97P 25.00P 23.98P	ALL-I	5分	23分	1時間33分	654MB/分

● MP4形式設定時 （約）

動画記録画質			カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ
			4GB	16GB	64GB	
FHD	59.94P 50.00P	IPB	8分	35分	2時間21分	431MB/分
	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	17分	1時間10分	4時間41分	216MB/分
	29.97P 25.00P	IPB	43分	2時間53分	11時間35分	87MB/分
HD	59.94P 50.00P	IPB	20分	1時間21分	5時間24分	184MB/分
	29.97P 25.00P	IPB	2時間5分	8時間20分	33時間22分	30MB/分
HDR動画撮影			17分	1時間10分	4時間41分	216MB/分

● **ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について**

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。

なお、再生時は、動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

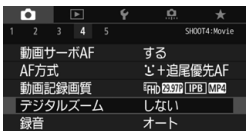
● カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.343）。
● 動画撮影中にファイルサイズが4GBを超えるときは、少しの間、表示パネルに「**buSY**」が表示されることがあります。

● **撮影時間の制限について**

1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈START/STOP〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

MENU 動画デジタルズームを使う

記録サイズが、FHD 29.97P / 23.98P（NTSC）、またはFHD 25.00P（PAL）のときに、デジタルズームで約3～10倍の望遠撮影ができます（〈◎〉モードを除く）。



1 ［デジタルズーム］を選ぶ

- ［4］タブの［**デジタルズーム**］を選び、〈(SET)〉を押します（かんたん撮影ゾーンでは［2］タブ）。



2 ［約3～10倍ズーム］を選ぶ

- ［**約3～10倍ズーム**］を選び〈(SET)〉を押します。
- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了し、動画撮影状態に戻ります。



3 デジタルズームを使う

- 〈▲〉〈▼〉を押します。
- ➡ デジタルズームバーが表示されます。
- 〈▲〉を押すと望遠側、〈▼〉を押すと広角側にズームします。
- シャッターボタンを半押しすると、［**ライブ1点AF**］（中央固定）でピント合わせが行われます。
- デジタルズームを解除するときは、手順2で［**しない**］を選びます。

- 手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。
- 動画デジタルズーム設定時の最高ISO感度はISO6400になります。
- 動画デジタルズームでは映像をデジタル処理するため、拡大するほど映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- 動画デジタルズーム設定時は、シーン判別のアイコンは表示されません。
- 284ページの『ピントが合いにくい撮影条件』も参照してください。

MENU 録音の設定



内蔵のステレオマイク、または指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。

［**4：録音**］で録音に関する設定を行います。

録音／録音レベル

［**オート**］　：録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

［**マニュアル**］：上級者向けの機能です。録音レベルを64段階で任意に調整することができます。

［**録音レベル**］を選び、レベルメーターを見ながら〈◌〉を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

［**しない**］　：録音は行われません。

ウィンドカット／アッテネーター

［**ウィンドカット**］：［**オート**］に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。内蔵マイク使用時のみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

［**アッテネーター**］：音割れを抑制する機能です。［**録音**］を［**オート**］または［**マニュアル**］に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは［**入**］に設定することをおすすめします。

● **マイクについて**

通常は内蔵マイクでステレオ録音されます。

外部マイク入力端子（p.26）に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を接続すると、外部マイクが優先され、ステレオ録音することができます。

● **ヘッドフォンについて**

ヘッドフォン端子（p.26）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のステレオヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。ヘッドフォンの音量を調整するときは、〈Q〉ボタンを押して〈∩〉を選び、〈◌〉を回して調整します（p.305）。

なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

● ヘッドフォン使用時の音声は、ノイズ低減処理が行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。
● 外部マイクを取り付けているとき、無線機能使用時に音にノイズが出ることがあります。なるべくカメラから外部マイクを離して使用してください。

● かんたん撮影ゾーンのときは、[**2：録音**]：[**する**／**しない**] になります。なお、[**する**] に設定したときは、録音レベルは自動調整され（[**オート**] と同じ）、ウィンドカットが行われます。
● L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
● サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

HDR動画を撮影する

明暗差が大きいシーンで、明るいところが白くなりすぎて、見えにくくなる（白とびする）のを緩和して動画を撮影することができます。かんたん撮影ゾーンで設定することができます（〈◎〉モードを除く）。

HDR動画は、MP4形式で、記録サイズが、FHD 29.97P IPB（NTSC）、またはFHD 25.00P IPB（PAL）のときに設定できます。

1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする



2 〈Q〉ボタンを押す（ぢ10）

➡ クイック設定の状態になります。



3 ［HDR OFF］を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉を押して画面の右側に表示された［HDR OFF］（HDR 動画撮影）を選びます。



4 ［する］を選ぶ

● 記録できる時間とファイルサイズは、309ページの表を参照してください。

- HDR動画は、複数のフレームを合成して画像を作成するため、画像の一部がゆがむ場合があります。手持ち撮影では、手ブレにより、この現象が目立つことがありますので、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生時には通常の再生時に比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見える場合があります。
- 動画デジタルズーム、ビデオスナップ、タイムラプス動画設定時は、HDR動画撮影は設定できません。

フィルター効果を付けて動画を撮影する

〈🎨〉（クリエイティブフィルター）モードでは、フィルター効果（5種類：メモリー／ファンタジー／オールドムービー／ダイナミックモノクローム／ジオラマ風動画）を付けて動画を撮影することができます。

記録サイズは、FHD 29.97P / 23.98P（NTSC）、または FHD 25.00P（PAL）に設定できます。



1 モードダイヤルを〈🎨〉にする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。



3 [🎨]を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉を押して画面左上の［🎨］（クリエイティブフィルター）を選び、〈(SET)〉を押します。



4 フィルター効果を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押してフィルター効果（p.317～318）を選び〈(SET)〉を押し、［OK］を選びます。

➡ フィルター効果が反映された映像が表示されます。

● ジオラマ風動画のときは、〈▲〉〈▼〉を押して、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させます。



5 フィルター効果の強さを調整する

- 〈Q〉ボタンを押して、[**クリエイティブフィルター**]の下のアイコンを選びます。
- 〈◄〉〈►〉を押して効果を調整し、〈(SET)〉を押します。
- ジオラマ風動画設定時は、再生時の速度（倍速）を選びます。

6 撮影する

- 拡大表示はできません。
- ヒストグラムは表示されません。
- 動画デジタルズーム、ビデオスナップ、タイムラプス動画は設定できません。

応用撮影ゾーンのときは、クイック設定でクリエイティブフィルターを設定することができます（p.305）。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **メモリー**

  遠い昔の記憶のような雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺の光量を落とした動画になります。効果を調整することで、画面全体の彩度や画面周辺の暗部の範囲を変えることができます。

- **ファンタジー**

  夢の中にいるような、幻想的でやわらかな雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺にモヤがかかったような動画になります。効果を調整することで、画面周辺のモヤがかかる範囲を変えることができます。

- **オールドムービー**

  映像の揺れや傷、明滅効果で古い映画のような雰囲気になります。画面の上下が黒くマスクされます。効果を調整することで、映像の揺れや傷の具合を変えることができます。

● **ダイナミックモノクローム**

黒と白の階調を際立たせ、力強い臨場感のある雰囲気になります。効果を調整することで、粒子のざらついた感じや白黒の感じを変えることができます。

● **ジオラマ風動画**

ジオラマ（ミニチュア模型）風の動画が撮影できます。再生時の速さを、選んでから撮影します。はっきり見せたい部分を変えることができます。手順4で〈⊕〉ボタンを押す（または画面右下の［⿻］をタッチする）と、白枠の縦／横を切り換えることができます。手順5で再生時の速度を、［**5倍速**］［**10倍速**］［**20倍速**］のいずれかに設定してから撮影します。AF方式はライブ1点AFで、白枠の中央にピントが合います。撮影中、白枠は表示されません。

倍速と再生時間の目安 （動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5倍速	約12秒
10倍速	約6秒
20倍速	約3秒

● 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。

〈 〉ジオラマ風動画について

● 音声は録音されません。
● 撮影時に音声は出力されませんので、ヘッドフォンを接続しても音声は聴こえません。
● 動画サーボAFは機能しません。
● 再生時間が1秒未満のジオラマ風動画は編集できません（p.367）。

タイムラプス動画を撮影する

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、MOV形式で、記録サイズは FHD 29.97P ALL-I（NTSC）、または FHD 25.00P ALL-I（PAL）で記録されます。

1 モードダイヤルを〈◎〉以外にする



2 [タイムラプス動画] を選ぶ

- [📷5] タブの [**タイムラプス動画**] を選び、〈(SET)〉を押します（かんたん撮影ゾーンでは [📷3] タブ）。



3 [する] を選ぶ

- [**する**] を選び、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。



4 撮影間隔、撮影回数を設定する

- 画面の下側に表示される［**：撮影所要時間**］［**▶：再生時間**］を参考にして設定します。
- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈☆〉の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

● **撮影間隔**

［00：00：01］～［99：59：59］の範囲で設定することができます。

● **撮影回数**

［0002］～［3600］の範囲で設定することができます。1桁ずつ設定します。3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

5 ［OK］を選ぶ

➡ 手順2の画面に戻ります。



6 設定内容を確認する

- 手順2の画面で［**タイムラプス動画**］が選ばれた状態で〈(SET)〉を押します。

➡ 設定した内容が表示されます。

● **撮影所要時間**

撮影間隔、撮影回数を基に撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

● **再生時間**

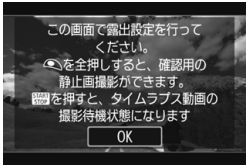
一定間隔で撮影した静止画から FHD 29.97P ALL-I（NTSC）、または FHD 25.00P ALL-I（PAL）の動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

● **カードの残量**

カードの残り容量に対して、タイムラプス動画として記録できる総時間です。

7 メニューを終了する

● 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。

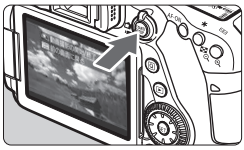


8 メッセージを確認する

● メッセージを確認して[OK]を選びます。

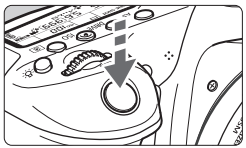
9 テスト撮影する

● ライブビュー撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
● シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像が記録されます。
● 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
● もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。



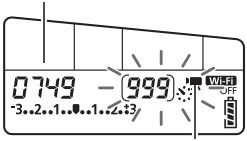
10 〈START/STOP〉ボタンを押す

➡ タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
● 手順9に戻るときは、もう一度〈START/STOP〉ボタンを押します。



11 タイムラプス動画を撮影する

- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中はAFは行われません。露出は1枚目と同じ設定で撮影されます。
- タイムラプス動画撮影中は、液晶モニターには何も表示されません。表示パネルに〈⁘〉が点滅します。
- 電子シャッターによる撮影のため、タイムラプス動画撮影中は、ミラーやシャッターの作動音はしません。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画の撮影が終了し、自動的に解除されます。



- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- タイムラプス動画撮影を途中で中止するときは、シャッターボタンを全押しするか、〈START/STOP〉ボタンを押します（設定が［**しない**］になります）。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影したタイムラプス動画は、通常の動画と同じようにこのカメラで再生できます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のときも同じように24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも動画ファイルが生成されます。そのとき［**再生時間**］は「00：00：00」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、電源にDCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6（別売）の使用をおすすめします。
- かんたん撮影ゾーンで撮影するときは、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（p.260）。

- [**する**]に設定されているときは、[**4：動画記録画質**]［**3：ビデオ方式**］の設定はできません。
- 動画デジタルズーム設定時は、設定できません。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、[**する**]を選ぶことはできません。
- 〈**P**/**Tv**/**Av**/**B**〉モード、および〈**M**〉モード+ISOオート設定時は、最高ISO感度がISO6400になります。
- 撮影モードが〈**Av**/**Tv**/**B**〉のときは〈**P**〉モード設定時と同じ動作になります。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッター速度は、1/4000～30秒の範囲になります。
- シャッター速度が1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや被写界深度など）。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- 撮影機能の設定は、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- 長秒時露光など、シャッター速度が撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。また、シャッター速度が撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。

- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、[**再生時間**]が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[**5：タイムラプス動画**]を[**しない**]に設定してください。[**する**]に設定されているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチ操作などが行われたときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が[**しない**]になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影待機状態が解除され、設定が[**しない**]になります。
  - [**3：ダストデリートデータ取得**][**3：センサークリーニング**][**4：カメラ設定初期化**][**4：ファームウェア**]を選んだとき
  - 撮影モード〈C1/C2〉を選んだとき
- タイムラプス動画撮影が終了すると、設定が自動解除され、通常の動画撮影に戻ります。タイムラプス動画撮影時に1/60秒よりも遅いシャッター速度に設定していたときは、設定が自動解除された際に、シャッター速度が（通常の動画撮影で設定可能な速度に）自動変更されることがありますので、注意してください。

フル充電のバッテリーパック LP-E6Nでタイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始から電池切れまで）の目安は、以下のとおりです。なお、撮影条件により、撮影可能時間は変動します。

タイムラプス動画撮影可能時間の目安　（約）

	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影間隔1秒	3時間50分	3時間20分
撮影間隔10秒	5時間	4時間30分

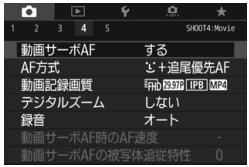
リモートコントローラー RC-6（別売／p.221）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。あらかじめ、[**5：リモコン撮影**]を［**する**］に設定しておいてください。

リモートコントローラー RC-6使用時の動作

カメラの状態／リモコン設定	〈2〉「2秒後撮影」	〈●〉「すぐに撮影」
テスト撮影画面	撮影待機状態へ	静止画撮影
撮影待機状態	テスト撮影画面へ	撮影開始
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

MENU メニュー機能の設定

4



ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にすると、[4] [5] タブが、動画撮影特有の項目として表示されます（かんたん撮影ゾーンでは [2] [3] タブ）。

● **動画サーボAF**

動画撮影のときに被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。初期設定では［**する**］に設定されています。

［する］設定時

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、以下の方法で動画サーボAFを一時的に停止することができます。動画サーボAFを停止すると、AFフレームが灰色に変わります。もう一度同じ操作を行うと、動画サーボが再開します。
  - ・画面左下の［SERVO AF］をタッチする
  - ・〈⚡〉ボタンを押す
  - ・［C.Fn III-4：**操作ボタンカスタマイズ**］で［**AF停止**］を割り当てたときは、そのボタンを押している間、動画サーボAFを停止することができます。ボタンを離すと、動画サーボAFが再開します。
- 動画サーボAFが停止しているときに、〈**MENU**〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

［しない］設定時

- シャッターボタンを半押しするか、〈**AF-ON**〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

● **AF方式**

276～285ページで説明しているAF方式と同じです。［**+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］［**ライブ1点AF**］が選択できます。

［動画サーボAF：する］設定時の注意事項

● **ピントが合いにくい撮影条件**
- 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
- 近距離で動いている被写体
- 284ページの『ピントが合いにくい撮影条件』も参照してください。

● 常にレンズが作動して電池を消耗するため、動画撮影できる時間（p.309）が短くなります。

● レンズの種類により、ピント合わせのための作動音が記録されることがあります。そのときは、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を使用することで、低減することができます。なお、一部のUSMレンズ（例：EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM）、および一部のSTMレンズ（例：EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM）使用時は、レンズの作動音が録音されにくくなっています。

● ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。

● 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

● 動画サーボAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にするときは、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉の位置にしてから操作してください。

● **動画記録画質**

動画記録形式（MOV／MP4）、動画記録サイズの設定を行うことができます。詳しくは、306ページを参照してください。

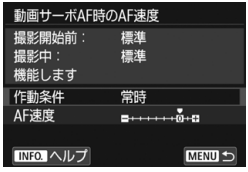
● **デジタルズーム**

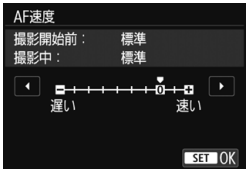
デジタルズームで望遠撮影ができます。詳しくは、311ページを参照してください。

● **録音**

録音に関する設定を行うことができます。詳しくは、312ページを参照してください。

● 動画サーボAF時のAF速度 応用





動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。

この機能は［**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF方式**］が［**ライブ1点AF**］のときに設定することができます。また、この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

作動条件：設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（［**常時**］）、動画撮影中のみ有効にするか（［**撮影中**］）を設定することができます。

AF速度：作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さから遅い方向に7段階、速い方向に2段階の調整を行うことができます。

***「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて**

2009年以降に発売されたUSMレンズ（例：EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM）、およびSTMレンズ（例：EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS STM）が対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

［**AF方式**］が［**ﾋﾞ+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］のときは、［**AF速度**］を［**標準 (0)**］に設定したときと同じ動作になります。

● 動画サーボAFの被写体追従特性 応用



動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、AFフレームが被写体から外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。

この機能は［**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF方式**］が［**ライブ1点AF**］のときに設定することができます。

粘る：-3/-2/-1

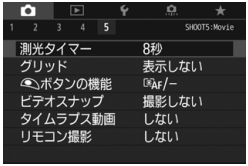
AFフレームが被写体から外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。－（マイナス）側に設定すると、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体にすぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

敏感：+1/+2/+3

AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。＋（プラス）側に設定すると、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

［**AF方式**］が［**ﾐ+追尾優先AF**］［**ライブ多点AF**］のときは、［**0**］に設定したときと同じ動作になります。

5



● **測光タイマー** 応用

露出値の表示時間（AEロック時の保持時間）を変えることができます。

● **グリッド**

［**9分割** ＋］または［**24分割** ］で格子線を表示して、水平、垂直の傾きを確認しながら撮影することができます。また、［**9分割+対角** ］では、格子線と対角線が表示され、水平、垂直の傾きの確認だけでなく、交点を被写体に合わせることで、バランスの良い構図で撮影することができます。

● **ボタンの機能**

動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。

項目	半押し	全押し
AF/-	測光・AF	無効
/-	測光のみ	無効
AF/	測光・AF	動画撮影の開始/終了
/	測光のみ	動画撮影の開始/終了

なお、［AF/］［/］に設定すると、〈START/STOP〉ボタンだけでなく、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-60E3（別売）で、動画撮影を開始／終了することができます（p.221）。

● ［**ボタンの機能**］を［/-］［/］に設定しても、タイムラプス動画撮影時は、シャッターボタンを半押しするとAFが行われます。
● ［**C.Fn III-4：操作ボタンカスタマイズ**］でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は［**ボタンの機能**］の設定が優先されます。

● **ビデオスナップ**

ビデオスナップを撮影することができます。詳しくは、333ページを参照してください。

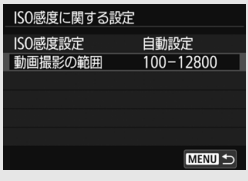
● **タイムラプス動画**

タイムラプス動画を撮影することができます。詳しくは、319ページを参照してください。

● **リモコン撮影**

［**する**］に設定すると、リモートコントローラー RC-6（別売／p.221）を使用して、動画撮影の開始/停止を行うことができます。表示パネルに［ ］が表示されます。撮影タイミングスイッチを〈**2**〉の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、［**ボタンの機能**］の設定で動作します。

動画撮影時のISO感度のメニューについて

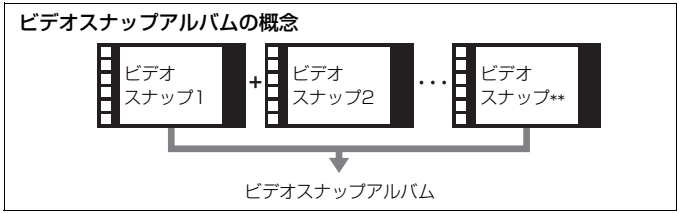


ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈 〉にすると、［**2：ISO感度に関する設定**］の設定項目が［**動画撮影の範囲**］に変わります。

MENU ビデオスナップを撮影する

1シーンが数秒間（約2/4/8秒）の短い動画「ビデオスナップ」（以下スナップ）を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの想い出を、1つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」（以下アルバム）を作ることができます。

できあがったアルバムは、BGM（音楽）と一緒に再生することもできます（p.340、372）。



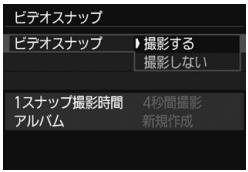
1スナップの撮影時間を決める

1 モードダイヤルを〈🌀〉以外にする

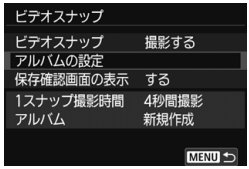


2 ［ビデオスナップ］を選ぶ

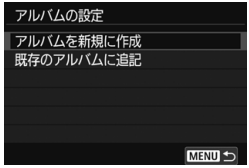
- ［📷5］タブの［**ビデオスナップ**］を選び、〈(SET)〉を押します（かんたん撮影ゾーンでは［📷3］タブ）。



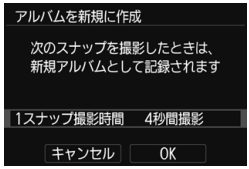
3 ［撮影する］を選ぶ



4 [アルバムの設定] を選ぶ



5 [アルバムを新規に作成] を選ぶ



6 1スナップの撮影時間を設定する

- 〈(SET)〉を押して、〈▲〉〈▼〉で1スナップの撮影時間を選び、〈(SET)〉を押します。



7 [OK] を選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。
- ➡ 画面に撮影時間を示す青いバーが表示されます。
- 『スナップを撮影してアルバムを作る』に進みます（p.335）。

スナップを撮影してアルバムを作る



8 最初のスナップを撮影する

- 〈START/STOP〉ボタンを押して撮影します。
- ➡ 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- ➡ 確認画面が表示されます(p.336～337)。



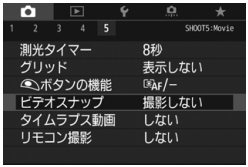
9 アルバムとして保存する

- [**アルバムとして保存**]を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ アルバムの先頭スナップとして保存されます。



10 続けてスナップを撮影する

- 手順8と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- [**アルバムに追加する**]を選び、〈SET〉を押します。
- 別のアルバムを作るときは、[**新しいアルバムとして保存**]を選びます。
- 必要に応じて手順10を繰り返します。

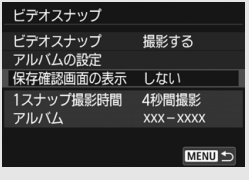


11 ビデオスナップ撮影を終了する

- [**ビデオスナップ**]を[**撮影しない**]に設定します。**通常の動画を撮影するときは、[撮影しない]に設定してください。**
- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影に戻ります。

手順9、手順10の画面について

項目	内容
アルバムとして保存 （手順9）	アルバムの最初のスナップとして保存します。
アルバムに追加する （手順10）	いま撮影したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
新しいアルバムとして保存 （手順10）	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存します。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
撮影したスナップを再生する （手順9、手順10）	いま撮影したスナップを再生します。再生操作の内容は、次ページの表を参照してください。
アルバムとして保存しない （手順9） **アルバムに追加しないで消去** （手順10）	いま撮影したスナップをアルバムに保存しないで消去します。確認画面で［OK］を選びます。



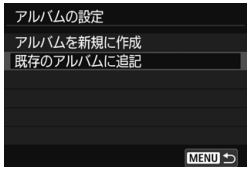
1スナップの撮影後、すぐに次のスナップ撮影を行いたい場合は［**保存確認画面の表示**］を［**しない**］に設定します。この設定にしておくと、撮影直後に確認画面が表示されないので、すぐに次の撮影を行うことができます。

手順9、手順10の［撮影したスナップを再生する］の再生操作

項目	再生内容
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに、いま撮影したスナップの再生／停止を繰り返します。
⏮ 先頭フレーム	アルバムの最初のスナップの先頭画面を表示します。
⏮ 前スキップ*	〈(SET)〉を押すたびに、数秒前の画面に戻します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 次スキップ*	〈(SET)〉を押すたびに、数秒後の画面に送ります。
⏭ 最終フレーム	アルバムの最後のスナップの最終画面を表示します。
▬▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
音量	〈(dial)〉を回すと、内蔵スピーカー（p.365）の音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

*［前スキップ］［次スキップ］は、撮影時に設定した［ビデオスナップ］の時間（約2/4/8秒間撮影）分、画面を戻したり、送ったりします。

既存のアルバムに追記する



1 [既存のアルバムに追記] を選ぶ

● 334ページの手順5で［**既存のアルバムに追記**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 既存のアルバムを選ぶ

● 〈◯〉を回して既存のアルバムを選び、〈(SET)〉を押します。
● ［**OK**］を選び〈(SET)〉を押します。
➡ 一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。
● 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了します。
➡ ビデオスナップの撮影画面が表示されます。

3 スナップを撮影する

● 『スナップを撮影してアルバムを作る』（p.335）を参照し、スナップを撮影します。

他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

ビデオスナップ撮影全般の注意事項

- MOV形式が選択されているときは、ビデオスナップは設定できません。
- 1つのアルバムには、同じ撮影時間（約2/4/8秒のいずれか）のスナップしか追加できません。
- スナップ撮影の途中で、以下の操作を行うと、次に撮影するスナップから新規のアルバムになります。
  - ［**動画記録サイズ**］を変更したとき
  - ［**録音**］の設定を、［**オート/マニュアル**］から［**しない**］、または［**しない**］から［**オート/マニュアル**］に変更したとき
  - ファームウェアの変更を行ったとき
- 1スナップの撮影時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ズレが生じる場合があります。

アルバムを再生する

できあがったアルバムは、通常の動画と同じ方法で再生することができます（p.365）。



1 動画を再生する

● 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。



2 アルバムを選ぶ

● 1枚表示のときに、画面左上に［SET］が表示されている画像がアルバムです。
● 〈◌〉を回してアルバムを選びます。



3 再生する

● 〈(SET)〉を押します。
● 表示された動画再生パネルの［▶］（再生）を選び、〈(SET)〉を押します。

BGMについて

- カメラでアルバムや通常の動画を再生するときや、スライドショーで再生するときに、BGMと一緒に再生することができます（p.366、372）。あらかじめEOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、BGMをカードにコピーしておく必要があります。カードへのコピー方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。
- メモリーカードに取り込んだ音楽は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。十分ご注意ください。

アルバムを編集する

撮影後に、アルバム内のスナップの順序の入れ替えや、削除、再生をすることができます。



1 ［✂］を選ぶ

- 動画再生パネルの［✂］（編集）を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 編集画面が表示されます。



2 編集内容を選ぶ

- 編集項目を選び〈(SET)〉を押します。

項目	内容
⇄ スナップ移動	〈◄〉〈►〉で移動したいスナップを選び、〈(SET)〉を押します。〈◄〉〈►〉で移動し〈(SET)〉を押します。
🗑 スナップ削除	〈◄〉〈►〉で削除したいスナップを選び、〈(SET)〉を押します。選択したスナップに、［🗑］が表示されます。もう一度〈(SET)〉を押すと、選択が解除され［🗑］が消えます。
► スナップ再生	〈◄〉〈►〉で再生したいスナップを選び、〈(SET)〉を押します。



3 アルバムを保存する

- 〈**MENU**〉ボタンを押して、画面下の編集パネルに戻ります。
- [🖫]（保存）を選んで〈(SET)〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別のアルバムとして保存するときは［**新規保存**］、編集前のアルバムを残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈(SET)〉を押します。

- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、アルバムの編集はできません。フル充電した電池を使用してください。

動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇にともなう、赤い〈🔥〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い〈🔥〉が表示されます。
- 赤い〈🔥〉は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、〈🔥〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、電池が消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）を使用すると、これらの音を録音しないように（低減）することができます。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（MOV/MP4形式に対応していても）再生できないことがあります。

動画撮影全般の注意事項

記録と画質について

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側に5段階のインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーターがフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
  書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。



再生とテレビ接続について

- カメラとテレビを接続（p.373）して動画撮影を行うと、撮影中テレビから音は出ません。ただし、音声は正常に記録されます。

MP4形式の動画の制約について

MP4形式の動画には、一般的に以下の制約事項がありますので、ご了承ください。

- 最後の約2フレームには、音が記録されません。
- Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

9

画像の再生

この章では、撮影した画像や動画をカメラで再生・消去する方法や、テレビで見る方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

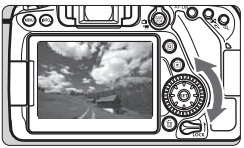
▶ 画像を再生する

1枚表示



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

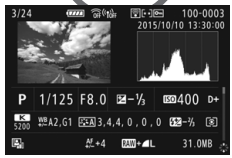
- 〈◎〉を左に回すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



情報表示なし



簡易情報表示



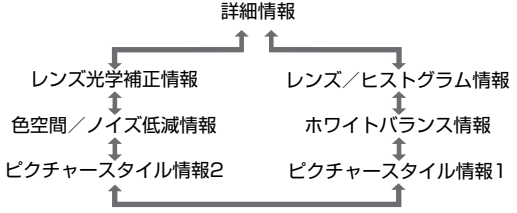
撮影情報表示

3 再生を終了する

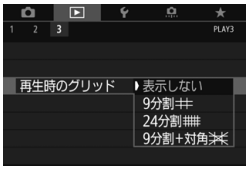
● 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

撮影情報表示について

撮影情報表示の画面(p.346)が表示されている状態で〈▲〉〈▼〉を押すと、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。詳しくは349～350ページを参照してください。



MENU グリッド表示について



1枚表示のときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。

［▶3:**再生時のグリッド**］で［**9分割**］［**24分割**］［**9分割+対角**］から選ぶことができます。

撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

動画再生時にグリッドは表示されません。

INFO.: 撮影情報の内容

表示される内容は、撮影モードや設定によって異なります。

静止画の例

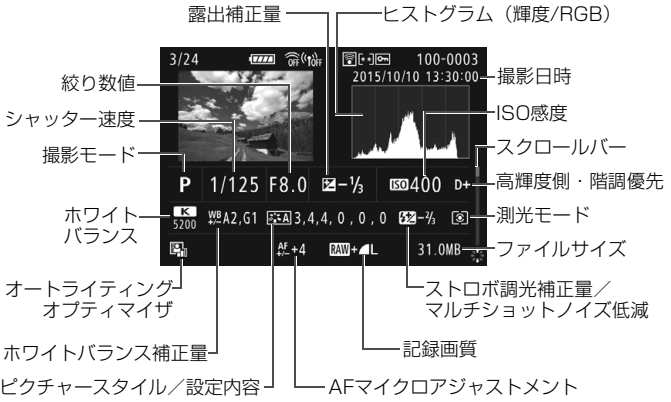
● **簡易情報表示**



● 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
● このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

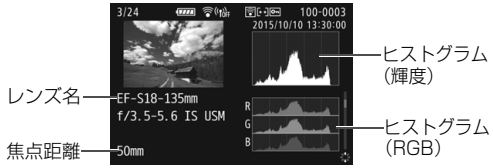
● **撮影情報表示**

・**詳細情報**



* RAW+JPEGの設定で撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、〈⚡〉が表示されます。
* HDR撮影を行った画像は、〈**HDR**〉とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
* 多重露出撮影を行った画像は、〈▣〉が表示されます。
* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、〈NR▣〉が表示されます。
* タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、〈▣〉が表示されます。
* クリエイティブフィルター機能で撮影した画像、画像加工（RAW 現像、リサイズ処理、クリエイティブフィルター）を行って保存した画像は、〈▣〉が表示されます。
* トリミングを行って保存した画像は、〈▣〉と〈▣〉が表示されます。

・**レンズ／ヒストグラム情報**



・**ホワイトバランス情報**



・**ピクチャースタイル情報1**



・**ピクチャースタイル情報2**



・**色空間／ノイズ低減情報**



・**レンズ光学補正情報**



GPSレシーバー GP-E2を使用して、画像にGPS情報が記録されているときは、「GPS情報」の画面も表示されます。

動画の例



* シャッター速度、絞り数値、ISO感度（任意設定時）は、マニュアル露出で撮影したときに表示されます。

* ビデオスナップ撮影を行った動画のときは、〈🎞〉が表示されます。

* HDR動画を撮影したときは、〈HDR〉が表示されます。

動画再生時、［**ピクチャースタイル**］の［**シャープネス**］の［**細かさ**］［**しきい値**］は、「*, *」と表示されます。

● **ハイライト警告表示について**

［▶**3：ハイライト警告表示**］を［**する**］に設定すると、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

● **AFフレーム表示について**

［▶3：**AFフレーム表示**］を［**する**］に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数同時に表示されることがあります。

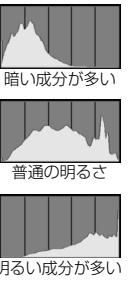
● **ヒストグラムについて**

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、［▶3：**ヒストグラム**］で行います。

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



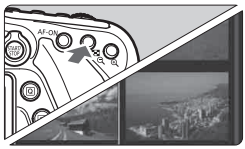
［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

▶ 見たい画像を素早く探す

⊠ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚／9枚／36枚／100枚の画像を表示することができます。



1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈⊠·🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- さらに〈⊠·🔍〉ボタンを押すと、9枚→36枚→100枚表示になります。〈🔍〉ボタンを押すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。





2 画像を選ぶ

- 〈◎〉を回してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して選ぶこともできます。
- 〈☁〉を回すと、1画面分先、または前の画像が表示されます。
- インデックス表示の状態で〈(SET)〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。



1 [での画像送り]を選ぶ

● [▶2]タブの[**での画像送り**]を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ジャンプ方法を選ぶ

● ジャンプ方法を選び〈(SET)〉を押します。



- 1：**1枚ずつ画像表示**
- 10：**10枚飛びに画像表示**
- 100：**100枚飛びに画像表示**
- ：**撮影日を切り換えて画像を表示**
- ：**フォルダを切り換えて画像を表示**
- ：**動画だけを表示**
- ：**静止画だけを表示**
- ：**指定したレーティング**（p.359）**の画像を表示**

〈 〉を回して選びます。



ジャンプ方法

再生位置

3 画像送りをする

● 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。

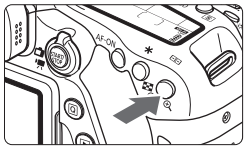
● 1枚表示の状態で〈 〉を回します。

➡ 設定した方法で画像が送られます。

● [**撮影日**]は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
● [**フォルダ**]は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
● [**動画**][**静止画**]は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。
● [**レーティング**]で対象となる画像がないときは、〈 〉を回しても画像送りは行われません。

拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

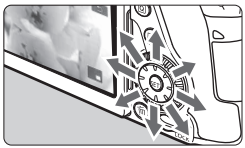




拡大表示位置

1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈🔍+〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。
- 〈🔍+〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈🔍-〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。





2 表示位置を移動する

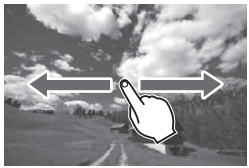
- 〈✣〉を操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

- 〈◌〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後の画像表示中からの拡大表示はできません。
- 動画は拡大表示できません。

画面にタッチして再生する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、いろいろな再生を行うことができます。**まず、〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。**

画像を送る

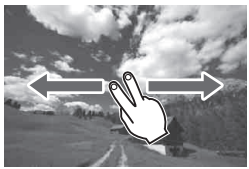




指1本でドラッグする

- 1枚表示のときは「**指1本**」で液晶モニターに触れます。指を左または右に動かすと1枚ずつ画像が送られます。
  左に動かすと新しい画像、右に動かすと古い画像が表示されます。
- インデックス表示のときも「**指1本**」で液晶モニターに触れます。指を上または下に動かすと1画面ずつ画像が送られます。
  上に動かすと新しい画像、下に動かすと古い画像が表示されます。
  画像を選んで、オレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）



指2本でドラッグする

液晶モニターに「**指2本**」で触れ、指を左または右に動かすと、[▶2] タブの [**での画像送り**] で設定されている方法で、画像を飛ばして表示することができます。

画像を縮小表示する（インデックス表示）

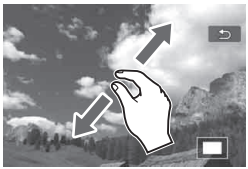


2本の指を閉じる

指2本を広げた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を閉じます。

- 指を閉じるたびに、1枚表示からインデックス表示になります。指を開くと逆の動作になります。
- 画像を選んでオレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

画像を拡大表示する



2本の指を開く

指2本を閉じた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を開きます。

- 指を開くたびに、拡大されます。
- 最大約10倍に拡大できます。
- 指を動かすと、表示位置を移動することができます。
- 指を閉じると縮小します。
- [⮌] をタッチすると、1 枚表示に戻ります。

カメラとテレビを接続して（p.373）、撮影した画像をテレビで再生しているときも、液晶モニターにタッチして操作することができます。

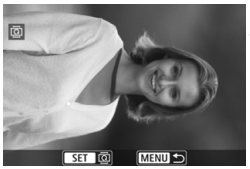
回転させる

画像が表示される向きを変えたいときに、この方法で回転させることができます。



1 ［画像回転］を選ぶ

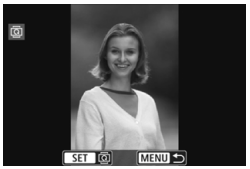
● ［▶1］タブの［**画像回転**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 画像を選ぶ

● 〈◌〉を回して回転する画像を選びます。

● インデックス表示（p.353）にして選ぶこともできます。



3 画像を回転する

● 〈(SET)〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。

● 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

● ［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］（p.387）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。

● 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、［**1：縦位置画像回転表示**］を［**する** 凵］に設定します。

● 動画は回転できません。

MENU レーティングを設定する

撮影した画像（静止画/動画）に、5種類のお気に入りマーク（[•]/[•]/[•]/[•]/[•]）を付加することができます。この機能をレーティングといいます。

* レーティングは、「評価」や「等級」などの意味です。



1 [レーティング] を選ぶ

● [▶2] タブの [**レーティング**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 画像を選ぶ

● 〈◯〉を回して、お気に入りマークを付ける画像を選び、〈(SET)〉を押します。

● 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈🔍〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。



3 レーティングを設定する

● 〈▲〉〈▼〉を押して、お気に入りマークを選びます。

➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。

● 他にお気に入りを設定する画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

お気に入りマークの横にある数値は、3桁（999枚）までしか表示されません。1000枚を超えると、[###]と表示されます。

レーティングの利用方法

- [▶2：**での画像送り**]で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。
- [▶2：**スライドショー**]で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを再生することができます。
- パソコンのOSによっては、ファイルの詳細表示や、標準装備された画像表示機能で再生したときに、お気に入りマークを確認することができます（JPEG画像のみ）。

Q 再生時のクイック設定

再生時に〈Q〉ボタンを押すと、再生しながら［**：画像プロテクト**］［：画像回転］［**★：レーティング**］［RAW JPEG：RAW現像］［：クリエイティブフィルター］［：リサイズ（JPEG画像のみ）］［：トリミング（JPEG画像のみ）］［**：ハイライト警告表示**］［**：AFフレーム表示**］［：**での画像送り**］［**：スマートフォンへ画像を送信***］の設定を行うことができます。

なお、動画のときは、太字の項目のみ設定できます。

*［**1：無線通信の設定**］の［**Wi-Fi/NFC**］が［**使わない**］に設定されているときは選択できません。



1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。

➡ クイック設定の項目が表示されます。



2 項目を選んで設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して、項目を選びます。

➡ 選んだ項目と設定内容が、画面下側に表示されます。

- 〈◄〉〈►〉を押して、設定を変更します。
- RAW現像（p.390）、クリエイティブフィルター（p.399）、リサイズ（p.395）、トリミング（p.397）、スマートフォンへ画像を送信は、さらに〈SET〉を押して設定します。
- での画像送り：レーティング（p.354）は、〈**INFO.**〉を押して設定します。
- キャンセルするときは、〈**MENU**〉ボタンを押します。

3 設定を終了する

● 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定が終了します。

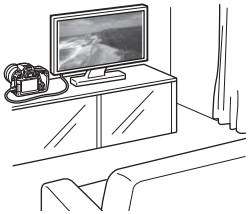
画像回転を行うときは、[**1：縦位置画像回転表示**]を[**する 凵**]に設定してください。[**1：縦位置画像回転表示**]が[**する 凵**][**しない**]に設定されているときは、[**画像回転**]で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定状態になります。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

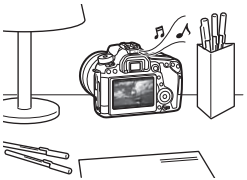
テレビに接続して再生する (p.373)



HDMIケーブル HTC-100でカメラとテレビを接続して、撮影した動画や静止画をテレビで再生することができます。

- ハードディスクレコーダーは、HDMI入力端子を備えていないため、HDMIケーブルでカメラとレコーダーを接続することはできません。
- USBケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラの液晶モニターで再生する (p.365～372)



カメラの液晶モニターで動画を再生することができます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画を、スライドショーで自動再生することもできます。

- パソコンで編集した動画をカードに書き戻して、カメラで再生することはできません。

パソコンで再生・編集する



カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、（カメラで撮影した動画の記録形式に対応した）OS標準のソフトウェアや汎用ソフトウェアで、動画の再生・編集を行うことができます。

市販のソフトウェアで再生・編集するときは、MOV形式、MP4形式の動画に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する



1 画像を再生する

● 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。



2 動画を選ぶ

● 〈◌〉を回して再生する動画を選びます。

● 1枚表示のときに、画面左上に〈SET 🎥〉が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画のときは〈SET 📷〉が表示されます。

● インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈㊗〉を押して1枚表示にします。**



3 1枚表示の状態で〈㊗〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。



4 動画を再生する

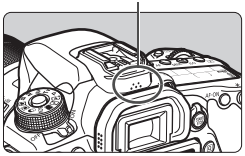
● [▶](再生)を選び〈㊗〉を押します。

➡ 動画再生が始まります。

● 再生中に〈㊗〉を押すと、一時停止します。もう一度押すと再開します。

● 〈◌〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。

● 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。



● ヘッドフォンで動画の音声を聴くときは、耳を痛めないように、音量を下げてから取り付けてください。

● 他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
♫ BGM選択*	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます（p.372）。
✂ 編集	編集画面を表示します（p.367）。
▬▬▬	再生位置
mm'ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒）
音量	〈〉を回すと、内蔵スピーカー（p.365）の音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと、1枚表示の状態に戻ります。

* BGMを設定すると、動画に録音されている音声は再生されません。

- フル充電のバッテリーパック LP-E6Nで連続再生できる時間は、常温（+23℃）で約3時間40分です。
- ヘッドフォン端子（p.26）に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画の音声を聴くことができます（p.313）。
- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（p.373）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈〉を回しても音量は変わりません）。なお、ハウリングが起きたときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。

タッチパネルで再生する



画面中央の［▶］をタッチする

➡ 動画再生が始まります。

- 画面左上の〈SET〉をタッチすると、動画再生パネルが表示されます。
- 再生中に画面をタッチすると、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。

✂ 動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。



1 動画再生画面で［✂］を選ぶ

➡ 画面の下に動画編集パネルが表示されます。





2 削除する範囲を指定する

- ［✂□］（前部を削除）か、［□✂］（後部を削除）を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと、フレームが送られます。押したままにすると、早送りになります。〈◎〉を回すと、1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。上部に白く表示された範囲が残ります。



3 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈(SET)〉を押すと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順2の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈**MENU**〉ボタンを押し、確認画面で［**OK**］を選びます。



4 保存する

- ［🖫］を選んで〈(SET)〉を押します。
- ➡ 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは［**新規保存**］、編集前の動画を残さないときは［**上書き保存**］を選択して、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で［**OK**］を選び〈(SET)〉を押すと、編集した動画が保存され、動画再生画面に戻ります。

- 約1秒単位（画面上部の［✂］が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- カードの空き容量が少ないときは、［**新規保存**］は選択できません。
- 電池の残量が少ないときは、動画編集はできません。フル充電した電池を使用してください。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。

MENU 自動再生する（スライドショー）

カードに記録されている画像を自動的に連続再生します。



1 ［スライドショー］を選ぶ

● ［▶2］タブの［**スライドショー**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 再生する画像を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉を押して図に示した項目を選び、〈(SET)〉を押します。

全画像/動画/静止画

● 〈▲〉〈▼〉を押して［**全画像**］［**動画**］［**静止画**］のいずれかを選び〈(SET)〉を押します。

日付/フォルダ/レーティング

● 〈▲〉〈▼〉を押して［**日付**］［**フォルダ**］［**★ レーティング**］のいずれかを選びます。

● 〈**INFO.**〉が明るく表示された状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押します。

● 〈▲〉〈▼〉を押して内容を選び、〈(SET)〉を押します。

［日付］



［フォルダ］



［レーティング］



項目	再生内容
全画像	カード内のすべての静止画、動画を再生します。
日付	選んだ撮影日の静止画、動画を再生します。
フォルダ	選んだフォルダ内にある静止画、動画を再生します。
動画	カード内の動画だけを再生します。
静止画	カード内の静止画だけを再生します。
★レーティング	選んだお気に入りマークが付いた静止画、動画を再生します。



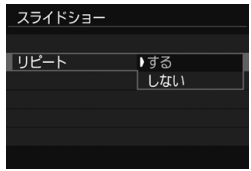
3 ［設定］の内容を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して［**設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- 静止画の［**再生間隔**］と［**リピート**］（繰り返し再生）、［**切り換え効果**］（画像を切り換える際の演出効果）、［**BGM選択**］を設定します。
- BGM選択の設定方法は、372ページを参照してください。
- 設定が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。

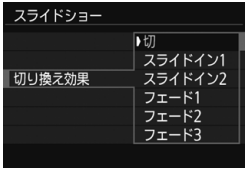
［再生間隔］



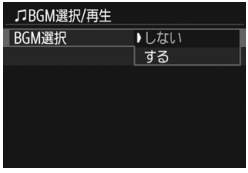
［リピート］



［切り換え効果］



［BGM選択］





4 スライドショーを開始する

● 〈▲〉〈▼〉を押して［**スタート**］を選び、〈㊾〉を押します。

➡［**画像読み込み中...**］が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

● 〈**MENU**〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

● 一時停止したいときは〈㊾〉を押します。一時停止中は画像の左上に［**II**］が表示されます。再度〈㊾〉を押すと再開します。
● 静止画を自動再生しているときに〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（p.346）。
● 動画再生中に〈⚙〉を回すと、音量を調節することができます。
● 自動再生中、または一時停止中に〈◎〉を回すと、画像が切り換わります。
● 自動再生中、オートパワーオフ機能は働きません。
● 画像により表示時間が異なる場合があります。
● テレビでスライドショーを見るときは、373ページを参照してください。

BGMを選択する

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、BGMをカードにコピーすると、BGMを流しながらスライドショーを行うことができます。



1 ［BGM選択］を選ぶ

- ［**BGM選択**］で［**する**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- カードに BGM が入っていないときは、手順2の操作はできません。

2 音楽を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して音楽を選び、〈(SET)〉を押します。音楽を複数選ぶこともできます。

3 試聴する

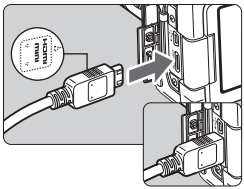
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、試聴することができます。
- 〈▲〉〈▼〉を押すと、曲を切り換えられます。再度〈**INFO.**〉ボタンを押すと、停止します。
- 〈◌〉を回すと、音量を調節することができます。
- 音楽を削除するときは、〈▲〉〈▼〉を押して音楽を選び、〈🗑〉ボタンを押します。

購入時にカメラにBGMは入っていません。BGMをカードにコピーする方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

テレビで見る

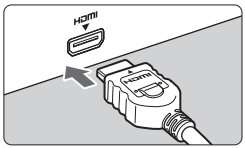
カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

なお、テレビに映像が表示されないときは、［**3：ビデオ方式**］の［**NTSC**］［**PAL**］の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

● プラグの〈**▲HDMI MINI**〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

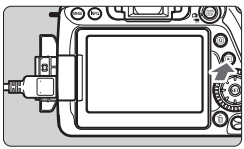


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

● HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

● 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

● 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、表示を切り換えることができます。

● 動画の再生方法は、365 ページを参照してください。

- 動画再生時の音量は、テレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。

HDMI CEC対応のテレビについて

HDMI機器制御機能（HDMI CEC*）対応のテレビとカメラをHDMIケーブルで接続すると、テレビのリモコンで再生操作ができます。

* HDMI規格で決められた相互機器制御機能のことです。



1 [HDMI機器制御] を選ぶ

- [▶3] タブの [**HDMI 機器制御**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 [入] を選ぶ

3 テレビとカメラを接続する

- HDMIケーブルでテレビとカメラを接続します。

➡ テレビの入力がカメラを接続したHDMI端子に自動的に切り換わります。切り換わらないときは、テレビのリモコンなどを操作して、接続したHDMIの入力端子を選びます。

4 カメラの〈▶〉ボタンを押す

➡ テレビに画像が表示され、テレビのリモコンで画像が再生できるようになります。

5 画像を選ぶ

● リモコンをテレビに向けて ←/→ ボタンを押すと、画像を選ぶことができます。

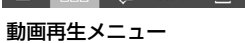
6 リモコンの決定ボタンを押す

➡ メニューが表示され、左図に示す再生を行うことができます。

● ←/→ ボタンで項目を選び、決定ボタンを押します。スライドショー選択時は、↑/↓ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押します。

● [**戻る**] を選択し、決定ボタンを押すと、メニューが消え、←/→ボタンで画像が選べるようになります。

静止画再生メニュー



動画再生メニュー



- ⮌ ：戻る
- ▦ ：9枚インデックス表示
- ▶ ：動画再生
- ⟳ ：スライドショー
- **INFO.**：撮影情報の切り換え
- ⟲ ：画像回転

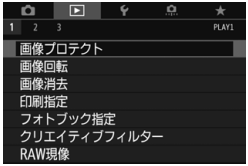
● テレビによっては、HDMI機器制御機能を有効にする必要があります。詳しくはテレビの使用説明書を参照してください。

● HDMI機器制御機能に対応したテレビでも、正しく操作できないことがあります。そのときは、[▶3 : **HDMI機器制御**] を [**切**] にして、カメラ側で再生操作を行ってください。

保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないように、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

MENU 画像を選択して1枚ずつプロテクト



1 ［画像プロテクト］を選ぶ

● ［▶1］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［画像を選択］を選ぶ

➡ 画像が表示されます。



3 プロテクトをかける

● 〈◯〉を回してプロテクトをかける画像を選び、〈(SET)〉を押します。

➡ 画像がプロテクトされ、画面の上に〈🔑〉が表示されます。

● もう一度〈(SET)〉を押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。

● 他にプロテクトをかけたい画像があるときは、手順3を繰り返します。

MENU フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



［▶1：**画像プロテクト**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

カードを初期化すると（p.64）、**プロテクトされた画像も消去されます。**

- 動画もプロテクトすることができます。
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（p.379）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.376）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去



1 消去する画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 消去メニューが表示されます。

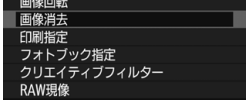


3 消去する

● ［**消去**］を選び〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

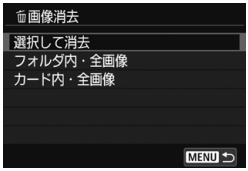
MENU チェック［√］を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



1 ［画像消去］を選ぶ

● ［▶1］タブの［**画像消去**］を選び、〈(SET)〉を押します。



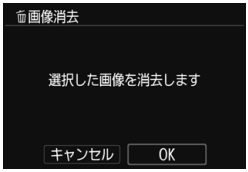
2 ［選択して消去］を選ぶ

- ［**選択して消去**］を選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。



3 消去する画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して消去したい画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画面の左上に［✓］が表示されます。
- 〈▪▪·🔍〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈🔍〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。



4 消去する

- 〈🗑〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。
- ➡ 選択した画像がまとめて消去されます。

MENU フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。［▶1：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

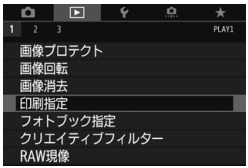
プロテクトがかけられた画像も含めてすべて消去するときは、カード初期化を行います（p.64）。

画像を印刷指定する／DPOF

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する



1 ［印刷指定］を選ぶ

● ［▶1］タブの［**印刷指定**］を選び、〈(SET)〉を押します。



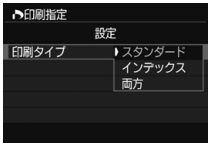
2 ［設定］を選ぶ

3 項目の内容を設定する

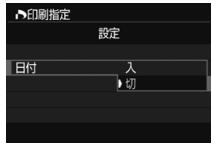
● ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。

● 項目を選び〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

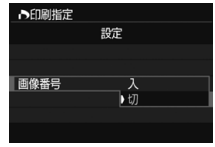
［印刷タイプ］



［日付］



［画像番号］



印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	［入］にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	［入］にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4 設定を終了する

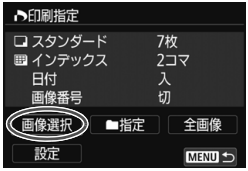
- 〈**MENU**〉ボタンを押します。
  ➡ 印刷指定画面に戻ります。
- 次に印刷指定画面の［**画像選択**］［**■指定**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。
- [**日付**] [**画像番号**] を [**入**] にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- [**インデックス**]に設定したときは、[**日付**]と[**画像番号**]を同時に[**入**]にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF に対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

無線で使えるPictBridge (Wireless LAN) に対応したプリンターに画像を送って印刷することができます。詳しくは、無線機能 使用説明書を参照してください。

印刷する画像を指定する

● **画像選択**



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈⊡·🔍〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。〈🔍〉ボタンを押すと1枚表示に戻ります。

〈**MENU**〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。



[スタンダード] [両方]

〈▲〉〈▼〉を押して、表示されている画像の印刷枚数を指定します。



[インデックス]

〈(SET)〉を押して、[✓]を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

● **■指定**

[**フォルダ内の全画像を指定**]を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、[**フォルダ内の全画像指定を解除**]を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● **全画像**

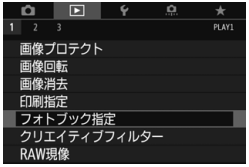
[**カード内の全画像を指定**]を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。なお、[**カード内の全画像指定を解除**]を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

● ■指定、全画像指定を行っても、RAW画像と動画は印刷指定されません。
● PictBridgeに対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

フォトブックにする画像を指定する

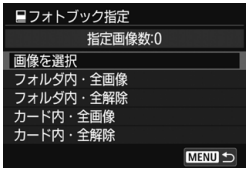
フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定



1 ［フォトブック指定］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**フォトブック指定**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［画像を選択］を選ぶ

➡ 画像が表示されます。

- 〈⊞·🔍〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈🔍〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。



3 指定する画像を選ぶ

- 〈◎〉を回して指定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 画像を複数選ぶときは、この操作を繰り返します。画面の左上に、指定した枚数が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、指定が解除されます。

フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて指定することもできます。



［▶1：**フォトブック指定**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が指定されます。

解除するときは［**フォルダ内・全解除**］または［**カード内・全解除**］を選びます。

- RAW画像と動画は指定できません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

再生に関する機能の設定を変更する

MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。



1 [液晶の明るさ] を選ぶ

● [2] タブの [液晶の明るさ] を選び、〈(SET)〉を押します。

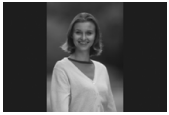


2 明るさを調整する

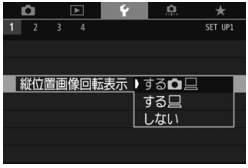
● グレーチャートを参考にして、〈◄〉〈►〉を押して調整し、〈(SET)〉を押します。

撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.352）で確認することをおすすめします。

MENU 縦位置で撮影した画像の自動回転表示の設定



縦位置で撮影した画像をカメラで再生したときや、パソコンで表示したときは、被写体が横向きで表示されないように、画像が自動回転して見やすい向きで表示されますが、この設定を変更することができます。



1 ［縦位置画像回転表示］を選ぶ

● ［1］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 表示方法を設定する

● 内容を選び、〈(SET)〉を押します。

● **する**
　カメラで再生するときとパソコン画面で見るときに、自動回転させたいとき

● **する**
　パソコン画面で見るときだけ自動回転させたいとき

● **しない**
　自動回転させたくないとき

［**しない**］で撮影した画像は、［**する**］に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

● 撮影直後に表示される画像は、自動回転表示は行われません。
● カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
● パソコンの画面で自動回転しないときは、使用しているソフトウェアが回転表示に対応していません。EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

MEMO

10

撮影した画像を加工する

RAW画像の現像、JPEG画像のリサイズ、JPEG画像のトリミング、画像にフィルター効果を施すことができます。

● ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（**P**/**Tv**/**Av**/**M**/**B**）限定の機能であることを示しています。

● 他のカメラで撮影した画像は、加工できないことがあります。
● 多重露出撮影を設定しているとき、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しているときは、この章で説明している画像の加工はできません。

RAW JPEG↓ RAW画像をカメラで現像する 応用

RAWで撮影した画像をカメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

なお、M RAW、S RAWで撮影した画像はカメラで現像処理できません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.514）で現像処理を行ってください。



1 ［RAW現像］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**RAW現像**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ RAWで撮影された画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して現像処理を行う画像を選びます。
- 〈⊡·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 現像処理を行う

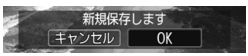
- 〈(SET)〉を押してしばらくすると、現像処理の項目が表示されます（p.392）。
- 〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉を押して項目を選び、〈◯〉を回すと内容が切り換わります。
- ➡「明るさ補正」や「ホワイトバランス」などは、その内容が反映された画像が表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。



設定画面表示について

- 〈SET〉を押すと、設定画面が表示されます。〈◯〉または〈☁〉を回して設定を変更します。〈SET〉を押すと設定され、手順3の画面に戻ります。





4 保存する

- [🖫]（保存）を選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選ぶと保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他に現像処理を行いたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

拡大表示について

手順3で〈🔍〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、[**RAW現像**] で設定した [**記録画質**] の設定により異なります。〈✥〉で拡大表示位置を変えることができます。

〈▪·🔍〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像について

アスペクト比（p.146）を [**4:3**] [**16:9**] [**1:1**] に設定して撮影した画像は、撮影範囲を示す線が表示されます。RAW現像を行って生成したJPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。

現像処理の項目について

● **☀±0 明るさ補正**

1/3段ステップで、±1段の明るさを補正することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **AWB ホワイトバランス**（p.162）

ホワイトバランスを選ぶことができます。［AWB］を選んだときは、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［**オート（雰囲気優先）**］［**オート（ホワイト優先）**］を選ぶことができます。［K］を選んだときは、〈**INFO.**〉ボタンを押すと、色温度を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **ピクチャースタイル**（p.154）

ピクチャースタイルの種類を選ぶことができます。〈**INFO.**〉ボタンを押すと、シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **オートライティングオプティマイザ**（p.169）

オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。

● **NR 高感度撮影時のノイズ低減**（p.170）

ノイズ低減の内容を設定することができます。設定内容が反映された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.391）で確認します。

● **L 記録画質**（p.142）

JPEG画像を生成する際の記録画質を設定します。

● **sRGB 色空間**（p.181）

sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラの液晶モニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

● **周辺光量補正**（p.175）

レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.391）で画面の四隅を確認します。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。

● **歪曲収差補正**

レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。

解像感が少し低下することがありますので、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。

● **色収差補正**（p.176）

レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。［**する**］を選ぶと、補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.391）で確認します。

周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正について

周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正を行うには、撮影時に使用したレンズの補正データが必要です。カメラでRAW画像を現像する際に補正ができないときは、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.514）を使用して、補正データをカメラに登録してください。

- カメラで行うRAW現像の結果と、Digital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- ［**歪曲収差補正**］を［**する**］に設定して現像を行ったときは、AFフレーム表示用の情報（p.352）、ダストデリートデータ（p.405）は画像に付加されません。

JPEG画像をリサイズする

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L**／**M**／**S1**／**S2**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。**



1 ［リサイズ］を選ぶ

- ［▶2］タブの［**リサイズ**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 〈◯〉を回してリサイズする画像を選びます。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



リサイズするサイズ

3 画像サイズを選ぶ

- 〈(SET)〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズを選び、〈(SET)〉を押します。



4 保存する

- ［OK］を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ			
	M	S1	S2	S3
L	○	○	○	○
M		○	○	○
S1			○	○
S2				○

画像サイズについて

アスペクト比ごとの画像サイズは表のとおりとなります。

記録画質	アスペクト比と画素数（約）			
	3：2	4：3	16：9	1：1
M	3984×2656 （1060万）	3552×2664 （950万）	3984×2240* （890万）	2656×2656 （710万）
S1	2976×1984 （590万）	2656×1992 （530万）	2976×1680* （500万）	1984×1984 （390万）
S2	1920×1280 （250万）	1696×1280* （220万）	1920×1080 （210万）	1280×1280 （160万）
S3	720×480 （35万）	640×480 （31万）	720×408* （29万）	480×480 （23万）

「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。また、画像がわずかにトリミングされます。

JPEG画像をトリミングする

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。**JPEGのS3とRAWで撮影した画像は、トリミングを行うことができません。**なお、RAW+JPEGで撮影したJPEG画像は、トリミングを行うことができます。



1 [トリミング] を選ぶ

- [▶2] タブの [**トリミング**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 〈◯〉を回してトリミングを行う画像を選びます。
- 〈▪/🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 トリミング枠の大きさ、アスペクト比、位置、縦横を設定する

- 〈(SET)〉を押すと、トリミング枠が表示されます。
- ➡ 枠で囲まれた範囲をトリミングできます。

枠の大きさを変える

- 〈🔍〉〈▪/🔍〉ボタンを押します。
- ➡ 枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

枠のアスペクト比を変える

- 〈◯〉を回します。
- ➡ 枠のアスペクト比（[3:2] [16:9] [4:3] [1:1]）が切り換わります。

枠を移動する

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押します。
- ➡ 枠が上下左右に移動します。
- 枠にタッチしたままドラッグして、枠の位置を移動することもできます。

枠の縦/横を切り換える

- 〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- ➡ 枠が縦長、横長に切り変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したようにトリミングすることもできます。



4 トリミング範囲を確認する

- 〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ トリミングされる範囲が表示されます。
- もう一度〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。



5 保存する

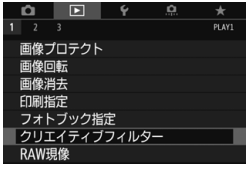
- 〈(SET)〉を押して［OK］を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にトリミングを行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

- トリミング保存した画像を、再度トリミングすることはできません。また、リサイズや、クリエイティブフィルター処理を行うこともできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（p.352）、ダストデリートデータ（p.405）は付加されません。

［►3：**再生時のグリッド**］設定時（p.347）は、グリッドを表示したままトリミングの設定をすることができます。

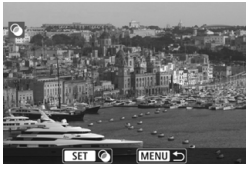
画像にフィルター効果を付ける

撮影した静止画に、ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。



1 ［クリエイティブフィルター］を選ぶ

- ［▶1］タブの［**クリエイティブフィルター**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 〈◯〉を回してフィルター処理を行う画像を選びます。
- 〈▪ Q〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 フィルター効果を選ぶ

- 〈(SET)〉を押すと、フィルターの種類が表示されます（p.400）。
- フィルター効果を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ フィルター効果が反映された画像が表示されます。



4 フィルター効果を調整する

- フィルター効果を調整し、〈(SET)〉を押します。
- ジオラマ風は〈▲〉〈▼〉を押して、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させ、〈(SET)〉を押します。



5 保存する

- ［OK］を選び保存します。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して［OK］を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

- RAW＋JPEGで撮影した画像は、RAW画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。
- M RAW＋JPEG、S RAW＋JPEGで撮影した画像は、JPEG画像を使ってフィルター処理を行います。
- アスペクト比を設定して撮影したRAW画像は、フィルター処理を行うと、設定したアスペクト比で保存されます。
- 魚眼風のフィルター処理を行った画像には、ダストデリートデータ（p.405）は付加されません。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

● **魚眼風**

魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。

なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順4でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。

● **油彩風**

油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

● **水彩風**

水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

● **トイカメラ風**

トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

● **ジオラマ風**

ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分を変えることができます。手順4で〈**INFO.**〉ボタンを押す（または画面の［］をタッチする）と、はっきり見せたい部分（白枠）の横／縦を切り換えることができます。

MEMO

11

撮像素子の清掃

このカメラは、撮像素子の前面（ローパスフィルター）に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットを搭載しています。

また、ダストデリートデータ（ゴミ消し情報）を画像に付加する機能により、除去しきれなかったゴミを、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.514）で、自動的に消去することができます。

撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミの他に、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

セルフクリーニングセンサーユニットの作動中でも、シャッターボタンを半押しすると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。

撮像素子の自動清掃

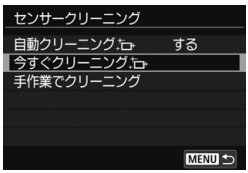
このカメラは、電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフクリーニングセンサーユニットが作動するようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、任意に作動させたいときや、このユニットを作動させたくないときは、次のようにします。

任意に作動させて清掃する



1 **［センサークリーニング］を選ぶ**

● ［3］タブの［**センサークリーニング**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 **［今すぐクリーニング］を選ぶ**

● ［**今すぐクリーニング**］を選び〈(SET)〉を押します。
● ［OK］を選びます。
➡ クリーニング中を示す画面が表示され、清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

● 効果的なゴミの除去を行うため、机の上などにカメラを置いて（底面が机に付いた状態で）清掃してください。
● 繰り返し清掃を行っても、効果は大きく変わりません。清掃終了直後は、［**今すぐクリーニング**］が一時的に選べなくなります。

自動清掃を行わないようにする

● 手順2で［**自動クリーニング**］を選び、［**しない**］を選びます。
➡ 電源スイッチを〈**ON**〉にしたときと、〈**OFF**〉にしたときに、清掃が行われなくなります。

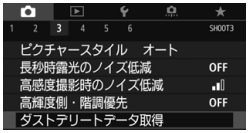
MENU ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

通常は、セルフクリーニングセンサーユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができますが、除去できなかったゴミがある場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.514）で、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

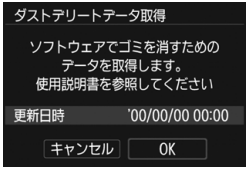
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する



1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

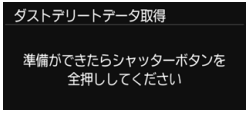
- ［3］タブの［**ダストデリートデータ取得**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［OK］を選ぶ

- 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。

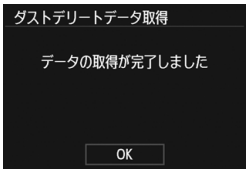






3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り優先AE、絞り数値F22で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。
- ➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK]を選んだあと、もう一度撮影します。



ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（p.514）による自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

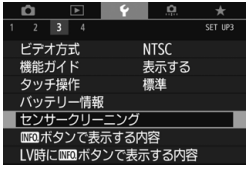
画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

MENU 手作業で撮像素子を清掃する 応用

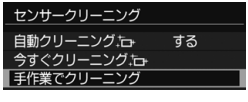
撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、自分で清掃することができます。清掃を始める前にレンズを取り外してください。

撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口にお申し付けください。



1 [センサークリーニング] を選ぶ

● [3] タブの [センサークリーニング] を選び、〈SET〉を押します。



2 [手作業でクリーニング] を選ぶ



3 [OK] を選ぶ

➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がりシャッターが開きます。

● 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 撮像素子を清掃する

5 清掃を終了する

● 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

● 電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使用してください。
● バッテリーグリップ BG-E14（別売）に単3形電池を使用したときは、手作業で撮像素子の清掃はできません。

電源には、DCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）の使用をおすすめします。

- マルチショットノイズ低減機能が設定されているときは［**手作業でクリーニング**］を選択できません。
- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷する恐れがあります。**
  ・電源スイッチを〈OFF〉にする
  ・電池を取り出す／入れる
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーは、ブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーは、レンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れると、シャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中に電池の残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

12

カメラをカスタマイズする

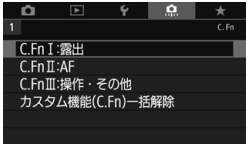
撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

また、現在使用しているカメラの設定内容を、モードダイヤルの〈C1/C2〉に登録することができます。

なお、この章で説明する機能は、応用撮影ゾーンで設定、機能します。



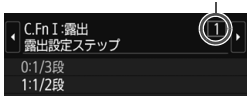
MENU カスタム機能の設定方法 応用



1 [ ] を選ぶ

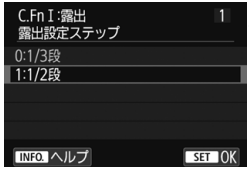
2 グループを選ぶ

- C.Fn I～III のいずれかを選び、〈SET〉を押します。



3 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。



4 設定を変更する

- 〈▲〉〈▼〉を押して設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2～4を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。



- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。

5 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 手順2の画面に戻ります。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

手順2で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能の一括解除を行っても、［ C.Fn III -4：**操作ボタンカスタマイズ**］の設定内容は解除されません。

MENU カスタム機能一覧 応用

C.Fn I：露出

			LV撮影	動画撮影
1	露出設定ステップ	p.413	○	○
2	ISO感度設定ステップ	p.413	○	**M**時
3	ブラケティング自動解除	p.413	○	
4	ブラケティング順序	p.414	○	
5	ブラケティング時の撮影枚数	p.414	○	
6	セイフティシフト	p.415	○	

C.Fn II：AF

			LV撮影	動画撮影
1	被写体追従特性	p.416		
2	速度変化に対する追従性	p.417		
3	測距点乗り移り特性	p.417		
4	AIサーボAF1コマ目レリーズ	p.418		
5	AIサーボAF連続撮影中レリーズ	p.418		
6	AF補助光の投光	p.419	○*	
7	AF測距不能時のレンズ動作	p.419		
8	測距エリア選択モードの限定	p.420		
9	測距エリア選択モードの切換	p.420		
10	縦位置/横位置のAFフレーム設定	p.421		
11	〔◌〕時のAIサーボAF開始測距点	p.422		
12	自動選択：色検知	p.422		
13	AFフレーム選択時の循環	p.423		
14	測距時のAFフレーム表示	p.423		
15	ファインダー情報の照明	p.424		
16	AFマイクロアジャストメント	p.424		

* LEDライト付きのEXスピードライト（別売）使用時

▭ が付いたカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

C.Fn III：操作・その他

			LV撮影	動画撮影
1	ファインダー内❗警告の項目	p.425		
2	Tv/Av値設定時のダイヤル回転	p.425	○	○
3	電源オフ時のレンズ収納	p.426	○	○
4	操作ボタンカスタマイズ	p.426	設定により異なる	

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

C.Fn I：露出

C.Fn I -1　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

［1：1/2段］設定時は、ファインダー内と表示パネルの露出レベル表示が、図のようになります。



C.Fn I -2　ISO感度設定ステップ

0：1/3段

ISO感度を1/3段ステップで手動設定することができます。

1：1段

ISO感度を1段ステップで手動設定することができます。

［1：1段］に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。

C.Fn I -3　ブラケティング自動解除

0：する

電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、AEB、WBブラケティングの設定が解除されます。また、ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBの設定が解除されます。

1：しない

電源スイッチを〈**OFF**〉にしても、AEB、WBブラケティングの設定が解除されないようになります（ストロボ充電完了、動画撮影への切り換えでAEBは一旦解除されますが、設定したAEBレベルは記憶されています）。

C.Fn I -4　ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

0：0→−→+

1：−→0→+

2：+→0→−

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0：標準露出	0：基準ホワイトバランス	0：基準ホワイトバランス
−：マイナス補正	−：ブルー寄りに補正	−：マゼンタ寄りに補正
+：プラス補正	+：アンバー寄りに補正	+：グリーン寄りに補正

C.Fn I -5　ブラケティング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケティング撮影時の撮影枚数を、初期設定の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。

［**ブラケティング順序：0**］設定時は、下表のように撮影されます。

0：3枚

1：2枚

2：5枚

3：7枚

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
0：3枚	標準（0）	−1	+1				
1：2枚	標準（0）	±1					
2：5枚	標準（0）	−2	−1	+1	+2		
3：7枚	標準（0）	−3	−2	−1	+1	+2	+3

［**1：2枚**］設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向（+または−）を選ぶことができます。WBブラケティング設定時は、B/A方向、またはM/G方向のマイナス補正になります。

C.Fn I -6　セイフティシフト

0：しない

1：Tv値/Av値

〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**Av**〉絞り優先AEモードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

2：ISO感度

〈**P**〉プログラムAE、〈**Tv**〉シャッター優先AE、〈**Av**〉絞り優先AEモードで機能します。被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えると、手動設定したISO感度をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。

- ［**2：ISO感度に関する設定**］で、［**静止画撮影の範囲**］［**オートの低速限界**］が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、［**オートの範囲**］の設定によります（p.152）。ただし、手動設定されているISO感度が［**オートの範囲**］を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

C.Fn II：AF

C.Fn II -1　被写体追従特性



AIサーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性の設定です。

0：　標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。

粘る：−2／粘る：−1

障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。−1よりも−2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。

その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。

俊敏：+2／俊敏：+1

AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。

その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

［**被写体追従特性**］は、EOS-1D Mark III/IV、EOS-1Ds Mark III、EOS 7D の［**AIサーボ時の被写体追従敏感度**］と同じ機能です。

C.Fn II -2　速度変化に対する追従性



被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対する追従性の設定です。

0： 移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。

+2／+1：

急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。

その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

C.Fn II -3　測距点乗り移り特性



被写体が上下左右に大きく移動したときの、被写体に対する測距点（AFフレーム）の乗り移り（切り換わり）による、追従性の設定です。

測距エリア選択モードが、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、45点自動選択AFのときに機能します。

0： 測距点の乗り移りが緩やかな、標準的な設定です。

+2／+1：

狙っている被写体が上下左右に大きく移動して、被写体が測距点から外れても、周囲の測距点に乗り移って、被写体にピントを合わせ続けます。被写体移動の連続性と、コントラストなどを判断し、信頼性の高い測距点を選んで乗り移りが行われます。+1よりも+2のほうが、測距点が乗り移りやすくなります。

その反面、広角レンズなど被写界深度の深いレンズを使用したときや、遠くにある小さい被写体を撮影すると、意図しない測距点でピント合わせが行われることがあります。

C.Fn II -4　AIサーボAF1コマ目レリーズ



AIサーボAFで1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

バランス重視：

ピントとレリーズタイミングのバランスをとった設定です。

□：レリーズ優先

シャッターボタンを押すと、ピントが合っていなくてもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。

◉：ピント優先

シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

C.Fn II -5　AIサーボAF連続撮影中レリーズ



AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

バランス重視：

ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときや被写体のコントラストが低いときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。

⧉：撮影速度優先

ピントよりも連続撮影速度を優先します。

◉：ピント優先

連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。

［**撮影速度優先**］に設定しても、フリッカー低減処理が行われる撮影条件のときは（p.179）、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。

C.Fn II -6　AF補助光の投光

内蔵ストロボ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

必要に応じてAF補助光が投光されます。

1：しない

AF補助光は投光されません。「AF補助光が他の人の迷惑になるとき」などに設定します。

2：外部ストロボの補助光のみ投光

外部ストロボ使用時のみ、必要に応じてAF補助光が投光されます。内蔵ストロボからAF補助光は投光されません。

3：赤外光方式の補助光のみ投光

外部ストロボのAF補助光の中で、「赤外光方式」のAF補助光だけを投光します。「ストロボ間欠発光方式のAF補助光を投光したくない」ときに設定します。

なお、LEDライト付きEXスピードライト使用時も、AF補助光としてのライトは自動点灯しません。

外部ストロボのカスタム機能の［**AF補助光の投光**］が［**しない**］に設定されているときは、この設定内容に関わらず、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

C.Fn II -7　AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。

0：サーチ駆動する

1：サーチ駆動しない

AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を停止します。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、［**1：サーチ駆動しない**］に設定することをおすすめします。

C.Fn II -8　測距エリア選択モードの限定

測距エリア選択モードを、使用するモードだけに限定することができます。項目を選び〈SET〉を押して［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

□：1点AF（任意選択）
AFフレームを1点選択できます。

：ゾーンAF（ゾーン任意選択）
AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピントを合わせます。

：ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）
AF領域を3つの測距ゾーンに分けてピントを合わせます。

：45点自動選択AF
エリアAFフレーム（AF領域全体）でピントを合わせます。

- ［**1点AF（任意選択）**］の［✓］を外すことはできません。
- 使用レンズがHグループのときは（p.131）、［**1点AF（任意選択）**］以外は選択できません。

C.Fn II -9　測距エリア選択モードの切換

測距エリア選択モードの切り換え方法を設定することができます。

0：→ 測距エリア選択ボタン
〈〉または〈〉ボタンを押したあと、〈〉ボタンを押すたびに測距エリア選択モードが切り換わります。

1：→ メイン電子ダイヤル
〈〉または〈〉ボタンを押したあと、〈〉を回すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

［**1：→メイン電子ダイヤル**］設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈〉を操作してください。

C.Fn II -10　縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、測距エリア選択モード+AFフレーム、またはAFフレームを別々に設定することができます。

0：同じ

縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択AFフレーム（またはゾーン）になります。

1：別々に設定：エリア+フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を設定することができます。

①②③のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、設定した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレーム（またはゾーン）に切り換わります。

2：別々に設定：フレーム

カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームを設定することができます。同じ測距エリア選択モードで、姿勢に応じて自動的にAFフレームを切り換えたいときに有効です。

①②③のそれぞれの姿勢で、AFフレームを任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、任意選択したAFフレームに切り換わります。測距エリア選択モードを1点AF（任意選択）に変更したときは、各姿勢で設定したAFフレームは保持されます。

測距エリア選択モードをゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）に変更したときは、各姿勢で任意選択していたゾーンに切り換わります。

設定後に異なるAFグループ（p.128～131／特にHグループ）のレンズを装着したときは、設定した内容が解除されることがあります。

C.Fn II -11 〔◌〕時のAIサーボAF開始測距点

測距エリア選択モードを45点自動選択AFに設定したときに、AIサーボAFをどのAFフレーム（測距点）から開始するかを設定することができます。

0：自動

撮影状況に応じてAIサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。

1：〔◌〕時に選択した開始測距点

AF動作がAIサーボAF、測距エリア選択モードが45点自動選択AFに設定されているときに、任意選択したAFフレームからAIサーボAFが始まります。

2：□時の任意選択測距点

1点AF（任意選択）から45点自動選択AFに切り換えたときに、それまで任意選択していたAFフレームからAIサーボAFが始まります。45点自動選択AFに切り換える前に選択していたAFフレームからAIサーボAFを開始したいときに有効です。

［2：□時の任意選択測距点］設定時に、測距エリア選択モードをゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）に切り換えたときも、それまで任意選択していたAFフレームに対応するゾーンからAIサーボAFが始まります。

C.Fn II -12 自動選択：色検知

人物の肌色に相当する色を認識してAFを行う機能です。測距エリア選択モードが、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、45点自動選択AFのときに機能します。

0：する

AF情報と、人物の肌色に相当する色の情報を基にカメラが測距点を自動選択します。

ワンショットAF時は、測距エリアの中にいる、静止している人物にピントが合いやすくなります。

AIサーボAF時は、測距エリアの中にいる、人物にピントが合いやすくなります。人物の肌色が検知できないときは、最も近距離にある被写体にピントが合います。一度ピントが合うと、初めにピント合わせをした部分の色にピントが合い続けるよう、測距点が自動選択されます。

1：しない

AF情報だけで測距点の自動選択が行われます。

- ［0：する］設定時は、［1：しない］に設定したときよりも、ピント合わせにやや時間がかかります。
- ［0：する］に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。
- ストロボからAF補助光が自動的に投光されるような暗い場所では、AF情報だけで測距点の自動選択が行われます（人物の肌色に相当する色の情報を使用したAFは行われません）。

C.Fn II -13　AFフレーム選択時の循環

AFフレーム任意選択時に、一番端のAFフレームで選択を止めるか、循環して反対側のAFフレームが選択できるようにするかを設定することができます。
45点自動選択AF（AIサーボAF時有効）以外の測距エリア選択モードで機能します。

0：しない（端で突き当たり）
一番端のAFフレームを頻繁に使用するときに有効です。

1：する
一番端のAFフレームで止まらずに反対側のAFフレームが選択できます。

C.Fn II -14　測距時のAFフレーム表示

①AFフレーム選択時、②撮影準備状態（AF測距前）、③AF測距中、④合焦時にAFフレームを表示するかどうかを設定することができます。

0：選択AFフレーム（常時表示）
選択したAFフレームが、常時表示されます。

1：全AFフレーム（常時表示）
すべてのAFフレームが、常時表示されます。

2：選択フレーム（測距前/合焦時）
選択したAFフレームが、①②④のときに表示されます。

3：選択AFフレーム（合焦時表示）
選択したAFフレームが、①④のときに表示されます。

4：表示しない
②③④のときは、選択したAFフレームは表示されません。

［2：選択フレーム（測距前/合焦時）］［3：選択AFフレーム（合焦時表示）］設定時は、AIサーボAFでピントが合っても、AFフレームは表示されません。

C.Fn II -15　ファインダー情報の照明

ピントが合ったときに、ファインダー内に表示されるAFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます。

0：自動

暗い場所では自動的に赤く照明されます。

1：する

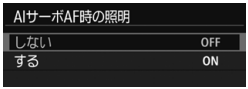
周囲の明るさに関わらず、赤く照明されます。

2：しない

赤い照明は行われません。

［**0：自動**］［**1：する**］設定時に〈Q〉ボタンを押すと、AIサーボAF時にAFフレームを赤く照明（点滅表示）するかどうかを設定することができます。

AIサーボAF時の照明



OFF：しない

AIサーボAF時に赤い照明は行われません。

ON：する

AIサーボAF時にピントを合わせているAFフレームが赤く照明されます。連続撮影中も照明が行われます。

なお、［**ファインダー情報の照明**］を［**2：しない**］に設定したときは機能しません。

- 〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したときは、設定に関わらず赤く照明されます。
- アスペクト線（p.146）と、［**2：ファインダー内表示**］で設定した水準器やグリッド、フリッカー検知も赤く照明されます。

C.Fn II -16　AFマイクロアジャストメント

AFでピントが合う位置を微調整することができます。詳しくは、427ページを参照してください。

C.Fn III：操作・その他

C.Fn III -1　ファインダー内❗警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内の右下に〈❗〉を表示することができます（p.29）。撮影機能の設定状態（p.55）の画面にも、〈❗〉が表示されます。

警告表示を行う対象を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けて、［OK］を選びます。

モノクロ設定時：

ピクチャースタイルが［**モノクロ**］に設定されているときに（p.155）、警告表示を行います。

ホワイトバランス補正時：

ホワイトバランス補正が設定されているときに（p.167）、警告表示を行います。

設定時：

［**3：高感度撮影時のノイズ低減**］が［**マルチショットノイズ低減機能**］に設定されているときに（p.170）、警告表示を行います。

HDR設定時：

［**3：HDRモード**］が設定されているときに（p.207）、警告表示を行います。

C.Fn III -2　Tv/Av値設定時のダイヤル回転

0：通常

1：設定方向を反転

シャッター速度、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。

撮影モードが〈**M**〉のときは〈⌓〉〈◎〉、それ以外の撮影モードでは〈⌓〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時に〈◎〉を操作したときの設定方向と、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モード時に〈◎〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

C.Fn III -3　電源オフ時のレンズ収納

ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）をカメラに取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

- オートパワーオフのときは設定に関わらず、レンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

［**0：する**］設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF／MF）に関わらず機能します。

C.Fn III -4　操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。詳しくは、433ページを参照してください。

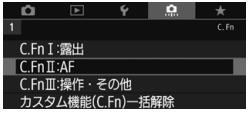
: AFによる合焦位置を微調整する

ファインダー撮影でAFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。この機能を「AFマイクロアジャストメント」といいます。調整を行う前に、432ページの『AFマイクロアジャストメント全般の注意事項』をあわせてお読みください。

通常はこの機能でピント合焦位置を調整する必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

1：全レンズ一律調整

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。



1 [C.Fn Ⅱ：AF] を選ぶ

● [ ] タブの [C.Fn Ⅱ：AF] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [16：AFマイクロアジャストメント] を選ぶ



3 [1：全レンズ一律調整] を選ぶ

4 〈Q〉ボタンを押す

➡ [1：全レンズ一律調整] 画面が表示されます。





5 調整する

- 調整値を設定します。調整範囲は± 20 ステップです。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら〈(SET)〉を押します。
- [**1：全レンズ一律調整**]を選び〈(SET)〉を押します。
- 〈**MENU**〉ボタンを押して設定を終了します。

6 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して (p.346)、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「＋：」側、奥側にピントが合っているときは「－：」側に調整します。
- 必要に応じて、調整を繰り返します。

[**1：全レンズ一律調整**]のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

2：レンズごとに調整

レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズは最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。



1 ［2：レンズごとに調整］を選ぶ



2 〈Q〉ボタンを押す

➡ ［2：**レンズごとに調整**］画面が表示されます。



登録番号

3 レンズ情報を確認／変更する

レンズ情報の確認

- 〈**INFO.**〉ボタンを押します。

➡ 画面にレンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、［**OK**］を選び手順4に進みます。

- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されますので、次ページの操作で番号を入力します。
- 番号の先頭に表示される「*」については次ページを参照してください。



シリアル番号の入力

- 入力する桁を選び〈(SET)〉を押して〈⇳〉の状態にします。
- 数値を入力し〈(SET)〉を押します。
- すべての桁の入力が終わったら［**OK**］を選びます。

レンズのシリアル番号について

- **手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。**
- **レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがありますが、故障ではありません。**
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を入力してください。
- レンズのシリアル番号が11桁以上のときは、「下10桁」の番号を入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、任意の番号を入力してください。

- ［**2：レンズごとに調整**］を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ＋エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。

単焦点レンズ



ズームレンズ





4 調整する

- ズームレンズのときは、広角側（W）または望遠側（T）を選びます。〈(SET)〉を押すと枠が消え、調整ができるようになります。
- 調整値を設定し、〈(SET)〉を押します。調整範囲は±20ステップです。
- 「−：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「+：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- ズームレンズのときは、この手順を繰り返して、広角側（W）、望遠側（T）の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。
- ［**2：レンズごとに調整**］を選び〈(SET)〉を押します。
- 〈**MENU**〉ボタンを押して設定を終了します。

5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、画像を再生して（p.346）、調整結果を確認します。
- 撮影結果が狙った位置よりも手前にピントが合っているときは「+：」側、奥側にピントが合っているときは「−：」側に調整します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正されます。

AFマイクロアジャストメントの一括解除

画面の下に［ 一括解除］が表示されているときに、〈 〉ボタンを押すと、［1：全レンズ一律調整］［2：レンズごとに調整］で調整した内容をすべて解除することができます。

AFマイクロアジャストメント全般の注意事項

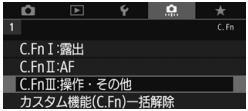
- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- 調整した内容は、ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFには反映されません。
- カスタム機能の一括解除を行っても（p.410）、調整した内容は保持されますが、設定は［0：しない］になります。

AFマイクロアジャストメント共通事項

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは、三脚の使用をおすすめします。
- 調整を行うときは、記録画質 L で撮影することをおすすめします。

: 操作ボタンカスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。



1 [C.Fn III：操作・その他] を選ぶ

● [ ] タブの [C.Fn III：操作・その他] を選び、〈SET〉を押します。



2 [4：操作ボタンカスタマイズ] を選ぶ

➡ 操作部材の設定画面が表示されます。

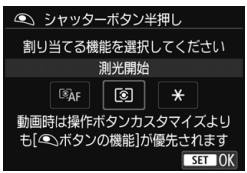


3 操作部材を選ぶ

● 操作部材を選び〈SET〉を押します。

➡ 操作部材の名称と、割り当てできる機能が表示されます。

➡ 画面の左側のイラストで操作部材の位置を確認することができます。



4 機能を割り当てる

● 機能を選び〈SET〉を押します。

5 設定を終了する

● 〈SET〉を押して設定が終了すると、手順3の画面に戻ります。

● 〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

手順3の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、設定した内容を解除することができます。なお、[C.Fn III -4：操作ボタンカスタマイズ] の設定は、[：カスタム機能 (C.Fn) 一括解除] を選んでも解除されません。

操作部材に対して割り当てできる機能の一覧

機能			参照頁		AF-ON	
AF	AF	測光・AF開始	436	○	○	○
	AF-OFF	AF停止			○	○
	ONE SHOT AI SERVO	ワンショット⇄AIサーボ/サーボ				
		AFフレームダイレクト選択				
露出		測光開始	436	○		
	AEL FEL	AEロック/FEロック			○	○
		AEロック	437		○	○
		AEロック（押している間）		○		
	H	AEロック（ホールド）			○	○
	FEL	FEロック			○	○
	ISO	ISO感度設定（押しながら）				
		露出補正（押しながら）				
	Tv	Mモード時、シャッター速度変更				
	Av	Mモード時、絞り数値変更				
ストロボ		調光補正	438			
	/	ストロボ機能設定				
画像		記録画質選択	438			
		ピクチャースタイル選択				
	WB	ホワイトバランス選択				
操作		絞り込み	439			
		手ブレ補正機能作動				
	MENU	メニュー表示				
	OFF	無効			○	○

	○				
○	○				
○	○				
					○
○	○				
○	○				
○	○				
○	○				
		○			
		○			
			○	○	
			○	○	
		○			
		○			
		○			
		○			
		○			
○					
○	○				
		○			
○		○			○

* AFストップボタン（LENS）は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されています。

AF：測光・AF開始

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光とAFを行います。

AF-OFF：AF停止

この機能を割り当てたボタンを押している間、AFを停止します。AIサーボAF中にAFを停止したいときなどに有効です。

ONE SHOT SERVO：ワンショット⇄AIサーボ/サーボ

AF動作を切り換えることができます。ワンショットAF時に、この機能を割り当てたボタンを押すと、押している間だけAIサーボAF*になり、AIサーボAF時に押すと、押している間だけワンショットAFになります。移動／停止を繰り返す被写体で、ワンショットAF、AIサーボAFを交互に切り換えたいときに有効です。

* ライブビュー撮影時は、サーボAFになります。

ライブビュー撮影時、マルチショットノイズ低減機能が設定されているときは、この設定は無効です。

：AFフレームダイレクト選択

測光タイマーが作動中であれば、〈〉または〈〉ボタンを押さずに、〈〉で直接AFフレームを選択することができます。

：測光開始

シャッターボタンを半押しすると、測光が行われます（AFは行われません）。

AEL FEL：AEロック/FEロック

通常撮影時（ストロボなし）

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

ストロボ撮影時

ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

✳：AEロック

この機能を割り当てたボタンを押すと、測光タイマーが作動している間、露出が固定されます（AEロック）。ピントと露出を別々に決めたいときに有効です。

✳：AEロック（押している間）

シャッターボタンを押している間、露出が固定されます（AEロック）。

✳H：AEロック（ホールド）

この機能を割り当てたボタンを押すと、露出が固定されます（AEロック）。もう一度、この機能を割り当てたボタンを押すまで、AEロックが継続します。ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに有効です。

FEL：FEロック

ストロボ撮影時にこの機能を割り当てたボタンを押すと、ストロボがプリ発光して撮影に必要な発光量を記憶（FEロック）します。

ISO：ISO感度設定（押しながら）

〈㊗〉を押しながら〈〉を回すと、ISO感度を設定することができます。ISOオートのときに操作すると、ISO感度手動設定になります。なお、〈**M**〉モードのときにこの機能を使用すると、設定したシャッター速度、絞り数値を保持したまま、ISO感度による露出調整を行うことができます。

：露出補正（押しながら）

〈㊗〉を押しながら〈〉を回すと、露出補正を行うことができます。〈**M**〉マニュアル露出＋ISOオート設定時に露出補正を行いたいときに効果的です。

Tv：Mモード時、シャッター速度変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈〉または〈〉でシャッター速度を設定することができます。

Av：Mモード時、絞り数値変更

〈**M**〉マニュアル露出時に、〈〉または〈〉で絞り数値を設定することができます。

：調光補正

〈〉を押すと、液晶モニターに装着しているストロボ（内蔵または外部）の調光補正設定画面（p.230）が表示されます。

/：ストロボ機能設定

〈〉を押すと、液晶モニターにストロボの機能設定画面（p.237）が表示されます。

：記録画質選択

〈〉を押すと、液晶モニターに記録画質設定画面（p.142）が表示されます。

：ピクチャースタイル選択

〈〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイル選択画面（p.154）が表示されます。

WB：ホワイトバランス選択

〈〉を押すと、液晶モニターにホワイトバランス設定画面（p.162）が表示されます。

：絞り込み

絞り込みボタンを押すと、絞り込みが行われ、被写界深度を確認することができます（p.195）。

：手ブレ補正機能作動

レンズの手ブレ補正機能スイッチが〈**ON**〉のときに、この機能を割り当てたボタンを押すと、手ブレ補正機能が作動します。

MENU：メニュー表示

〈(SET)〉を押すと、液晶モニターにメニュー画面が表示されます。

OFF：無効

ボタンに機能を割り当てないときに設定します。

MENU マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。また、登録したタブに名前を付けたり、〈**MENU**〉ボタンを押したときにマイメニュータブから表示することもできます。

マイメニュータブを追加（作成）する



1 **［マイメニュータブの追加］を選ぶ**

● ［★］タブの［**マイメニュータブの追加**］を選び、〈(SET)〉を押します。

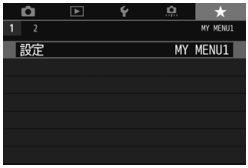


2 **［OK］を選ぶ**

➡ ［MY MENU1］タブが作成されます。

● 手順1、2を繰り返すと、［MY MENU5］まで作成することができます。

マイメニュータブに項目を登録する

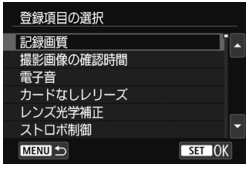


1 **［設定：MY MENU*］を選ぶ**

● 〈☆〉を回して［**設定**：MY MENU*］（項目を登録するタブ）を選び、〈(SET)〉を押します。



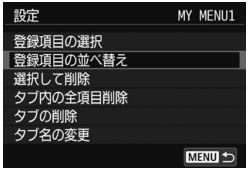
2 [登録項目の選択] を選ぶ



3 項目を登録する

- 項目を選び〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で[OK]を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。[**登録項目の並べ替え**]を選び、並び順を変える項目を選んで〈(SET)〉を押します。[◆]が表示された状態で〈▲〉〈▼〉を押して並び順を変え、〈(SET)〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。[**選択して削除**]を選ぶと1項目ずつ削除、[**タブ内の全項目削除**]を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

● **タブの削除**

現在設定しているタブを削除することができます。［**タブの削除**］を選ぶと、［**MY MENU***］のタブが削除されます。

● **タブ名の変更**

タブの名称を［**MY MENU***］から任意の名称に変更することができます。

1 ［タブ名の変更］を選ぶ



2 文字を入力する

- 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- 〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。
- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して□を移動し、希望する文字を選び〈(SET)〉を押すと入力されます。
- ［**Aa=1@**］を選び〈(SET)〉を押すと、入力モードが切り換わります。
- 入力をキャンセルするときは、〈**INFO.**〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。
- 最大16文字入力できます。

3 設定を終了する

- 文字の入力が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押して［**OK**］を選びます。

➡ 設定した内容が保存されます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

● **マイメニュータブの全削除**

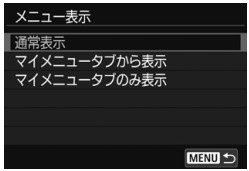
作成したタブをすべて削除することができます。[**マイメニュータブの全削除**] を選ぶと、[MY MENU1] ～ [MY MENU5] のタブがすべて削除され、[★] タブが初期状態に戻ります。

● **全項目削除**

[MY MENU1] ～ [MY MENU5] タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。[**全項目削除**] を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

[**タブの削除**] [**マイメニュータブの全削除**] を行うと、[**タブ名の変更**] で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



［**メニュー表示**］を選ぶと、〈**MENU**〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

● **通常表示**
　前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

● **マイメニュータブから表示**
　［★］タブの画面から表示されます。

● **マイメニュータブのみ表示**
　［★］タブの画面だけが表示されます（［📷］［▶］［🔧］［📷…］タブは表示されません）。

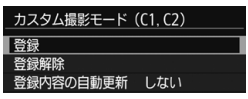
C1: カスタム撮影モードの登録 応用

撮影モードやメニュー、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、モードダイヤルの〈C1/C2〉にカスタム撮影モードとして登録することができます。

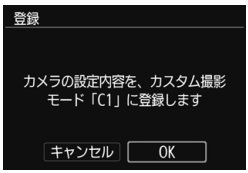


1 [カスタム撮影モード (C1,C2)] を選ぶ

- [4] タブの [**カスタム撮影モード (C1,C2)**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [登録] を選ぶ



3 登録する

- 登録するカスタム撮影モードを選び、〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選びます。

➡ カメラの設定内容 (p.446) がモードダイヤルのC*に登録されます。

登録内容の自動更新

〈C1/C2〉モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます (自動更新)。自動更新するときは、手順2で [**登録内容の自動更新**] を [**する**] に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で [**登録解除**] を選ぶと、各モードの設定内容を登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

登録される設定内容

● **撮影機能**

撮影モード、シャッター速度、絞り数値、ISO感度、AF動作、測距エリア選択モード、AFフレーム、ドライブモード、測光モード、露出補正量、ストロボ調光補正量

● **メニュー機能**

[📷1] 記録画質、撮影画像の確認時間、電子音、カードなしレリーズ、レンズ光学補正、ストロボの発光、E-TTL II調光方式、Avモード時のストロボ同調速度、赤目緩和機能

[📷2] 露出補正/AEB 設定、ISO感度に関する設定、オートライティングオプティマイザ、ホワイトバランス、WB補正/BKT設定、色空間

[📷3] ピクチャースタイル、長秒時露光のノイズ低減、高感度撮影時のノイズ低減、高輝度側・階調優先、多重露出（設定値）、HDRモード（設定値）

[📷4] インターバルタイマー、バルブタイマー、フリッカーレス撮影、ミラーアップ撮影、アスペクト比

[📷5 **(ライブビュー撮影)**]
ライブビュー撮影、AF方式、タッチシャッター、グリッド、露出Simulation

[📷6 **(ライブビュー撮影)**]
LVソフト撮影、測光タイマー

[📷4 **(動画撮影)**]
動画サーボAF、AF方式、動画記録画質、デジタルズーム、録音、動画サーボAF時のAF速度、動画サーボAFの被写体追従特性

[📷5 **(動画撮影)**]
測光タイマー、グリッド、Qボタンの機能、ビデオスナップ、タイムラプス動画（設定値）、リモコン撮影

[▶2] スライドショー（設定値）、〈☁〉での画像送り

[▶3] ハイライト警告表示、AFフレーム表示、再生時のグリッド、ヒストグラム

［4 1］ 画像番号、縦位置画像回転表示
［4 2］ オートパワーオフ、液晶の明るさ、液晶の消灯 / 点灯、ファインダー内表示
［4 3］ タッチ操作、自動クリーニング、INFO. ボタンで表示する内容
［4 4］ マルチ電子ロック
［5 1］ 露出設定ステップ、ISO感度設定ステップ、ブラケティング自動解除、ブラケティング順序、ブラケティング時の撮影枚数、セイフティシフト
［5 2］ 被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性、AIサーボAF1コマ目レリーズ、AIサーボAF連続撮影中レリーズ、AF補助光の投光、AF測距不能時のレンズ動作、測距エリア選択モードの限定、測距エリア選択モードの切換、縦位置/横位置のAFフレーム設定、〔〕時のAIサーボAF開始測距点、自動選択：色検知、AFフレーム選択時の循環、測距時のAFフレーム表示、ファインダー情報の照明、AFマイクロアジャストメント
［5 3］ Tv/Av値設定時のダイヤル回転、電源オフ時のレンズ収納、操作ボタンカスタマイズ

● マイメニューの設定内容は、カスタム撮影モードには登録されません。
● モードダイヤルが〈C1/C2〉のときは、［4 4：カメラ設定初期化］と［5：カスタム機能（C.Fn）一括解除］は選択できません。

● モードダイヤルが〈C1/C2〉のときも、撮影機能やメニューなどの設定を変更することができます。
● 〈INFO.〉ボタンを押すと、〈C1/C2〉に登録されている撮影モードを確認することができます（p.450～451）。

MEMO

13

資料

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。

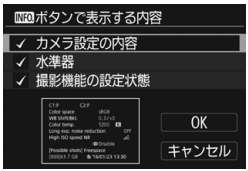
認証マークについて

［**4：認証マーク表示**］を選び〈SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

INFO.ボタンの機能



撮影準備状態で〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［**カメラ設定の内容**］と［**水準器**］(p.72)、［**撮影機能の設定状態**］(p.451）を表示することができます。

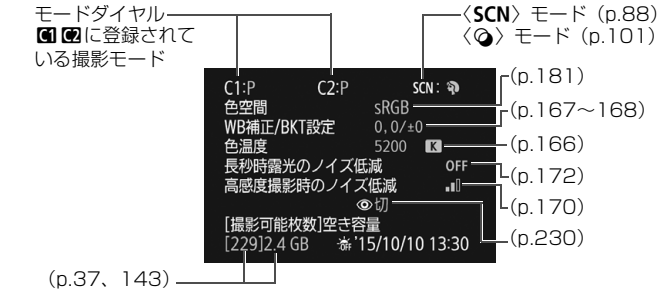


［**3**］タブの［**INFO. ボタンで表示する内容**］で、〈**INFO.**〉ボタンを押したときに表示する項目を選ぶことができます。

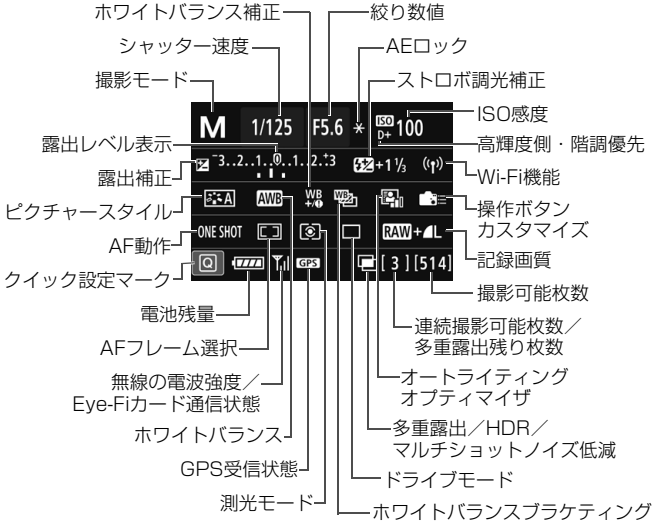
- 使用する項目を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。
- 選択が終わったら［**OK**］を選びます。

- 3項目すべての［✓］を外すことはできません。
- ［**カメラ設定の内容**］のサンプル画面は、どの言語でも英語で表示されます。
- ［**水準器**］を表示しない設定にしても、ライブビュー撮影時、動画撮影時に〈**INFO.**〉ボタンを押すと、水準器が表示されます。

カメラ設定の内容



撮影機能の設定状態



- 〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定を行うことができます（p.56）。
- 〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉〈⊙〉〈⊡〉〈⊡〉ボタンを押すと、設定画面が表示され、〈⛰〉〈◯〉〈⁘〉〈⊡〉で設定することができます。



「撮影機能の設定状態」の画面が表示された状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに同じ画面が表示されます。解除するときは、〈INFO.〉ボタンを押して画面が表示されていない状態で電源を切ります。

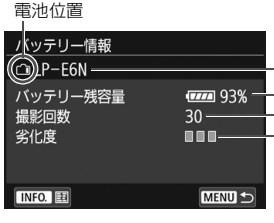
MENU 電池情報を確認する

使用している電池の状態を画面で確認することができます。また、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6には固有の番号（シリアル番号）が記録されているため、複数の電池をカメラに登録することができます。この機能を利用すると、手元にある登録済みの電池の残量や、使用履歴を確認することができます。



［バッテリー情報］を選ぶ

- ［3］タブの［**バッテリー情報**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 電池情報の画面が表示されます。



使用している電池、または家庭用電源の型式が表示されます。

電池残量表示（p.42）とともに、残量が1%単位で表示されます。

使用している電池で撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。

電池の劣化状態が3段階で表示されます。

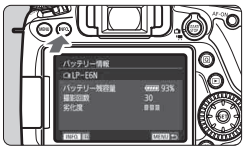
- ■■■（緑）：劣化していません
- ■■□（緑）：少し劣化しています
- ■□□（赤）：電池の買い換えをおすすめします

キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6の使用をおすすめします。純正品以外の電池を使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- 撮影回数は、静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）に、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用したときも電池情報が表示されます。単3形電池を使用したときは、電池残量表示の情報のみ表示されます。
- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

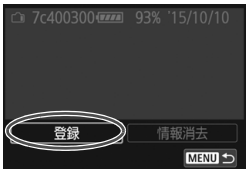
電池をカメラに登録する

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数の電池を登録するときは、電池ごとに以下の操作を行ってください。



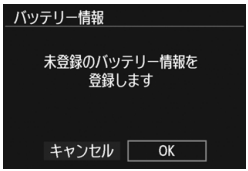
1 〈INFO.〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈**INFO.**〉ボタンを押します。
- ➡ 使用履歴画面が表示されます。
- ➡ 登録されていない電池は灰色で表示されます。



2 [登録]を選ぶ

- ➡ 確認画面が表示されます。



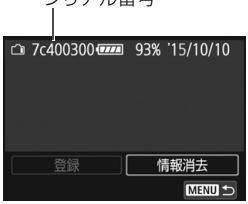
3 [OK]を選ぶ

- ➡ 電池が登録され、使用履歴画面に戻ります。
- ➡ 表示が灰色から白色に変わります。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、バッテリー情報の画面に戻ります。

- バッテリーグリップ BG-E14（別売）に単3形電池を使用したときや、電源にDCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）を使用しているときは、登録できません。
- すでに電池が6個登録されているときは、[**登録**]は選べません。455ページを参照して、不要な電池情報を削除してください。

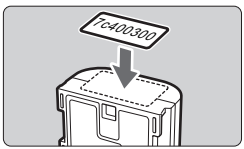
電池のシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6N/LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに書き留めて、すべての電池に貼り付けておくと便利です。



1 シリアル番号をシールに書き留める

- 使用履歴画面に表示された番号を、横25mm×縦15mm程度のシールに書き留めます。



2 電池を取り出しシールを貼り付ける

- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。
- 電池室ふたを開けて、電池を取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼り付けます。
- この手順を繰り返して、すべての電池のシリアル番号が一目でわかるようにします。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼り付けないでください。電池が入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）使用時は、バッテリーマガジンへの取り付け／取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していない電池の残量の確認方法

手元にある（現在使用していない）電池の残量や前回使用した日を、画面で確認することができます。



シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、電池に貼り付けたシールのシリアル番号を照合します。

➡ 手元にある電池のおおよその残量や、前回使用した日を確認することができます。

登録した電池情報を消去する

1 [情報消去] を選ぶ

- 453ページの手順2で［**情報消去**］を選び〈(SET)〉を押します。

2 消去する電池を選ぶ

- 消去する電池を選び〈(SET)〉を押します。

➡［✓］が表示されます。

- 他に消去したい電池があるときは、繰り返します。

3 〈🗑〉ボタンを押す

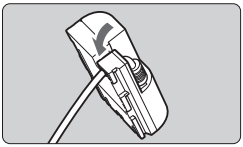
➡ 確認画面が表示されます。

4 [OK] を選ぶ

➡ 電池情報が消去され、手順1の画面に戻ります。

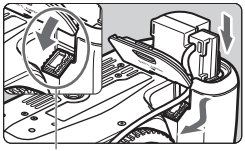
家庭用電源を使用する

DCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）を使用すると、家庭用電源をカメラの電源として使うことができます。



1 コードを溝にはめ込む

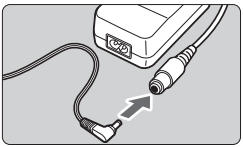
- DC カプラーのコードを傷つけないように、ていねいにはめ込みます。



DCカプラーコード通し部

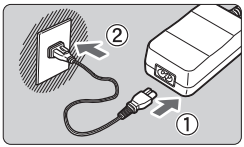
2 DCカプラーを入れる

- 電池室ふたを開け、DC カプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DC カプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。



3 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグと、ACアダプターのコネクターをしっかり接続します。



4 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードやDCカプラーのプラグの抜き差しを行わないでください。

ACアダプターキット ACK-E6（別売）を使用することもできます。

Eye-Fiカードを使う

セットアップした市販のEye-Fiカードを使うと、撮影しながら画像を無線LAN経由でパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードすることができます。

画像の転送は、Eye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問い合わせください。

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

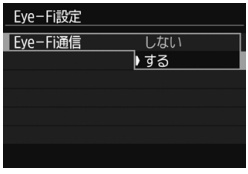
---

1 Eye-Fiカードを入れる （p.37）



2 [Eye-Fi設定] を選ぶ

- [1] タブの [**Eye-Fi設定**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- このメニューは、Eye-Fiカードを入れたときだけ表示されます。



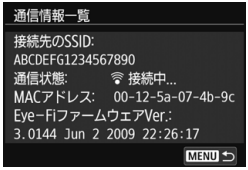
3 通信機能を有効にする

- [**Eye-Fi通信**] を選び〈(SET)〉を押します。
- [**する**] を選び〈(SET)〉を押します。
- [**しない**] を選ぶと、Eye-Fiカードが入っていても、自動転送されません（通信状態マーク(OFF)）。



4 通信情報一覧を表示する

● ［**通信情報一覧**］を選び〈(SET)〉を押します。



5 ［接続先のSSID:］を確認する

● ［**接続先のSSID:**］に転送先が表示されているか確認します。
● Eye-FiカードのMACアドレスとファームウェアのバージョンも確認できます。
● 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了します。

6 撮影する

➡ 画像が転送され、〈(wifi)〉が灰色（未接続）状態から、下記のように切り換わっていきます。
● 転送した画像は、撮影情報表示（p.348）の画面に［(wifi)］が表示されます。



通信状態マーク

(wifi)（灰色）**未接続**　：転送先に接続していません。
(wifi)（点滅）**接続中**　：転送先に接続しています。
(wifi)（点灯）**転送待機**：転送先に接続しました。
(wifi)（↑）**転送中**　　：画像を転送しています。

Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- [**1：無線通信の設定**]の[**Wi-Fi/NFC**]が[**使う**]に設定されているときは、Eye-Fiカードでの画像転送はできません。
- 「」が表示されたときは、カード情報の取得エラーです。カメラの電源を入れなおしてください。
- [**Eye-Fi通信**]を[**しない**]に設定しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fi カードを取り出しておいてください。
- 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳細はカードの使用説明書を参照してください。
- 無線LAN の接続状態により、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断することがあります。
- Eye-Fi カードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
- 電池の消耗が早くなります。
- 画像の転送中、オートパワーオフは機能しません。
- Eye-Fiカード以外の無線LANカードを入れたときは、[**Eye-Fi設定**]は表示されません。また、通信状態マーク〈〉も表示されません。

各撮影モードで設定できる機能一覧

静止画撮影時（かんたん撮影ゾーン：A+ 🔦 CA SCN）

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能		A+	🔦	CA	SCN									
記録画質の選択		○	○	○	○	○	○	○	○*1	○*1	○	○	○	○
アスペクト比														
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	手動設定													
ピクチャースタイル	自動設定	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA	CA
	任意設定													
雰囲気を選んで撮影				○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
明かりや状況にあわせて撮影						○					○	○	○	○
背景ぼかし設定				○										
色あい					○		○							
ホワイトバランス	自動設定	AWB	AWB	AWB	AWB W	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB
	プリセット													
	マニュアル													
	補正/ブラケティング													
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
レンズ光学補正	周辺光量補正	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	色収差補正	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	歪曲収差補正													
長秒時露光のノイズ低減														
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高輝度側・階調優先														
フリッカーレス撮影*2		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Adobe RGB													
測光モード	評価測光	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
	中央部重点平均測光						●							
	測光モード選択													

*1：RAW+JPEG、RAWは選択できません。
*2：ファインダー撮影時のみ設定できます。

機能					SCN										
AF動作（ファインダー撮影）	ワンショットAF				●		●	●	●	●*3	●*3	●	●		
	AIサーボAF					●*3									●*3
	AIフォーカスAF	●*3	●*3	●*3											
AF動作（ライブビュー撮影）	ワンショットAF	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●		
	サーボAF					●									●
AF	測距エリア選択モード														
	AFフレーム	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	AF補助光	●		●	●		●	●	●	●	●		●		
	AFマイクロアジャストメント*2														
露出	プログラムシフト														
	露出補正														
	AEB														
	AEロック														
	被写界深度確認														
	HDR撮影														
	多重露出														
	インターバルタイマー*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	高速連続撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	低速連続撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ソフト1枚撮影*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ソフト連続撮影*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	セルフタイマー：10秒/リモコン撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	セルフタイマー：2秒/リモコン撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
内蔵ストロボ	自動発光	○		○		○		●			○		○		
	常時発光	○		○	○	○			○		○		○		
	発光禁止	○	●	○	○	○	●		○	●	○	●	○	●	
	赤目緩和	○		○	○	○		○	○		○		○		
	FEロック*2														
	ストロボ調光補正														
	ワイヤレス制御														
外部ストロボ	常時発光	●		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	
	発光禁止		●							●					
	機能設定														
	カスタム機能設定														
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

*3：色検知によるAFが行われます。

静止画撮影時（かんたん撮影ゾーン：）

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能											
記録画質の選択*1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アスペクト比											
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	手動設定										
ピクチャースタイル	自動設定	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S
	任意設定										
雰囲気を選んで撮影											
明かりや状況にあわせて撮影											
背景ぼかし設定											
色あい											
ホワイトバランス	自動設定	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB
	プリセット										
	マニュアル										
	補正/ブラケティング										
オートライティングオプティマイザ											
レンズ光学補正	周辺光量補正	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	色収差補正	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	歪曲収差補正										
長秒時露光のノイズ低減											
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高輝度側・階調優先											
フリッカーレス撮影*2		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Adobe RGB										
測光モード	評価測光	●	●		●	●	●	●	●	●	●
	中央部重点平均測光			●							
	測光モード選択										

*1：RAW+JPEG、RAWは選択できません。
*2：ファインダー撮影時のみ設定できます。

機能											
AF動作（ファインダー撮影）	ワンショットAF							●*3	●*3	●*3	●*3
	AIサーボAF										
	AIフォーカスAF	●*3	●*3	●	●*3	●	●*3				
AF動作（ライブビュー撮影）	ワンショットAF	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	サーボAF										
AF	測距エリア選択モード										
	AFフレーム	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	AF補助光	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	AFマイクロアジャストメント*2										
露出	プログラムシフト										
	露出補正										
	AEB										
	AEロック										
	被写界深度確認										
	HDR撮影										
	多重露出										
	インターバルタイマー*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高速連続撮影							○	○	○	○
	低速連続撮影							○	○	○	○
	ソフト1枚撮影*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソフト連続撮影*2							○	○	○	○
	セルフタイマー：10秒/リモコン撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー：2秒/リモコン撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光	○	○	○	○	○	○				
	常時発光	○	○	○	○	○	○				
	発光禁止	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●
	赤目緩和	○	○	○	○	○	○				
	FEロック*2										
	ストロボ調光補正										
	ワイヤレス制御										
外部ストロボ	常時発光	●	●	●	●	●	●				
	発光禁止							●	●	●	●
	機能設定										
	カスタム機能設定										
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*3：色検知によるAFが行われます。

静止画撮影時（応用撮影ゾーン）

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

機能		P	Tv	Av	M	B
記録画質の選択		○	○	○	○	○
アスペクト比		○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定/オート	○	○	○	○	○
	手動設定	○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	自動設定	○	○	○	○	○
	任意設定	○	○	○	○	○
雰囲気を選んで撮影						
明かりや状況にあわせて撮影						
背景ぼかし設定						
色あい						
クリエイティブフィルター*1*2		○	○	○	○	○
ホワイトバランス	自動設定	○	○	○	○	○
	プリセット	○	○	○	○	○
	マニュアル	○	○	○	○	○
	補正/ブラケティング	○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		○	○	○	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	○	○	○	○	○
	色収差補正	○	○	○	○	○
	歪曲収差補正	○	○	○	○	○
長秒時露光のノイズ低減		○	○	○	○	○
高感度撮影時のノイズ低減		○	○	○	○	○
高輝度側・階調優先		○	○	○	○	○
フリッカーレス撮影*3		○	○	○	○	○
色空間	sRGB	○	○	○	○	○
	Adobe RGB	○	○	○	○	○
測光モード	評価測光	○	○	○	○	○
	測光モード選択	○	○	○	○	○

*1：RAW+JPEG、RAWは選択できません。
*2：ライブビュー撮影時のみ設定できます。
*3：ファインダー撮影時のみ機能します。

機能		P	Tv	Av	M	B
AF動作（ファインダー撮影）	ワンショットAF	○	○	○	○	○
	AIサーボAF	○	○	○	○	○
	AIフォーカスAF	○	○	○	○	○
AF動作（ライブビュー撮影）	ワンショットAF	○	○	○	○	○
	サーボAF	○	○	○	○	○
AF	測距エリア選択モード*3	○	○	○	○	○
	AFフレーム	○	○	○	○	○
	AF補助光	○	○	○	○	○
	AFマイクロアジャストメント*3	○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト	○				
	露出補正	○	○	○	*4	
	AEB	○	○	○	○	
	AEロック	○	○	○	*5	
	被写界深度確認	○	○	○	○	○
	HDR撮影	○	○	○	○	
	多重露出	○	○	○	○	○
	インターバルタイマー*3	○	○	○	○	
	バルブタイマー					○
ドライブモード	1枚撮影	○	○	○	○	○
	高速連続撮影	○	○	○	○	○
	低速連続撮影	○	○	○	○	○
	ソフト1枚撮影*3	○	○	○	○	○
	ソフト連続撮影*3	○	○	○	○	○
	セルフタイマー：10秒/リモコン撮影	○	○	○	○	○
	セルフタイマー：2秒/リモコン撮影	○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光					
	常時発光	○	○	○	○	○
	発光禁止	○	○	○	○	○
	赤目緩和	○	○	○	○	○
	FEロック*3	○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正	○	○	○	○	○
	ワイヤレス制御	○	○	○	○	○
外部ストロボ	常時発光	○	○	○	○	○
	発光禁止	○	○	○	○	○
	機能設定	○	○	○	○	○
	カスタム機能設定	○	○	○	○	○
ライブビュー撮影		○	○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○	○

*4：ISOオート設定時のみ設定できます。
*5：ISOオート時にISO感度を固定することができます。

動画撮影時

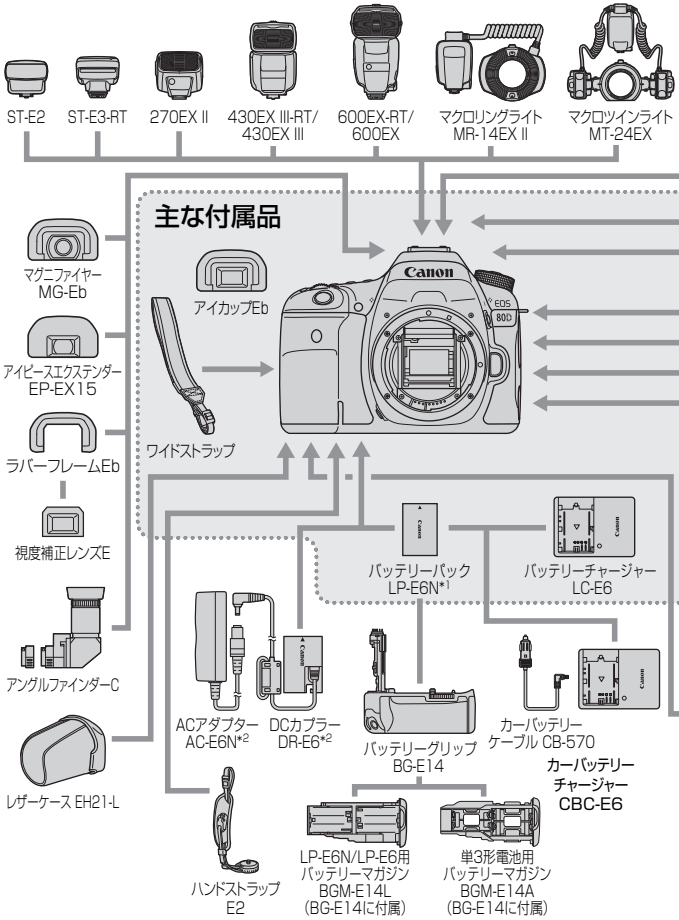
●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可／無効

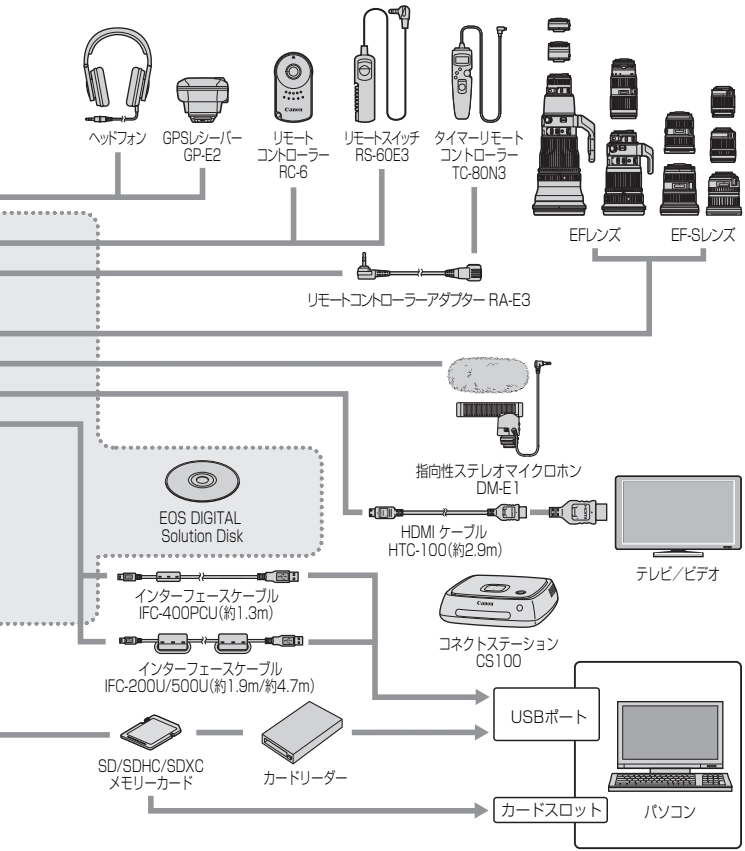
機能					SCN		P	Tv	Av	B	M
動画記録画質の選択		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
デジタルズーム		○	○	○	○		○	○	○	○	○
HDR動画撮影		○	○	○	○						
クリエイティブフィルター						○	○	○	○	○	○
ビデオスナップ		○	○	○	○		○	○	○	○	○
タイムラプス動画		○	○	○	○		○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定/オート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
	手動設定										○
ピクチャースタイル	自動設定	A	A	A	A	S	○	○	○	○	○
	任意設定						○	○	○	○	○
ホワイトバランス	自動設定	AWB	AWB	AWB	AWB	AWB	○	○	○	○	○
	プリセット						○	○	○	○	○
	マニュアル						○	○	○	○	○
	補正						○	○	○	○	○
オートライティングオプティマイザ		●	●	●	●		○	○	○	○	○
レンズ光学補正	周辺光量補正	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	色収差補正	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	歪曲収差補正										
高感度撮影時のノイズ低減		●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
高輝度側・階調優先							○	○	○	○	○

機能					SCN		P	Tv	Av	B	M
測光モード		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
AF	顔+追尾優先AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ多点AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ1点AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	手動ピント合わせ(MF)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	動画サーボAF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト										
	露出補正						○	○	○	○	*1
	AEロック						○	○	○	○	*2
	被写界深度確認										
アスペクト比											
録音		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クイック設定		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*1：ISOオート設定時のみ設定できます。
*2：ISOオート設定時にISO感度を固定することができます。

システム図


ST-E2
ST-E3-RT
270EX II
430EX III-RT/
430EX III
600EX-RT/
600EX
マクロリングライト
MR-14EX II
マクロツインライト
MT-24EX
主な付属品
マグニファイヤー
MG-Eb
アイカップEb
アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEb
視度補正レンズE
ワイドストラップ
Canon
EOS
80D
バッテリーパック
LP-E6N*1
バッテリーチャージャー
LC-E6
アングルファインダーC
ACアダプター
AC-E6N*2
DCカプラー
DR-E6*2
バッテリーグリップ
BG-E14
カーバッテリー
ケーブル CB-570
カーバッテリー
チャージャー
CBC-E6
レザーケース EH21-L
ハンドストラップ
E2
LP-E6N/LP-E6用
バッテリーマガジン
BGM-E14L
(BG-E14に付属)
単3形電池用
バッテリーマガジン
BGM-E14A
(BG-E14に付属)



*1: バッテリーパック LP-E6も使用できます。

*2: ACアダプターキット ACK-E6を使用することもできます。

* ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E7 (Ver.2)、WFT-E7は使用できません。

MENU メニュー機能一覧

ファインダー撮影／ライブビュー撮影時

📷：撮影1（赤）

		参照頁
記録画質	RAW*／M RAW*／S RAW*	142
	◢L／▟L／◢M／▟M／◢S1／▟S1／S2／S3	
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	67
電子音	入／タッチ音切／切	66
カードなしレリーズ	する／しない	38
レンズ光学補正	周辺光量補正：する／しない	175
	色収差補正：する／しない	
	歪曲収差補正：しない／する	
ストロボ制御	ストロボの発光／E-TTL II 調光方式／Avモード時のストロボ同調速度／内蔵ストロボ機能設定／外部ストロボ機能設定／外部ストロボカスタム機能設定／設定初期化	235
赤目緩和機能	切／入	230

*〈SCN：🌅 🌃〉モード、〈◎〉モードでは、選択できません。

▭ の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。

📷：撮影2（赤）

		参照頁
露出補正／AEB設定	1/3段、1/2段ステップ、±5段*（AEB±3段）	200 201
ISO感度に関する設定	ISO感度設定／静止画撮影の範囲／オートの範囲／オートの低速限界	148
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め	169
	M, Bulb時はOFF	
ホワイトバランス	AWB（雰囲気優先）／AWB w（ホワイト優先）／☀／🏠／☁／☀／🌅／⚡／🌊／K（約2500～10000）	162
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	164
WB補正/BKT設定	WB補正：B/A/M/G寄り、各色9段	167
	WB-BKT：B/A、M/G方向、1段ステップ±3段	
色空間	sRGB／Adobe RGB	181

* ライブビュー撮影時の露出補正は±3段までです。

📷：撮影3（赤）

ピクチャースタイル	A オート／S スタンダード／P ポートレート／L 風景／FD ディテール重視／N ニュートラル／F 忠実設定／M モノクロ／1 ユーザー設定1～3	154
長秒時露光のノイズ低減	しない／自動／する	172
高感度撮影時のノイズ低減	しない／弱め／標準／強め／マルチショットノイズ低減機能	170
高輝度側・階調優先	しない／する	174
ダストデリートデータ取得	EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでゴミ消し処理を行うためのデータを取得	405
多重露出	多重露出撮影／多重露出制御／重ねる枚数／多重露出撮影の継続	212
HDRモード	Dレンジ調整／仕上がり効果／HDR撮影の継続／画像位置自動調整	207

📷：撮影4*（赤）

		参照頁
インターバルタイマー	しない／する（撮影間隔／撮影回数）	223
バルブタイマー	しない／する（露光時間）	205
フリッカーレス撮影	しない／する	179
ミラーアップ撮影	しない／する	219
アスペクト比	3：2／4：3／16：9／1：1	146

* かんたん撮影ゾーンでは、[📷2] タブに表示されます。

📷：撮影5*（赤）

ライブビュー撮影	する／しない	257
AF方式	👤+追尾優先AF／ライブ多点AF／ライブ1点AF	276
タッチシャッター	しない／する	286
グリッド	表示しない／9分割＃／24分割▦／9分割+対角✳	270
露出Simulation	する／絞り込み中／しない	271

* かんたん撮影ゾーンでは、[📷3] タブに表示されます。

📷：撮影6（赤）

LVソフト撮影	モード1／モード2／しない	272
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	273

▶：再生1（青）

		参照頁
画像プロテクト	画像の保護	376
画像回転	画像の縦横回転	358
画像消去	画像の消去	378
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	380
フォトブック指定	フォトブックにする画像を指定	384
クリエイティブフィルター	ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風	399
RAW現像	RAWで撮影した画像を現像	390

▶：再生2（青）

トリミング	JPEG画像を部分的に切り抜く	397
リサイズ	JPEG画像の画素数を少なく処理	395
レーティング	[OFF] ／[★]／[★★]／[★★★]／[★★★★]／[★★★★★]	359
スライドショー	再生内容／再生間隔／リピート／切り換え効果／BGM選択	369
での画像送り	1枚／10枚／100枚／撮影日／フォルダ／動画／静止画／レーティング	354

▶：再生3（青）

ハイライト警告表示	しない／する	351
AFフレーム表示	しない／する	352
再生時のグリッド	表示しない／9分割＋／24分割▦／9分割＋対角✕	347
ヒストグラム	輝度／RGB	352
HDMI機器制御	切／入	374

🔧：機能設定1（黄）

		参照頁
フォルダ選択	フォルダの選択と作成	182
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	184
縦位置画像回転表示	する📷📱／する📱／しない	387
カード初期化	記録内容を初期化して消去	64
Eye-Fi設定	Eye-Fiカード（市販品）装填時に表示	457
無線通信の設定	Wi-Fi/NFC：使わない/使う NFCでの接続を許可	−*
	Wi-Fi機能： カメラ間で画像を送受信／スマートフォンと通信／EOS Utilityでリモート操作／Wi-Fi対応プリンターで印刷／メディアプレーヤーで画像閲覧／Webサービスへ画像を送信	
	スマートフォンへ画像を送信	
	ニックネーム	
	設定初期化	

* 詳しくは、無線機能 使用説明書を参照してください。

🔧：機能設定2（黄）

オートパワーオフ	1分／2分／4分／8分／15分／30分／しない	66
液晶の明るさ	明るさを調整（7段階）	386
液晶の消灯/点灯	消灯しない／半押し連動	67
日付/時刻/エリア	日付（年/月/日）／時刻（時/分/秒）／サマータイム／エリア	43
言語	表示言語を選択	46
ファインダー内表示	水準器：表示しない／表示する	72
	グリッド：表示しない／表示する	71
	フリッカー検知：表示する／表示しない	74
GPS機器の設定	GPSレシーバー GP-E2（別売）装着時に設定可能	−

：機能設定3（黄）

		参照頁
ビデオ方式	NTSC／PAL	307 373
機能ガイド	表示する／表示しない	75
タッチ操作	標準／敏感／しない	63
バッテリー情報	電源／電池残量／撮影回数／劣化度／電池の登録／シリアル番号／使用履歴確認	452
センサークリーニング	自動クリーニング：する／しない	404
	今すぐクリーニング	
	手作業でクリーニング	407
INFOボタンで表示する内容	カメラ設定の内容／水準器／撮影機能の設定状態	450
LV時にINFOボタンで表示する内容	切り換え設定：1／2／3／4	262
	ヒストグラム：輝度/RGB／表示サイズ	263
	初期化	

- 無線機能やGPS機器を使用するときは、使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- このカメラとGPSレシーバー GP-E2（別売）をケーブルで接続するときは、以下の対応と準備が必要です。
  - GP-E2 のファームウェアを Ver.2.0.0 以上にアップデートしてください。（これ以前のバージョンのときは、ケーブル接続では使用できません。）
  - 別売のインターフェースケーブル（p.469）が必要です。

  ただし、GP-E2をカメラのアクセサリーシューに取り付けて使用するときは、上記の対応と準備は不要です。なお、GP-E2のファームウェアのアップデート方法については、キヤノンのホームページを参照してください。
- カメラとパソコン、GPSレシーバーなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、無線機能は設定できません。

：機能設定4（黄）

		参照頁
マルチ電子ロック	メイン電子ダイヤル	54
	サブ電子ダイヤル	
	マルチコントローラー	
	タッチ操作	
カスタム撮影モード（C1, C2）	モードダイヤルの C1、C2 に現在のカメラ設定を登録	445
カメラ設定初期化	カメラの設定を初期状態にする	68
著作権情報	著作権情報の表示／作成者名入力／著作権者名入力／著作権情報の消去	186
認証マーク表示	このカメラが対応している認証マークの一部を確認	449
ファームウェア*	ファームウェア変更時に選択	−

* ファームウェア変更時は、誤操作防止のため途中からタッチ操作はできなくなります。

：カスタム機能（橙）

C.Fn I：露出	カメラの機能を細かく設定	413
C.Fn II：AF		416
C.Fn III：操作・その他		425
カスタム機能（C.Fn）一括解除	カスタム機能をすべて解除	410

★：マイメニュー（緑）

マイメニュータブの追加	マイメニュー 1～5タブを追加	440
マイメニュータブの全削除	マイメニュータブをすべて削除	443
全項目削除	マイメニュー 1～5タブに登録されている項目をすべて削除	443
メニュー表示	通常表示／マイメニュータブから表示／マイメニュータブのみ表示	444

動画撮影時

📷：撮影1（赤）

		参照頁
記録画質*	RAW／M RAW／S RAW	142
	◢L／◢L／◢M／◢M／◢S1／◢S1／S2／S3	
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	67
電子音	入／タッチ音切／切	66
カードなしレリーズ	する／しない	38
レンズ光学補正	周辺光量補正：する／しない	175
	色収差補正：する／しない	

* 動画撮影時に［**記録画質**］メニューが表示されますが、動画撮影時に静止画は撮影できません。

● ▭ の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。
● 表示されるタブや項目は、ファインダー撮影/ライブビュー撮影時と、動画撮影時で異なります。なお、［▶1］再生1～［▶3］再生3、［🔧1］機能設定1～［🔧4］機能設定4、［⚙.］カスタム機能、［★］マイメニューに表示されるタブや項目は、ファインダー撮影/ライブビュー撮影時と同じです（p.473～476）。

📷：撮影2（赤）

		参照頁
露出補正	1/3段、1/2段ステップ、±3段	200
ISO感度に関する設定	ISO感度設定*／動画撮影の範囲	148 332
オートライティングオプティマイザ	しない／弱め／標準／強め M, Bulb時はOFF	169
ホワイトバランス	AWB（雰囲気優先）／AWB w（ホワイト優先）／☀／🏠／☁／☀／▦／⚡／▭／K（約2500～10000）	162
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	164
WB補正	B/A/M/G寄り、各色9段	167

* マニュアル露出時のみ設定できます。

📷：撮影3（赤）

ピクチャースタイル	A オート／S スタンダード／P ポートレート／L 風景／FD ディテール重視／N ニュートラル／F 忠実設定／M モノクロ／1 ユーザー設定1～3	154
高感度撮影時のノイズ低減	しない／弱め／標準／強め	170
高輝度側・階調優先	しない／する	174
ダストデリートデータ取得	EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでゴミ消し処理を行うためのデータを取得	405

📷：撮影4[*1]（赤）

		参照頁
動画サーボAF	する／しない	326
AF方式	👤+追尾優先AF／ライブ多点AF／ライブ1点AF	327
動画記録画質	MOV／MP4	306
	動画記録サイズ（MOV形式）： ・1920×1080 ・NTSC：29.97p／23.98p PAL：25.00p ・ALL-I（編集用） 動画記録サイズ（MP4形式）： ・1920×1080／1280×720 ・NTSC：59.94p／29.97p／23.98p PAL：50.00p／25.00p ・IPB（標準）／IPB（軽量）	307
デジタルズーム	しない／約3～10倍ズーム	311
録音[*2]	録音：オート／マニュアル／しない	312
	録音レベル	
	ウィンドカット：オート／切	
	アッテネーター：切／入	
動画サーボAF時のAF速度	作動条件：常時／撮影中	329
	AF速度：遅い（-7/-6/-5/-4/-3/-2/-1）／標準／速い（+1/+2）	
動画サーボAFの被写体追従特性	粘る（-3/-2/-1）／0／敏感（+1/+2/+3）	330

*1：かんたん撮影ゾーンでは、［📷2］タブに表示されます。
*2：かんたん撮影ゾーンのときは、［**録音**］：［**する／しない**］になります。

📷：撮影5*1（赤）

		参照頁
測光タイマー	4秒／8秒／16秒／30秒／1分／10分／30分	331
グリッド	表示しない／9分割 ／24分割 ／9分割+対角	331
ボタンの機能	AF／－／ ／－／AF／ ／ ／	331
ビデオスナップ	ビデオスナップ：撮影する／撮影しない	333
	アルバムの設定：アルバムを新規に作成／既存のアルバムに追記	
	保存確認画面の表示：する／しない	
タイムラプス動画	しない／する（撮影間隔／撮影回数／撮影所要時間／再生時間／カードの残量）	319
リモコン撮影	しない／する	332

*1：かんたん撮影ゾーンでは、［📷3］タブに表示されます。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- バッテリー残量が94%以上のときは、充電は行われません（p.452）。
- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器または電池に異常が発生した場合や、(2) 電池と通信できない場合（純正以外の電池使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は故障ですので、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けた電池の内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、電池が高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、電池の温度が下がると自動的に充電が始まります。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.36）。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.36）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.37）。
- 電池を充電してください（p.34）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

● カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

［ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？］と表示される

● 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。
● 電池の出し入れを行ってください（p.36）。
● 電池の接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

電池の消耗が早い

● フル充電した電池を使用してください（p.34）。
● 電池の性能が劣化している可能性があります。［**3：バッテリー情報**］で電池の劣化状態を確認してください（p.452）。劣化している場合は、新しい電池をお買い求めください。
● 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
・AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
・レンズの手ブレ補正機能を使う
・液晶モニターを頻繁に使用する
・ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
・Eye-Fiカードの通信機能を有効にしているとき

電源が勝手に切れる

● オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］にしてください（p.66）。
● ［**2：オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定していても、カメラを約30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-Mレンズは使用できません（p.47）。

ファインダーが暗い

- 充電した電池をカメラに入れてください（p.34）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.37）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.37）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.37、378）。
- ワンショット AF でピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.50、137）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、39ページ、496ページを参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。AIサーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません（p.118）。

画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.47）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.49～50）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.192）、ISO感度を上げる（p.148）、ストロボを使用する（p.228、233）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

AFフレーム（測距点）が少ない

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や測距パターンが異なり、A～Hの8グループに分類されます。使用するレンズがどのグループに属しているか確認してください。なお、E～Hグループのレンズを使用したときは、測距点が少なくなります（p.130～131）。

AFフレームが点滅している

- 〈⊡〉ボタンを押したときのAFフレームの点灯／点滅については、123ページを参照してください。

AFフレームが赤く照明されない

- AFフレームは、暗い場所でピントが合ったときに赤く照明されます。
- 応用撮影ゾーンでは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます（p.424）。

連続撮影速度が遅い

● シャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさ、レンズの種類、ストロボ使用、温度、電池の種類、電池残量、撮影機能の設定などにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。詳しくは139ページを参照してください。

ライブ多点AF設定時、ピント合わせに時間がかかる

● 撮影条件によっては被写体にピントが合うまで時間がかかることがあります。ライブ1点AFまたは手動でピントを合わせてください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

● 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、143ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

● [**3：高輝度側・階調優先**] を [**しない**] に設定すると、ISO100/125/160が設定できるようになります（p.174）。

● [**3：高輝度側・階調優先**] が [**する**] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～16000（動画撮影時は12800）になります。[**静止画撮影の範囲**] または [**動画撮影の範囲**] で設定範囲を拡張しても、拡張ISO感度（H）は選択できません。

露出を暗めに補正したのに、明るく撮影される

● [**2：オートライティングオプティマイザ**] を [**しない**] に設定してください。[**弱め**] [**標準**] [**強め**] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります（p.169）。

多重露出画像がRAWで撮影される

● 記録画質の設定がM RAW、S RAWのときは、多重露出画像はRAWで記録されます（p.218）。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

● 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出になるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、[**1：ストロボ制御**] の [**Avモード時のストロボ同調速度**] を、[**1/250-1/60秒自動**] または [**1/250秒固定**] に設定してください（p.236）。

内蔵ストロボが勝手に上がる

● 〈ᵃ〉（内蔵ストロボ自動発光）が、初期設定されている撮影モードでは、必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります（〈A+〉〈CA〉〈**SCN**：〉〈：〉）。

● 〈**SCN**：〉、〈：HDR HDR HDR HDR〉モードのときは、暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが自動的に上がり、AF補助光が光ることがあります。

内蔵ストロボが発光しない

● 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボが発光しない

● 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、[**6：LVソフト撮影**]を[**しない**]に設定してください（p.272）。

外部ストロボがいつもフル発光する

● EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（p.234）。
● 外部ストロボカスタム機能の[**調光方式**]が[**TTL**]（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（p.243）。

外部ストロボの調光補正ができない

● 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。外部ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

● [**1：ストロボ制御**]の[**Avモード時のストロボ同調速度**]を[**自動**]に設定してください（p.236）。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

- ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します（p.257）。

ライブビュー撮影時に、白い🔥と赤い🔥が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🔥〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🔥〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています（p.290）。

動画撮影時に赤い🔥が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い〈🔥〉が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.343）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、5ページを参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

● 撮影モードが〈**M**〉以外のときは、ISO 感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます（p.299）。

動画撮影にすると、手動設定したISO感度が変わる

● ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時は［**静止画撮影の範囲**］、動画撮影時（マニュアル露出撮影）は［**動画撮影の範囲**］の設定内容でISO感度が設定されます。

動画撮影時に露出が変化する

● 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
● 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

● 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

● 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、〈**M**〉モードのときは、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

無線機能関連

無線機能の設定ができない

- カメラとパソコン、GPSレシーバーなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、無線機能の設定ができません（［**1：無線通信の設定**］が灰色で表示）。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください。
- 無線機能 使用説明書を参照してください。

操作関連

〈〉〈〉〈〉、タッチパネルで設定を変更できない

- 〈**LOCK**〉スイッチを下側（ロック解除）にしてください（p.54）。
- ［**4：マルチ電子ロック**］の設定内容を確認してください（p.54）。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- ［**C.Fn III -4：操作ボタンカスタマイズ**］の設定内容を確認してください（p.433）。

タッチ操作時の電子音が、急に小さくなった

- スピーカーを、指でふさいでいないか確認してください（p.26）。

タッチ操作ができない

- ［**3：タッチ操作**］が［**標準**］または［**敏感**］に設定されているか確認してください（p.63）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- かんたん撮影ゾーンでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください（p.58）。
- ［★］タブの［**メニュー表示**］が［**マイメニュータブのみ表示**］に設定されています（p.444）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.181）。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

- 動画ファイルです（p.185）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.184）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.43）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.43）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.380）。

[###]が表示される

● カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます（p.360）。

ファインダー内のAFフレームの表示速度が遅い

● 低温下では、AFフレーム表示装置の特性上、表示速度が遅くなることがあります。常温に戻れば表示速度が速くなります。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

● 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
● 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

[Eye-Fi設定] が表示されない

● ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません（p.457）。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

● ［**▶3：ハイライト警告表示**］が［**する**］に設定されています（p.351）。

画像に赤い枠が表示される

● ［**▶3：AFフレーム表示**］が［**する**］に設定されています（p.352）。

画像を消去できない

● プロテクトされている画像は消去できません（p.376）。

動画が再生できない

● パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

動画を再生すると操作音や作動音がする

● 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）の使用をおすすめします（p.313）。

動画が一瞬止まって見える

● 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（p.298）。

テレビに画像が表示されない

● [**3：ビデオ方式**]の[NTSC][PAL]の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
● HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.373）。

動画ファイルが複数作成される

● 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.309）。

カードリーダーでカードを認識できない

● SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、画像を取り込んでください（p.514）。

RAW画像が現像できない

● **M** RAW、**S** RAW画像はカメラで現像処理を行うことはできません。EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行ってください（p.514）。

画像をリサイズ／トリミングできない

● JPEGの**S3**と RAW/**M** RAW/**S** RAW画像は、カメラでリサイズ、トリミングを行うことはできません（p.395）。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

● ［**今すぐクリーニング** ］を選んだときは、シャッターの作動音がしますが、撮影は行われません（p.404）。

撮像素子の自動清掃が行われない

● 電源スイッチの〈**ON**〉〈**OFF**〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがあります（p.41）。

パソコン接続関連

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[**5：タイムラプス動画**]を[**しない**]に設定してください（p.319）。

パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください（p.515）。
- 無線接続中は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続することはできません。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する、電池の出し入れ（p.25、26、36）
02	カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.37、64）
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.37、64、378）
05	内蔵ストロボをポップアップできませんでした。電源を入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作（p.41）
06	センサークリーニングができませんでした。電源を入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作（p.41）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源を入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作、電池の出し入れ、純正レンズを使用（p.36、41）

***上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、EOS・サポートナビ（canon.jp/eos-navi）から修理をお申し込みいただくか、エラー番号を控えて別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。**

主な仕様

■型式

型式.....ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体.....SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード
　　* UHS-Iカード対応
撮像画面サイズ.....約22.3×14.9mm
使用レンズ.....キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
　　* EF-Mレンズを除く
　　（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント.....キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式.....CMOSセンサー
カメラ部有効画素.....約2420万画素
　　* 1万の位を四捨五入
アスペクト比.....3：2
ダスト除去機能.....自動/手動/ダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット.....DCF2.0
画像タイプ.....JPEG、RAW（14bit、キヤノン独自）
　　RAW+JPEG同時記録可能
記録画素数.....L（ラージ）　：2400万（6000×4000）画素
　　M（ミドル）　：約1060万（3984×2656）画素
　　S1（スモール1）：約590万（2976×1984）画素
　　S2（スモール2）：約250万（1920×1280）画素
　　S3（スモール3）：約35万（720×480）画素
　　RAW（ロウ）　：2400万（6000×4000）画素
　　M-RAW　：1350万（4500×3000）画素
　　S-RAW　：600万（3000×2000）画素
アスペクト比.....3：2、4：3、16：9、1：1
フォルダ作成／選択.....可能
画像番号.....通し番号、オートリセット、強制リセット

■撮影時の画像処理

ピクチャースタイル.....オート、スタンダード、ポートレート、風景、ディテール重視、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3

ホワイトバランス ..... オート（雰囲気優先）、オート（ホワイト優先）、プリセット（太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ）、マニュアル、色温度指定（約2500～10000K）、ホワイトバランス補正、ホワイトバランスブラケティング可能
* ストロボ色温度情報通信対応
ノイズ低減 ..... 長秒時露光、高感度撮影に対応
画像の明るさ自動補正..... オートライティングオプティマイザ機能搭載
高輝度側・階調優先..... 可能
レンズ光学補正 ..... 周辺光量補正、色収差補正、歪曲収差補正

■ファインダー

方式..... ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率..... 3：2（上下：約100%、左右：約100%）、4：3（上下：約100%、左右：約97%）、16：9（上下：約97%、左右：約100%）、1：1（上下：約100%、左右：約96%）
（各アスペクト比）
* アイポイント約22mm時
倍率..... 約0.95倍（50mmレンズ・∞・－1m^{-1}）
アイポイント ..... 約22mm（－1m^{-1}時/接眼レンズ中心から）
視度調整範囲 ..... 約－3.0～+1.0m^{-1}（dpt）
フォーカシングスクリーン... 固定式
グリッド表示 ..... 可能
水準器表示 ..... 可能
ミラー..... クイックリターン式
被写界深度確認 ..... 可能

■オートフォーカス（ファインダー撮影時）

方式..... 専用AFセンサーによるTTL二次結像位相差検出方式
測距点..... 45点（クロス測距点：最大45点）
* 使用レンズやアスペクト比の設定により、測距点数、デュアルクロス測距点数、クロス測距点数が変動する
* 中央測距点はF2.8対応デュアルクロス測距（AFグループ属性：Aグループレンズ使用時）
測距輝度範囲 ..... EV －3～18（中央F2.8対応測距点・ワンショットAF・常温・ISO100）
フォーカス動作 ..... ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
測距エリア選択モード..... 1点AF（任意選択）、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、45点自動選択AF
測距点自動選択条件..... 人物の肌色に相当する色の情報で測距点自動選択が可能
AIサーボAF特性..... 被写体追従特性、速度変化に対する追従性、測距点乗り移り特性

AF微調整 ..... AFマイクロアジャストメントにより対応（全レンズ一律調整、レンズごとに調整）
AF補助光 ..... 内蔵ストロボ間欠発光方式

■露出制御

測光方式 ..... 7560画素RGB+IR測光センサーによる63分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約6.0%）
・スポット測光（中央部・ファインダー画面の約3.8%）
・中央部重点平均測光
測光輝度範囲 ..... EV 1～20（常温・ISO100）
撮影モード ..... かんたん撮影ゾーン：
シーンインテリジェントオート、ストロボ発光禁止、クリエイティブオート、スペシャルシーン（料理、キッズ、キャンドルライト、夜景ポートレート、手持ち夜景、HDR逆光補正、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ）、クリエイティブフィルター（ラフモノクロ、ソフトフォーカス、魚眼風、トイカメラ風、ジオラマ風、水彩風、HDR絵画調標準、HDRグラフィック調、HDR油彩調、HDRビンテージ調）

応用撮影ゾーン：
プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、マニュアル露出、バルブ、カスタム撮影モード
ISO感度 ..... かんたん撮影ゾーン*：ISO100～6400自動設定
（推奨露光指数） * 手持ち夜景：ISO100～12800自動設定、風景：ISO100～1600自動設定
P, Tv, Av, M, B：ISOオート、ISO100～16000任意設定（1/3、1段ステップ）、およびH（ISO25600相当）の感度拡張が可能
ISO感度関連設定 ..... 静止画撮影の範囲、オートの範囲、オートの低速限界設定可能
露出補正 ..... 手動：1/3、1/2段ステップ±5段
AEB：1/3、1/2段ステップ±3段（手動露出補正との併用可能）
AEロック ..... 自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動：AEロックボタンによる
フリッカー低減 ..... 可能
インターバルタイマー ..... 撮影間隔、撮影回数を設定可能
バルブタイマー ..... 露光時間を設定可能

■HDR撮影

ダイナミックレンジ調整..自動、±1、±2、±3
仕上がり効果.....ナチュラル、絵画調標準、グラフィック調、油彩調、ビンテージ調
画像位置自動調整 .....可能

■多重露出撮影

多重枚数.....2～9枚
多重露出制御 .....加算、加算平均

■シャッター

形式.....電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度 .....1/8000～30秒（すべての撮影モードを合わせて）、バルブ、ストロボ同調最高シャッター速度＝1/250秒

■ドライブ関係

ドライブモード.....1枚撮影、高速連続撮影、低速連続撮影、ソフト1枚撮影、ソフト連続撮影、セルフタイマー：10秒/リモコン、セルフタイマー：2秒/リモコン
連続撮影速度 .....高速連続撮影：最高約7.0コマ/秒*
* ライブビュー撮影時、[サーボAF]設定時は最高約5.0コマ/秒
低速連続撮影：最高約3.0コマ/秒
ソフト連続撮影：最高約3.0コマ/秒
連続撮影可能枚数 .....JPEGラージ/ファイン：約77枚（約110枚）
RAW：約20枚（約25枚）
RAW+JPEGラージ/ファイン：約20枚（約22枚）
* 当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定
*（ ）内の数値は、当社試験基準UHS-I対応、16GBカード使用時の枚数

■ストロボ

内蔵ストロボ.....リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
ガイドナンバー約12（ISO100・m）
焦点距離約17mm相当の画角に対応
充電時間約3秒
外部ストロボ.....EXシリーズスピードライトに対応
調光方式.....E-TTL II 自動調光

ストロボ調光補正.....1/3、1/2段ステップ±3段
FEロック.....可能
シンクロ端子 .....なし
ストロボ制御 .....内蔵ストロボ機能設定、外部ストロボ機能設定、外部ストロボカスタム機能設定
光通信によるワイヤレスストロボ制御可能

■ライブビュー撮影機能

フォーカス方式.....デュアルピクセル CMOS AF方式
AF方式 .....顔+追尾優先AF、ライブ多点AF、ライブ1点AF
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
AF動作 .....ワンショットAF、サーボAF
測距輝度範囲 .....EV 0～18（常温・ISO100）
測光方式 .....評価測光（315分割）、部分測光（ライブビュー画面の約6.1%）、スポット測光（ライブビュー画面の約2.6%）、中央部重点平均測光
測光輝度範囲 .....EV 0～20（常温・ISO100）
露出補正 .....1/3段、1/2段ステップ±3段
クリエイティブ
フィルター .....可能
LVソフト撮影.....可能（モード1、2）
タッチシャッター.....可能
グリッド表示 3種類

■動画撮影機能

記録形式.....MOV、MP4
映像.....MPEG-4 AVC/H.264
可変（平均）ビットレート方式
音声.....MOV：リニアPCM、MP4：AAC
記録サイズと
フレームレート.....[MOV]
Full HD（1920×1080）：29.97p/25.00p/23.98p
[MP4]
Full HD（1920×1080）：59.94p/50.00p/29.97p/25.00p/23.98p
HD（1280×720）　：59.94p/50.00p/29.97p/25.00p

圧縮方式 ..... [MOV]：ALL-I（編集用／I-only）
[MP4]：IPB（標準）、IPB（軽量）
ビットレート ..... [MOV]
Full HD（29.97p/25.00p/23.98p）/ALL-I
：約90Mbps
[MP4]
Full HD（59.94p/50.00p）/IPB（標準）
：約60Mbps
Full HD（29.97p/25.00p/23.98p）/IPB（標準）
：約30Mbps
Full HD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量）：約12Mbps
HD（59.94p/50.00p）/IPB（標準）　：約26Mbps
HD（29.97p/25.00p）/IPB（軽量）　：約4Mbps
HDR動画撮影　：約30Mbps
フォーカス方式 ..... デュアルピクセル CMOS AF方式
AF方式 ..... 顔+追尾優先AF、ライブ多点AF、ライブ1点AF
手動ピント合わせ（約5倍/10倍拡大確認可能）
動画サーボAF ..... 可能
* 動画サーボAFのカスタマイズ可能
デジタルズーム ..... 約3～10倍
測距輝度範囲 ..... EV 0～18（常温・ISO100）
測光方式 ..... 中央部重点平均測光または評価測光
測光輝度範囲 ..... EV 0～20（常温・ISO100）
露出制御 ..... 自動露出撮影（動画撮影用プログラムAE）、マニュアル露出
露出補正 ..... 1/3、1/2段ステップ±3段
ISO感度 ..... 自動露出撮影時：ISO100～12800自動設定、応用撮影
（推奨露光指数）　ゾーン時は上限H（ISO25600相当）までの感度拡張が可能
マニュアル露出撮影時：ISOオート（ISO100～12800自動設定）、ISO100～12800手動設定（1/3、1段ステップ）、H（ISO25600相当）の感度拡張が可能
ISO感度関連設定 ..... 動画撮影の範囲設定可能
HDR動画撮影 ..... 可能
動画のクリエイティブ
フィルター ..... メモリー／ファンタジー／オールドムービー／ダイナミックモノクローム／ジオラマ風動画
ビデオスナップ 2秒間/4秒間/8秒間から設定可能
録音 ..... ステレオマイク内蔵、外部ステレオマイク端子装備
録音レベル調整可能、ウィンドカット機能／アッテネーター機能搭載
ヘッドフォン ..... ヘッドフォン端子装備、音量調整可能

グリッド表示 3種類
タイムラプス動画..... 撮影間隔、撮影回数を設定可能
撮影所要時間、再生時間、カード残量を確認可能
静止画撮影 ..... 動画撮影時不可

■液晶モニター

形式..... TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ/ドット数..... ワイド3.0型（3：2）／約104万ドット
明るさ調整 ..... 手動（7段階）
水準器表示 ..... 可能
メニュー表示言語..... 日本語、英語
タッチパネル機能..... 静電容量方式
機能ガイド/ヘルプ..... 表示可能

■再生機能

画像表示形式 ..... 1枚表示（情報表示なし）、1枚表示（簡易情報）、1枚表示（撮影情報表示：詳細情報、レンズ/ヒストグラム情報、ホワイトバランス情報、ピクチャースタイル情報1、ピクチャースタイル情報2、色空間/ノイズ低減情報、レンズ光学補正情報）、インデックス表示（4/9/36/100枚）
ハイライト警告..... ハイライト部分点滅表示
AFフレーム表示..... 可能（撮影条件により、表示できない場合もあり）
グリッド表示 3種類
拡大ズーム倍率..... 約1.5～10倍
画像送り 1枚/10枚/100枚/撮影日/フォルダ/動画/静止画/レーティング
画像回転 ..... 可能
画像プロテクト..... 可能
レーティング ..... 可能
動画再生 ..... 可能（液晶モニター／HDMI）、スピーカー内蔵
スライドショー..... 全画像/日付/フォルダ/動画/静止画/レーティング
BGM選択..... スライドショー、動画再生時に選択可能

■撮影後の画像処理

カメラ内RAW現像..... 明るさ補正、ホワイトバランス、ピクチャースタイル、オートライティングオプティマイザ、高感度撮影時のノイズ低減、JPEG記録画質、色空間、周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正
リサイズ ..... 可能

クリエイティブ
フィルター..... ラフモノクロ、ソフトフォーカス、魚眼風、油彩風、水彩風、トイカメラ風、ジオラマ風

■印刷指定
DPOF..... バージョン1.1準拠

■カスタマイズ機能
カスタム機能..... 26種
マイメニュー..... 5画面登録可能
カスタム撮影モード..... モードダイヤルのC1/C2に登録
著作権情報..... 設定/付加可能

■インターフェース
デジタル端子..... パソコン通信（Hi-Speed USB相当）、GPSレシーバー GP-E2、コネクトステーション CS100接続
HDMIミニ出力端子..... タイプC（解像度自動切り換え）、CEC対応
外部マイク入力端子..... Φ3.5mmステレオミニジャック
リモコン端子..... リモートスイッチRS-60E3用
ワイヤレスリモコン..... リモートコントローラー RC-6に対応
Eye-Fiカード..... 対応

■電源
使用電池..... バッテリーパック LP-E6N/LP-E6、1個
* 家庭用電源アクセサリー使用によりAC駆動可能
* バッテリーグリップ BG-E14装着時、単3形電池使用可能
電池情報..... 電池残量、撮影回数、劣化度確認、電池登録可能
撮影可能枚数の目安..... ファインダー撮影：
（CIPA試験基準による。ストロボ50%使用時）常温（＋23℃）約960枚/低温（0℃）約860枚
ライブビュー撮影：
常温（＋23℃）約300枚/低温（0℃）約270枚
動画撮影可能時間..... 常温（＋23℃）合計約1時間50分
低温（0℃）合計約1時間40分
* フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用時

■大きさ・質量
大きさ..... 約139.0（幅）×105.2（高さ）×78.5（奥行）mm
質量..... 約730g（CIPAガイドラインによる）/約650g（本体のみ）

■動作環境

使用可能温度 .....0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 大きさ、質量はCIPAガイドラインによります(カメラ本体のみの質量除く)。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

MEMO

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

MEMO

MEMO

14

パソコンに画像を取り込む／ソフトウェアについて

この章では、パソコンに画像を取り込む方法と、付属のEOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている各ソフトウェアの概要、およびパソコンへのインストール方法について説明しています。

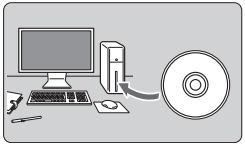


EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア）

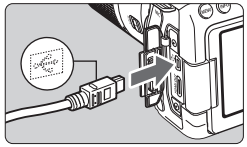
パソコンに画像を取り込む

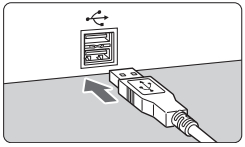
EOS用ソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む



1 ソフトウェアをインストールする
（p.515）





2 インターフェースケーブルで、カメラとパソコンを接続する

- カメラ側を接続するときは、プラグの〈←〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

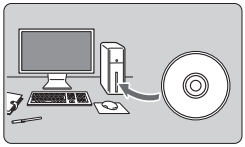
3 EOS Utilityを使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

無線接続中は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続することはできません。

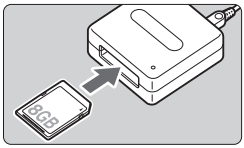
カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込むことができます。



1 ソフトウェアをインストールする

(p.515)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

ソフトウェアの概要



EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアは、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されています。

EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーすることができます。

* カメラでビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

Digital Photo Professional

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像、JPEG画像の閲覧・編集・印刷などができます。

* OSが64bit版のパソコンにインストールされるバージョンと、32bit版のパソコンにインストールされるバージョンでは、一部機能が異なります。

Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます（p.4）。

ソフトウェアのインストール

- **ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。**
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合も、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［setup］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

3 インストールが完了したら、CD-ROMを取り出す

索 引

英数字

10秒後/2秒後撮影 140
1280×720（動画） 307
1920×1080（動画）..... 307
1点AF 120
1枚撮影 138
1枚表示 346
45点自動選択AF 120
A+(シーンインテリジェント
オート) 78
Adobe RGB 181
AEB 201, 413
AEロック 203
AF
　AFグループ 128
　AFセンサー 127
　AF動作 116, 274
　AFの苦手な被写体 136, 284
　AFフレーム 120
　AFフレーム赤色照明 119
　AFフレーム選択 122, 436
　AF方式 276, 327
　AF補助光 119, 419
　AFマイクロアジャストメント 427
　色検知 126, 422
　エリアAFフレーム 120, 125
　クロス測距 127
　構図変更 81
　手動ピント合わせ 137, 288
　測距エリア選択
　モード 120, 121, 124
　デュアルクロス測距 127
　電子音 66
　ピンボケ 49, 284
AF-ON（スタート）ボタン 50
AI FOCUS（AIフォーカスAF） 118
AI SERVO（AIサーボAF） 81, 118
　特性 416, 418
ALL-I (編集用／I-only) 308
Av（絞り優先AE） 194
BGM 372
B（バルブ） 204
C1（カスタム撮影） 445
CA（クリエイティブオート） 84
DCカプラー 456
DIGITAL端子 512
DPOF 380
exFAT 65
Eye-Fiカード 457
FEB 242
FEロック 232, 233
Full HD（動画） 293, 307
GPS 474
HD（動画） 307
HDMI 363
HDMI CEC 374
HDR絵画調標準 104
HDR逆光補正 94
HDRグラフィック調 104
HDRビンテージ調 105
HDRモード 207
HDR油彩調 105
ICCプロファイル 181
INFO.ボタン 258, 262, 300,
346, 450
IPB（軽量） 308
IPB（標準） 308
ISO感度 148, 296, 299
　感度拡張 151
　自動設定（オート） 150
　自動設定範囲 152

手動設定範囲 151
設定ステップ 413
低速限界 153
JPEG（ジェイペグ） 142
LOCK 54
M（マニュアル露出） 196, 298
MENU マーク 8
MF（手動ピント合わせ） 137, 288
MOV 306
MP4 306
M-RAW（ミドルロウ） 143, 144
MWB 164
NTSC 307, 475
ONE SHOT
（ワンショットAF） 117, 274
P（プログラムAE） 190
PAL 307, 475
Q（クイック
設定） 56, 106, 265, 305, 361
RAW（ロウ） 143, 144
RAW+JPEG 142
RAW現像 390
SD、SDHC、SDXCカード →カード
S-RAW（スモールロウ） 143, 144
sRGB 181
Tv（シャッター優先AE） 192
USB（デジタル）端子 512
WB（ホワイトバランス） 162
Wi-Fi/NFC 474

あ

アイカップ 220
アイピースカバー 33
赤目緩和 230
明かりや状況にあわせて撮影 112
アクセサリーシュー 26, 233
アクセスランプ 38
アスペクト比 146
アッテネーター 312
後幕シンクロ 241
色あい 89, 91, 158
色温度 162, 166
色空間 181
色収差補正 176
色の濃さ 158
印刷指定（DPOF） 380
インターバルタイマー 223
インデックス表示 353
ウィンドカット 312
液晶モニター 24, 40
明るさ調整 386
角度調整 40, 82
画像の再生 345
撮影機能の設定状態 55, 451
水準器 72
メニュー表示 58, 470
エラー表示 496
エリアAFフレーム 120, 125
エリア（地域） 43
応用撮影ゾーン 31
応用 マーク 8
オートパワーオフ 41, 66
オートフォーカス →AF
オートライティング
オプティマイザ 169
オートリセット 185
お気に入りマーク 359
温度警告 290, 343
音量（動画再生） 366

か

カード.....5, 25, 37, 64
入れ忘れ防止.....38
書き込み禁止.....37
初期化（フォーマット）.....64
トラブル.....39, 65
物理フォーマット.....65
カードなしレリーズ.....38
階調優先.....174
回転（画像）.....358, 387
外部ストロボ →ストロボ
拡大表示.....288, 355
拡張子.....185
各部の名称.....26
カスタム機能.....410
カスタム撮影モード.....445
カスタムホワイトバランス.....165
画像
AFフレーム表示.....352
インデックス表示.....353
拡大表示.....355
画像番号.....184
再生.....345
撮影情報.....348
自動回転.....387
自動再生.....369
ジャンプ表示（画像送り）.....354
手動回転.....358
消去.....378
スライドショー.....369
テレビで見る.....363, 373
ハイライト警告.....351
ヒストグラム.....352
表示時間.....67
保護（プロテクト）.....376
レーティング.....359
画素数.....142
家庭用電源.....456
カメラ
構え方.....49
カメラブレ.....219
設定初期化.....68
設定内容表示.....450
かんたん撮影ゾーン.....30
感度 →ISO感度
キッズ.....90
機能ガイド.....75
キャンドルライト.....91
強制リセット.....185
魚眼風.....103, 268, 401
記録画質.....142, 306
近接撮影.....97
クイック
設定.....56, 106, 265, 305, 361
クリーニング.....403
クリエイティブオート.....84
クリエイティブ
フィルター.....101, 266, 316, 399
グリッド.....71, 270, 331, 347
クローズアップ.....97
クロス測距.....127
警告表示.....425
ケーブル.....373, 468, 512
言語.....46
高感度撮影時のノイズ低減.....170
高輝度側・階調優先.....174
合焦マーク.....78
高速連続撮影.....138
故障.....481
ゴミの写り込み防止.....403
コントラスト.....158

さ

サーボAF.....275
再生.....345
先幕シンクロ.....241
撮影画角.....48
撮影画像の確認時間.....67
撮影可能枚数.....42, 143, 257
撮影機能の設定状態.....55, 451
撮影情報表示.....348
撮影モード.....30
Av（絞り優先AE）.....194
B（バルブ）.....204
C1（カスタム撮影）.....445
M（マニュアル露出）.....196
P（プログラムAE）.....190
Tv（シャッター優先AE）.....192
A+（シーンインテリジェントオート）.....78
（ストロボ発光禁止）.....83
CA（クリエイティブオート）.....84
SCN（スペシャルシーン）.....88
（料理）.....89
（キッズ）.....90
（キャンドルライト）.....91
（夜景ポートレート）.....92
（手持ち夜景）.....93
（HDR逆光補正）.....94
（ポートレート）.....95
（風景）.....96
（クローズアップ）.....97
（スポーツ）.....98
（クリエイティブフィルター）.....101
（ラフモノクロ）.....103
（ソフトフォーカス）.....103
（魚眼風）.....103
（トイカメラ風）.....104
（ジオラマ風）.....104
（水彩風）.....104
（HDR絵画調標準）.....104
（HDRグラフィック調）.....104
（HDR油彩調）.....105
（HDRビンテージ調）.....105
撮影モードで設定できる機能.....460
撮像素子の清掃.....403
サブ電子ダイヤル.....52
サマータイム.....44
三脚ねじ穴.....27
シーンインテリジェントオート.....78
シーン判別アイコン.....260, 297
ジオラマ風.....104, 269, 401
ジオラマ風動画.....318
システム図.....468
自動再生.....369
自動選択（AF）.....120, 125
視度調整.....49
絞り込み.....195, 256, 261
絞り優先AE.....194
シャープネス.....158
シャッターボタン.....50
シャッター優先AE.....192
ジャンプ表示.....354
充電.....34
周辺光量補正.....175
縮小表示.....353
手動ピント合わせ.....137, 288
消去（画像）.....378
照明（表示パネル）.....55
初期化（フォーマット）.....64
初期状態.....68
白黒写真.....108, 155, 159
白とび.....351
シンクロ設定.....241
シンクロ接点.....26

水彩風 104, 268, 401
水準器 72
ストラップ 33
ストロボ
FEロック 232, 233
赤目緩和 230
外部ストロボ 233
カスタム機能 243
撮影できる距離 229
シンクロ（先幕／後幕） 241
ストロボ制御（機能設定） 235
調光補正 230, 233, 242
同調速度 234
内蔵ストロボ 228
発光禁止 83, 107
マニュアル発光 240, 254
ワイヤレス 241
スピーカー 365
スペシャルシーン（SCN） 88
スポーツ 98
スポット測光 198
スモール（記録画質） 143, 395
スライドショー 369
セイフティシフト 415
設定初期化 68
セピア調（モノクロ写真） 108, 159
セルフタイマー 140, 222
全押し 50
センサークリーニング 403
操作ボタンカスタマイズ 57, 433
ゾーンAF 120
測距エリア選択モード 120
測距点（AFフレーム） 120
測距点自動選択 120, 125
測光タイマー 273
測光モード 198
ソフトウェア 514
ソフト撮影
1枚撮影 138
LVソフト撮影 272
連続撮影 138
ソフトフォーカス 103, 268, 400

た

タイムラプス動画 319
ダイレクト選択（AFフレーム） 436
多重露出 212
ダストデリートデータ 405
タッチ 61
タッチ音 62
タッチシャッター 286
タッチパネル 61, 356
縦位置画像回転表示 387
縦位置/横位置AFフレーム 421
チャージャー 32, 34
中央部重点平均測光 199
調光補正 230, 233, 242
長時間露光 204
調色（モノクロ写真） 159
長秒時露光のノイズ低減 172
著作権情報 186
低速連続撮影 138
デジタル端子 512
手ブレ 49
手持ち夜景 93
デュアルクロス測距 127
テレビで見る 363, 373
電源
オートパワーオフ 66
家庭用電源 456
撮影可能枚数 42, 257
充電 34

電池残量 42, 452
電池情報 452
劣化度 452
電子音 66
電子ダイヤル
サブ電子ダイヤル 52
メイン電子ダイヤル 51
電池 34, 36, 42
トイカメラ風 104, 269, 401
動画 293
AEロック 295
AF方式 304, 327
HDR動画撮影 314
圧縮方式 308
アッテネーター 312
ウィンドカット 312
外部マイク 313
記録時間 309
クイック設定 305
クリエイティブフィルター 316
グリッド 331
再生 363, 365
自動露出撮影 294
情報表示 300
前後カット 367
測光タイマー 331
タイムラプス動画 319
楽しみ方 363
テレビで見る 363, 373
動画記録画質（サイズ） 306
動画サーボAF 326
動画デジタルズーム 311
ビデオスナップ 333
ビデオスナップアルバム 333
ファイルサイズ 309
フレームレート 307
編集 367
マイク 294, 313
マニュアル露出撮影 298
録音 312
動画クリエイティブフィルター 316
メモリー 317
ファンタジー 317
オールドムービー 317
ダイナミックモノクローム 318
ジオラマ風動画 318
通し番号 184
ドライブモード 138
ドラッグ 62
トリミング 397

な

内蔵ストロボ 228
任意選択（AF） 122
ノイズ低減
高感度撮影時 170
長秒時 172
ノーマル（記録画質） 143, 144

は

バースト枚数 143, 145
背景ぼかし設定 86
ハイビジョン（HD） 307
ハイライト警告 351
発光モード 240
バッテリー 34, 36, 42
バッテリーグリップ 42, 468
バリアングル液晶モニター 40, 82
バルブ撮影 204
半押し 50
汎用ストロボ 234
ピクチャースタイル 154, 157, 160
被写界深度確認 195, 256, 261
ヒストグラム（輝度／RGB） 352
日付／時刻 43

ビデオスナップ 333
ビデオスナップアルバム 333
ビデオ方式 307, 373, 475
評価測光 198
表示パネル 28
ファームウェア 476
ファイナルイメージ
シミュレーション 261, 301
ファイルサイズ 143, 309, 349
ファイル名 184
ファインダー 29
　グリッド 71
　視度調整 49
　水準器 72
　フリッカー検知 74
ファイン（記録画質） 143, 144
フィルター効果 156
風景 96
フォーカスモード
スイッチ 47, 137, 288
フォーカスロック 81
フォーマット（カード初期化） 64
フォトブック指定 384
フォルダ作成／選択 182
付属品 3
部分測光 198
ブラケティング 168, 201
フリッカーレス撮影 179
フルハイビジョン
(Full HD) 293, 307
フレームレート 307
プログラムAE 190
プログラムシフト 191
プロテクト（画像の保護） 376
雰囲気を選んで撮影 108
ヘルプ 76
ポートレート 95
ホワイトバランス 162
　色温度指定 166
　カスタム 165
　ブラケティング 168
　雰囲気優先（AWB） 163
　補正 167
　ホワイト優先（AWB W） 163
　マニュアル 164

ま

マイク 294, 313
マイクロアジャストメント 427
マイメニュー 440
マクロ撮影 97
マニュアルフォーカス 137, 288
マニュアル露出 196, 298
マルチコントローラー 53
マルチショットノイズ低減 170
マルチ電子ロック 54
ミドル（記録画質） 143, 395
ミラーアップ撮影 219
無線通信 474
メイン電子ダイヤル 51
メニュー 58
　機能一覧 470
　設定操作 59
　マイメニュー 440
メモリーカード　→カード
モードダイヤル 30, 51
モノクロ写真 108, 155, 159

や

夜景 92, 93
夜景ポートレート 92
油彩風 268, 401

ら

ラージ（記録画質）.....143, 395
ラージゾーンAF.....120
ライブビュー撮影..... 82, 255
　AF動作 116, 274
　LVソフト撮影.....272
　アスペクト比 146
　顔+追尾優先AF.....277
　クイック設定 265
　クリエイティブフィルター 266
　グリッド.....270
　撮影可能枚数 257
　手動ピント合わせ.....288
　情報表示.....258
　測光タイマー 273
　ライブ1点AF.....281
　ライブ多点AF.....279
　露出シミュレーション.....271
ラフモノクロ 103, 268, 400
リサイズ.....395
リモートスイッチ撮影.....221
リモコン撮影 221
料理.....89
レーティング 359
レンズ..... 25, 47
　色収差補正 176
　周辺光量補正 175
　ロック解除 48
　歪曲収差補正 176
連続撮影可能枚数.....143, 145
連続撮影（連写）.....138
ロウ.....142, 144
録音レベル 312
露出シミュレーション.....271
露出設定ステップ.....413
露出補正 200
露出レベル表示..... 29, 451

わ

ワイヤレスストロボ撮影.....244
ワンショットAF..... 117, 274

MEMO

Canon

EOS 80D

EOS 80D (W)

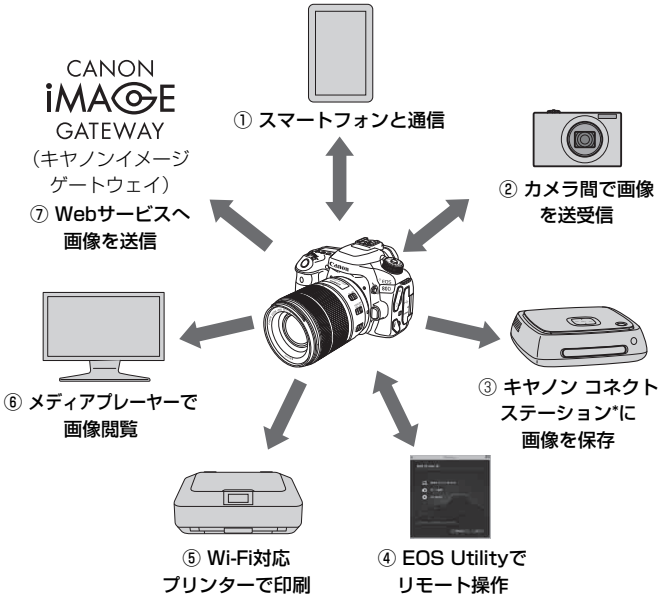
無線機能 使用説明書（基本編）

無線機能 使用説明書（基本編）では、簡単に使うことができる「スマートフォンと通信」、「カメラ間で画像を送受信」、「コネクトステーションに画像を保存」の基本的な使い方を説明しています。

はじめに

無線機能でできること

Wi-Fi®（ワイファイ）や、このカメラの無線機能と互換性のある製品と接続し、画像の送受信やカメラの操作などを行うことができます。



* 最新版のファームウェアをお使いください。

CANON iMAGE GATEWAYのWebサービスは、国/地域によっては対応していない場合があります。対応している国/地域の情報は、キヤノンのWebサイト（www.canon.com/cig）でご確認ください。

① **スマートフォンと通信**（p.W-19）
　スマートフォンやタブレットに無線で接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。
　なお、本書およびカメラの液晶モニターに表示される画面では、スマートフォンとタブレットをあわせて「スマートフォン」と記載しています。

② **カメラ間で画像を送受信**（p.W-39）
　無線機能を内蔵したキヤノン製のカメラ同士を無線で接続して、画像を送受信することができます。

③ **コネクトステーションに画像を保存**（p.W-47）
　コネクトステーション（別売）に無線で接続して、画像を保存することができます。

④ **EOS Utilityでリモート操作**
　パソコンに無線で接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。

⑤ **Wi-Fi対応プリンターで印刷**
　無線で使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターに無線で接続して、画像を印刷することができます。

⑥ **メディアプレーヤーで画像閲覧**
　DLNA*対応のメディアプレーヤーに無線で接続して、カメラにセットされたカード内の画像を、テレビで閲覧することができます。
　* Digital Living Network Alliance（デジタル リビング ネットワーク アライアンス）

⑦ **Webサービスへ画像を送信**
　キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービス CANON iMAGE GATEWAY（登録無料）を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

NFC機能を使用したかんたん接続

このカメラは、スマートフォンやコネクトステーション（別売）と簡単に接続設定ができる、NFC*に対応しています。詳しくは、W-16ページを参照してください。

* Near Field Communication：近距離無線通信

使用説明書について

［**EOS Utilityでリモート操作**］、［**Wi-Fi対応プリンターで印刷**］、［**メディアプレーヤーで画像閲覧**］、［**Webサービスへ画像を送信**］の使い方や、さらに詳しい使い方については、PDFの「無線機能 使用説明書」を参照してください。PDFの「無線機能 使用説明書」はキヤノンのホームページからダウンロードすることができます（p.4）。

- 本機を使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、本機を使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
- 無線機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

目　次

はじめに W-2

無線機能でできること....W-2
本使用説明書の表記について....W-6

1 準備と基本的な操作 W-7

ニックネームを登録する....W-8
基本的な操作と設定....W-11
NFC 機能について....W-16
スマートフォンの事前準備....W-18

2 スマートフォンとかんたん接続 W-19

接続方法について....W-20
NFC 機能で自動接続する場合....W-21
簡単接続で接続する場合....W-24
スマートフォンでカメラを操作する....W-28
再接続する....W-31
スマートフォンへ画像を送信する....W-33

3 カメラ同士をかんたん接続 W-39

カメラと接続する....W-40
カメラへ画像を送信する....W-42
再接続する....W-45

4 コネクトステーションとかんたん接続 W-47

画像を保存する....W-48
無線 LAN（Wi-Fi）について....W-50
索　引....W-52

故障かなと思ったときや、主な仕様は、Webからダウンロードできる使用説明書を参照してください。ダウンロード方法は、4ページを参照してください。

本使用説明書の表記について

- 本書は、Wi-Fiとキヤノン独自の無線機能を総称して「無線」または「無線LAN」と表記しています。
- インターフェースケーブルは付属していません。

本文中の絵文字について

〈  〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。

〈〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。

〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉　：マルチコントローラーを押す方向を示しています。

〈〉　：設定ボタンを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

 ：使用する際に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

1

準備と基本的な操作

この章では、カメラの無線機能を使用するときに必要なニックネーム（識別用の名称）の登録と、基本的な操作について説明しています。

ニックネームを登録する

まずはじめに、カメラにニックネーム（識別用の名称）を付けます。

このニックネームは、無線で他の機器と接続するときに、接続先の機器で表示されます。**ニックネームを設定しないと無線機能の設定ができませんので、必ず設定してください。**

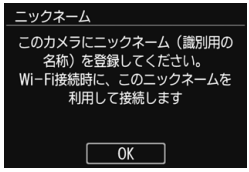


1 ［無線通信の設定］を選ぶ

● ［1］タブの［**無線通信の設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 ［ニックネーム］を選ぶ

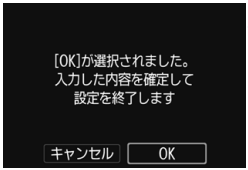


➡ 初めて設定するときは、ニックネームの登録を促す画面が表示されます。〈(SET)〉を押して手順3に進んでください。



3 ニックネームを入力する

- 入力方法は、次ページを参照してください。
- 1～10字以内で、好きな文字を入力します。



4 設定を終了する

- 入力が終わったら〈**MENU**〉ボタンを押します。
- 確認画面で［**OK**］を選んで〈(SET)〉を押すと、メニュー画面に戻ります。

ニックネームは、無線設定に必須な情報であるため、すべての文字を削除することはできません。

初期設定では、ニックネームはカメラ名が表示されます。

仮想キーボードの操作方法について



●入力エリアの切り換え
〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。

●カーソルの移動
上側のエリアで〈◄〉〈►〉を押すと、カーソルが移動します。

●文字の入力
下側のエリアで〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して文字を選び、〈(SET)〉を押して文字を入力します。
画面右上の「*/*」で、入力した文字数と入力できる文字数を確認することができます。

●入力モードの切り換え*
下側のエリアの一番右下の［**Aa=1@**］を選びます。〈(SET)〉を押すたびに、小文字→数字/記号1→数字/記号2→大文字に切り換わります。
* ［**タッチ操作：しない**］設定時は、1画面ですべての文字入力ができます。

●文字の削除
〈🗑〉ボタンを押すと1文字消去されます。

●入力の終了
〈**MENU**〉ボタンを押すと、入力を確定して終了します。確認画面が表示されたときは、［**OK**］を選んで終了します。

●入力のキャンセル
〈**INFO.**〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして終了します。確認画面が表示されたときは、［**OK**］を選んで終了します。

基本的な操作と設定

カメラの無線機能を使うときの基本的な操作について説明します。以下の手順で操作を行ってください。



1 [無線通信の設定] を選ぶ

- [1] タブの [**無線通信の設定**] を選び、〈(SET)〉を押します。



2 [Wi-Fi/NFC] を選ぶ



3 [使う] を選ぶ

- **ニックネーム（識別用の名称）を登録していないときは、登録画面が表示されます。**W-8ページを参照してニックネームを登録してください。

➡ [**Wi-Fi機能**]が選択できるようになります。



4 [Wi-Fi機能] を選ぶ

無線機能に関する操作も、カメラの画面にタッチして行うことができます。



5 接続するWi-Fi機能を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。
- ➡ 接続設定が登録されていないときは、設定画面が表示されます。
- ➡ 接続設定が登録されているときは、再接続の画面が表示されます。

- NFC機能を使用するときは、W-16ページを参照してください。

[無線通信の設定] 画面について



W-11ページの手順4で表示される［**無線通信の設定**］画面は、無線機能の設定を行うときの入り口になる画面です。

- 項目を選んで〈(SET)〉を押し、設定画面を表示して設定します。
- ［**無線通信の設定**］画面では、以下の項目が設定できます。

[Wi-Fi/NFC]

無線機能を［**使う**］／［**使わない**］の設定を行います。また、NFC機能の有効／無効を設定することができます。

- ［**使う**］に設定すると、［**Wi-Fi機能**］、［**スマートフォンへ画像を送信**］、［**設定初期化**］が選択できるようになります。
- 飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、［**使わない**］に設定してください。

[Wi-Fi機能]

以下のWi-Fi機能が選択できます。

- カメラ間で画像を送受信
- スマートフォンと通信
- EOS Utilityでリモート操作
- Wi-Fi対応プリンターで印刷
- メディアプレーヤーで画像閲覧
- Webサービスへ画像を送信

[スマートフォンへ画像を送信]

スマートフォンと接続中に、カメラ内の画像をスマートフォンへ送信するときに使用します。

[ニックネーム]

ニックネームの登録や変更を行います。

[設定初期化]

無線通信の設定をすべて削除して初期化を行います。

● 多重露出撮影、ビデオスナップ、タイムラプス動画設定時は、［**1：無線通信の設定**］を選択できません。

インターフェースケーブル接続時の注意事項

● 無線LAN接続中は、カメラとコネクトステーション、パソコン、GPSレシーバーなどを、ケーブルで接続して使用することはできません。接続を終了してからケーブルで接続してください。

● ケーブルでカメラとコネクトステーション、パソコン、GPSレシーバーなどを接続しているときは、［**1：無線通信の設定**］を選択できません。ケーブルを取り外してから設定してください。

カードについて

● ［］［］［］［］では、カメラにカードが入っていないときは、無線で接続できません。また、［］［］［］では、カードに画像が記録されていないときも、無線で接続できません。

無線接続中の操作について

● 無線接続を優先するときは、電源スイッチやカードスロットカバー、電池室ふたなどを操作しないでください。無線接続が終了することがあります。

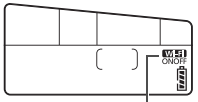
Eye-Fiカードの使用について

● ［**Wi-Fi/NFC**］を［**使う**］に設定しているときは、Eye-Fiカードでの画像転送はできません。

無線機能の接続状態について

カメラの液晶モニターと表示パネルで、無線機能の接続状態を確認することができます。

表示パネル



通信状態	Wi-Fi機能
未接続	Wi-Fi OFF
接続中	Wi-Fi ON
接続エラー	Wi-Fi ON （点滅）

液晶モニター

応用撮影ゾーン　　**簡単撮影ゾーン**



通信状態		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi/NFC：使わない	OFF	（消灯）
	Wi-Fi/NFC：使う	OFF	
接続中			
送信中		（↔）	
再接続待機中		（点滅）	
接続エラー		（点滅）	

* 画像の送信や受信の画面でも が表示されます。

* ［簡単接続］で接続しているときは、 は表示されません。

NFC機能について

NFCに対応したスマートフォンやコネクトステーションを使用すると、以下のことができます。

- スマートフォンをカメラに接するようにタッチすると、簡単に無線で接続することができます（p.W-21）。
- カメラで画像を再生しているときに、スマートフォンをカメラに接するようにタッチすると、撮影した画像をスマートフォンへ送信することができます（p.W-33）。
- コネクトステーション（別売）にカメラをかざすと、簡単に無線で接続することができます（p.W-48）。

NFC機能を使用するときは、以下の手順でカメラのNFC設定を行ってください。



1 [Wi-Fi/NFC] を選ぶ



2 [NFCでの接続を許可] の［✓］を付ける

- ［**Wi-Fi/NFC**］で［**使う**］を選んでいるときに表示されます。
- 〈**INFO.**〉ボタンを押すと、［✓］のオン／オフが交互に切り換わります。［✓］を付けて〈(SET)〉を押します。
- ニックネーム（識別用の名称）を登録していないときは、登録画面が表示されます（p.W-8）。

NFCとは

NFC（Near Field Communication：近距離無線通信）は、対応する機器同士を近づけるだけで、情報のやり取りができる機能です。このカメラではNFC機能を使用して、無線の接続に関する情報をやり取りしています。

NFC機能を使用して無線通信を行うときは、以下のページを参照してください。

スマートフォンと無線接続　：W-21ページ*
スマートフォンへ画像を送信：W-33ページ*
コネクトステーションと接続：W-48ページ
* スマートフォンと接続するときは、W-18、W-20ページも参照してください。

NFC機能全般の注意事項

- このカメラは、NFC対応のカメラやプリンターなどと、NFC機能を使用して接続することはできません。
- カメラで撮影中のときや、カードが入っていないとき、液晶モニターを内側にして閉じているとき、インターフェースケーブルで他の機器と接続中のときは、NFC機能を使用して接続することはできません。
- NFC 機能を使用してスマートフォンと接続するためには、スマートフォンのWi-Fi機能とNFC機能を有効にする必要があります。

カメラの電源がオートパワーオフ状態でも接続することができますが、接続できないときは、オートパワーオフを解除してから接続を行ってください。

スマートフォンの事前準備

［📱］（スマートフォンと通信）を使用するためには、iOSまたはAndroidがインストールされたスマートフォンが必要です。また、スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールする必要があります。

- Camera Connectは、App StoreまたはGoogle Playからダウンロードすることができます。
- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- Camera Connectをインストールする前に、NFC対応のスマートフォンをカメラにタッチすると、スマートフォンにCamera Connectのダウンロード画面が表示されます。
- カメラやCamera Connectの画面表示と機能は、カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、iOS、Androidなどのバージョンアップにより変更される可能性があります。そのため、本書に記載している画面例や操作説明と異なる可能性があります。

2

スマートフォンとかんたん接続

スマートフォンと通信して、以下のことができます。

- スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧したり、閲覧した画像をスマートフォンに保存する
- スマートフォンでカメラを操作して撮影したり、カメラの設定を変更する
- カメラからスマートフォンに画像を送信する

ここでは、カメラとスマートフォンを直接接続する方法について説明しています。

- あらかじめ、スマートフォンにCamera Connectをインストールしてから接続設定を行ってください（p.W-18）。
- NFC対応のスマートフォンに画像を送信するときは、W-33ページを参照してください。

接続方法について

- **NFCに対応したスマートフォンの場合：p.W-21を参照してください**
  NFC機能を使用して簡単に接続設定を行うことができます。
- **NFCに対応していないスマートフォンの場合：p.W-24を参照してください**
  ［**簡単接続**］を選んで接続設定を行います。

Nマークが付いているスマートフォンはNFCに対応しています。また、一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンもNFCに対応しています。なお、NFCに対応したスマートフォンでも、Nマークがないものもありますので、お使いのスマートフォンがNFCに対応しているか分からないときは、お使いのスマートフォンのメーカーへお問い合わせください。

NFC対応のスマートフォンでも、NFC機能で接続できないことがあります。

NFC機能で自動接続する場合

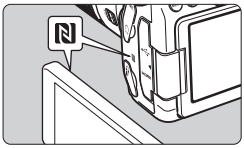
NFC機能を使用して、カメラとスマートフォンを接続します。
NFC接続するときの操作の流れは、以下のとおりです。

①カメラとスマートフォンの電源を入れる
②カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする
③カメラとスマートフォンが接するようにタッチする

- カメラのNFC設定についてはW-16ページを参照してください。
- スマートフォンのWi-Fi設定やNFC設定、NFCのアンテナの位置については、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

---

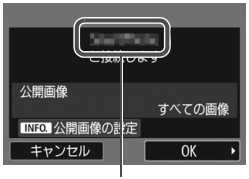
1 **カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする**（p.W-16）



2 **カメラにスマートフォンをタッチする**

- カメラで画像を再生中のときは、〈▶〉ボタンを押して再生を終了してください。
- カメラとスマートフォンの N マーク同士が接するようにタッチします。
- **カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら**、カメラからスマートフォンを離してください。

➡ スマートフォンのCamera Connectが起動し、接続を開始します。



Camera Connectで設定しているデバイスの名前

3 カメラを接続する

- 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。なお、同じスマートフォンと接続するときは、次回以降はこの画面は表示されません。
- [**OK**] を選んで〈(SET)〉を押すと、メッセージが表示されたあとに、[**Wi-Fi動作中**] 画面が表示されます。



➡ スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

これでスマートフォンとの接続設定は完了です。
接続したあとの操作については、W-28ページを参照してください。

デバイスの名前は、Camera Connectの設定画面で確認、変更できます。

- **必要に応じて、『NFC機能全般の注意事項』（p.W-17）もお読みください。**
- カメラにスマートフォンをタッチするときは、カメラやスマートフォンを落とさないように注意してください。
- カメラにスマートフォンを強く当てないでください。カメラやスマートフォンに傷が付くことがあります。
- スマートフォンをかざしただけでは接続できないことがあります。必ず接するようにタッチしてください。
- スマートフォンによっては、認識されにくいことがあります。位置をずらしたり、水平方向に回転させるなどしてゆっくりタッチしてください。
- タッチのしかたによっては、スマートフォンの他のアプリケーションが起動することがあります。Nマークの位置を確認して、再度タッチしてください。
- タッチするときは、カメラとスマートフォンの間にものを置かないでください。また、カメラやスマートフォンにケースなどをつけていると、NFC機能で接続できないことがあります。

- 2台以上のスマートフォンと同時に接続することはできません。
- NFC機能で接続した設定は、初期設定では［**SET4(NFC)**］の名称で、4番目の設定（NFC接続専用の設定）として保存されます。また、違うスマートフォンとNFC接続したときは、［**SET4(NFC)**］が上書きされます。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

簡単接続で接続する場合

カメラとスマートフォンを無線で直接接続します。アクセスポイントが無くても接続できるので、手軽に無線接続することができます。

なお、接続するためにはスマートフォンの操作が必要です。詳しくは、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

カメラ側の操作-1



1 ［無線通信の設定］を選ぶ

● ［1］タブの［**無線通信の設定**］を選び、〈㊾〉を押します。

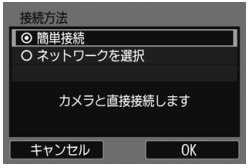


2 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

● ［**Wi-Fi/NFC**］を［**使う**］に設定したあとで、［**Wi-Fi機能**］を選びます。



3 ［］（スマートフォンと通信）を選ぶ

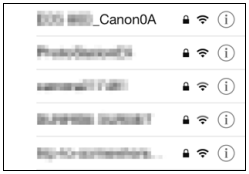


4 ［簡単接続］を選ぶ

● ［OK］を選んで〈㊾〉を押すと、次の画面に進みます。

スマートフォン側の操作

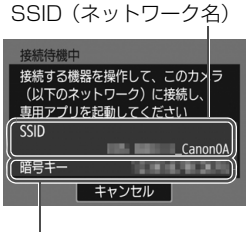
スマートフォンの画面例



5 スマートフォンを操作してカメラに接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、カメラの液晶モニターに表示されているSSID（ネットワーク名）を選びます。
- パスワード欄には、カメラの液晶モニターに表示されている暗号キーを入力します。

カメラの画面

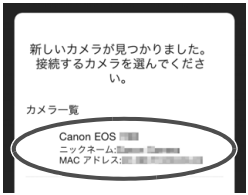


［簡単接続］を選んで接続するときのSSIDは、末尾に「_Canon0A」と表示されます。



6 スマートフォンのCamera Connectを起動する

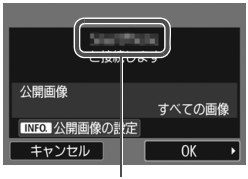
● カメラの液晶モニターに［**接続待機中**］の画面が表示されたら、スマートフォンのCamera Connectを起動します。



7 スマートフォンで接続するカメラを選ぶ

● Camera Connectの［**カメラ一覧**］から、接続するカメラを選んでタッチします。

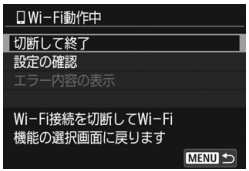
カメラ側の操作-2



Camera Connectで設定しているデバイスの名前

8 カメラを接続する

- 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。
- [**OK**] を選んで〈(SET)〉を押すと、メッセージが表示されたあとに、[**Wi-Fi動作中**] 画面が表示されます。



- スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。

これでスマートフォンとの接続設定は完了です。
接続したあとの操作については、W-28ページを参照してください。

- デバイスの名前は、Camera Connectの設定画面で確認、変更できます。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

スマートフォンでカメラを操作する

スマートフォンにインストールしたCamera Connectを使用して、カメラ内の画像を閲覧したり、リモート撮影などを行うことができます。

Camera Connectのメイン画面



Camera Connectでは、主に下記の操作を行うことができます。操作方法は、Camera Connectの画面に触れながら覚えてください。

［カメラ内の画像一覧］

- カメラ内の画像を閲覧することができます。
- スマートフォンにカメラ内の画像を保存することができます。
- カメラ内の画像に対し、削除などの操作を行うことができます。

［リモート撮影］

- カメラのライブビュー映像を、スマートフォンで見ることができます。
- リモート操作で撮影することができます。

［カメラ設定］

- カメラの設定を変更することができます。

✿（設定ボタン）

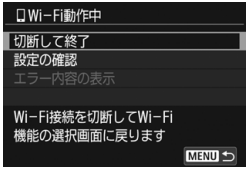
- Camera Connectの各種設定を行うことができます。

接続を終了する

接続を終了するときは、下記のいずれかの操作を行ってください。



スマートフォンのCamera Connect画面で[ ]をタッチする



カメラの［Wi-Fi動作中］画面で［切断して終了］を選ぶ

- ［**Wi-Fi動作中**］画面が表示されていないときは、［**1**］タブ→［**無線通信の設定**］→［**Wi-Fi機能**］の順に選びます。
- ［**切断して終了**］を選び、確認画面で［**OK**］を選ぶと、接続を終了します。

- リモート撮影で動画を記録中に、無線接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈🎥〉のときは、動画撮影が継続します。
  - ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈📷〉のときは、動画撮影が終了します。
- ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈📷〉のときに、Camera Connectの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- スマートフォンと接続中は、以下の操作を行うことはできません。
  多重露出／ビデオスナップ／タイムラプス動画／
  クリエイティブフィルター／RAW現像／トリミング／リサイズ
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラの液晶モニターが消灯することがあります。
- MOV形式の動画は一覧に表示されますが、スマートフォンに保存することはできません。

- カメラの電源を〈**OFF**〉にしたときや、カードスロットカバーや電池室ふたを開けたときは、無線接続を休止します。
- RAW画像をスマートフォンに保存するときは、JPEG画像が保存されます。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。
- 接続中は、スマートフォンの節電機能をOFFにしておくことをおすすめします。

再接続する

接続設定を登録したWi-Fi機能に再度接続します。



1 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- [**Wi-Fi/NFC**] を [**使う**] に設定したあとで、[**Wi-Fi機能**] を選びます。



2 接続するWi-Fi機能を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して項目を選び、〈(SET)〉を押します。



3 [接続] を選ぶ

- 接続先の設定が複数登録されているときは、[**設定の選択**] を選び、接続先を選んでから接続します。
- 確認画面で [**OK**] を選びます。

4 接続先の機器を操作する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、Camera Connectを起動してください。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントに接続するように設定し直してください。

- 再接続時に、接続先のSSIDが分からないときは、手順3の画面で［**設定の確認と変更**］→［**設定の確認**］の順に選ぶと確認することができます。
- NFC接続のときや［**簡単接続**］を選んで接続するときのSSIDは、末尾に「_CanonOA」と表示されます。

スマートフォンへ画像を送信する

カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信します。送信方法には以下の3つがあります。

(1) 画像の再生中に、NFC機能を使用して接続する（p.W-33）
(2) 無線接続中に、カメラのメニューで［**スマートフォンへ画像を送信**］を選ぶ（p.W-34）
(3) 無線接続中に、再生時のクイック設定画面から送信する（p.W-35）

(1) NFC機能で接続

カメラで画像を再生しているときに、NFCに対応したスマートフォンをカメラにタッチして送信します。

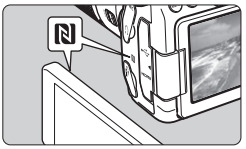
- すでに無線で接続しているときは、接続を終了してからカメラで画像を再生してください。
- あらかじめ、カメラでNFC機能が使えるように設定しておいてください（p.W-16）。
- スマートフォンのWi-Fi設定やNFC設定、NFCのアンテナの位置については、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

1 **カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする**（p.W-16）



2 **画像を再生する**

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。



3 カメラにスマートフォンをタッチする

- カメラとスマートフォンの N マーク同士が接するようにタッチします。
- カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら、スマートフォンを離してください。



4 送信する画像を選ぶ

➡ 画像を選んで送信します。送信方法はW-36ページを参照してください。

- 手順2でインデックス表示にしているときは、複数画像の選択画面が表示されます。W-37ページの手順3を参照してください。

(2)［スマートフォンへ画像を送信］を選ぶ

スマートフォンと無線接続中に、［🔧1］タブの［**無線通信の設定**］で［**スマートフォンへ画像を送信**］を選んで送信します。



1 カメラとスマートフォンを無線で接続する

2 ［スマートフォンへ画像を送信］を選ぶ

- ［**無線通信の設定**］画面で［**スマートフォンへ画像を送信**］を選び、〈(SET)〉を押します。



3 送信する画像を選ぶ

➡ 画像を選んで送信します。送信方法はW-36ページを参照してください。

（3）再生時のクイック設定

スマートフォンと無線接続中に、再生時のクイック設定画面から画像を送信します。



1 カメラとスマートフォンを無線で接続する

2 画像を再生して〈Q〉ボタンを押す



3 [📱]を選ぶ



4 送信する画像を選ぶ

➡ 画像を選んで送信します。送信方法はW-36ページを参照してください。

1枚ずつ送信する場合

画像を選んで1枚ずつ送信します。



1 送信する画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して送信する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▪▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を送信] を選ぶ

- [**画像サイズ縮小**] を選んで〈(SET)〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
- [**この画像を送信**] を選んで〈(SET)〉を押すと、表示している画像が送信されます。
- ➡ 送信が終了すると手順1の画面に戻ります。
- 続けて送信するときは、手順1、2を繰り返します。

複数の画像を送信する場合

複数の画像を選んで一度に送信します。

複数画像の選択画面が表示されているときは、手順3から操作してください。



1 〈(SET)〉を押す

2 [選んで送信] を選ぶ

- [**画像サイズ縮小**] を選んで〈(SET)〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。

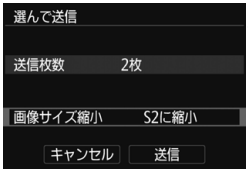


3 送信する画像を選ぶ

- 〈◌〉を回して送信する画像を選び、[✓]を付けます。〈(SET)〉を押すと、[✓]のオン／オフが交互に切り換わります。



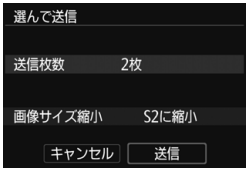
- 〈▪▪·🔍〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈🔍〉ボタンを押します。



4 [画像サイズ縮小] を選ぶ

- 必要に応じて設定します。
- 表示される画面で画像サイズを選び、〈(SET)〉を押します。



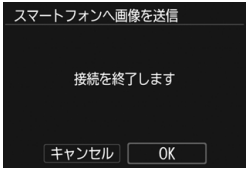


5 [送信] を選ぶ

➡ 選んだ画像が送信されます。送信が終了すると手順1の画面に戻ります。

- 続けて送信するときは、手順1～5を繰り返します。

画像の送信を終了する



画像の送信を終了するときは、画像の送信画面で〈**MENU**〉ボタンを押します。

- 画像の再生中に、NFC機能で接続したときは、接続の終了画面が表示されます。［**OK**］を選ぶと、接続を終了します。
- メニューやクイック設定から送信したときは、元の画面に戻ります。接続は終了しません。

- **必要に応じて、『NFC機能全般の注意事項』（p.W-17）もお読みください。**
- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- 他の機器と無線接続中は、NFC 機能を使用して画像を送信することができません。また、一度に複数のスマートフォンと接続することもできません。
- MOV形式の動画は一覧に表示されますが、スマートフォンに保存することはできません。

- 画像の送信中に［**キャンセル**］を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に50ファイルまで選択できます。
- 接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- NFC機能を使用した画像送信の設定は、カメラに保存されません。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画や**S2**サイズよりも小さい静止画は縮小されません。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

3

カメラ同士をかんたん接続

ここでは、無線機能を内蔵したキヤノン製のカメラ同士を簡単に接続する方法について説明しています。

- 無線で接続できるのは、2012年以降に発売されたキヤノン製の無線機能内蔵カメラのうち、カメラ間で画像の送受信ができるカメラです。なお、キヤノン製の無線機能内蔵ビデオカメラとは接続できません。
- Eye-Fiカードに対応していても、無線機能を内蔵していないキヤノン製カメラとは接続できません。
- 静止画はJPEG画像のみ送受信できます。
- 動画は、受信するカメラの仕様や動画のファイル形式によって、送信エラーになる場合や、送信できても再生できない場合があります（MP4形式の動画再生に対応していないカメラには、MP4形式の動画は送信できません）。

カメラと接続する

無線で接続する相手のカメラを登録します。なお、一度に接続できるカメラは1台だけです。



1 ［無線通信の設定］を選ぶ

● ［1］タブの［**無線通信の設定**］を選び、〈㊙〉を押します。



2 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

● ［**Wi-Fi/NFC**］を［**使う**］に設定したあとで、［**Wi-Fi機能**］を選びます。



3 ［📷］（カメラ間で画像を送受信）を選ぶ



4 接続先のカメラを設定する

● 左の画面が表示されたら、接続先のカメラでも接続の設定を行います。操作方法については、接続先のカメラの使用説明書を参照してください。

➡ 接続が完了すると、カード内の画像が表示されます。



5 送信する画像を選ぶ

- 送信する側のカメラで画像を選びます（p.W-42）。
- 受信する側のカメラでは、何も操作をしないでください。

これでカメラとの接続設定は完了です。
接続したあとの操作については、W-42ページを参照してください。

受信した画像にGPS情報が付加されていても、カメラの再生画面でGPS情報は表示されません。なお、EOS用ソフトウェアのMap Utility（マップユーティリティー）を使用すると、パソコンの地図上に撮影場所を表示できます。

- 接続したときの設定は、接続したカメラのニックネームで保存・登録されます。
- 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

カメラへ画像を送信する

1枚ずつ送信する場合

画像を選んで1枚ずつ送信します。



1 送信する画像を選ぶ

- 〈◯〉を回して送信する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈⊡·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

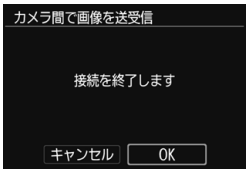


2 [この画像を送信] を選ぶ

- [**画像サイズ縮小**] を選んで〈(SET)〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
- [**この画像を送信**] を選んで〈(SET)〉を押すと、表示している画像が送信されます。

➡ 送信が終了すると手順1の画面に戻ります。

- 続けて送信するときは、手順1、2を繰り返します。



3 接続を終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、確認画面が表示されます。[**OK**] を選び、〈(SET)〉を押して接続を終了します。

➡ [**Wi-Fi機能**] 画面に戻ります。

複数の画像を送信する場合

複数の画像を選んで一度に送信します。



1 〈(SET)〉を押す

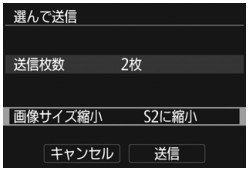
2 [選んで送信]を選ぶ

- [**画像サイズ縮小**]を選んで〈(SET)〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。



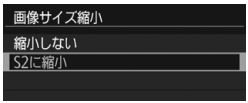
3 送信する画像を選ぶ

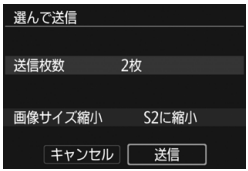
- 〈◌〉を回して送信する画像を選び、[✓]を付けます。〈(SET)〉を押すと、[✓]のオン／オフが交互に切り換わります。
- 〈▪-🔍〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈Q〉ボタンを押します。



4 [画像サイズ縮小]を選ぶ

- 必要に応じて設定します。
- 表示される画面で画像サイズを選び、〈(SET)〉を押します。

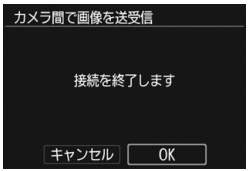




5 ［送信］を選ぶ

➡ 選んだ画像が送信されます。送信が終了すると手順1の画面に戻ります。

● 続けて送信するときは、手順1～5を繰り返します。



6 接続を終了する

● 〈**MENU**〉ボタンを押すと、確認画面が表示されます。［**OK**］を選び、〈㊴〉を押して接続を終了します。

➡ ［**Wi-Fi機能**］画面に戻ります。

● 接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。接続を終了して撮影などを行いたいときは、〈**MENU**〉ボタンを押して、表示される画面で接続を終了してください。なお、画像の送受信中に接続を終了するときは、カメラで［**キャンセル**］を選んだあと、接続を終了してください。
● 送信する枚数が多いときやファイルサイズ（合計容量）が大きいときは、電池の残量にご注意ください。
● 送信するカメラの仕様によっては、動画を送信するときにファイルの変換を行います。そのため、通常よりも送受信に時間がかかることがあります。
● RAW画像は送信できません。

● 一度に50ファイルまで選択できます。
● 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画や**S2**サイズよりも小さい静止画は縮小されません。
● ［**S2に縮小**］が有効になるのは、本機と同じ機種のカメラで撮影された静止画だけです。それ以外のカメラで撮影された静止画は、サイズを縮小せずに送信されます。
● 画像の送受信中に［**キャンセル**］を選ぶと、送受信をキャンセルすることができます。送信側のカメラで［**キャンセル**］を選ぶと、画像の選択画面に戻ります。受信側のカメラで［**キャンセル**］を選ぶと、接続を終了します。
● 接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

再接続する

接続設定を登録したWi-Fi機能に再度接続します。



1 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- [**Wi-Fi/NFC**] を [**使う**] に設定したあとで、[**Wi-Fi機能**] を選びます。



2 接続するWi-Fi機能を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して項目を選び、〈(SET)〉を押します。



3 [接続] を選ぶ

- 接続先の設定が複数登録されているときは、[**設定の選択**] を選び、接続先を選んでから接続します。
- 確認画面で [**OK**] を選びます。

4 接続先の機器を操作する

- 接続先のカメラでも再接続の操作を行ってください。
- 設定の名称は、初期設定では接続先カメラのニックネームが表示されます。

4

コネクトステーションとかんたん接続

コネクトステーション（別売）は、撮影した静止画や動画を取り込んで、テレビやスマートフォンなどでの閲覧や、ネットワークを利用した静止画や動画の共有などを行う機器です。

このカメラをコネクトステーションにかざすと、コネクトステーションへ簡単に静止画や動画を保存することができます。

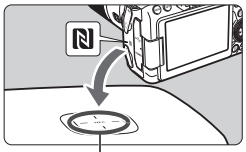
画像を保存する

ここでは、カメラとコネクトステーション（別売）を無線で接続する方法を説明します。そのほかの方法で画像を保存するときは、コネクトステーションの使用説明書を参照してください。

● あらかじめ、カメラでNFC機能が使えるように設定しておいてください（p.W-16）。

1 カメラのNFC 機能を有効にする

（p.W-16）



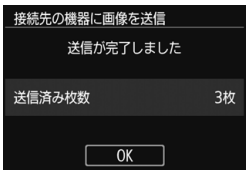
NFC接続ポイント

2 カメラをコネクトステーションにかざす

● カメラとコネクトステーションの電源を入れ、カメラのNマークをコネクトステーションのNFC接続ポイントにかざします。

➡ カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示され、コネクトステーションが応答したら、カメラをコネクトステーションから離してください。

● 接続すると、コネクトステーションがカード内の画像を確認し、保存されていない画像だけを保存します。



3 接続を終了する

● 画像の保存が終了すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。〈(SET)〉を押して接続を終了します。

- **必要に応じて、『NFC機能全般の注意事項』（p.W-17）もお読みください。**
- 画像の保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- コネクトステーションの上にカメラを落としたり、カメラを強く当てたりしないでください。コネクトステーションの内蔵ハードディスクが損傷する恐れがあります。
- カメラが認識されにくいことがありますので、位置をずらしたり、水平方向に回転させるなどして、ゆっくりかざしてください。
- カメラをかざしても接続できないときは、軽く触れてください。
- かざすときは、カメラとコネクトステーションの間にものを置かないでください。また、カメラにケースなどをつけていると、NFC機能で接続できないことがあります。
- 画像の保存中に、カメラとコネクトステーションの距離が離れすぎると、保存に時間がかかったり、接続が終了することがあります。
- 画像の保存中にカメラが電池切れになったときは、保存を中止します。充電してから、もう一度操作を行ってください。

- すべての画像が保存済みのときは、保存は行いません。そのときは、［OK］を選んで接続を終了してください。
- カード内の画像が多いときは、画像の確認や保存に時間がかかることがあります。
- 画像の保存中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

無線LAN（Wi-Fi）について

■ 無線LANが使える国や地域について

無線LAN機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、無線LAN機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域で無線LAN機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■ モデルナンバー

EOS 80D（W）：DS126591（無線モジュールモデル：ES200）

- 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- EOS 80D（W）には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。

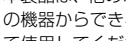
■ 電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。

② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。

③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。



この表示は、2.4GHz帯を使用している無線機器であることを意味します。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

商標について

- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴおよびWi-Fi Protected SetupマークはWi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- UPnPは、UPnP Implementers Corporationの商標です。
- N-Markは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- おサイフケータイは株式会社NTTドコモの登録商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

索　引

英数字

Android W-18

Camera Connect W-18, W-28

Eye-Fiカード W-14

iOS W-18

NFC W-16, W-20, W-21, W-48

　画像送信 W-33

か

画像閲覧 W-28

画像サイズを縮小 W-37, W-43

画像を送信 W-33, W-42

カメラ間で画像を送受信 W-39

キーボード W-10

クイック設定 W-35

ケーブル W-14

コネクトステーション W-47

さ

再接続 W-31, W-45

スマートフォンと通信 W-19

た

タッチ操作 W-11

な

ニックネーム W-8

ら

リモート操作 W-28

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒 108-8011　東京都港区港南 2-16-6

製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOSホームページ：canon.jp/eos
EOS・サポートナビ：canon.jp/eos-navi

電話でのお問い合わせは、以下へお願いします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90002

受付時間：9：00 ～ 18：00
（1月 1 日～ 1 月 3 日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理お問合せ専用窓口にお問い合わせください。

本書の記載内容は 2017 年 2 月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH-J328-000
© CANON INC. 2017